

鹿児島大学
キャンパスマスタープラン

2022

Kagoshima University Campus Master Plan

キャンパスマスタープラン 2022

目次

- 00 はじめに ―キャンパスマスタープラン 2022 策定の主旨― P4
- 01 キャンパスマスタープランの方針 ― P6
 - 1-1. アカデミックプランを支えるキャンパスマスタープラン
 - 1-2. キャンパスマスタープランの構成
 - 1-3. キャンパスマスタープランの継続性
 - 1-4. キャンパスマスタープランの策定プロセス
 - 1-5. キャンパスマスタープランの考慮すべき計画
 - 1-6. キャンパスマスタープランの目標・基本方針
 - 1-7. 基本方針に基づく整備・活用方針
- 02 キャンパスの現状と課題 ― P20
 - 2-1. 鹿児島大学のキャンパス・団地について
 - 2-2. キャンパスの歴史的変遷
 - 2-3. キャンパスと周辺地域
 - 2-4. キャンパスの敷地境界
 - 2-5. キャンパスの広場・オープンスペース
 - 2-6. キャンパスの動線
 - 2-7. 機能別ゾーン
 - 2-8. キャンパスの緑化率
 - 2-9. 施設の高さ分布
 - 2-10. 施設の耐震化状況
 - 2-11. 施設の老朽化状況
 - 2-12. エネルギー関係の数値

- 03 キャンパスフレームワークプラン — P56
 - 3-1. フレームワークプラン策定にあたって
 - 3-2. フレームワークプラン策定の方針
 - 3-3. 郡元キャンパス・フレームワークプラン
 - 3-4. 桜ヶ丘キャンパス・フレームワークプラン
 - 3-5. 下荒田キャンパス・フレームワークプラン
 - 3-6. その他の団地について

- 04 キャンパスアクションプラン — P146
 - 4-1. アクションプラン策定の方針
 - 4-2. 郡元キャンパス・アクションプラン
 - 4-3. 桜ヶ丘キャンパス・アクションプラン
 - 4-4. 下荒田キャンパス・アクションプラン

- 05 施設マネジメント — P158
 - 5-1. 実施体制
 - 5-2. 施設マネジメントの視点

- 06 資料編 — P166
 - 6-1. 鹿児島大学憲章
 - 6-2. 国立大学法人鹿児島大学の基本的な目標（第4期中期目標期間に向けた学長ビジョン）
 - 6-3. 入学者数の推移
 - 6-4. 50年後、経年80年未満の施設
 - 6-5. 構成員等の意見（部局意見、学外意見、全学Webアンケート）
 - 6-6. キャンパスマスタープラン2015の点検・評価
 - 6-7. 基幹設備
 - 6-8. キャンパスマスタープラン策定に関する委員会・ワーキンググループ等委員
 - 6-9. キャンパスマスタープラン2022検討経緯

- あとがき — P218

はじめに

ーキャンパスマスタープラン2022策定の主旨ー

鹿児島大学の起源は、1773年に設立された藩学造士館にさかのぼります。第七高等学校造士館をはじめ各種高等専門学校との統合を経て、1949年（昭和24年）に新制国立鹿児島大学として発足しました。長い歴史を経て、現在は主要な3つのキャンパスに9つの学部と9つの大学院研究科を置き、1万数百名の学生を擁する南九州地域最大の総合国立大学となりました。

さて、鹿児島大学は、地域社会、我が国ならびに国際社会に貢献し、本学の全構成員、卒業生、地域が誇りとする進取の気風にあふれる総合大学として“南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点・鹿児島大学”となることを目指しております。鹿児島大学は日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にあるという地理的特性や我が国の近代化を支えた多くの人材を育ててきた教育的精神的伝統と歴史を踏まえ、本学ならではの取り組みを推進しています。



鹿児島大学長
佐野 輝

また、令和2年11月には第4期中期目標期間に向けて、持続可能な社会の実現、南九州及び南西諸島域の「地域活性化の中核的拠点」としての機能強化、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」とグローバルな視点を有する人材育成等、「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点」としての価値を高めるべく、次の5つの基本目標を学長ビジョンとして掲げました。

1. グローカル人材の養成に向けた教育改革
2. 大学の強みと特色を活かした学術研究の推進
3. 地域課題に応える社会貢献、産学連携の推進
4. 地域を支える質の高い医療の提供
5. 自己分析に基づく的確な組織整備と運営

これらの基本目標を実現するために、国民から負託された資産であるキャンパスを最大限に活用し、教育・研究はもちろんのこと、地域・産業界等の皆様との共創拠点とすべく、キャンパスの目指すべき姿やキャンパスの整備・活用の方向性を明確にし、キャンパスの発展を図ることが重要であります。

キャンパスマスタープランは、大学の戦略やアカデミックプランの実現をハード面より支援し、キャンパスの将来像について学内外の関係者が共通認識を持つための重要な役割を担っています。「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点・鹿児島大学」を目指し、魅力的なキャンパス環境を創出し、次世代に継承することは持続可能な開発目標（SDGs）へ貢献するうえでも有意があり、「キャンパスマスタープラン2022」の策定を契機に、さらに取り組む所存であります。

01

キャンパスマスタープランの方針

1-1. アカデミックプランを支えるキャンパスマスタープラン

キャンパスは、大学の顔、教育研究活動の基盤であるとともに、学生にとって学修の場、卒業生にとっては思い出の場となる。また、これから学ぼうとする人たちにとって魅力的であることが大切である。

キャンパスマスタープランは、キャンパス空間の計画目標であり、戦略的な施設・環境整備と管理・運営の拠り所となる指針である。

鹿児島大学のキャンパスマスタープランは、アカデミックプラン（大学憲章、中期目標に掲げられる基本的な目標等）のもとで実践される教育研究活動を支えるため、キャンパス全体の環境整備とその運用の観点から、長期的な視野とともに、中期的な目標達成のための計画を策定するものである。

1-2. キャンパスマスタープランの構成

アカデミックプランの下に位置づけられるキャンパスマスタープランは「基本方針」「整備・活用方針」「フレームワークプラン」「アクションプラン」「施設マネジメント」の5項目から構成されており、それぞれ下記のような目的・対象となっている。

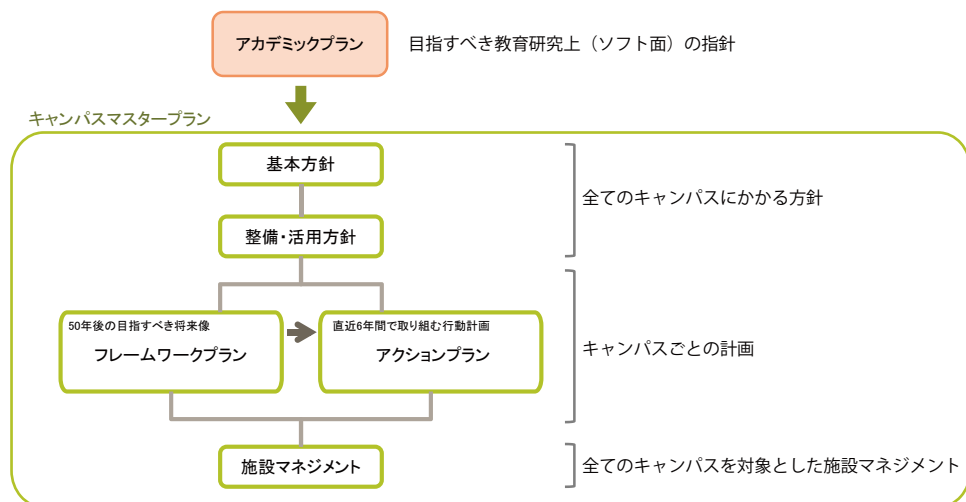


図 1-1 キャンパスマスタープランの構成

- ・アカデミックプラン…大学憲章、中期目標に掲げられる基本的な目標等、大学の目指すべき教育研究上（ソフト面）の指針。
- ・基本方針…アカデミックプランの実現へ向けて、鹿児島大学の全てのキャンパスの目指すべき指針。
- ・整備・活用方針…基本方針を実現するための、キャンパス整備、施設・土地利用の具体的な方針。
- ・フレームワークプラン…上記方針とキャンパス毎の特性を踏まえ、それぞれのキャンパスの50年後の目指すべき将来像。
- ・アクションプラン…フレームワークプラン（50年後のビジョン）を見据えた上で、直近6年間で取り組む行動計画。
- ・施設マネジメント…計画実現のための資金計画、戦略的な整備、修繕計画、PDCA サイクル等の手法や体制。

1-3. キャンパスマスタープランの継続性

キャンパス全体の整備は一朝一夕に進むものではなく、長期的視野に立ち、計画的かつ段階的に進めていく必要がある。

計画的なキャンパス整備を進めていくため、図 1-2 のように進捗状況を確認・評価した上で、原則 6 年毎に策定・見直しを行う。

次回以降の策定作業としては、キャンパスづくりの不変の方針と位置付けている基本、整備・活用方針や 50 年後の将来像を描くフレームワークプランについては、上位計画の変更等があれば、必要に応じて見直すこととし、6 年間の行動計画であるアクションプランについては、進捗状況を確認した上で新たな 6 年間の行動計画を策定するものとする。

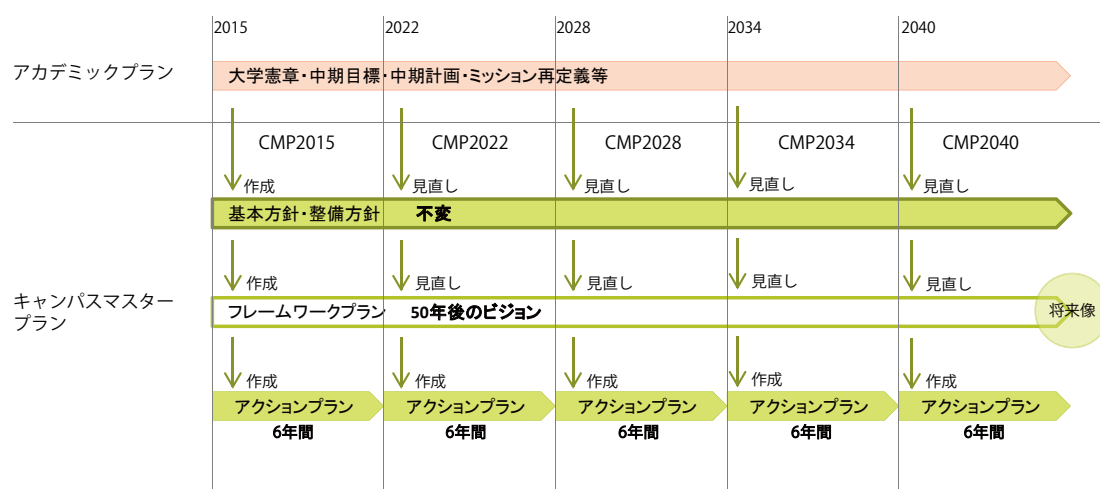


図 1-2 キャンパスマスタープランの時間軸

1-4. キャンパスマスタープランの策定プロセス

魅力あるキャンパスづくりを戦略的に推進するためには、認知度の高いキャンパスマスタープランを策定し、実現に向けた取組を全学的に推進することが重要である。

策定にあたっては、上位計画であるアカデミックプラン（大学憲章等）及びキャンパスの現状把握、構成員等の意見を踏まえた上で、学内に諮りながら段階的に進めていく。（6-9 資料編 キャンパスマスタープラン検討経緯 参照）

また、キャンパスマスタープラン策定後は、施設マネジメントのPDCAサイクルによる評価体制を構築し、キャンパスマスタープランの実現に向けて取り組んでいく。

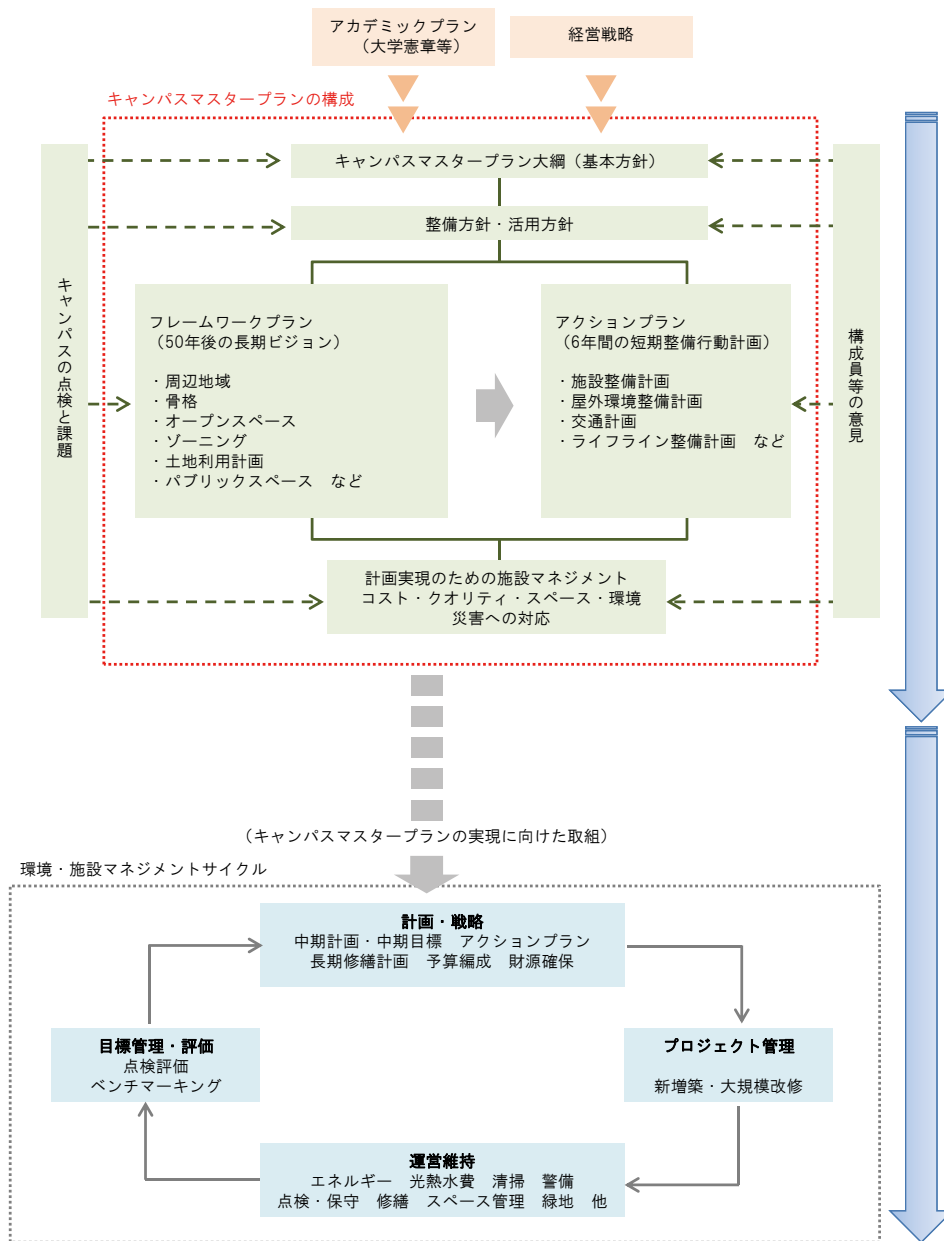


図 1-3 キャンパスマスタープラン策定プロセス

1-5. キャンパスマスタープランの考慮すべき計画

キャンパスマスタープラン策定にあたり、特に考慮すべき計画（社会全体の目標や施策等）を示す。

「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画（R3～7年度）（文部科学省（R3.3）」

本計画は、科学技術基本計画を受け、国立大学法人等の施設整備について策定された計画である。

施設の役割と方向性では、キャンパス全体を「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」とし、「教育研究の機能強化」を「産業界との共創」、「地方公共団体との共創」へとつなげていくとされている。

また、整備目標等では、新增築整備は、既存施設の有効活用等では対応が困難で真に必要な施設に限るとされており、「戦略的リノベーション」による老朽改善で、機能向上と長寿命化を図り、保有する施設を最大限に有効活用すること等が示されている。

さらには、保有面積の増大は維持管理費の増大につながることから、全ての施設を改修するのではなく、将来的に使用しない施設を峻別（施設のトリアージ）し、一定割合を取壊す（施設総量の最適化）とされている。

その他、施設の有効活用、全学的体制の構築、適切な維持管理、カーボンニュートラルに向けた取組の推進等のほか、自律的な経営の実現のために「多様な財源の活用促進」が示されている。

「地球温暖化対策計画（環境省（H28.5）」

本計画では、温室効果ガスの排出抑制及び吸収の目標、事業者、国民等が講ずべき措置に関する基本的事項、目標達成のために国、地方公共団体が講ずべき施策等について示されており、国全体の温室効果ガス削減目標は、2030年度に対2013年度比26%減とされ、大学の属する「業務その他部門」では、2030年度に対2013年度比40%減とされている。

「鹿児島県地球温暖化対策実行計画（鹿児島県（H30.3）」

本計画は、鹿児島県の自然的・社会的条件に応じた温室効果ガスの排出抑制等のための対策・施策を総合的に推進するため策定されたものであり、県全体の温室効果ガス削減目標は、2030年度に対2013年度比33%減とされ、大学の属する「業務その他部門」では、2030年度に対2013年度比31%減とされている。

1-6. キャンパスマスタープランの目標・基本方針

キャンパスマスタープランの目標と、キャンパスの目指すべき指針（基本方針）を示す。

<目標>

「鹿児島島の地から世界に挑むキャンパス」

・鹿児島島の地とは、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にある鹿児島大学を示す。

・鹿児島大学の基本理念の中核として掲げられている「進取の精神」・「進取の気風」の進取とは、自ら困難な課題に果敢に挑戦すること意味し、地域ひいては世界において多くの困難に果敢に挑戦する人材を育成する場として、世界に挑むキャンパスと表現した。

<基本方針>

1. 進取の気風あふれる人材を輩出するキャンパス

鹿児島大学は学生の自主的な学びを促し、大学が一体となって教育力を発揮するためのキャンパスをつくり、自ら困難な課題に果敢に挑戦できる人材を育成する。

2. 多様でグローバルな学と知が行き交うキャンパス

鹿児島大学は組織の枠組みに捉われず、柔軟なキャンパスの有効活用と適切な施設整備を図り、様々な研究課題に対応する。

3. 豊かな自然と伝統を踏まえ、地域とともに生きるキャンパス

鹿児島大学は魅力的で開かれたキャンパスを整備することにより、南九州の中核として地域と協働し、地域で求められる役割を果たす。

4. 地球の鼓動を感じるキャンパス

鹿児島大学は日々の教育研究活動と地球環境との関わりを意識し、将来に亘って持続可能なキャンパスの整備と運用を図る。

1-7. 基本方針に基づく整備・活用方針について

基本方針を実現するための、キャンパス整備、施設・土地利用の方針を示す。

基本方針

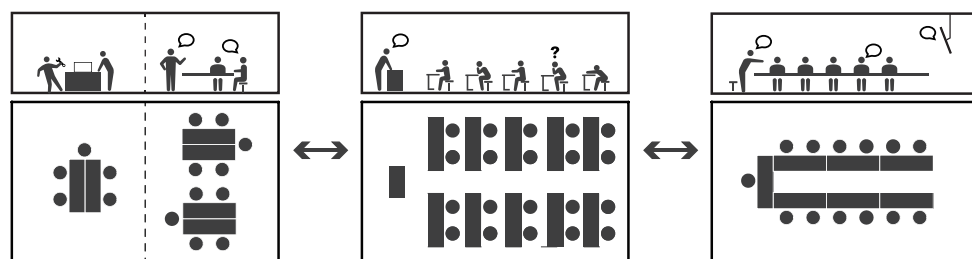
1. 進取の気風あふれる人材を輩出するキャンパス

鹿児島大学は学生の自主的な学びを促し、大学が一体となって教育力を発揮するためのキャンパスをつくり、自ら困難な課題に果敢に挑戦できる人材を育成する。

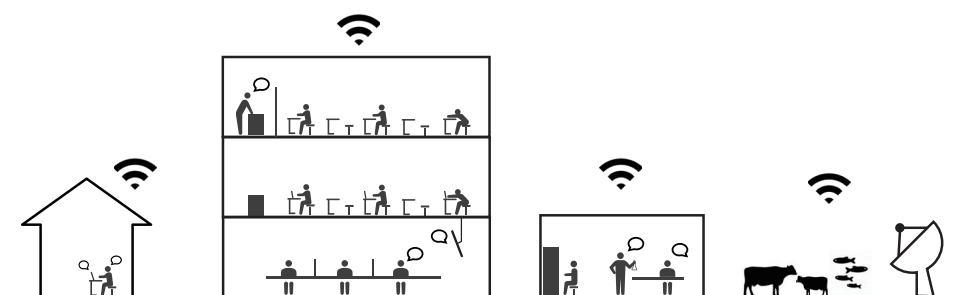
整備・活用方針

1-1. 新しい教育方法の導入により、教育の活性化を可能とする環境を整える。

- ・ 多様な教育手法に対応しうるフレキシブルな教育環境の整備
- ・ 部局の枠を超えた効率的な講義室の配置・利用
- ・ 学生の主体的学習の場の確保
- ・ DX（デジタルトランスフォーメーション）への対応に向けた ICT 環境の充実



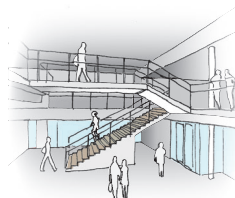
フレキシブルな教育環境



DX（デジタルトランスフォーメーション）への対応に向けた ICT 環境の充実

1-2. 学生と教職員のコミュニケーションを高め、新たな発想とチャレンジ精神、豊かな人間性と倫理観を育む場をつくる。

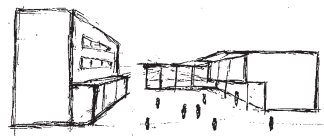
- ・ 様々な人が集い、交流を促す空間の創出
- ・ 学生の学修・教育研究活動を支援・活性化させる環境の充実
- ・ 日本人学生と留学生の交流を促す場



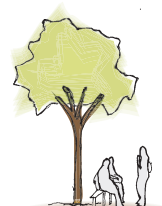
出会いを誘発する
見通しの良い空間



情報発信の場



多様な人が集まる広場

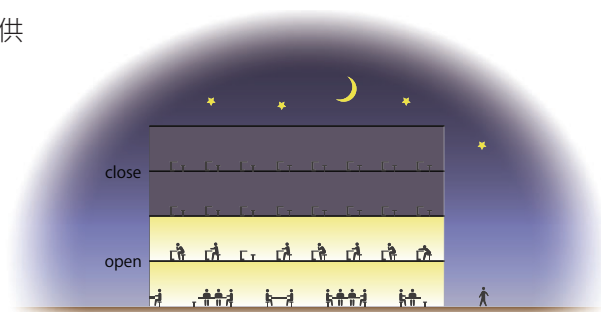


木陰とベンチ

交流を促す多様な空間

1-3. 図書、学術資料、貴重な事物等の知的資源を整えるとともに、いつでもどこでもこれらの蓄積にアクセスできる情報基盤を整備する。

- ・ 学内知的資源の保存・活用
- ・ ICT 環境の充実
- ・ 24 時間学習できる場の提供



24 時間開放できる施設の仕掛け

基本方針

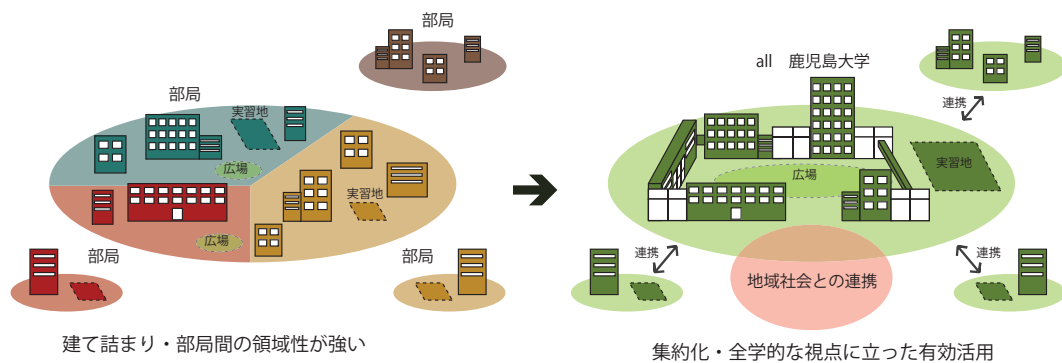
2. 多様でグローバルな学と知が行き交うキャンパス

鹿児島大学は組織の枠組みに捉われず、柔軟なキャンパスの有効活用と適切な施設整備を図り、様々な研究課題に対応する。

整備・活用方針

2-1. 施設・土地等の研究資源のあり方を見直し、学際・横断的領域、産学官連携に対応できる環境を整える。

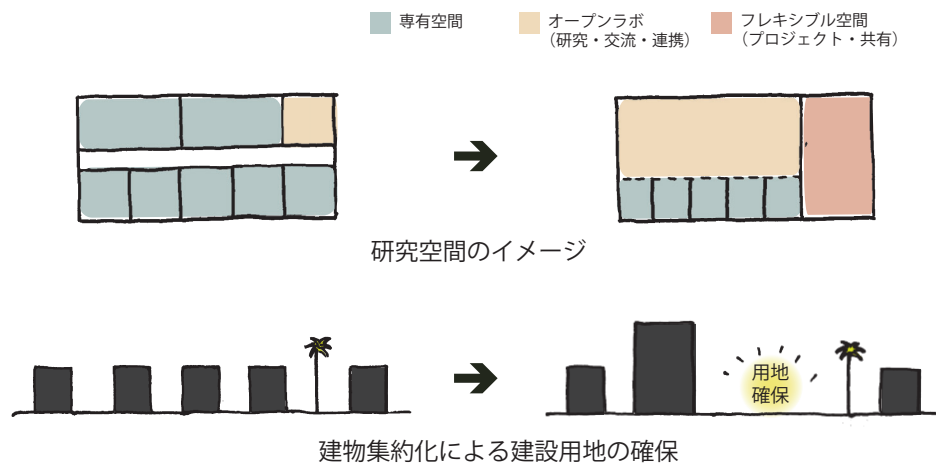
- ・ 全学的視点に立った土地・施設等の活用
- ・ 研究活動の流動性や部局等組織間、地域社会との交流・連携を促す空間の構築



施設・土地等のあり方を見直し

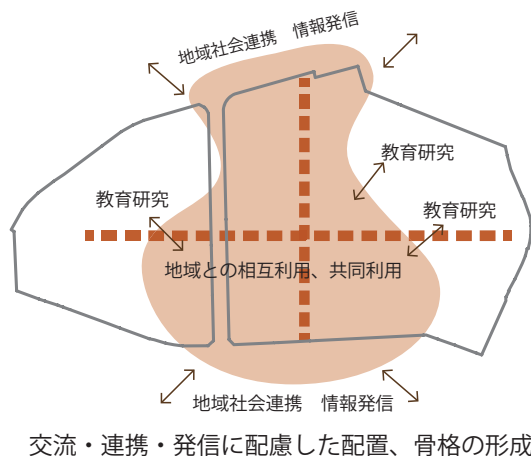
2-2. 未知の分野・新領域に挑戦できる将来性のあるフィールドを確保する。

- ・ 社会の要請や時代の変化に柔軟に対応できる研究環境の確保
- ・ 新組織に対応する用地の確保、機能の集約化
- ・ 産業界と共同利用できるオープンイノベーションラボの整備
- ・ プロジェクトスペース等を弾力的に最大限有効活用するための体制



2-3. 国内外の研究者との共同研究や、幅広い交流、研究成果の発信に対応できる環境を整える。

- ・ 地域と海外に開かれた大学の顔となる機能形成
- ・ 国内外から学生や研究者が集うコンベンション機能の充実
- ・ 大学の活動や研究成果を発信する場の計画的な配置、骨格の形成



基本方針

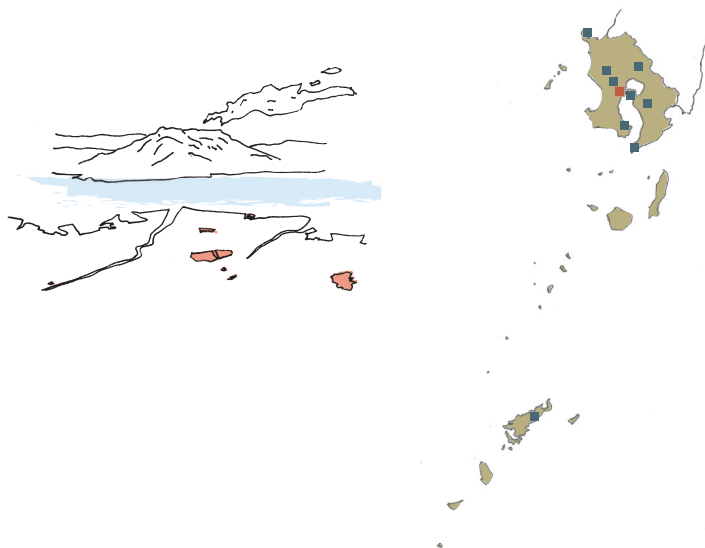
3. 豊かな自然と伝統を踏まえ、地域とともに生きるキャンパス

鹿児島大学は魅力的で開かれたキャンパスを整備することにより、南九州の中核として地域と協働し、地域で求められる役割を果たす。

整備・活用方針

3-1. 特色ある教育研究活動を展開し、地域に根ざした連携の核となる環境を整える。

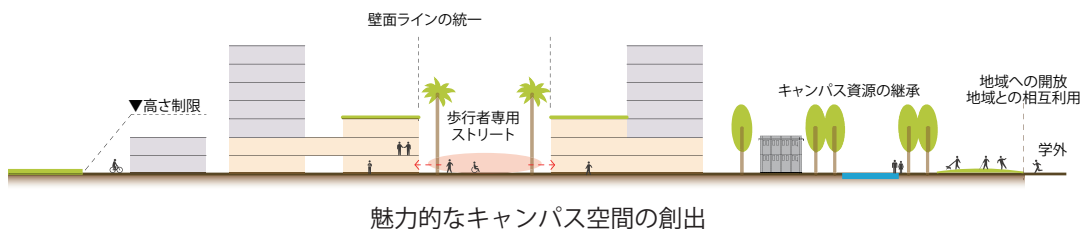
- ・ 特色ある教育研究を推進させる環境の充実
- ・ 地域社会とのイノベーション・コモンズ（共創拠点）としての積極的活用



鹿児島島の特色ある多様な地との連携

3-2. 多くの人を迎え入れる交流の場を設け、鹿児島大学の魅力を伝える存在感あるキャンパスを創出する。

- ・ 開かれたキャンパス、楽しく歩けるキャンパス環境の形成
- ・ 大学の顔、地域のシンボルとして、調和のとれた景観形成
- ・ キャンパス内の緑・景観・施設等を地域のまちづくりの資源として積極的に活用
- ・ 特色あるキャンパス資源を継承し、未来に伝え、世代間で共有できる空間の確保



3-3. キャンパスにおける安全、健康、防災、防犯、ユニバーサルデザイン、BCP（事業継続計画）等を重視し、地域に対する社会的責任を果たす。

- ・ 地域と連携した非常時の危機管理への対応
- ・ みんなにやさしいユニバーサルデザイン・サインシステムの推進
- ・ 防犯対策やキャンパス内の交通コントロールによる安全面の充実
- ・ 大学 BCP、病院 BCP への配慮
- ・ 来訪者に対するハードとソフトのサービスの充実
- ・ SDGs（持続可能な開発目標）に貢献するキャンパスの構築



みんなにやさしいキャンパスへの配慮

基本方針

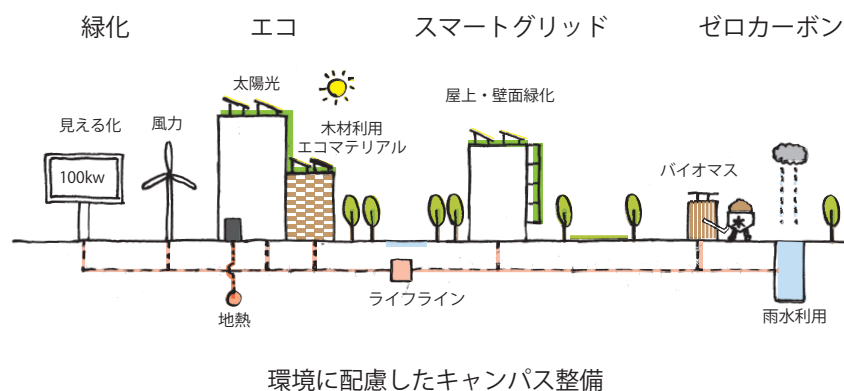
4. 地球の鼓動を感じるキャンパス

鹿児島大学は日々の教育研究活動と地球環境との関わりを意識し、将来に亘って持続可能なキャンパスの整備と運用を図る。

整備・活用方針

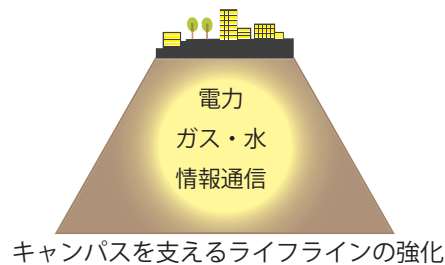
4-1. 施設環境性能の向上やキャンパスの緑化を図ると共に、省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入を推進する。

- ・ 省エネルギー化の推進と見える化による意識改革
- ・ 自然・新エネルギーの利用技術の導入
- ・ 木材の利用促進等、豊かな自然を活かした環境共生型キャンパスの構築



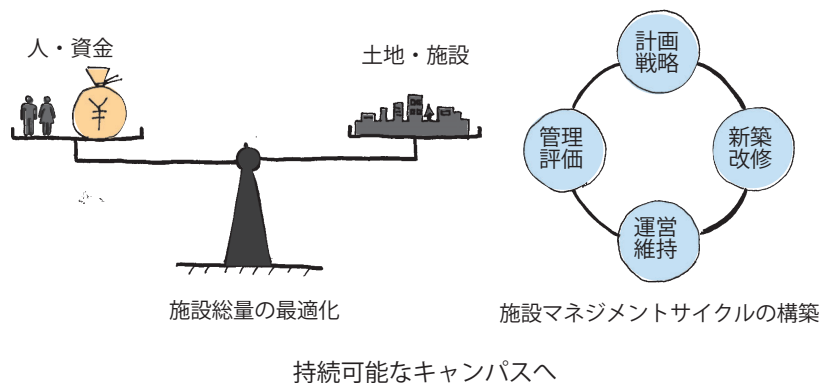
4-2. 将来の変化や自然災害等に対応する安定したライフラインを構築する。

- ・ 施設・ライフラインの防災機能強化
- ・ 将来の変化に柔軟に対応するライフラインの構築
- ・ 環境や防災等の次世代モデル空間として積極的に活用



4-3. 大学の持つ施設ストックを有効活用するための体制を構築し、施設マネジメントサイクルを運用する。

- ・ 全学の機能強化（強み・特色等）につながる既存施設の戦略的な管理・運営
- ・ 既存施設を最大限活用するための長寿命化サイクルへの転換
- ・ 維持管理費の抑制に向けた老朽化施設の峻別、取壊し、施設総量の最適化
- ・ 施設整備や維持管理における多様な財源の活用促進
- ・ 施設マネジメントにおける PDCA サイクル実施体制の構築



02

キャンパスの現状と課題

2-1. 鹿児島大学のキャンパス・団地について

鹿児島大学のキャンパスは、本部、共通教育や6学部等が属する郡元キャンパス、医歯学系及び大学病院のある桜ヶ丘キャンパス、水産学系等の下荒田キャンパスの主要3キャンパスをはじめ、市内19カ所のキャンパス・団地を有している。(職員宿舎のみの団地も含む)

また、鹿児島市以外にも県内8カ所、県外1カ所のキャンパスを有しており、それぞれ地理的特性を活かした教育研究・学修支援等の拠点として活用されている。

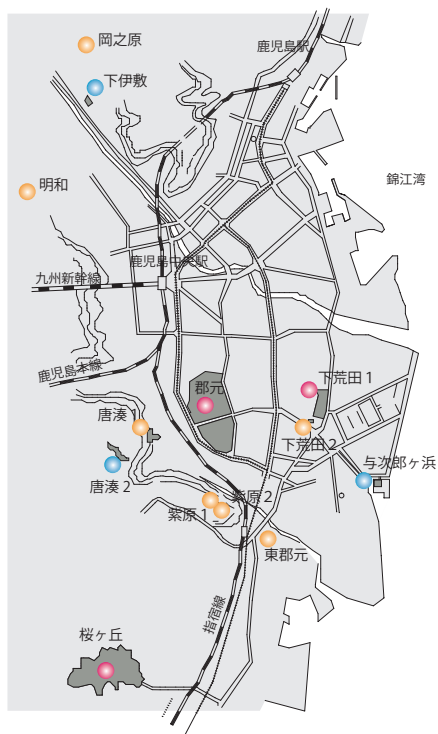
鹿児島大学のキャンパス・団地基礎情報

2020.5.1現在

	団地名	学部等	敷地面積 [㎡]	建築面積 [㎡]	延床面積 [㎡]	学生数 [人]	教職員数 [人]	距離※ [km]
主要キャンパス	郡元	法文学部,教育学部,理学部,工学部,農学部,共同獣医学部,共通教育センター,中央図書館(教)幼稚園・小学校・中学校,事務局,各センター等	351,918	70,468	200,618	9,763	843	0
	桜ヶ丘	医学部,歯学部,大学病院,看護師宿舎,学生寄宿舍,図書分館,各センター等	222,614	60,750	175,093	1,272	1,048	4
	下荒田1	水産学部,図書分館,国際交流会館,職員宿舎,外国人研究者宿泊施設	52,098	7,166	18,600	281	100	2
教育研究施設等団地	下伊敷	(教)特別支援学校	16,776	2,805	3,538	60	29	6
	唐湊2	(農)唐湊果樹園,職員宿舎	88,265	1,062	2,775		4	2
	与次郎ヶ浜	(水)海洋資源環境教育研究センター	5,084	2,136	2,136			3
	吉野2	(教)寺山自然教育研究施設,地震火山地域防災センター	300,855	438	789		3	9
	桜島	(農)溶岩実験場	372,714	0	0			5
	東桜島	地震火山地域防災センター	298	32	32			11
	入来	(農)牧場,短期学生寄宿舍,(理)天体観測施設	1,478,471	4,725	5,410		7	25
	海潟	(農)演習林,短期学生宿舎	30,598,232	1,155	1,530		7	25
	佐多	(農)演習林	2,973,724	0	0			60
	十町	(農)植物試験場,短期学生宿舎	30,725	1,857	2,315		3	36
	東町	(水)海洋資源環境教育研究センター,短期学生宿舎	16,902	693	1,284		2	82
	牧園2	(工)実験施設	18	17	17			46
	谷山ふ頭	(水)陸電施設	102	0	0			8
	大崎	(共獣)動物病院大隅産業動物診療研修センター	68	351	68			87
	伊集院	(工)実験施設	319	30	20			12
居住施設団地	唐湊1	学生寄宿舍	24,391	1,513	5,586			2
	紫原1	外国人研究員等宿泊施設	344	147	294			2
	世田谷	短期学生宿舎,一般管理施設	457	242	401			957
	紫原2	職員宿舎(20)	1,494	223	1,062			2
	下荒田2	職員宿舎(2)	439	131	223			2
	明和	職員宿舎(50)	4,071	830	3,683			4
	下福元	職員宿舎(36)	5,198	812	2,436			9
	東郡元	職員宿舎(80)	7,074	1,096	5,416			2
	岡之原	職員宿舎(20)	1,771	274	1,354			9
団地・課外施設	吉野1	課外活動施設(艇庫)	610	243	243			6
合計			36,555,032	159,196	434,923	11,376	2,046	

※郡元キャンパスからの距離

- 主要キャンパス
- 教育研究施設等団地
- 居住施設団地
- 課外活動施設団地



鹿児島市中心部位置図



鹿児島県内位置図



国内位置図

キャンパス位置図



郡元キャンパスと下荒田キャンパス (2019.12)



郡元キャンパス (2019.12)



桜ヶ丘キャンパス (2019.12)



下荒田キャンパス (2019.12)

2-2. キャンパスの歴史の変遷

キャンパスの歴史の変遷を把握し伝統的あるいはシンボリックな施設等と併せてキャンパスの歴史的足跡を整理。

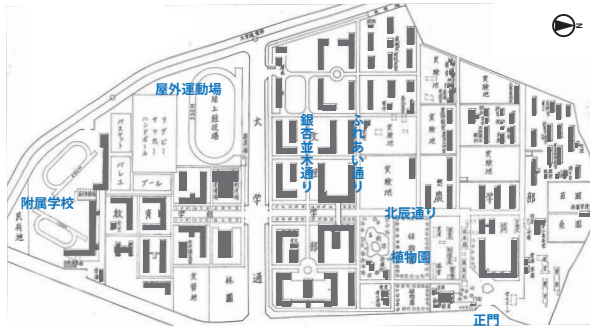
鹿児島大学の歴史は古く、その起源は 240 年前の 1773 年に設立された藩学造士館にまでさかのぼる。明治以降に設立された第七高等学校造士館をはじめ各種の高等専門学校を統合し、1949 年に新生国立鹿児島大学として発足した。現在は 9 学部と 9 大学院研究科からなり、約 10,600 名の学生が在籍している。（詳細は鹿児島大学概要の沿革参照）

			郡 元	山下町		桜ヶ丘		下荒田	
1940	49	鹿児島大学設置	49 文理学部 教育学部 農学部 一般教養部					49	水産学部
1950			55 工学部設置 (国立移管)	55 医学部設置 (国立移管)					
				58 医学部附属病院 設置					
1960			65 文理学部を改組 →法学部 →理学部 教養部設置						
1970						74 キャンパス移転 (山下町→桜ヶ丘)			
						77 歯学部設置			
1980						80 歯学部附属病院 設置			
1990			97 教養部廃止						
2000	04	法人化				03 医学部・歯学部 附属病院へ統合			
						07 病院再開発開始			
2010			12 共同獣医学部 設置			16 鹿児島大学病院 へ改称			

鹿児島大学史十年史、三十年史、七十年史参照

<郡元>

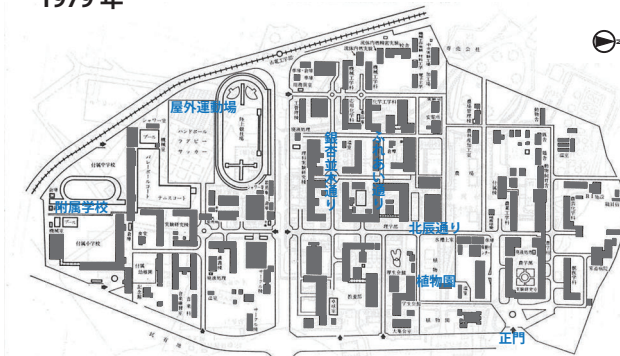
1959 年



撮影：1963 年頃



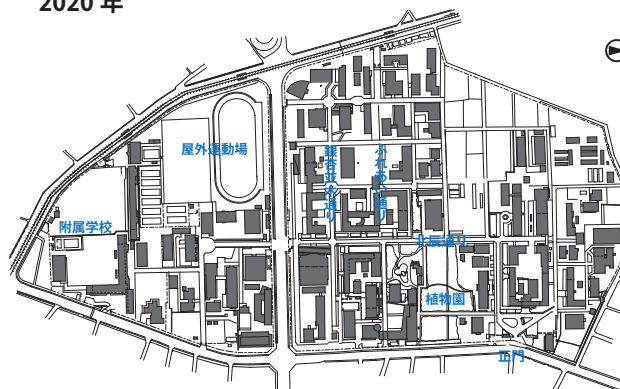
1979 年



撮影：1984 年頃（出典：国土地理院ウェブサイト）



2020 年

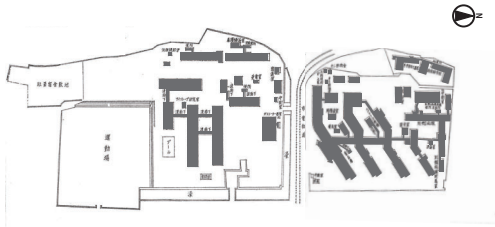


撮影：2019 年

- ・ 1959 年頃から正門、植物園、北辰通り、銀杏並木通り、屋外運動場、附属学校はほぼ現在と同じ形状となっている。
- ・ 1959 年のふれあい通りはキャンパス西側まで延びており、キャンパスを横断している。
- ・ 1979 年以降、建物の増築等により建て詰まりが生じている。
（詳細は鹿児島大学十年史、三十年史、七十年史参照）

<桜ヶ丘>

1959 年



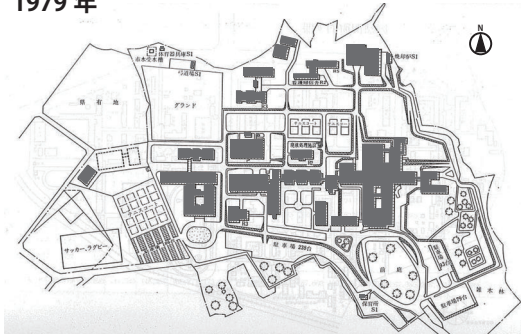
山下町（1974 年桜ヶ丘へ移転）



撮影：1963 年頃



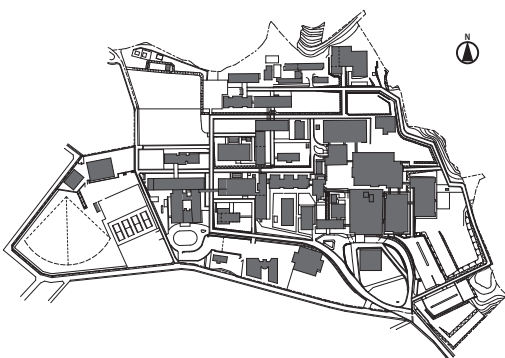
1979 年



撮影：1981 年頃



2020 年

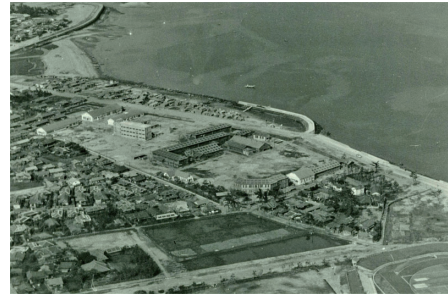
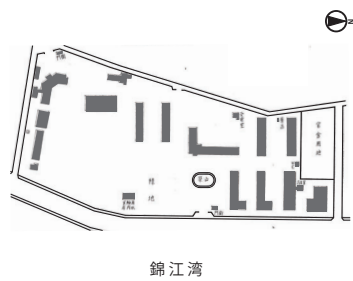


撮影：2019 年

- ・桜ヶ丘キャンパスは、1974 年に山下町から移転している。
- ・移転から約 50 年が経過しており、建物・インフラが一斉に老朽化を迎えている。
- ・建物の増築及び駐車場の拡大により、建て詰まり・緑地の減少が生じている。

<下荒田>

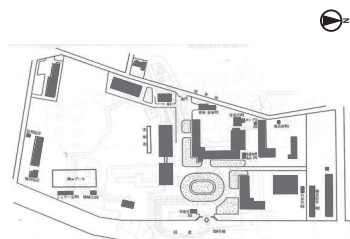
1959 年



撮影：1953 年頃



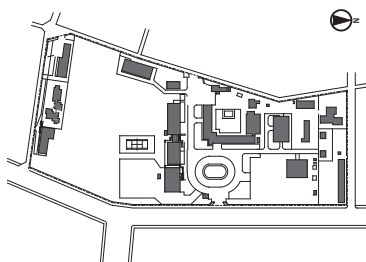
1979 年



撮影：1981 年頃



2020 年

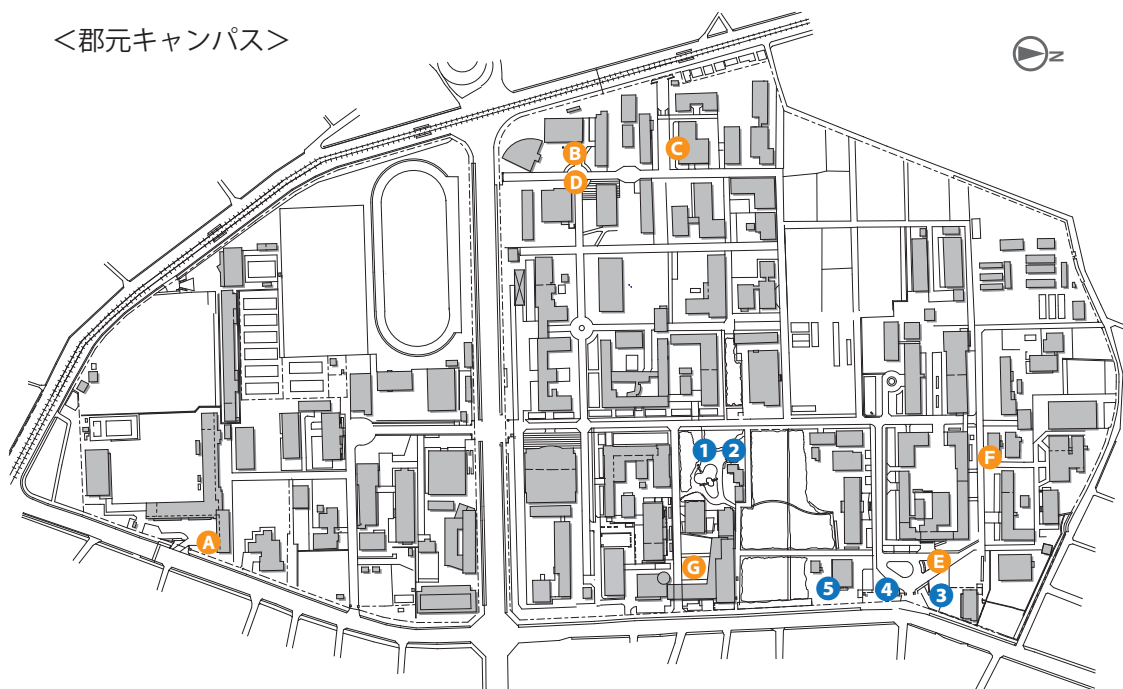


撮影：2019 年

・下荒田キャンパスの東側にある与次郎ヶ浜は埋立地であり、開学当初のキャンパス東側は海岸となっていた。

キャンパスの歴史的資源

＜郡元キャンパス＞



A 附属小学校 創立100周年記念碑

附属小学校創立 100 周年を記念して昭和 53 年に建立。文化勲章受章者の中村晋也氏製作



B 梶島二郎胸像

七高理科出身。工学部の前身、鹿児島工業専門学校を設立、初代校長



C 岩崎與八郎像

岩崎グループ創業者。鹿児島工業専門学校設立に私財を投じて尽力



D 工学部創立 50 周年記念碑

平成 7 年に建立。マークは鹿児島と工学を象徴している



E 玉利喜造像

農学部出身。鹿児島高等農林学校初代校長。日本の農学博士第 1 号。朝倉文夫氏製作。台座には第二次世界大戦中の玉跡が残る



F 蟹江松雄胸像

元鹿児島大学学長。焼酎の研究により、地域産業振興・人材育成に貢献



G 稲盛和夫名誉博士像

工学部出身、現京セラ（株）名誉会長。本学の教育研究の発展に多大な貢献をされており、本学第 1 号となる名誉博士の称号を授与された



1 玉利池

農学部の前身、鹿児島高等農林学校初代校長玉利喜造の名に由来する。池畔のベンチでは、植物園の自然も満喫できる学生・市民の憩いの場



2 田の神

高等農林学校創設時以前からあった田の神（推定・江戸時代後期作）



3 奄美の高倉

奄美から太平洋地域の稲作文化を象徴する建物で明治 16 年に創建された現存最古の資料。平成 13 年に当地に再建され、現在は総合研究博物館が管理している



4 お手植えの銀杏

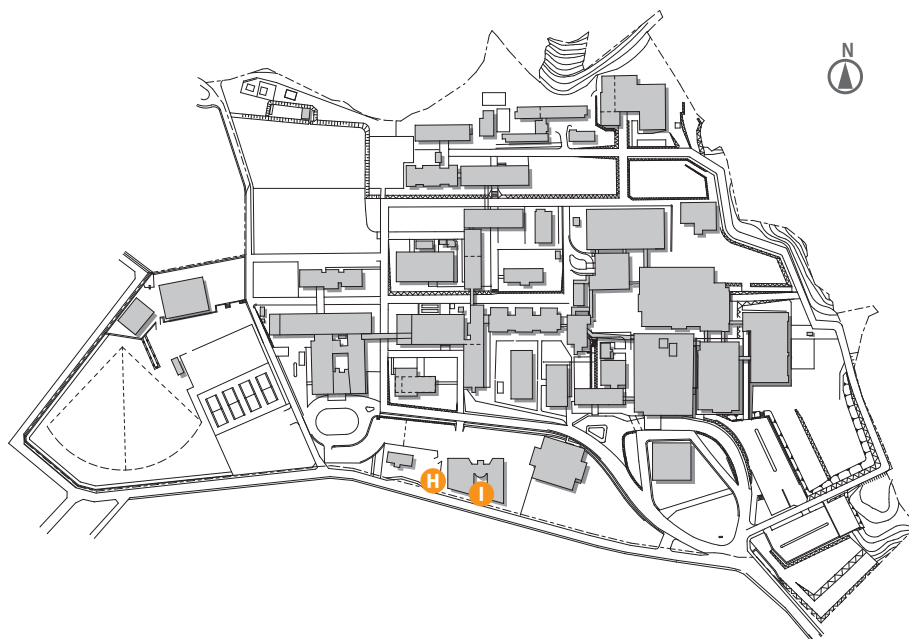
大正 9 年、当時皇太子だった昭和天皇が農学部の前身、高等農林学校に行啓、植栽された記念樹。銀杏は「公孫樹」、孫の代に実がなる意がある



5 総合研究博物館 国登録有形文化財

昭和 3 年に鹿児島高等農林学校の図書館書庫として建立。学校施設として最も古く国の登録文化財として認定をうけている

<桜ヶ丘キャンパス>



⑩高安慎一像
医学部の前身、鹿児島
医学専門学校の初代校
長

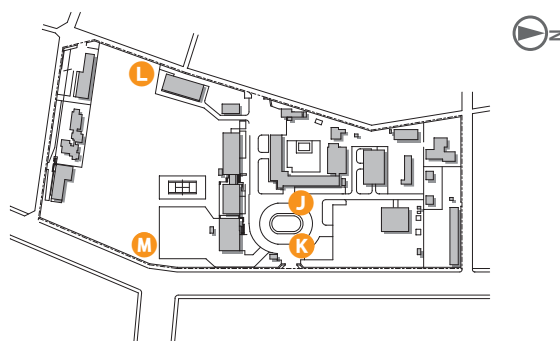


**⑪ウィリアム
ウィリス記念碑**
幕末、英国大使館付き
医官として来日。明治
3年西郷隆盛の招き
で、鹿児島医学校兼病
院の初代校長となった

<下荒田キャンパス>



⑬霧島丸遭難慰霊碑
昭和2年県立鹿児島商
船学校練習船が遭難。
殉職者53名を慰霊し
昭和5年に建立



⑭水門跡
与次郎ヶ浜埋立前に小
型船舶の水路として艇
庫と錦江湾が結ばれて
いた名残



**⑮水産学部創立
50周年記念碑**
平成8年建立。Fishers
のFとOceanography
のOを象徴している



⑯山本清内胸像
初代水産学部長。「海
を恐れず海を愛し海
を拓け」の碑を記す

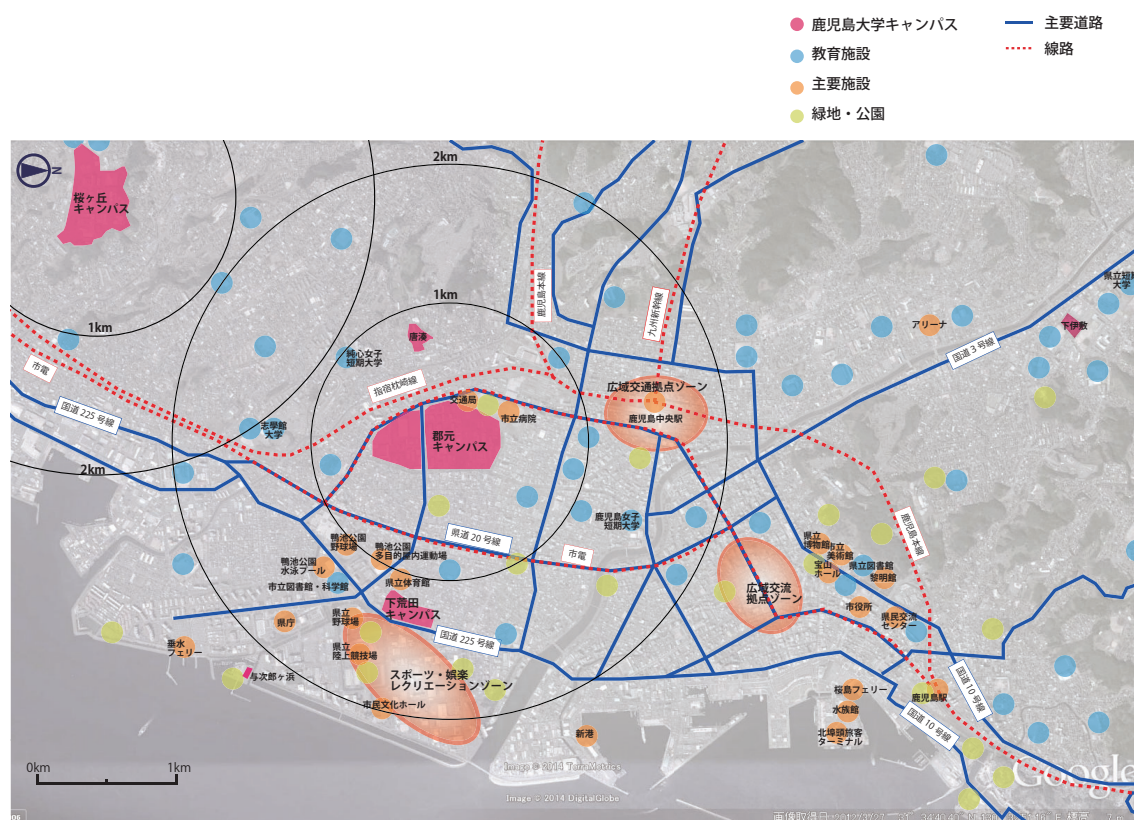
2-3. キャンパスと周辺地域

本部のある郡元キャンパスは、鹿児島県の陸の玄関口である鹿児島中央駅から南へ1 kmの中心市街地に位置しており、公共交通の便が良い。その郡元キャンパスから南西3 kmの位置に桜ヶ丘キャンパス、東に1 kmの位置に下荒田キャンパスがある。また、郡元キャンパス2 km圏内に鹿児島市内にある6大学のうち4大学が位置する。

「鹿児島市総合計画」では、本学の主要3キャンパスである郡元、桜ヶ丘、下荒田キャンパスは、いずれも「中央地域鴨池地区」に属しており、本地区には、本学をはじめとする教育機関が多く、地域経済の活性化や豊かな地域社会を実現するために、鹿児島大学との連携及び大学の豊富な知的・人的資源の活用を図ることが記述されている。

また、「鹿児島市まちと緑のハーモニープラン（緑の基本計画）」では、本学の主要キャンパスが属する鴨池地区及び郡元キャンパス北西側に面する中央地区は、緑地が少なく、緑化重点地区に設定されている。

本学のキャンパスは地域の知の拠点としての役割を担うとともに、キャンパス内の緑・景観・施設等を地域のまちづくりの資源として積極的な活用が求められる。



キャンパスの位置と周辺地域

＜郡元キャンパス周辺＞

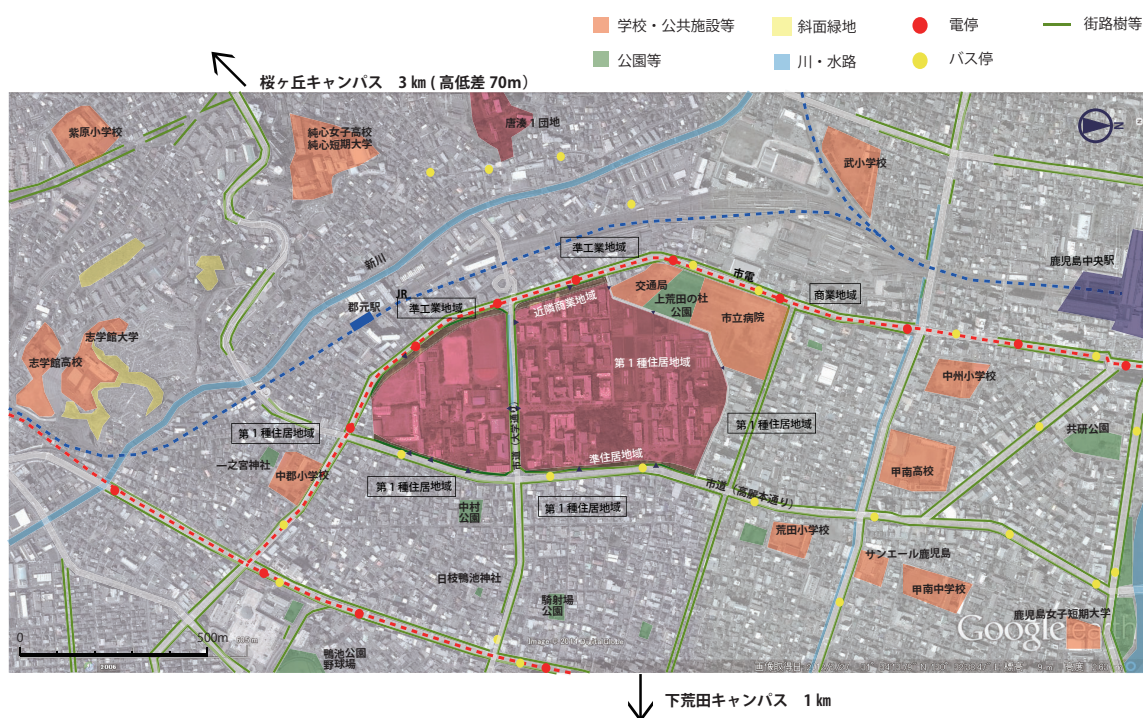
- ・鹿児島中央駅から 1 km の距離にあり市電（路面電車）・JR・バス等公共交通の便が良い。
- ・北西側隣接地に市立病院・交通局・上荒田の杜公園があり、地理的な一体性がある。
- ・キャンパスの中央に市道が走っており、南北に分断されている。
- ・周辺地域には、学校施設が多くある。
- ・徒歩・自転車通学・通勤が最も多く、全体の約 6 割（WEB アンケートより）をしめており、近隣に居住する学生等が多いと思われる。

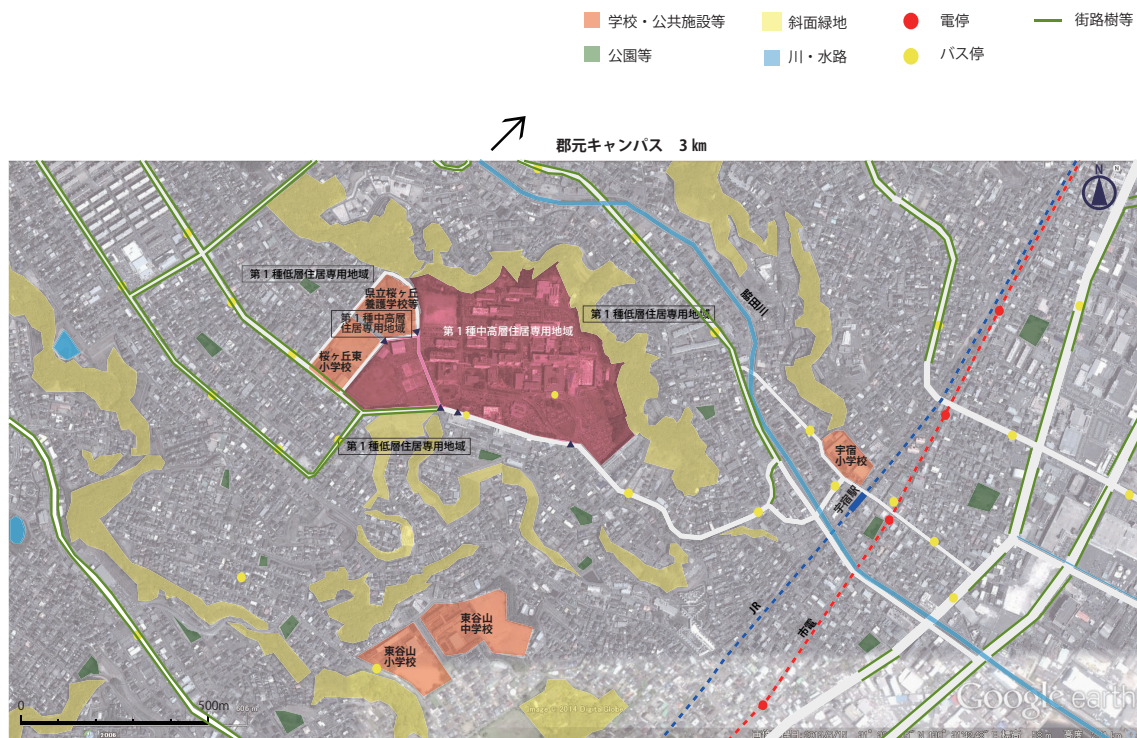
＜桜ヶ丘キャンパス周辺＞

- ・標高 77m と高台にあり、最寄りの電停・JR 駅からは高低差 70m（距離 1.5 km）ある。
- ・自動車・バイク通学・通勤が最も多く、全体の約 6 割（WEB アンケートより）をしめている。
- ・キャンパス北～西側は斜面緑地となっており、アクセスできない。
- ・高台にあることから眺望が良い。
- ・キャンパス内の高低差が 10m と大きく、バリアフリー化が難しい。
- ・周辺地域は第 1 種低層住居専用地域が多く、高層建物が少ない。

＜下荒田キャンパス周辺＞

- ・キャンパス西側は住宅街である。
- ・埋立地である東側は市民文化ホール、市立図書館等の文化施設や県立鴨池陸上競技場等のスポーツ施設・緑地などが集中している。
- ・正門のある東側は、交通量の多い国道 225 号に面している。
- ・川沿いや長水路沿いには緑地が整備されており、散歩できるようになっている。
- ・徒歩・自転車通学・通勤が、全体の約 5 割（WEB アンケートより）をしめており、近隣に居住する学生等が多いと思われる。
- ・郡元キャンパス間の移動は徒歩・自転車が最も多く、全体の約 6 割（WEB アンケートより）をしめている。





桜ヶ丘キャンパス周辺地域



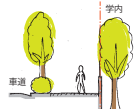
下荒田キャンパス周辺地域

2-4. キャンパスの敷地境界

キャンパスと地域の境界やキャンパスの顔となる門の現状を把握し、開放する場所と区画する場所、外からの見通しについて検討するための基礎資料。

<郡元キャンパス>

①西側 - 附属中学校境界



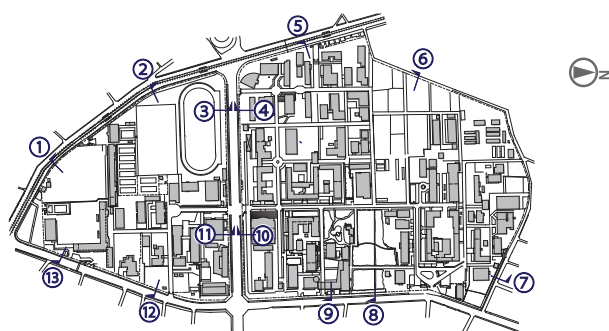
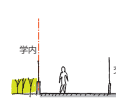
②西側 - 屋外運動場周辺境界



⑤西側 - 工学部境界



⑥北側 - 実験実習地境界



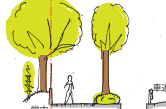
⑦北側 - 共同獣医学部周辺境界



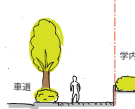
⑪大学通り沿い - 体育館周辺境界



③大学通り沿い - 運動場境界



④大学通り沿い - 工学部境界



⑩大学通り沿い - 中央図書館周辺境界



⑬東側 - 附属小学校境界



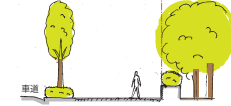
⑫東側 - 教育学部境界



⑨東側 - 学習交流プラザ周辺境界



⑧東側 - 植物園周辺境界



郡元キャンパス敷地境界

- ・敷地境界は高さにバラつきはあるものの、フェンス又は植栽を設けている。また、キャンパス内の敷地境界沿いに樹木を列植している場所が多く、キャンパス内外を明確に区画している。
- ・キャンパスに面している道路は北側を除き歩道が確保されており、歩道と車道の間は腰高の植栽と街路樹が植えられている。
- ・東側沿いの歩道は幅約 5m と広く、自転車用スペースが確保されている。一方、市電通り沿いの西側は歩道幅 2.5m 程度と狭い。
- ・大学通り沿い（南側）は、教育学部門を挟んで西側は歩道と車道の間に水路があり、東側は 2 列の歩道となっている。
- ・北側実験実習地境界等は敷地境界周辺に植栽・樹木は無く、キャンパス内の見通しがよい。

①球技場側裏口



②交差点から（陸上競技場側）



③交差点から（稲盛会館側）



④西門



⑬附属中学校門



⑬工学部門



⑤通用門（西側）



⑬附属小学校門



⑥通用門（農場側）



⑬附属幼稚園門



⑦通用門（北側）



⑬教育学部東門



⑬教育学部門



⑬図書館前門



⑧動物病院入口



⑬交差点から（屋内プール側）



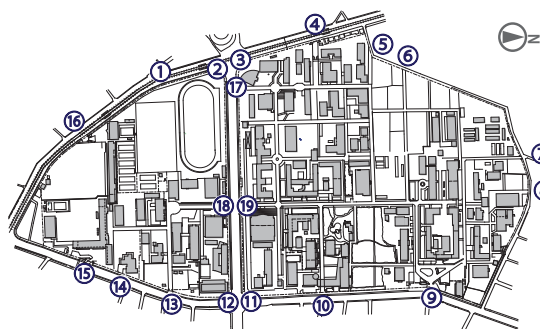
⑪交差点から（法文学部側）



⑩東門



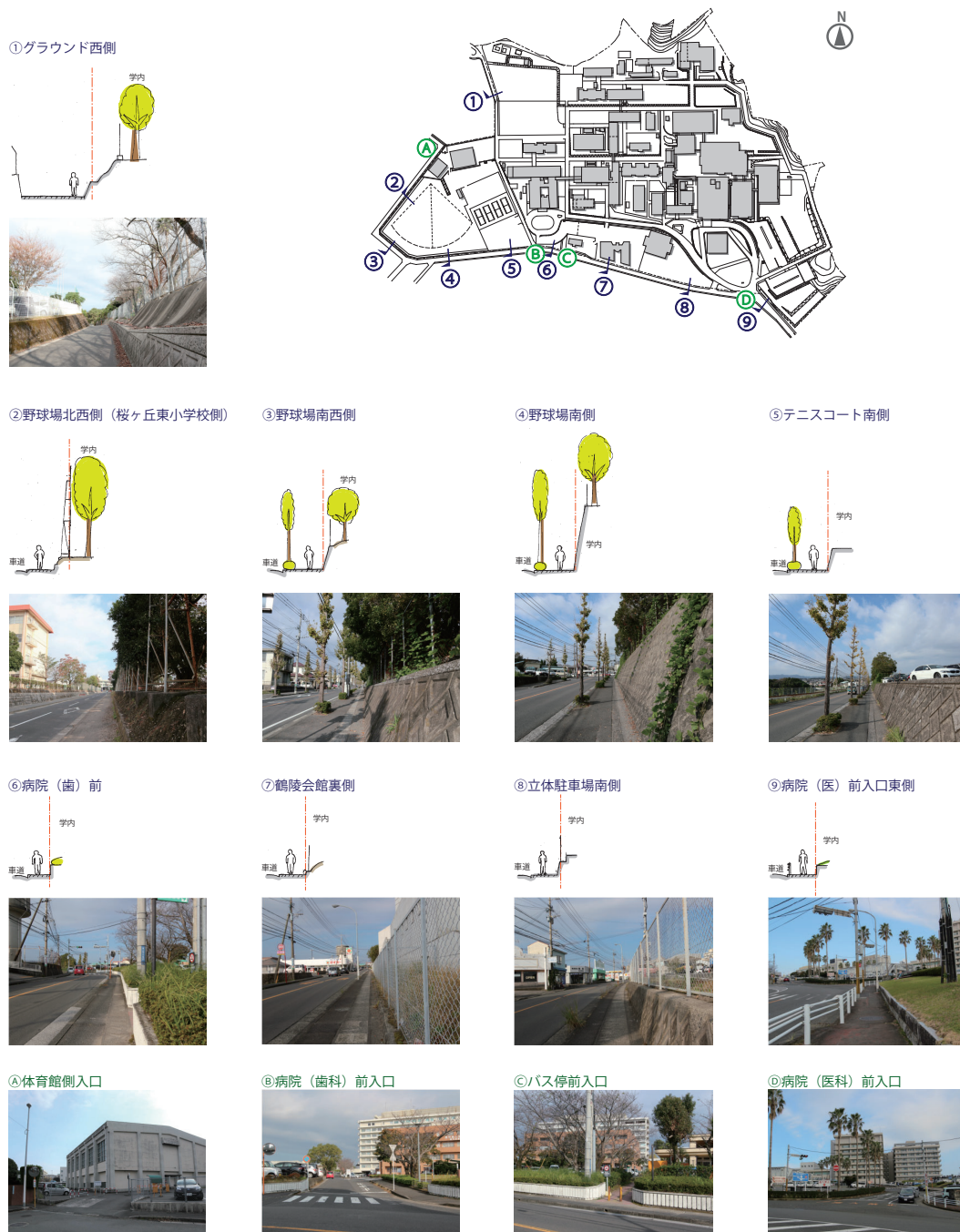
⑨正門



郡元キャンパス入口等

＜桜ヶ丘キャンパス＞

- ・北～東側は斜面緑地、野球場等ある西側は周囲との高低差が大きく、周辺地域との接続可能エリアは南側中央のみとなる。
- ・⑦～⑧区間は雑草が生い茂っていたり、建物が背を向けていたりと周辺地域に対しての境界はあまり印象がよくない。

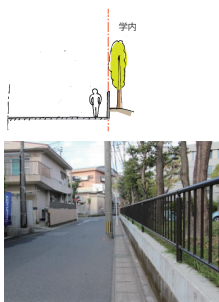


桜ヶ丘キャンパス敷地境界・入口等

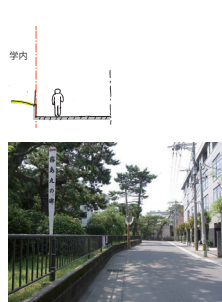
＜下荒田キャンパス＞

- ・ 出入口以外は塀と樹木により、敷地内外を明確に区画している。
- ・ 正門と通用門（裏門）の利用実態が逆転している。
- ・ 東側道路（国道 225 号）の交通量が多いため、車でのアクセスが困難である。

⑤南側境界



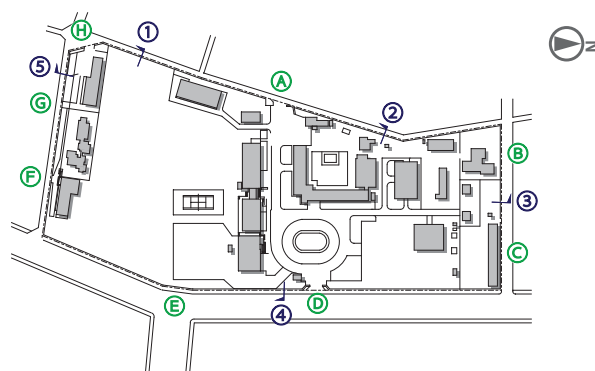
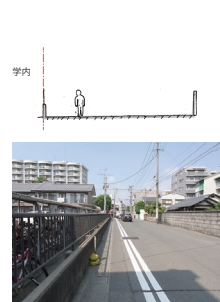
①南西側境界



②南東側境界



③南側境界



④国際交流会館 1 号館入口



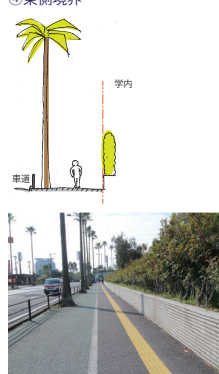
⑥国際交流会館 2 号館入口



⑦国際交流会館 3 号館入口



④東側境界



④通用門



⑥外国人研究者宿泊施設入口

⑤T 字路交差点から
(鹿児島大学水産学部を表示)

⑧正門



⑧職員宿舎入口

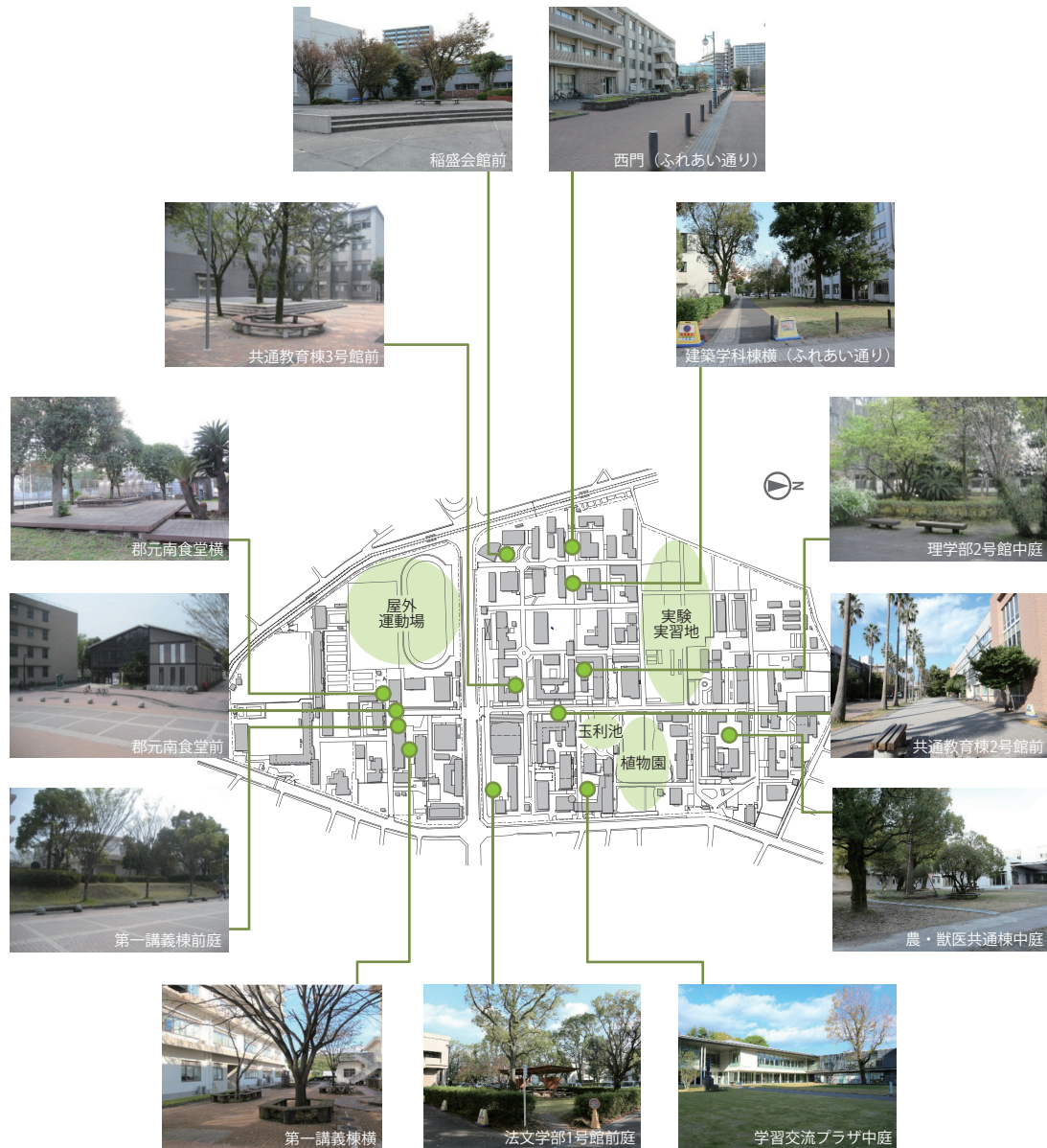


下荒田キャンパス敷地境界・入口等

2-5. キャンパスの広場・オープンスペース

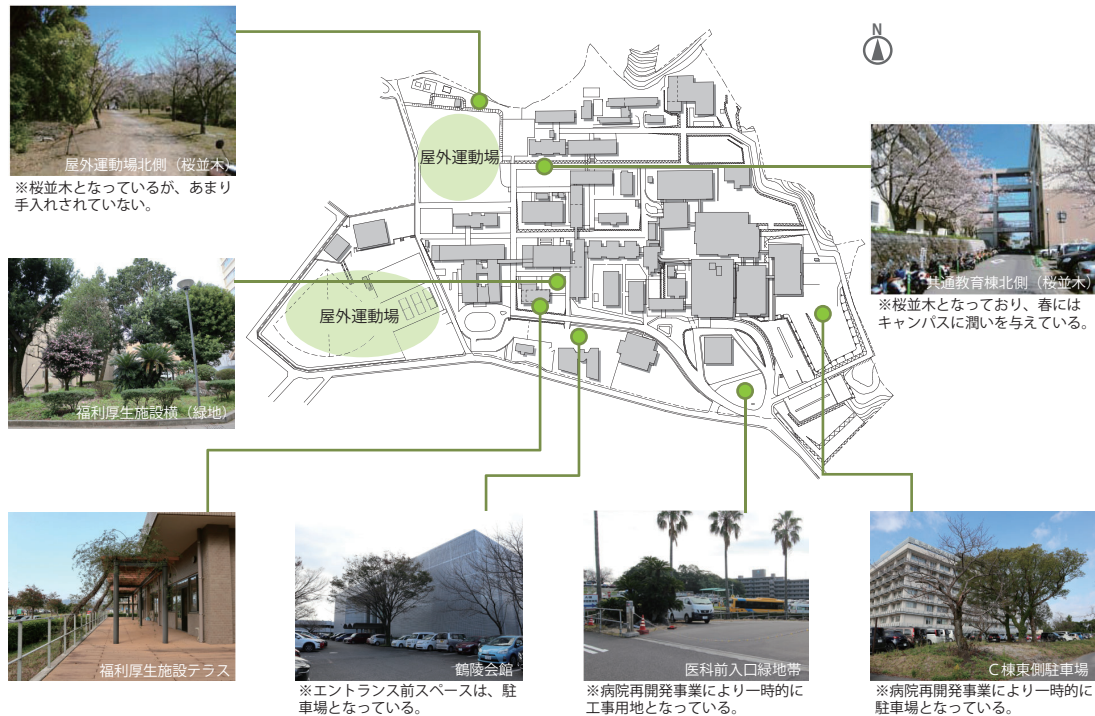
キャンパスにおける良好な外部空間を計画するために現状の外部空間を把握・整理

<郡元キャンパス>



- ・建物の中庭等の外部空間は全て良質なアメニティを形成しているとは言い難い状況である。
- ・建物との関係等を踏まえ、憩い・交流の場として機能を高める必要がある。

<桜ヶ丘キャンパス>



- ・敷地に余裕がないため広場・オープンスペースが少ない
- ・病院利用者のための広場・オープンスペースがない
- ・駐車場が多く、交通量も多いため明確な区分が必要

<下荒田キャンパス>



- ・建物の中庭等の外部空間は全て良質なアメニティを形成しているとは言い難い状況である。
- ・建物との関係等を踏まえ、憩い・交流の場として機能を高める必要がある。

2-6. キャンパスの動線

キャンパスにおける動線計画（人・車等）を検討するための現状の動線を把握・整理

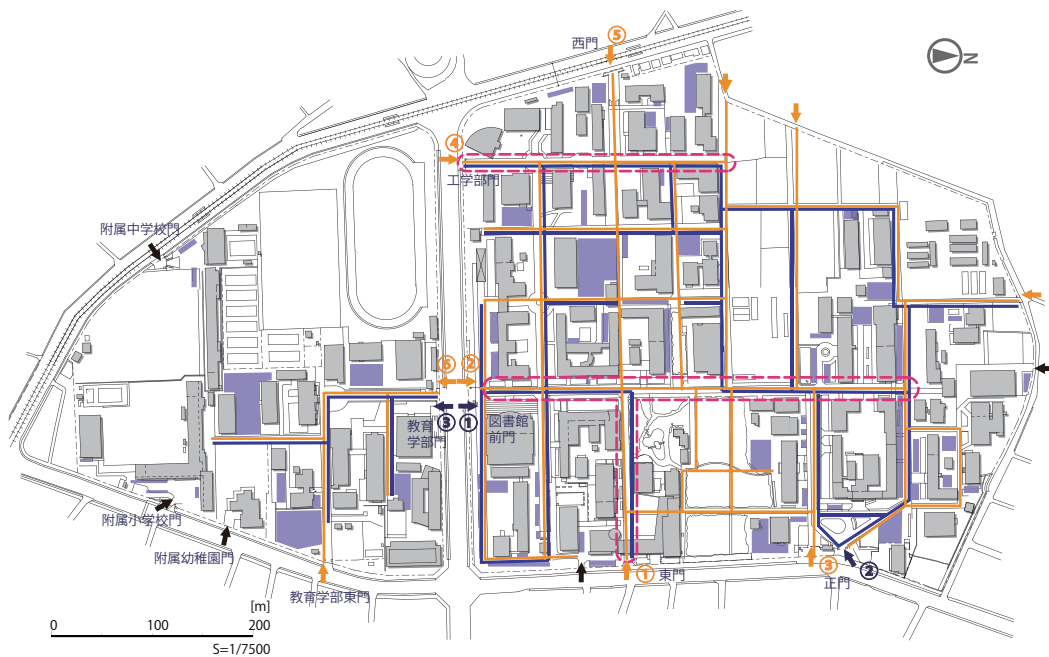
<郡元キャンパス>

(1) 動線・駐車場

■門・通用口の利用頻度ランキング
(Web アンケートより)

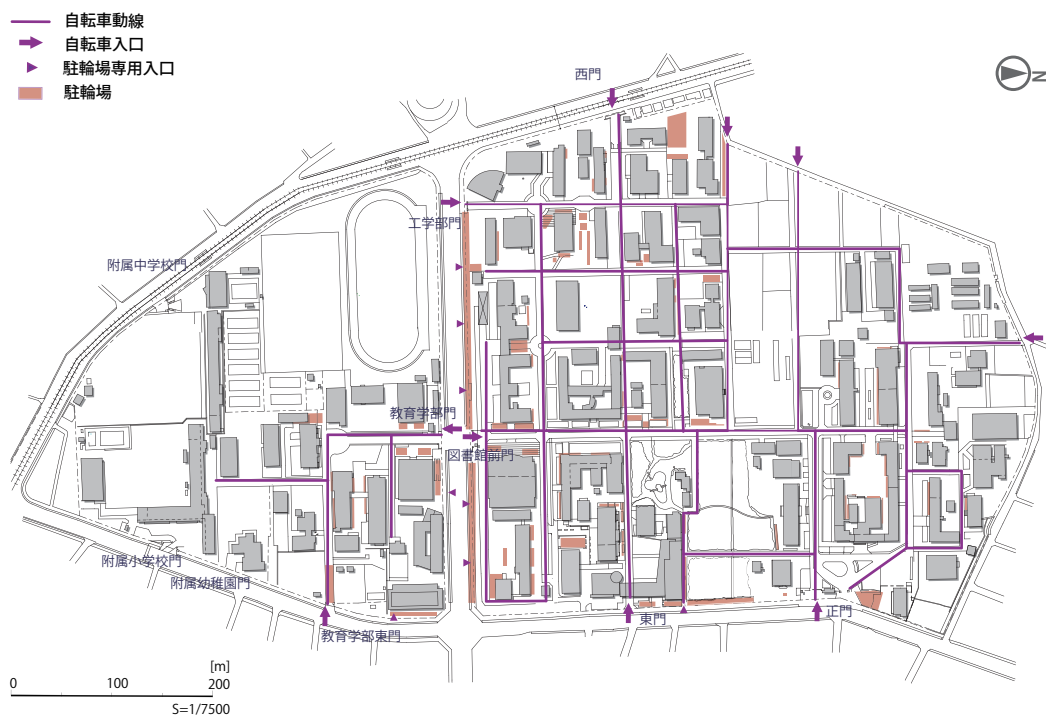
人・自転車	車
1位 東門	1位 図書館前門
2位 図書館前門	2位 正門
3位 正門	3位 教育学部門
4位 工学部門	
5位 西門	
6位 教育学部門	

自動車動線
 歩行者動線
 自動車入口
 歩行者入口
 駐車場
 利用度の高い通り
 (人・自転車)



- ・通用口も含めて 15 の出入口があり、人・自転車では東門、車では図書館前門の利用が一番高い。
- ・図書館前門は、車で利用が最も多いうえ、人・自転車での利用も 2 番目に多いため危険である。
- ・キャンパス全体では、人、自転車、車の動線が混在している通りが多く、危険である。
- ・小さな駐車場が分散しており、車動線が多くなっている要因の一つにもなっている。
- ・人・自転車の利用が多い通りのほとんどが車も通行可となっている。
- ・市道によりキャンパスが南北に分断されている。

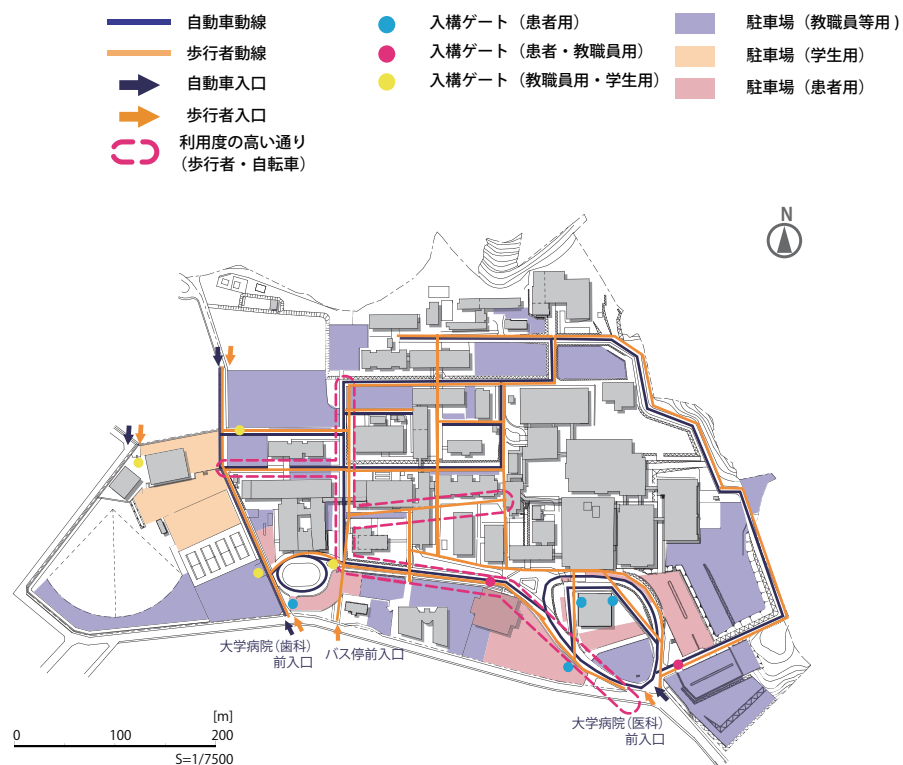
(2) 駐輪場



- ・駐輪場はキャンパス全体に分散配置されている。
- ・バイクはキャンパス境界沿いの駐輪場を利用。キャンパス内への侵入はできない。
- ・自転車の絶対数が多く、時間帯によって駐輪枠を超えて自転車があふれる場所も多い。
- ・駐輪場が空いていても利便性から駐輪場外に停めるケースも多く、位置の検討が必要。
- ・放置自転車等の駐輪マナーに対する不満の意見も多い。(web アンケートより)

＜桜ヶ丘キャンパス＞

(1) 動線・駐車場



- ・キャンパスに対する駐車場の割合が非常に多い。
- ・駐車場の場所によって利用度にバラつきがある。
- ・路上駐車が多い。
- ・キャンパス内の高低差が大きく、階段や斜路も多い。
- ・キャンパス周回道路周辺に駐車場が多く、中心部は自動車が入れない通りが多い。
- ・建物間を渡り廊下で繋いでいる建物が多く、屋内動線が充実している。
- ・病院再開発整備中につき、建て詰まりが起きている。

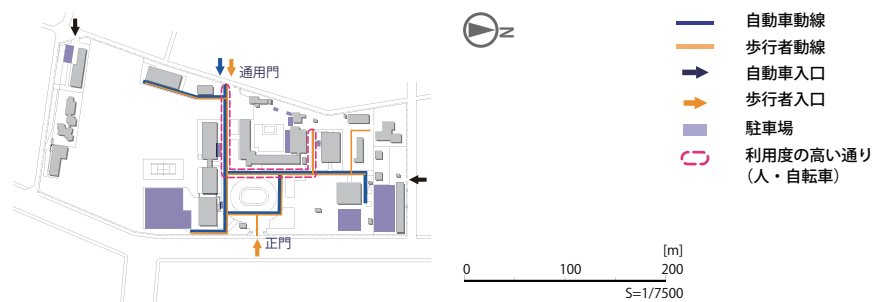
(2) 駐輪場



- ・駐輪場はキャンパス全体に分散配置されている。
- ・キャンパス内、周辺地域の高低差が大きく坂道が多いため、自転車の利用者は比較的少ない。
- ・バイクのキャンパス内侵入可能。

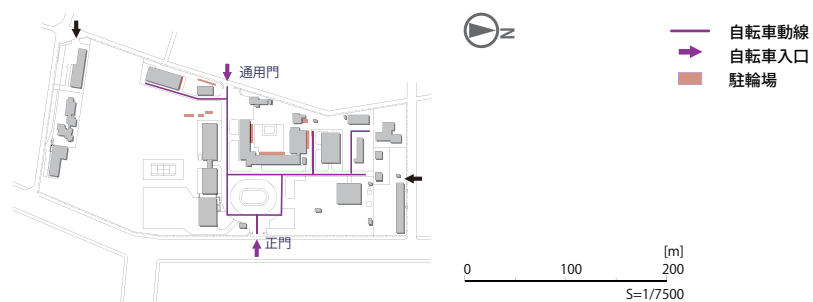
<下荒田キャンパス>

(1) 動線・駐車場



- ・歩行者、自動車の動線が混在している。
- ・キャンパス内の建物配置や通りは正門を正面としてつくられているが、利用実態は正門よりも通用門からのアクセスが多い。

(2) 駐輪場

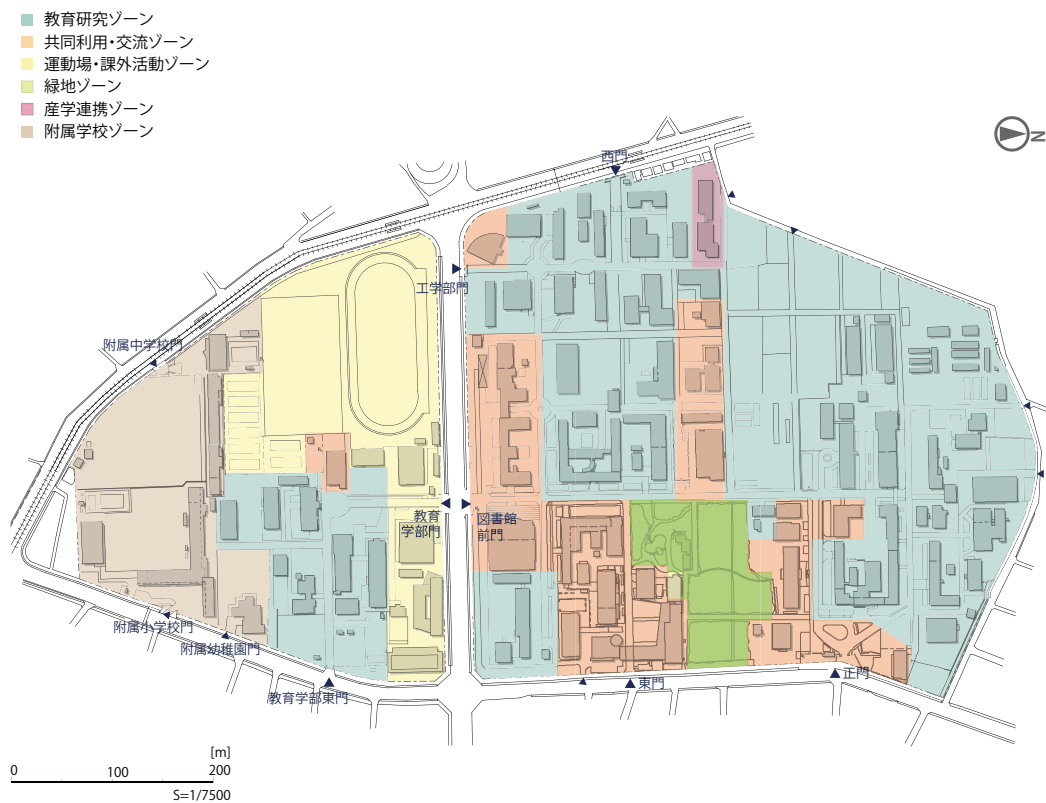


- ・駐輪場はキャンパス内西側に分散配置されている。
- ・バイクのキャンパス内侵入可能。

2-7. 機能別ゾーン

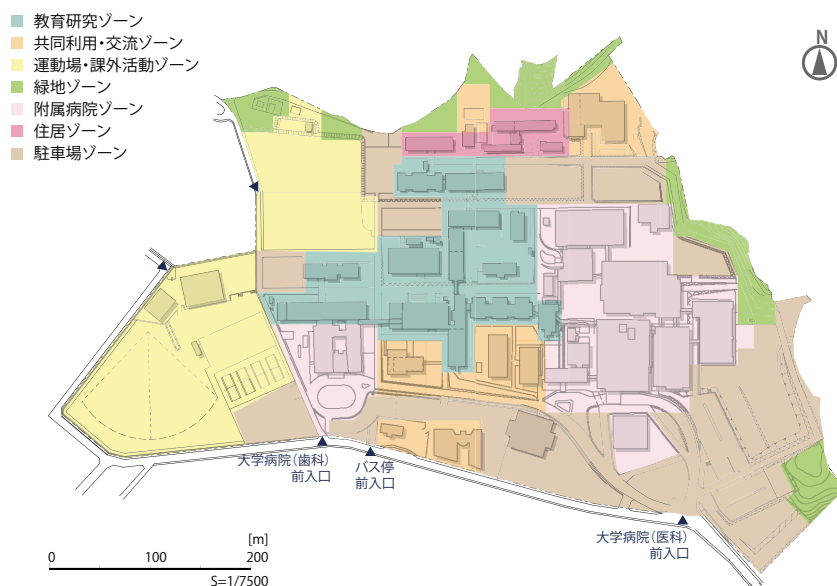
ゾーニングの設定を検討するための現状のゾーニングを機能別に整理

<郡元キャンパス>



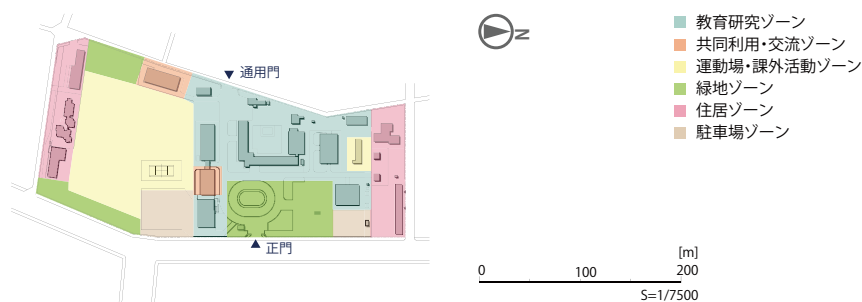
- ・ 共同利用・交流ゾーンは中央東側におおよそ集約されているが、一部に西側に間延びしている。
- ・ 市道を挟んだ南側は教育学部、附属学校、運動場・課外活動ゾーンとなっている。

＜桜ヶ丘キャンパス＞



- ・現在西側にある歯病は病院再開発により、東側病院ゾーンに集約される。
- ・東西方向に東側から、病院、教育研究、運動場・課外活動ゾーンと並んでいる。
- ・南側はパブリック性の高い共同利用・交流ゾーン、駐車場（患者用）、北側はプライバシーの必要な住居ゾーンや共同利用ゾーン（管理施設）となっている。
- ・施設、駐車場の増加により、緑地ゾーンが減少傾向にある。

＜下荒田キャンパス＞

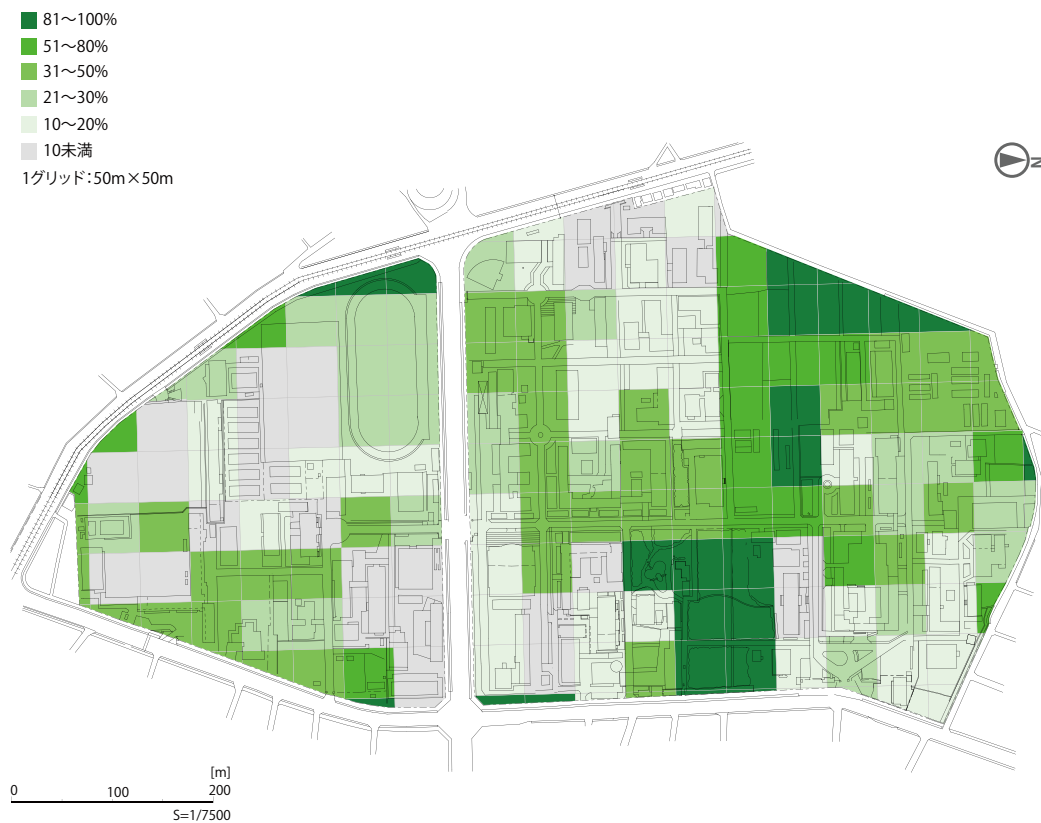


- ・中央右側に水産学部の教育研究ゾーン、両端に国際交流会館や職員宿舎の住居ゾーンとなっている

2-8. キャンパスの緑化率

キャンパスの緑化環境を検討するために現状の緑化状況を把握・整理

<郡元キャンパス>



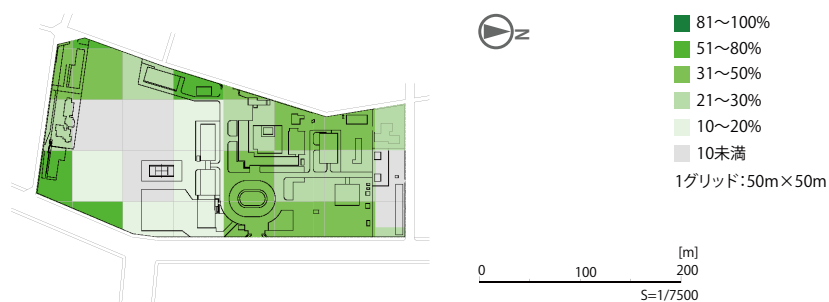
- ・ 植物園を中心に都市の貴重な緑となっている。
- ・ 緑をキャンパスの貴重な資源ととらえキャンパスの緑化を図る。

＜桜ヶ丘キャンパス＞



- ・病院再開発等により、敷地に余裕がないため、他のキャンパスに比べ緑化率の分布が低い。
- ・緑をキャンパスの貴重な資源ととらえキャンパスの緑化を図る。

＜下荒田キャンパス＞



- ・都市の貴重な緑である。
- ・緑をキャンパスの貴重な資源ととらえキャンパスの緑化を図る。

2-9. 施設の高さ分布

建物配置計画を検討するために現状の建物高さを把握・整理

<郡元キャンパス>



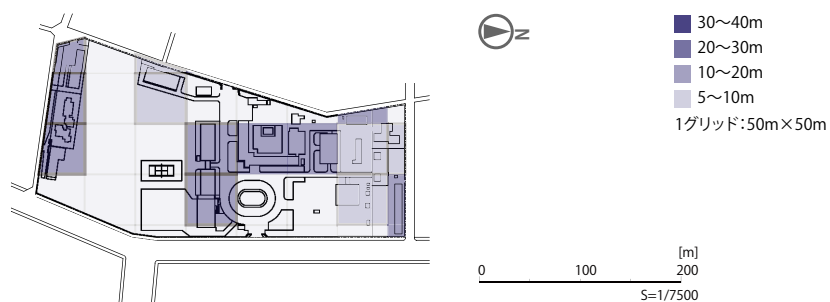
- ・ 10m~20m (3,4 階建て程度) の建物が多い。
- ・ 30m 以上の建物は 3 棟ある。

＜桜ヶ丘キャンパス＞



- ・東西方向に 30m 以上の中高層建物が並んでいる。
- ・病院と学部境界部分は高層建物がない。

＜下荒田キャンパス＞

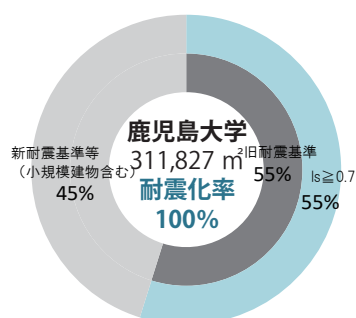


- ・全て 20m 以下の建物となっている。

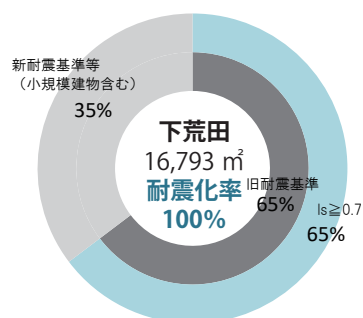
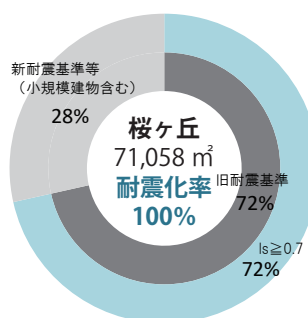
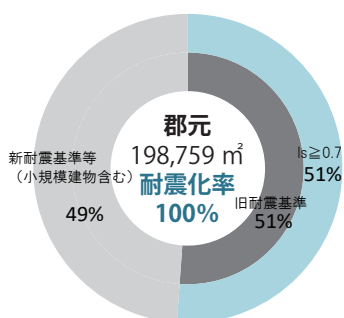
2-10. 施設の耐震化状況

施設の耐震化状況を把握し将来的な改修・保全計画を検討するための基礎資料 (R3.3.31)

<鹿児島大学耐震化状況> ※病院・職員宿舎を除く

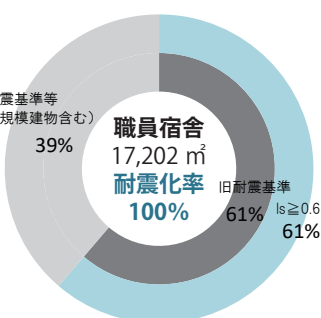
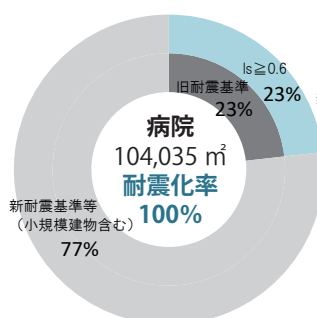


<キャンパス別耐震化状況> ※病院・職員宿舎を除く



<病院・職員宿舎耐震化状況>

※職員宿舎・看護師宿舎及び病院再開発事業における未取壊建物については、Is ≥ 0.6を耐震性ありと判断



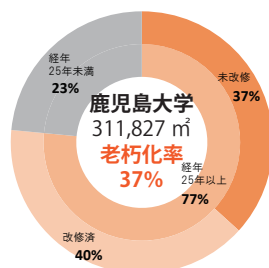
- ・耐震化を進めてきた結果、R2 年度末において耐震化率 100% である。

2-11. 施設の老朽化状況

施設の老朽化状況を把握し将来的な改修・保全計画を検討するための基礎資料 (R3.3.31)

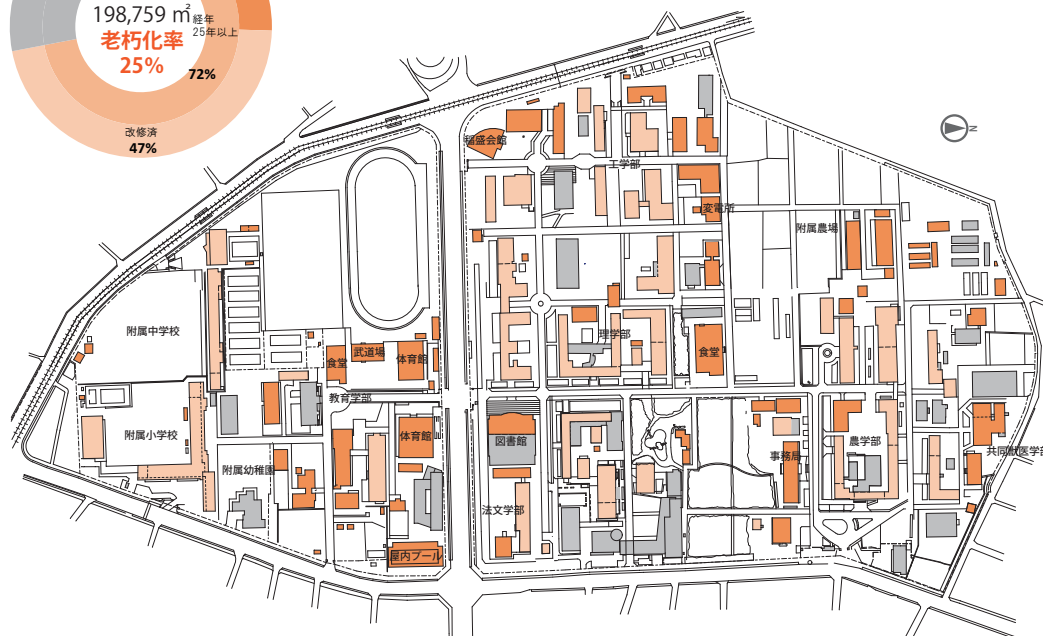
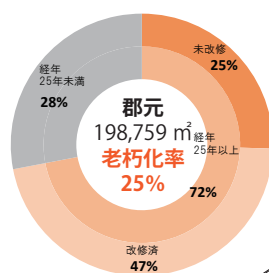
老朽化率：(経年 25 年以上かつ未改修施設面積) / (全施設面積)

＜鹿児島大学老朽化状況＞ ※病院・職員宿舎を除く



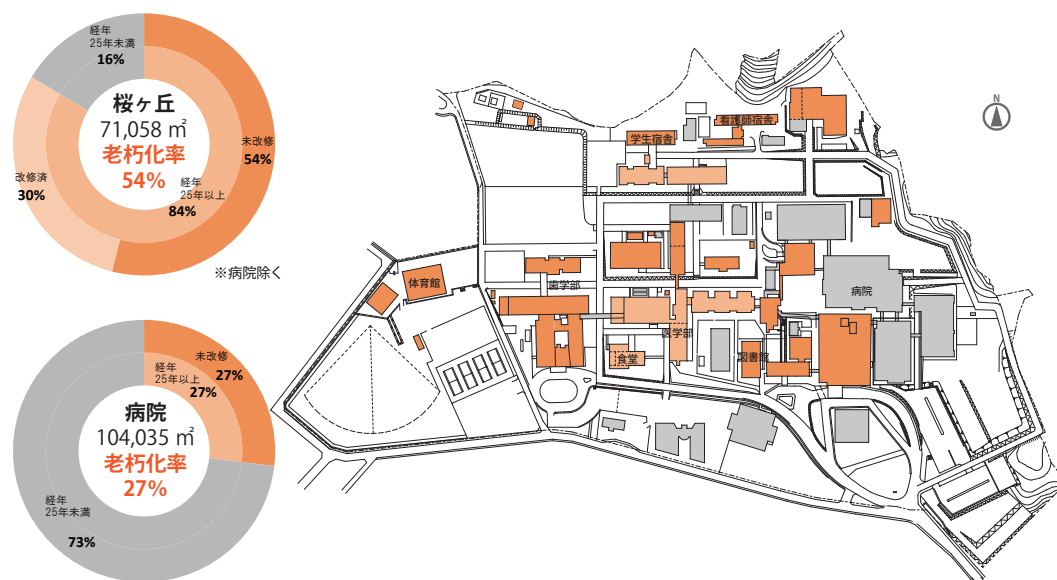
- ・経年 25 年以上が全体の 77%、経年 25 年以上で未改修のものが 37% ある。

＜郡元キャンパス＞



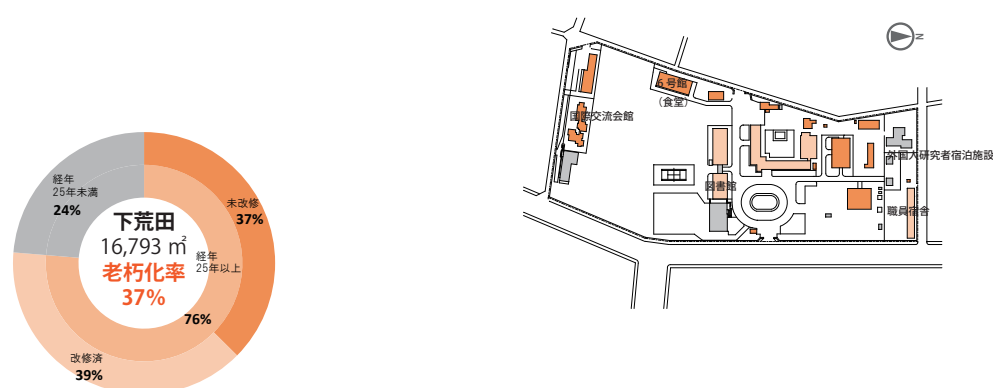
- ・経年 25 年以上が全体の 72%、経年 25 年以上で未改修のものが 25% ある。
- ・教育研究施設では、教育学部、法文学部に経年 25 年以上で未改修のものが多く見られる。
- ・その他、体育施設、福利施設、管理施設に経年 25 年以上で未改修のものが多くみられる。

<桜ヶ丘キャンパス>



- ・移転により同時期に建設されていることから、一斉に経年 25 年以上を迎えている。
- ・経年 25 年以上で未改修のものが 54%であり、他のキャンパスと比べて高い。
- ・病院施設では、経年 25 年以上かつ未改修のものが 27%であるが、現在再開発中であり、改善される予定である。

<下荒田キャンパス>



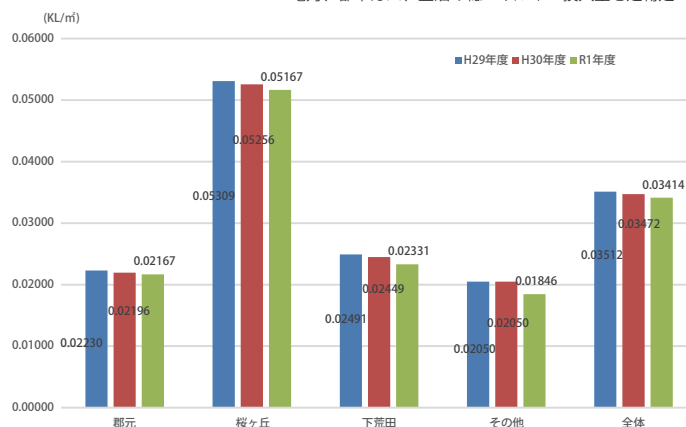
- ・経年 25 年以上かつ未改修の施設が 37% である。
- ・特に食堂は、「改善・強化した方が良いと思う項目」No1（WEB アンケートによる）であり、サービスも含めて改善の必要性が高い。

2-12. エネルギー関係の数値

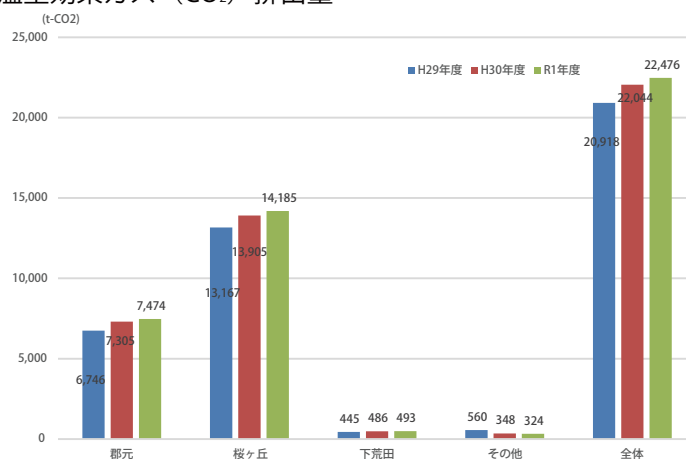
キャンパスで消費するエネルギー量、CO₂ 排出量等を把握したもの

(1) 総エネルギー投入量

※電力、都市ガス、重油の総エネルギー投入量を建物延べ面積で除した原単位の推移

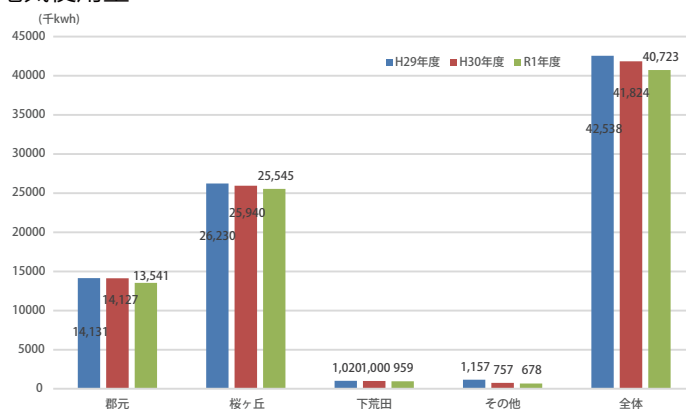


全体で総エネルギー投入量の減少がみられる。

(2) 温室効果ガス (CO₂) 排出量

全体で総エネルギー投入量の減少がみられるものの、温室効果ガス排出量が増加している要因として、電力会社の温室効果ガス排出係数が大きくなったことが考えられる。

(3) 電気使用量



全体で電気使用量の減少がみられる。

03

キャンパスフレームワークプラン

3-1. フレームワークプラン策定にあたって

「キャンパスマスタープラン 2015」（地区計画・デザインガイドライン含む）では、フレームワークプランの策定にあたって、建物の基本的なライフサイクルを 50 ～ 60 年程度（従来型）とし、30 年後の将来像を示してきた。

しかし、図 3-1 のように笹子トンネル天井板落下事故（H24.12）を機に、社会全体のインフラについて長寿命化への転換が進められ、国立大学施設についても、長寿命化に向けた基本的な考え方が示され、既存施設の活用、廃棄物や二酸化炭素の排出量の削減等から、建物の基本的なライフサイクルは 80 ～ 100 年へ見直された。

これらを受け、本学においても、長寿命化の視点に立ち、維持管理を着実に推進するために「インフラ長寿命化計画」を策定してきた。

「キャンパスマスタープラン 2022」においては、建物の基本的なライフサイクルを 80 年程度（長寿命化型）とし、また、長寿命化への転換により、30 年後ではほとんどの建物が残ることから、建替・取壊の機会を見据えて計画するために、50 年後を将来像として示す。

なお、「キャンパスマスタープラン 2015」以後策定してきた「地区計画・デザインガイドライン」については、「キャンパスマスタープラン 2022」のフレームワークプランへ整理・統合する。

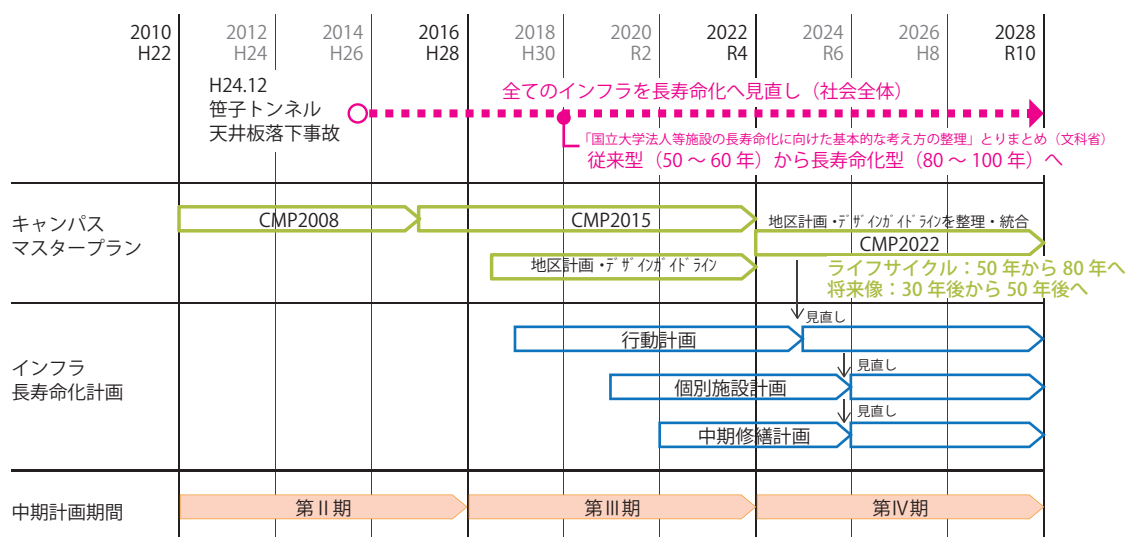


図 3-1

3-2. フレームワークプラン策定の方針

基本方針、整備・活用方針と各キャンパスの特性や課題を踏まえ、50年後のそれぞれのキャンパスの将来像を示し、イメージの共有化を図る。

国、社会からの要請やニーズの変化に柔軟に対応するため、特定の建物像を示すのではなく、キャンパスのフレームとしての考え方を定め、以下の項目について、空間構成や土地利用のイメージを示す。

(1) 周辺地域との連携

周辺地域の特性を把握し、キャンパスと地域の位置づけや連携に配慮する。

- ・ メインゲート周辺や地域とのつながりを図る開かれたゾーンを地域交流ゾーンとして設定する。

(2) 骨格

キャンパス内を連結する最も重要な動線をキャンパス軸として位置付け、展開を図る。

- ・ 建物が軸線に接する側を建物の正面とし、オープンスペースを設ける。
- ・ 歩行動線を主体として位置付ける。
- ・ 歩車分離を図るため、学生・教職員用車動線の集約を図る。なお、サービス・来訪者用車動線は適宜整備する。

(3) オープンスペース

意図的に施設を建てないオープンスペースとして広場、緑地空間、屋外実習地、駐車エリアを設定する。

- ・ 基軸に沿って広場を配置し、キャンパスコモンとして位置付け、象徴的空間とする。

(4) ゾーニング

機能性・連携・交流に配慮しつつ、キャンパス戦略実現へ向けてゾーニングを設定する。

また、社会の要請や時代の変化、未知の分野・新領域への挑戦等に柔軟に対応するため、建設用地となる種地を随時確保していく計画とする。

- ・ 既設の配置を継承しつつ、各ゾーンの発展性・機能性を考慮し、まとまりある計画とする。
- ・ 多様な交流、共通・共同利用する施設等を配置する利用度の高い共通・交流ゾーンは、キャンパス内の各所からの利便性を考慮する。
- ・ 周辺地域との接続に配慮した地域・交流ゾーンを配置する。
- ・ キャンパス内の歩行者優先を前提とし、駐車場ゾーンを集約配置する。
- ・ 教育研究ゾーンでは、高層化による研究施設の集約化、低層実験施設の集約化などにより、将来の建設用地を確保する。

(5) 土地利用計画

骨格、ゾーニング等に基づき、土地利用計画を示す。

(5)-1 施設規模

運営費交付金等の予算の縮小、施設の管理運営に関する経費の削減の必要性、18歳以上の人口の減少等が予想されること等から、将来像の施設規模は、対2021年比△10%として示す。

ただし、外部資金等による自立的な運営が可能な施設については、積極的に検討することとし、これらの増築は妨げない。

(5)-2 改修・建替の考え方

長寿命化により既存施設を最大限活用することとし、改修・建替時期においては、集約化・廃止等を検討し、施設総量の最適化を図る。

集約時に高層化する場合は、維持管理費等を考慮し、原則※高さ31m以下とする。

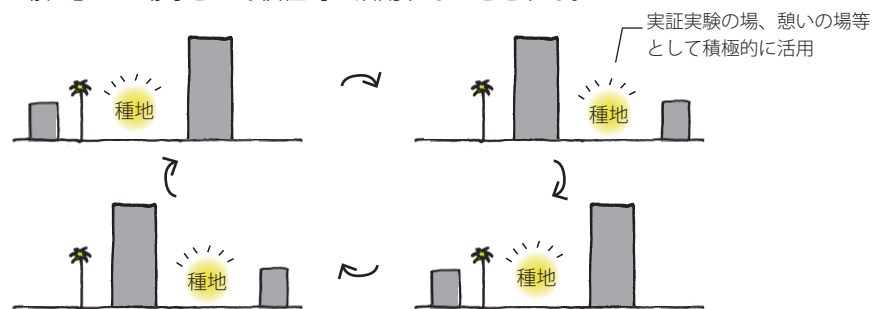
改修・建替時期については、長寿命化のライフサイクルとし、築後40年を改修時期、築後80年を建替時期の目安とする。ただし、長寿命化が困難な建物や小規模建物（500㎡未満）については、耐用年数を取壊・建替時期の目安とする。

また、歴史・伝統を感じる施設は、保存・活用を図り、未来へ継承する。

※高さ31mを超える建築物は、建築基準法等により、非常用昇降機の設置、消防計画の作成等が求められ、建設費のみならず維持管理費の増につながる。31mは、地方国立大学のキャンパスでは十分な高さと考えられる。

(5)-3 土地利用計画

骨格、ゾーニング等に基づいた計画とする。また、社会の要請や時代の変化等に柔軟に対応するために設けた種地（将来建設用地）では、将来の建替を妨げない範囲で、実証実験の場、憩いの場等として積極的に活用することとする。



建替サイクルのイメージ

(5)-4 改修・建替計画

将来像へ向けて、10年毎の改修・建替計画を示す。改修・建替の考え方に基づき、目安として示すものであり、実施にあたっては、社会の要請や時代の変化等、各時期の状況に応じ、柔軟に対応することとする。

(6) パブリックスペース

長期にわたって統一された魅力的な空間を創出するために、以下について基本的な考え方を示す。

(6)-1 通り

各通りの性格に応じ、空間形成の基本的な考え方を示す。

(6)-2 見通し（ビスタ）

周辺地域との見通しや調和、キャンパスを特徴づける景観について、キャンパス内外からの視点場を定める。

(6)-3 敷地境界

周辺地域との連続性、安全性等に配慮し、敷地境界における空間形成の基本的な考え方を示す。

(7) 緑・植栽計画

緑をキャンパスの貴重な資源としてとらえ、基本的な考え方を示す。

(8) 色・素材・形状

歴史ある資源を継承しつつ、キャンパス全体の調和を図り、鹿児島大学らしさを形成していくために、基本的な考え方を示す。

(9) サイン

だれにでも分かりやすいキャンパスとするために、基本的な考え方を示す。

(10) 屋外照明

安全性、省エネ、空間の演出等に配慮し、基本的な考え方を示す。

(11) ライフライン

防災機強化、省エネ等に配慮し、基本的な考え方を示す。

(12) 管理運営の好循環

施設の集約化による保有面積の削減や省エネ整備により、維持管理費・光熱水費の削減を図る。また、省エネ整備による光熱水費の削減額を維持管理に充当する仕組みを構築し、施設管理運営の好循環を目指す。

3-3. 郡元キャンパス・フレームワークプラン

(1) 周辺地域との連携

■ 周辺地域交流ゾーン

郡元キャンパスの東側に位置し、ふれあい通りの延長上にある学生街。多くの飲食店が立ち並び周辺地域の学生、教職員交流の場となっている。

また、下荒田キャンパスへのアクセス動線となっている。

■ 公共交通アクセスゾーン

西側には鹿児島市街地の主要公共交通機関である市電路線に面しており、また JR の最寄駅もある。いずれも鹿児島の陸の玄関口である鹿児島中央駅へと繋がっており、学内者は基より来訪者のアクセスにおいても配慮が必要である。

■ 中心市街地ゾーン

北西側は市が定める中央地区（鹿児島市の中心市街地）に面している。隣接地には現在、交通局、上荒田の杜公園、市立病院がある。

■ 緑のつながり

北西側の上荒田の杜公園とキャンパス内の農場実習地、植物園を視覚的につながりのある一体的な緑地空間とし、学生・教職員及び地域の方にとっての憩いの場とする。

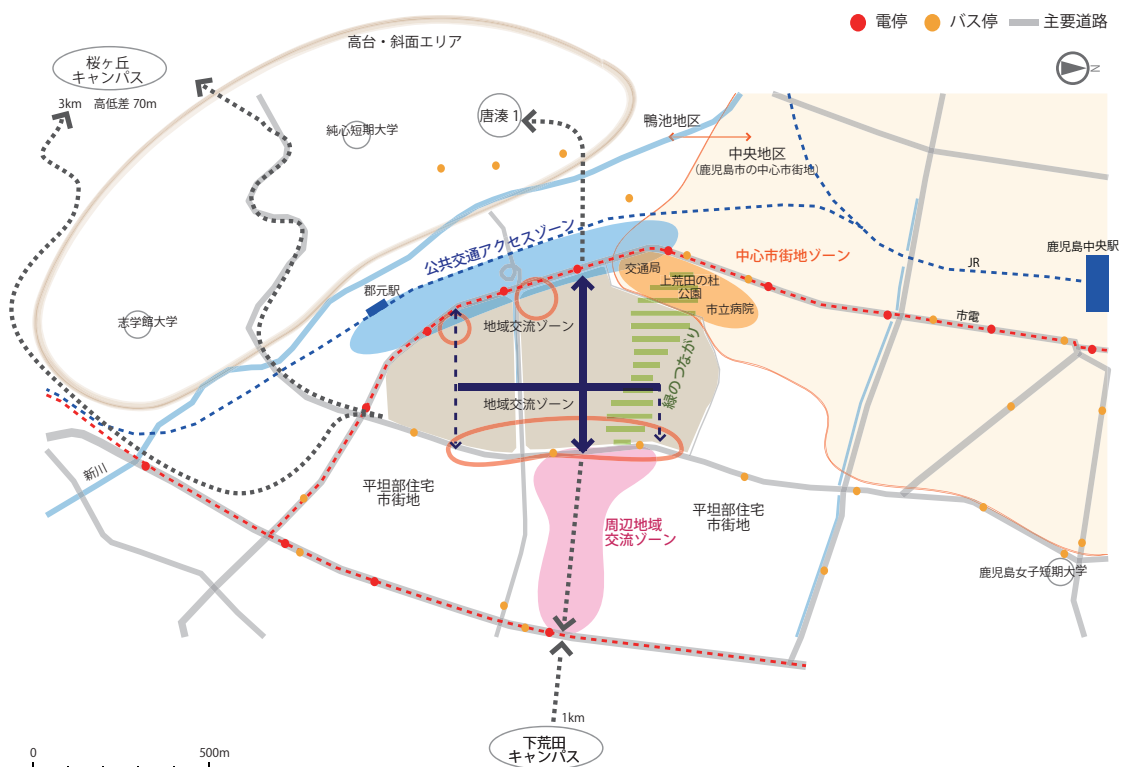


図 3-3-1

(2) 骨格

- ・郡元キャンパスの象徴的空間である北辰通り（南北軸）と西門から東門へ繋がるふれあい通り（東西軸）をキャンパスの主要動線として、キャンパス軸に位置づける。
- ・歩行者主体のキャンパスとするため、学生・教職員車両動線は必要最小限とする。
- ・屋外実習地南側から保存緑地にかけて、連続性のある緑地空間とする。

(3) オープンスペース

- ・キャンパスの南北軸である北辰通りをキャンパスコモン（広場）として位置付ける。
- ・キャンパス内の学生・教職員車両の侵入を制限するため、駐車場は敷地境界周辺に集約して配置。駐車場ゾーンは積極的に緑化を図り、環境に配慮する。

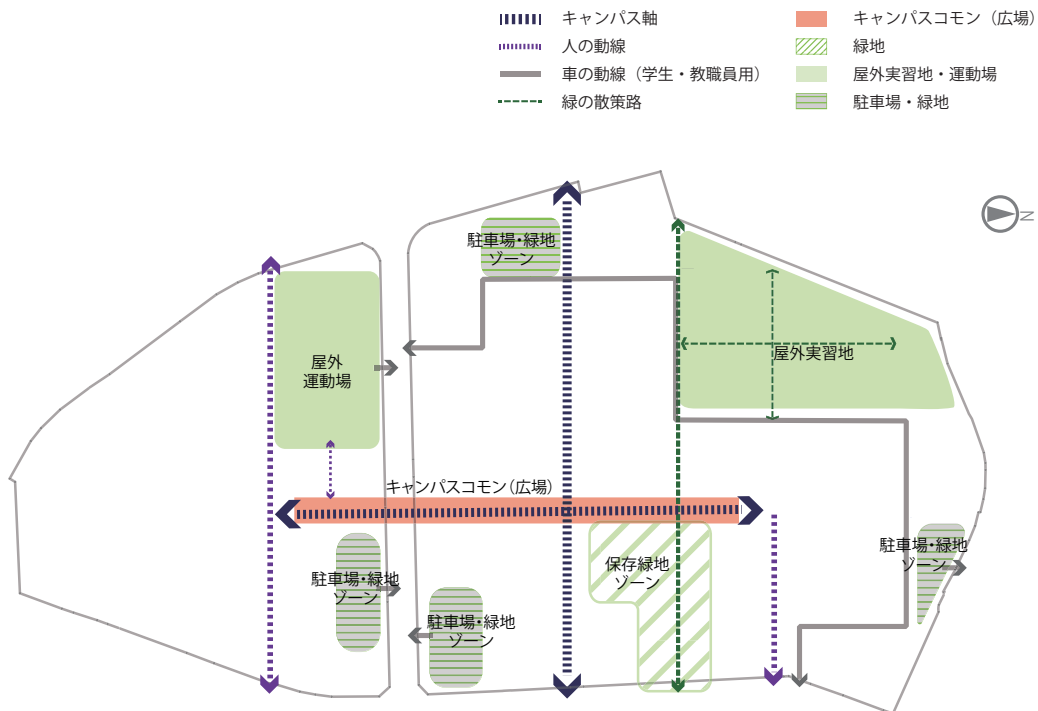


図 3-3-2

(4) ゾーニング

■教育研究ゾーン

- ・ 既設の配置を継承しつつ、中高層化により機能集約・連携強化・建て詰まり解消を図る。
- ・ 隣接する住宅街や屋外実習地周辺は、日照に配慮した低層（実習施設）エリアを確保する。

■共通・交流ゾーン

- ・ キャンパスの中央に配置し、共同利用や交流機能を中央に集約することで、機能性の向上や交流を促す。

■屋外実習地・運動場ゾーン

- ・ 既設の配置を継承しつつ、集約化を図る。

■附属学校・保存緑地ゾーン

- ・ 既存の配置を継承する。

■駐車場・緑地ゾーン

- ・ キャンパス内の学生・教職員車両の侵入を制限するため、敷地境界周辺に集約配置。駐車場ゾーンは積極的に緑化を図り、環境に配慮する。

■地域交流ゾーン

- ・ 周辺地域交流ゾーンと公共交通アクセスゾーンに位置づけている東西側の敷地境界周辺に配置。

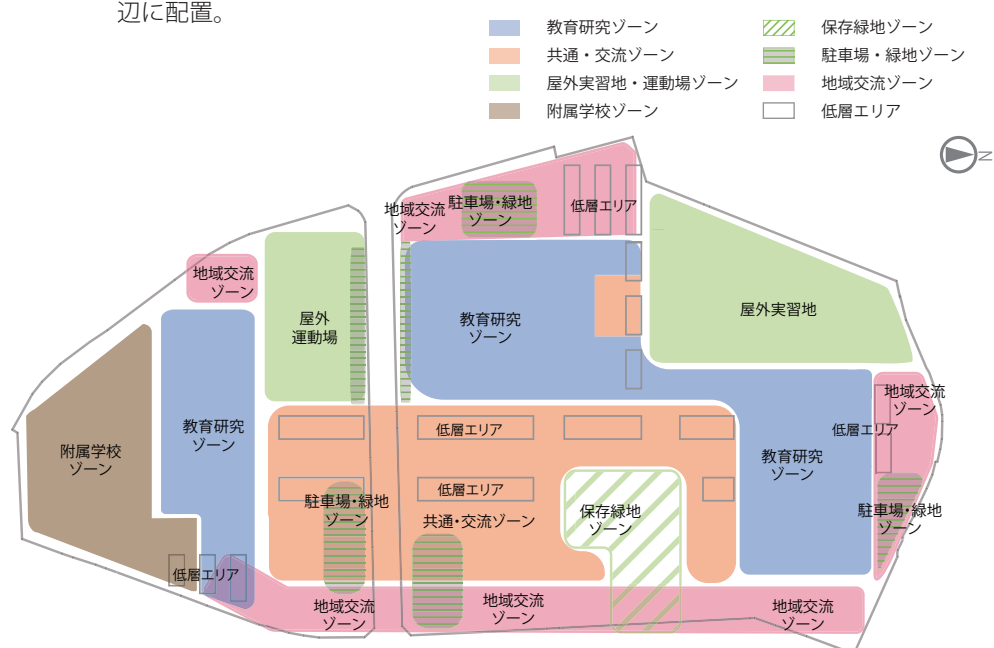


図 3-3-3

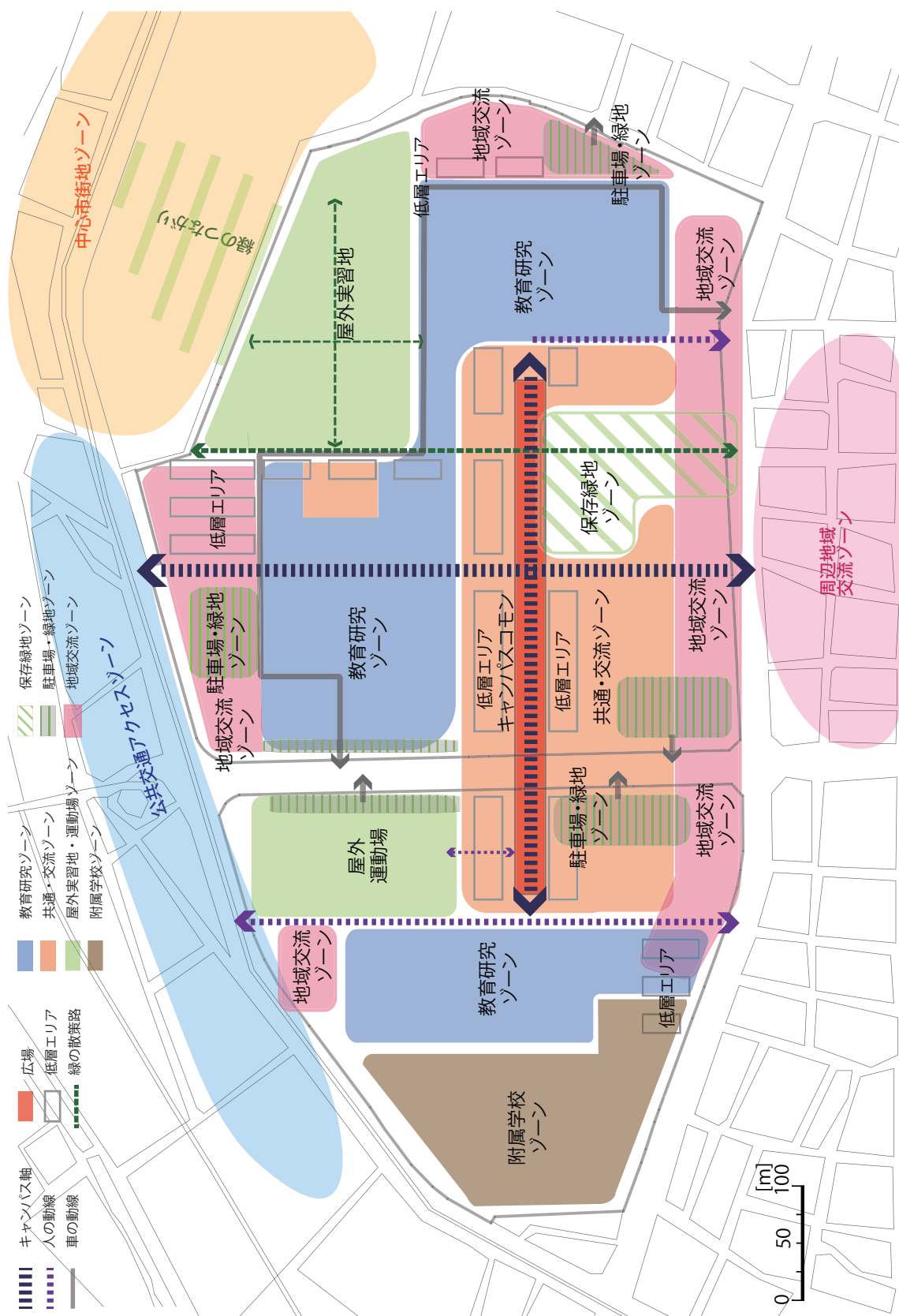


図 3-3-4

(5) 土地利用計画

(5)-1 施設規模

50年後（2071年）の施設規模は、対2021年比△10%の約179,600㎡として示す。

ただし、外部資金等による自立的な運営が可能な施設については、積極的に検討することとし、これらの増築は妨げない。

(5)-2 改修・建替えの考え方

原則、築後40年を改修時期、築後80年を建替時期の目安とする。

ただし、500㎡未満のもの、長寿命化が困難なもの等は、耐用年数を取壊・建替時期の目安とする。

また、歴史・伝統を感じるものは、保存・活用を図り、未来へ継承する。



図 3-3-5

(5)-3 土地利用計画

■教育研究ゾーン

- ・中高層化による総合研究棟の集約化（3ヶ所）、将来の建設用地を確保。
- ・実験施設エリアを設け、乱立による建て詰まりを防ぐ。

■共通・交流ゾーン

- ・キャンパスコモン沿いに共通・交流施設を集約配置。
- ・地域とともに利用可能な体育館・課外活動施設の集約配置。

■地域交流ゾーン

- ・地域とともに利用可能な施設等を配置。

■屋外実習地ゾーン

- ・日照条件に配慮し、周辺は低層建物を配置。

■駐車場・緑地ゾーン

- ・敷地境界周辺に駐車場・駐輪場を集約配置し、歩車分離を図る。

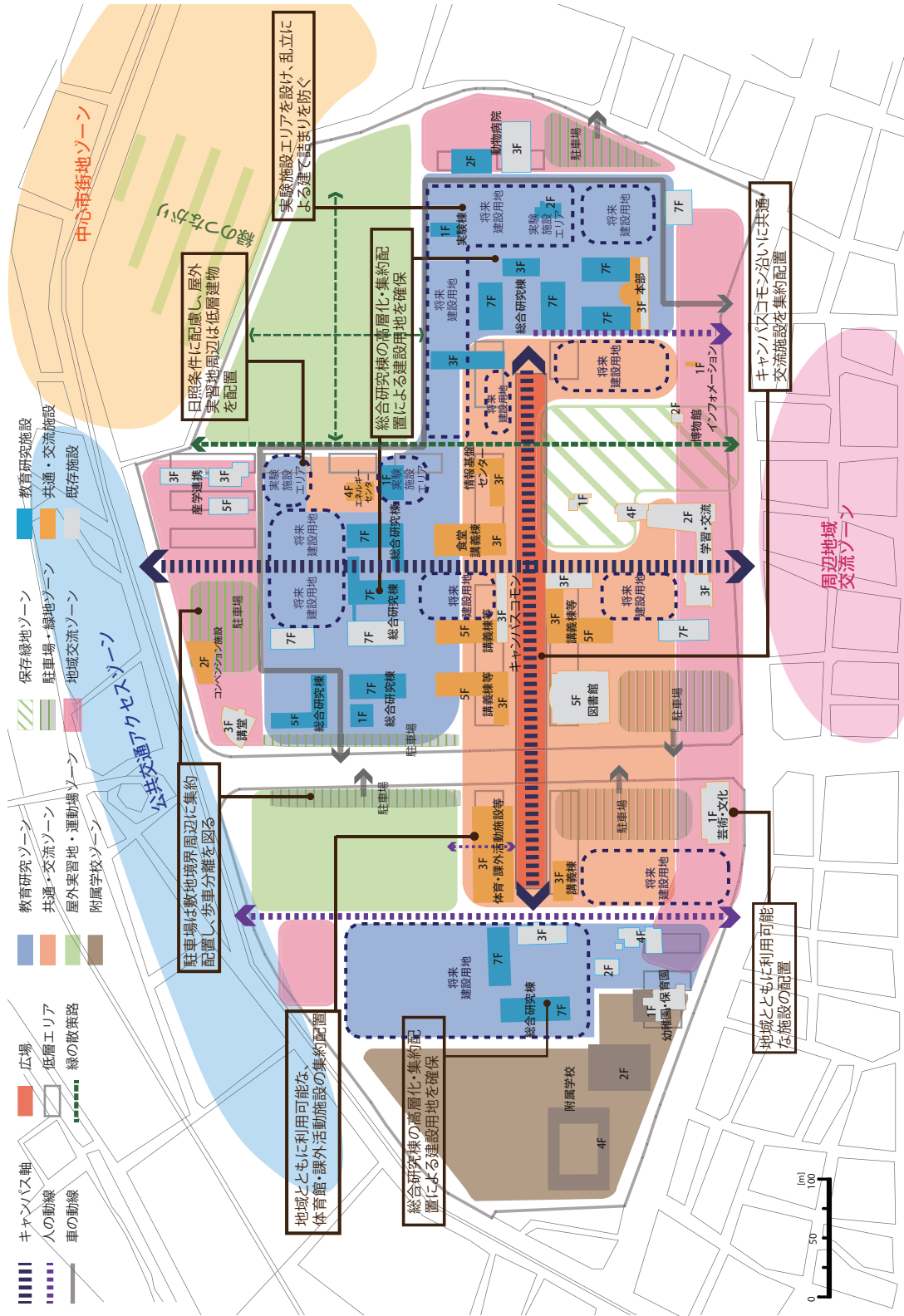


图 3-3-6

<配置図 (2071)>



图 3-3-7

<配置図 (2021)>



図 3-3-8

(5)-4 改修・建替計画

50年後の将来像へ向けて、10年毎の改修・建替計画を示す。改修・建替の考え方に基づき、目安として示すものであり、実施にあたっては、社会からの要請やニーズの変化等、各時期の事情に応じ、柔軟に対応することとする。

フェーズ1（2022-2031） 199,600 m² → 199,100 m²（2021年比△0.2%）

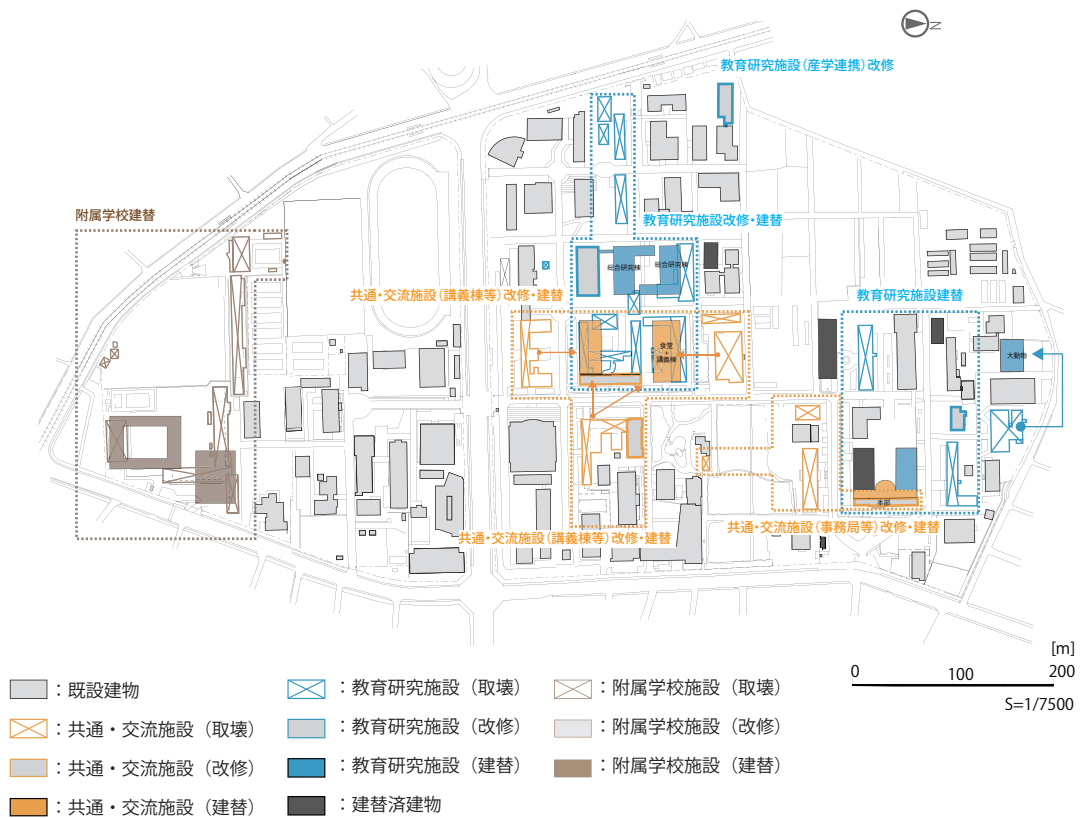


- ：既設建物
- ：共通・交流施設（取壊）
- ：共通・交流施設（改修）
- ：共通・交流施設（建替）
- ：教育研究施設（取壊）
- ：教育研究施設（改修）
- ：教育研究施設（建替）
- ：建替済建物

フェーズ2 (2032-2041) 199,100 m² → 198,200 m² (2021 年比△0.7%)



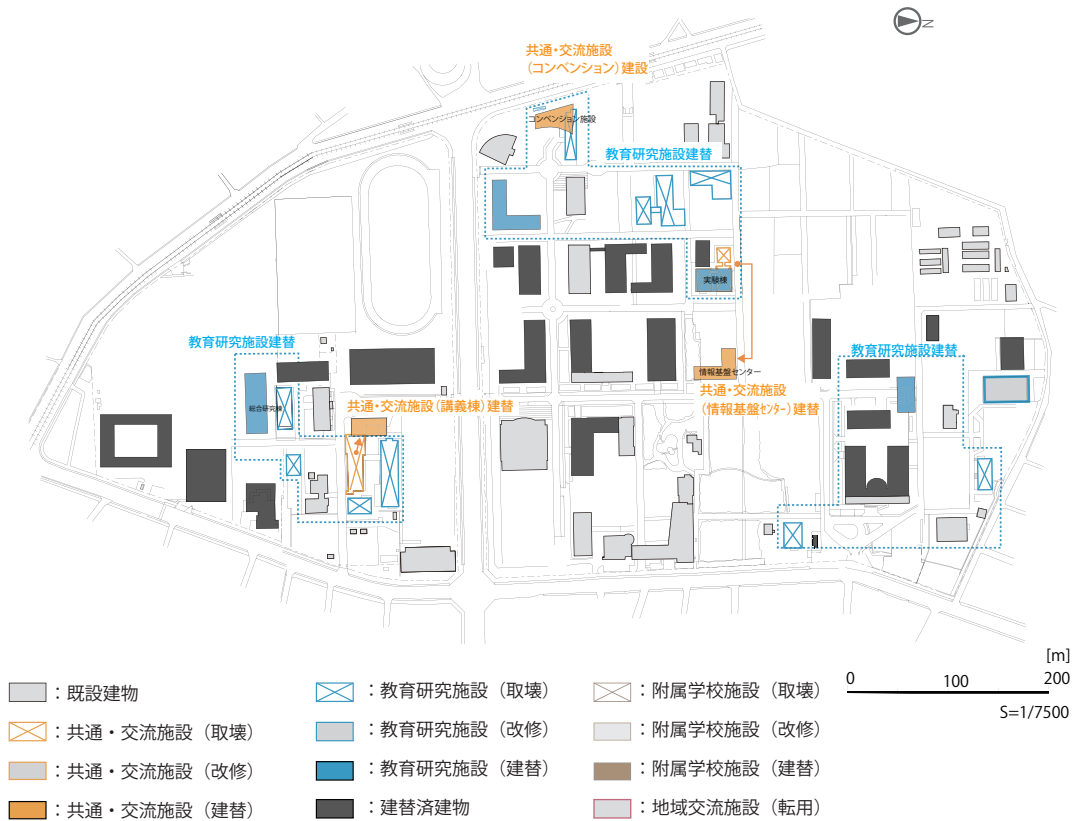
フェーズ3 (2042-2051) 198,200 m² → 190,200 m² (2021 年比△4.7%)



フェーズ4 (2052-2061) 190,200 m² → 183,200 m² (2021年比△8.2%)



フェーズ5 (2062-2071) 183,200 m² → 179,600 m² (2021年比△10%)



(6) パブリックスペース

(6)-1 通り

< 基本的な考え方 >

- ・ 各通りの性格に応じた統一感ある空間を形成するため、高さ・壁面線の統一や樹木の列植等に配慮する。
- ・ 通り沿いには、たまり場となるような見通しの良い樹木やベンチを配置し、交流を促すしかけをする。
- ・ 建物正面（エントランス）はキャンパス軸側とし、アクセス動線が分かりやすい施設計画とする。
- ・ 通りからキャンパス内部の気配が感じとれるように、低層部は積極的に開口部等を設ける。
- ・ 楽しく歩ける安心安全なキャンパス環境形成のため、車動線の制限、駐車場・駐輪場の敷地境界への集約を図り、歩行者主体の通りを形成する。

基本的な考え方に基づき、郡元キャンパスの4つの主要な通りについて、具体的なガイドラインを示す。

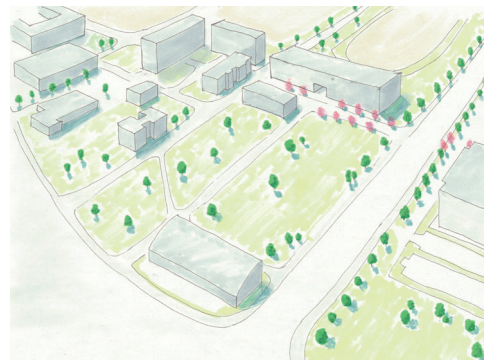
- (a) 北辰通り - 規則的で統一感のあるキャンパスコモン -
- (b) ふれあい通り - 多様な広場に面した変化に富むへび玉通り -
- (c) 田園通り - 緑の散策路 -
- (d) 銀杏並木通り - 季節を感じる並木道 -

(a) 北辰通り - 規則的で統一感のあるキャンパスコモン -

<基本的な考え方>

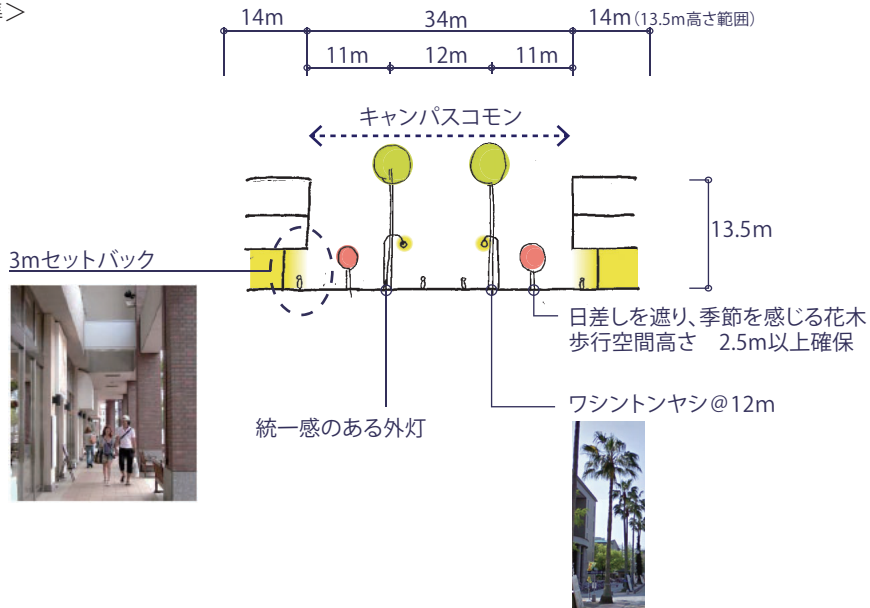


- ・ 郡元キャンパスの象徴的空間であり、最も人通りの多い北辰通り（南北軸）をキャンパスの「骨格」として位置付ける。
- ・ 現在の壁面線・高さ・植栽を尊重し、将来に渡って継承する空間とする。
- ・ 軸線上の受けとなる建物は、アイストップとして配慮する。また、市道で分断される部分は連続性に配慮した設えとする。



軸線上にアイストップとなるシンボリックな建物を配置

＜基準＞



広場:現在の壁面ライン(間隔34m)を継承し、キャンパスコモン(広場)を形成。

高さ：北辰通り沿い建物は高さ13.5mで統一（壁面から14mまで）。

樹木:現在のワシントンヤシの継承と延長(南側キャンパスまで)。

新たに、日差しを遮り、季節を感じる中木を配置 (ex.ヨウコウザクラ) し、歩行空間確保のため枝高さは 2.5m 以上確保。

照明:統一感のある外灯。

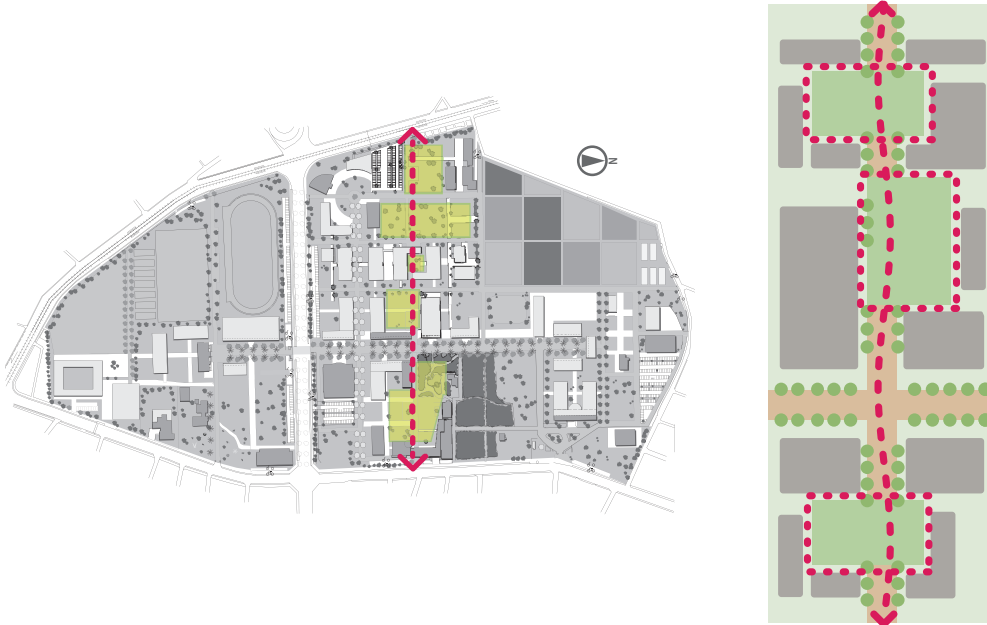
形状:1階壁面線3mセットバックし、連続したアーケード空間を創出。

低層部分は公共性の高い機能とし、内部の雰囲気が見える設え。



(b) ふれあい通り - 多様な広場に面した変化に富むへび玉通り -

<基本的な考え方>



オープンスペースのネットワーク
(軸線と広場で多様な屋外環境形成)

- ・ 東門から西門へ繋がるふれあい通り（東西軸）を北辰通りと直交するもう一つのキャンパスの「骨格」として位置付ける。
- ・ 多様な広場を抱え込み、変化の富んだ通りとする。
- ・ 樹木・照明は意図的に不規則な配置とし、やわらかい印象をあたえる。



玉利池周辺

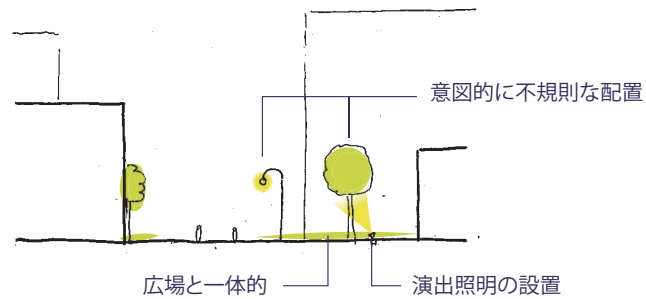


学習交流プラザ前



化学工学棟北側

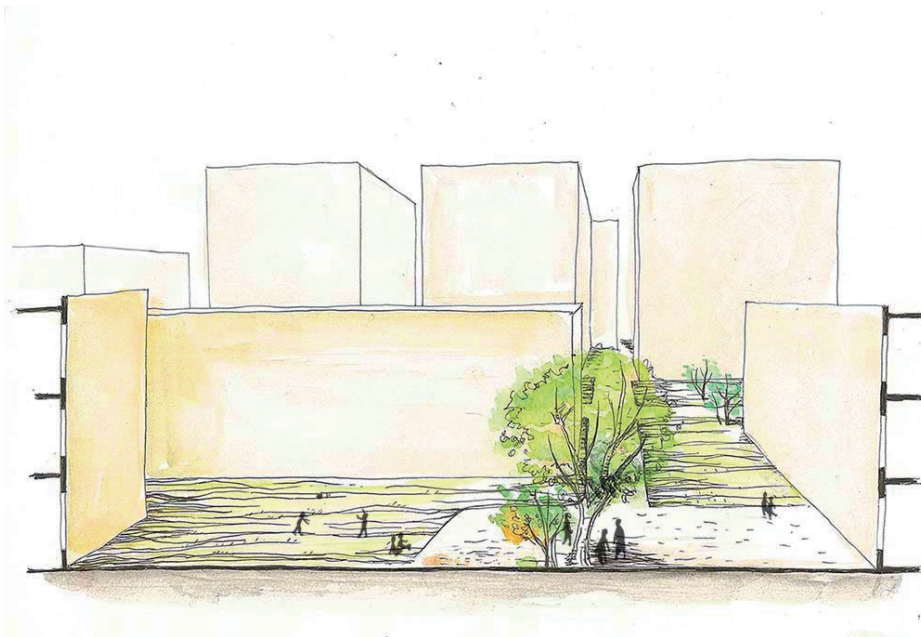
<基準>



広場:通りと一体的に。

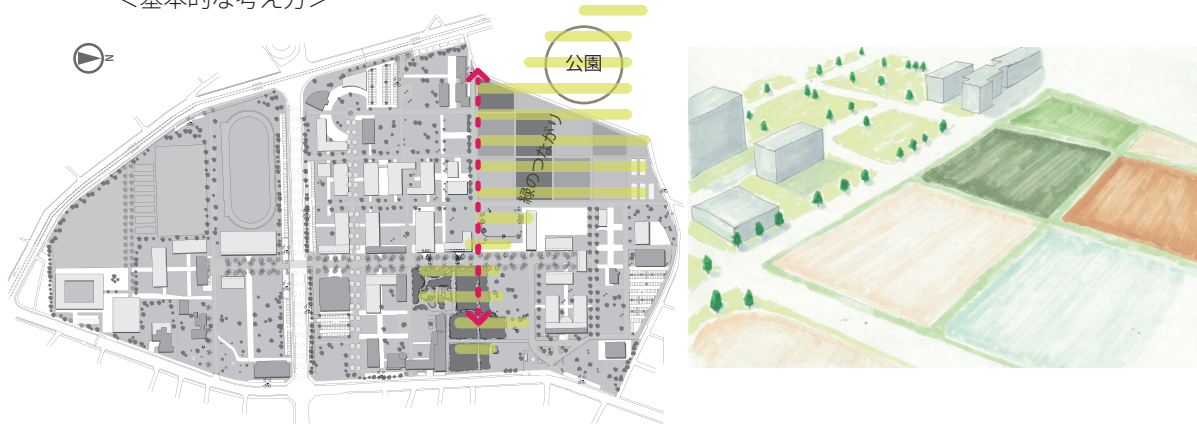
樹木・外灯:やわらかい印象を与えるため、意図的に不規則な配置。

照明:シンボルツリー等は樹木を照らす演出照明を設置。



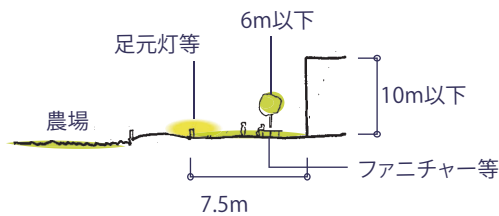
(c) 田園通り - 緑の散策路 -

<基本的な考え方>



- ・ 植物園から農場実習地、隣接する上荒田の杜公園までの一体的な緑地空間をつなぐ緑の散策路とする。
- ・ 農場実習地・植物園に配慮した建物高さ・照明計画とする。
- ・ 緑の散策路として、学生・教職員及び地域の憩いの場となるようファニチャー等を積極的に配置する。

<基準>



高さ：農場南側建物は日照に配慮し、10m以下。

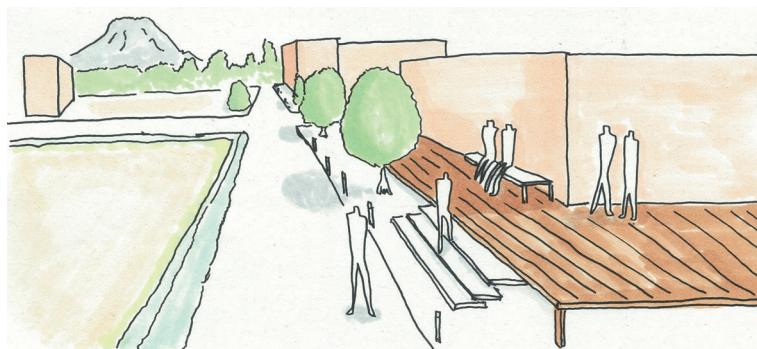
照明：農場への光に配慮（足元灯・センサー式の採用、光束の向き等の配慮）。

壁面線：建物は7.5mセットバックし、オープンスペース確保。

樹木：樹木は日射に配慮し、6m以下の低木。

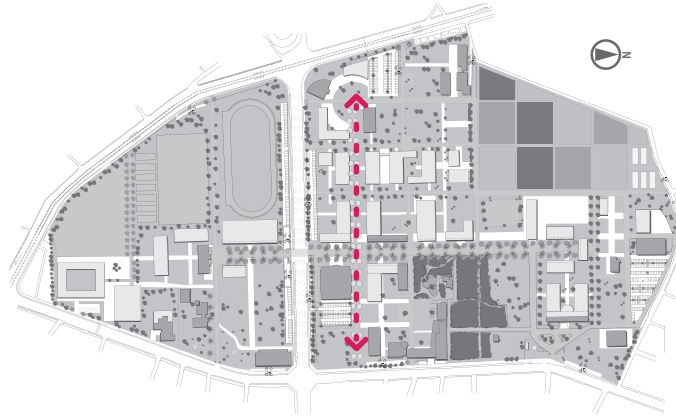
農場実習地に近い樹木は、病気に強い樹種を選定。

広場：農場側に視覚的に広がる憩いの緑地空間。



(d) 銀杏並木通り - 季節を感じる並木道 -

＜基本的な考え方＞



- ・ 現在の銀杏並木を継承しつつ、範囲を延長していく。
- ・ 現在は間隔が狭く、隣り合う樹木が干渉しているので、間隔を間引き、樹形を自然樹形としていくことで、銀杏並木のトンネルを形成していく。



(6)-2 見通し（ビスタ）

< 基本的な考え方 >

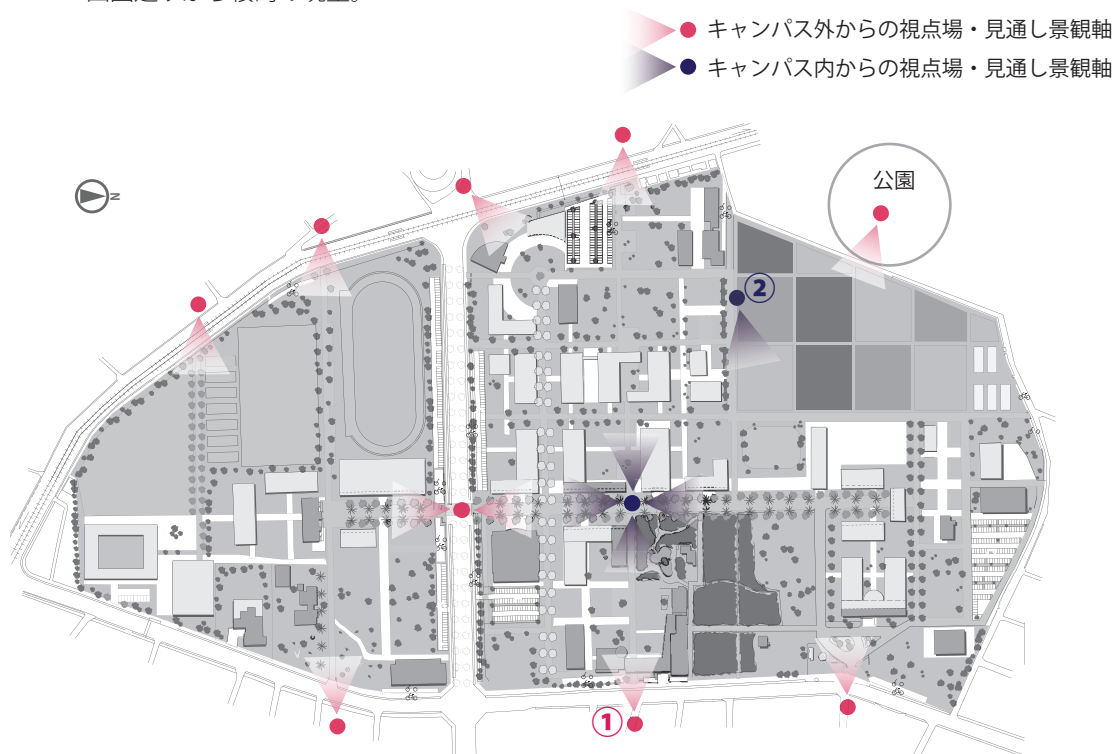
周辺地域との見通しや調和、郡元キャンパスの特徴づける景観についてキャンパス内外からの視点場を定め、眺望に配慮した建物の配置・形状や敷地境界とする。

< キャンパス外 >

- ・主要門や地域交流ゾーンのキャンパス外からの見通しに配慮（ex. 見通しの良い敷地境界）。
- ・上荒田の杜公園からの農場。

< キャンパス内 >

- ・キャンパス軸、正面にある施設・樹木はアイストップとして、シンボリックなものとする。
- ・田園通りから桜島の眺望。



①地域交流ゾーンの入り口（東門）



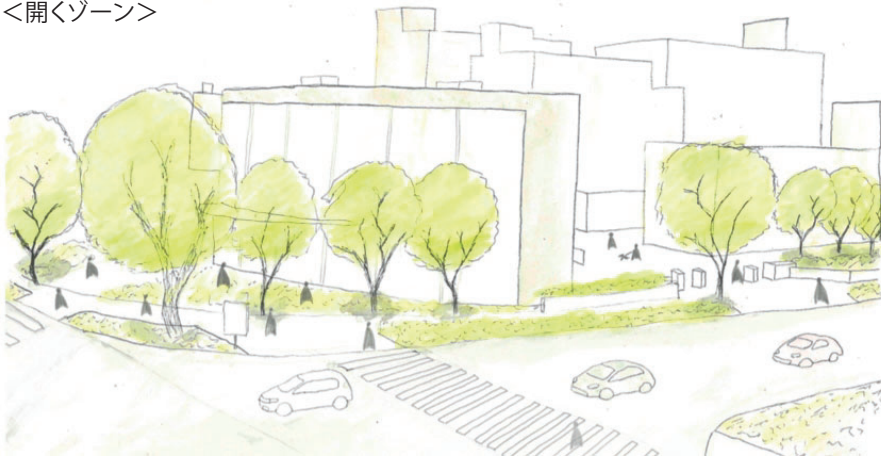
②桜島への眺望を遮らない建物高さ

(6)-3 敷地境界

< 基本的な考え方 >

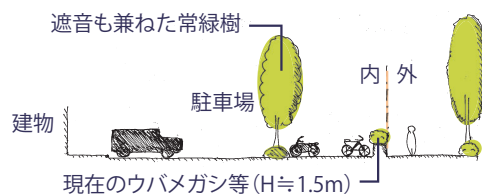
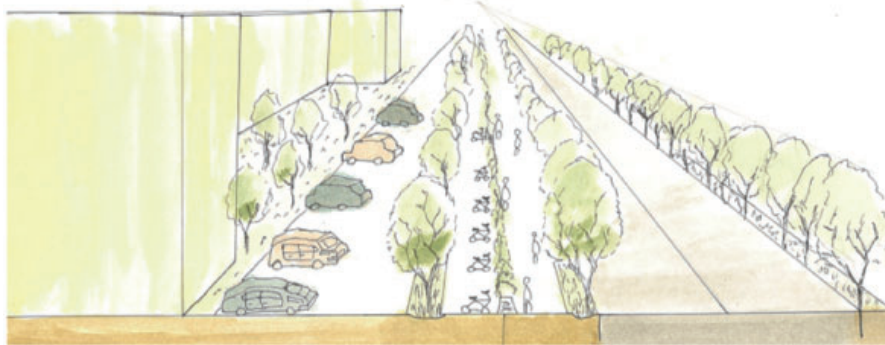
- ・ キャンパス入口は、周辺地域との調和や歩車分離等の安全性に配慮する。
- ・ 特に主要入口は、大学の顔として品格を意識し、重点的に整備する。
- ・ 地域交流ゾーンの敷地境界は、視線の通る設えとし、周辺地域と連続性に配慮する。
- ・ 駐車場・駐輪場は敷地境界に配置し、キャンパス中心部への車・二輪車動線の制限を図る。

< 開くゾーン >



敷地境界を芝生のマウンドとし、地域のポケットパークとして活用

< 閉じるゾーン >



駐車場・駐輪場を敷地境界周辺に配置

(7) 緑・植栽計画

< 基本的な考え方 >

- ・ 歴史ある現在の樹木・樹種を尊重しつつ、要所で鹿児島に適した季節を感じる花木（ヨウコウザクラ、ハナミズキ、ヤマボウシ等）を配置する。
- ・ 主要門周辺、キャンパス軸の並木、シンボルツリーは、細目に剪定し、管理レベルにメリハリをつける。
- ・ 芝生については、排水の確保、踏圧対策等を維持管理も含めてに十分に検討する。特に日影となりやすい建物北側、人通りの多い場所是对応が必要である。
- ・ 駐車場も積極的に緑化を図る。
- ・ キャンパス主要入口には桜の木を配置する。



駐車場の緑化

< 郡元キャンパスに多い樹種 >

ワシントンヤシ、ソテツ、クス、モミジバフウ、クロガネモチ、アカシア、ケヤキ、イチョウ、ソメイヨシノ、ヒガンザクラ、ゴモジュ、モクセイ、ウバメガシ

(8) 色・素材・形状

<基本的な考え方>

- ・ 歴史ある資源を継承しつつ、キャンパス全体の調和を図り、鹿児島大学らしさを形成していく。
- ・ 鹿児島特有の気候（集中豪雨・火山灰・強い日射）や海風に配慮したものとする。

<基準>

□ 色

- ・ 色彩の統一によりキャンパスの調和を図る。
- ・ 施設外部のベースカラーは落ち着いた色合いとする。
- ・ 大きな外部空間の舗装材は、日照の照り返しに配慮した色彩とする。

□ 素材

- ・ 低層部分（特に南北軸沿い建物）は、内部の雰囲気分かるような透明性の高いものとする。
- ・ 舗装材は透水性・保水性の高い素材を積極的に採用する。
- ・ エコマテリアル・地産材の導入推進
- ・ 記憶の継承として、既設建物の装飾を活かした計画・内外装材の再利用を積極的に行う。

□ 形状

- ・ 降灰や日射に配慮し、庇等を積極的に採用する。



旧建物外壁(火山岩)の再利用
(記憶の継承:既設建物等の装飾を活かした計画)



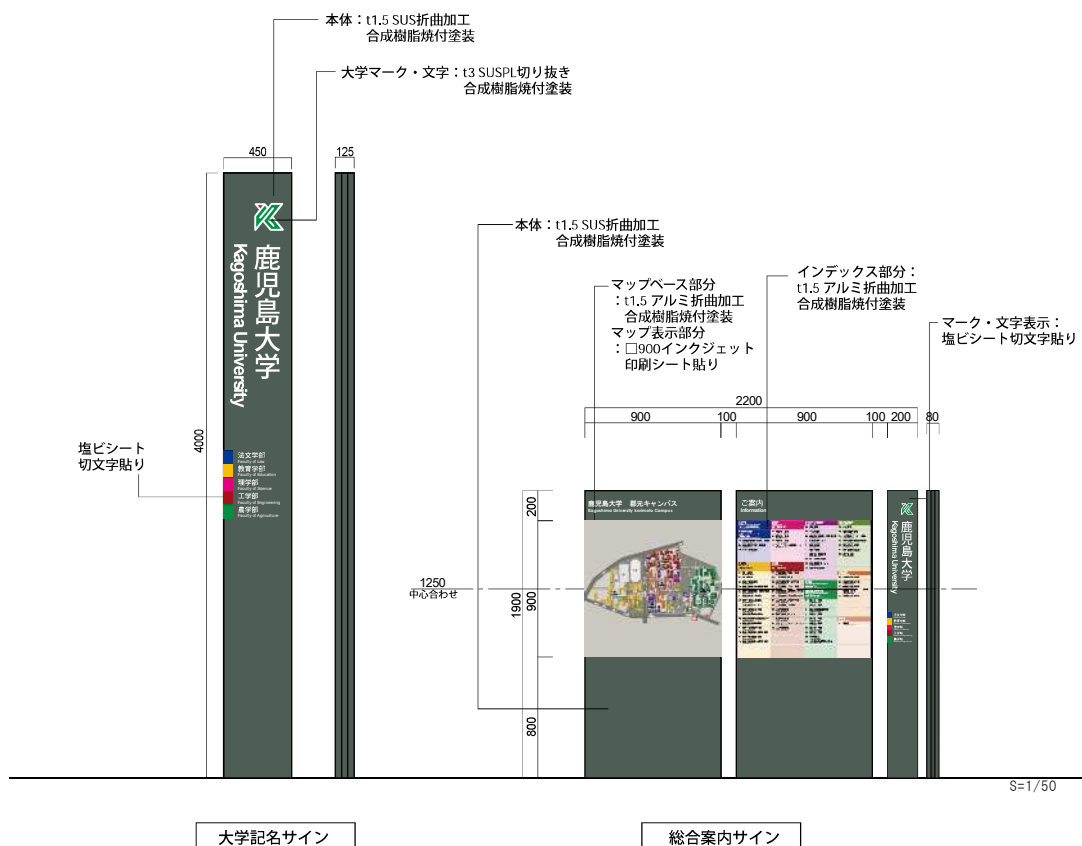
舗装材にシラスブロック採用
(地産材の導入)

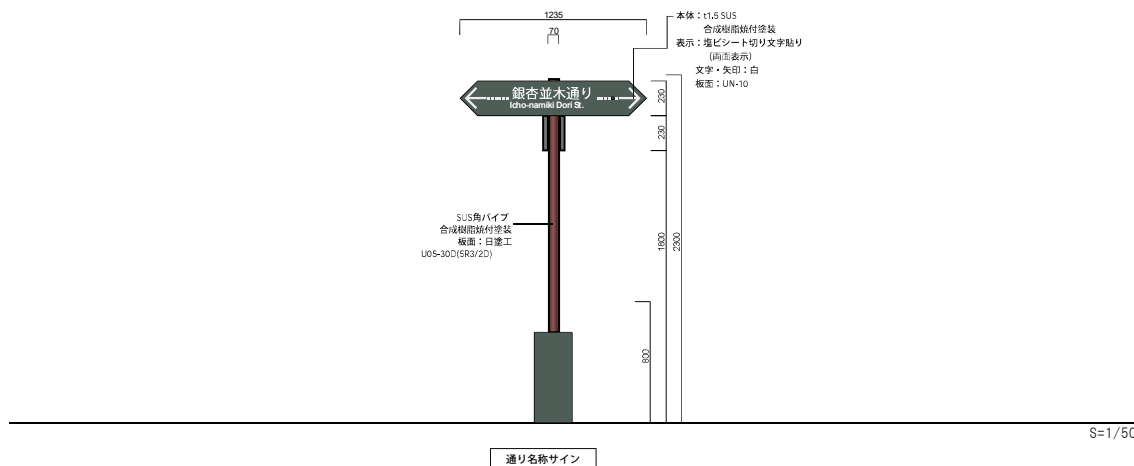
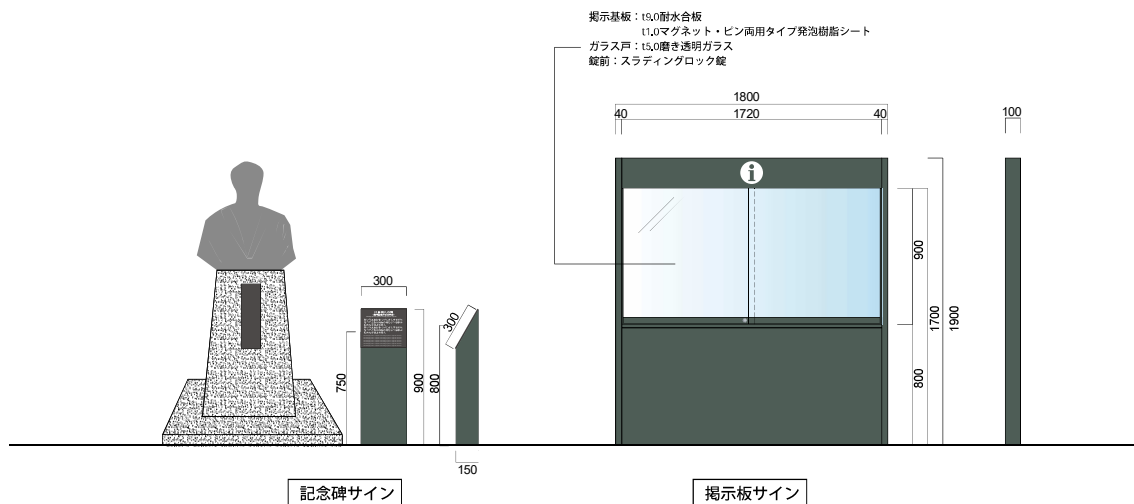
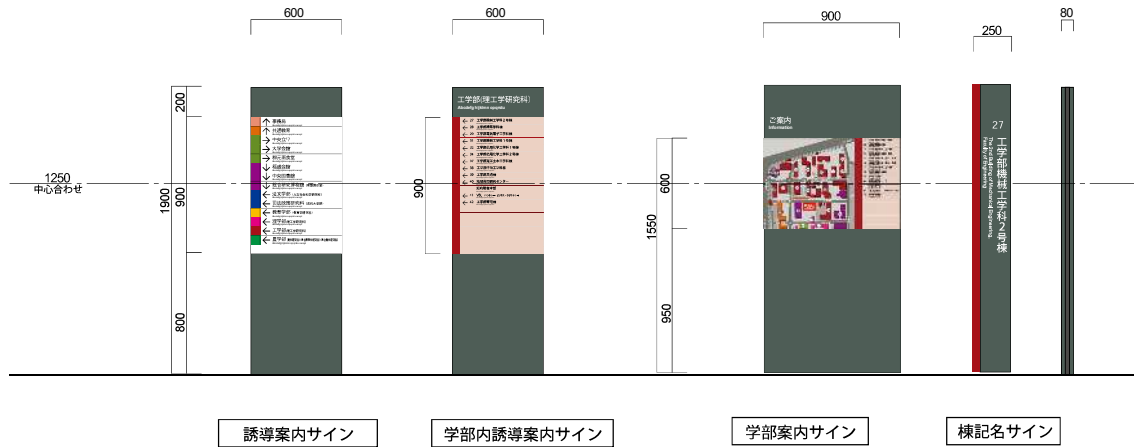
(9) サイン

<基本的な考え方>

- ・ キャンパス内のスムーズな移動をサポートする分かりやすいサインシステムとする。
- ・ グローバル化にも対応可能な和英併記を行う。
- ・ シンプルな構造により、簡便・ローコストなメンテナンスを実現する。
- ・ 景観形成・維持のため屋外サイン、のぼり等の広告及び学会・学際等の仮設サインに対する緩和等のルールを構築していく。
- ・ サインに留まらず、ゴミ箱等のファニチャーも統一を図り、キャンパスの調和を図っていく。

<基準>





(10) 屋外照明

<基本的な考え方>

- ☐ 機能照明
 - ・ 主要通りは JIS 規格に基づき、水平面照度 3lx 以上（路面上）確保する。
 - ・ 車出入口・車動線交差点は、十分な照度の確保・グレア（眩しさ）対策等、安全面に配慮する。（光源が見えないカットオフタイプ採用等）
- ☐ 樹木への配慮等
 - ・ 農場・保存樹木エリアは、センサー式、足元灯、カットオフタイプ等を採用し、樹木等への光害に配慮する。
- ☐ 省エネへの配慮
 - ・ 省エネタイプを積極的に採用する。
 - ・ 防犯上照度不足な場所は、人感センサー式照明の採用等、省エネを配慮しつつ、防犯性の向上を図る。
- ☐ 演出照明
 - ・ キャンパス入口・軸線沿いの広場となる場所は“たまり”の場を演出する照明計画とする。（誘導灯、樹木等のライトアップ、季節で変わる照明等）

(11) ライフライン

<基本的な考え方>

既存の共同溝を生かし、電力・情報通信・給水・消火設備等の基幹ライフラインの整備を行い、教育研究の変化に柔軟に対応する計画とする。

共同溝については、各種配管の耐久性が向上されていること、共同溝の整備費用を鑑み、原則、拡張は行わず、トラフや埋設配管にて対応する計画とする。

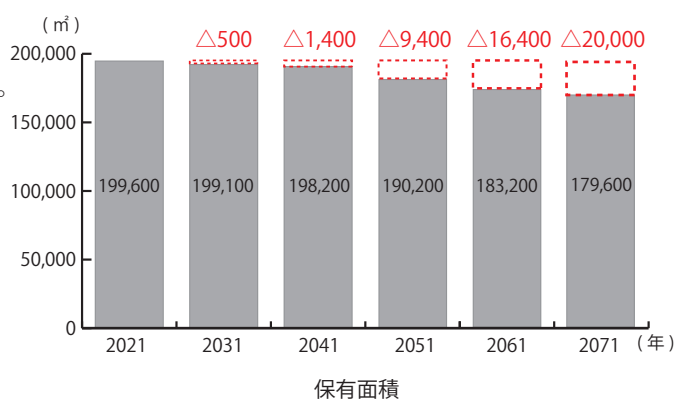
更新に際しては、省エネや環境負荷の低減、光熱水費や維持管理費の削減に一層貢献できる整備を推進していくとともに、防災機能強化への取組も併せて推進していく。

(12) 管理運営の好循環

施設の集約化による保有面積の削減や省エネ整備により、維持管理費・光熱水費の削減を図る。また、省エネ整備による光熱水費の削減額を維持管理に充当する仕組みを構築し、施設管理運営の好循環を目指す。

<保有面積>

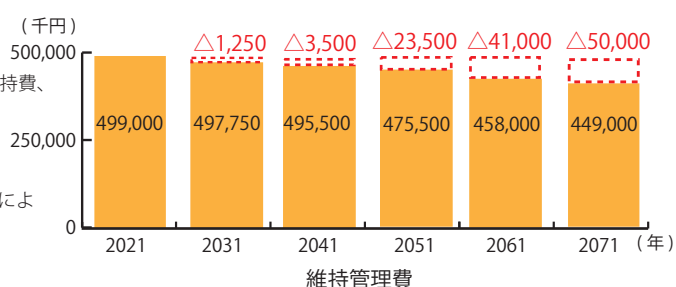
規模縮小により、179,600 m²となる。
(対 2021 年比△10%)



<維持管理費>

規模縮小により、約 50,000 千円削減見込み。
(対 2021 年比△10%)

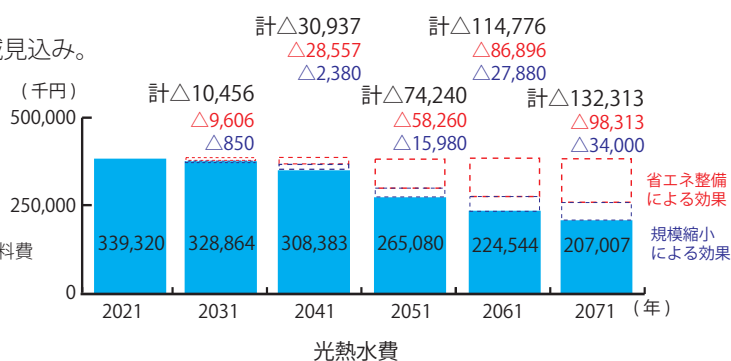
- ・維持管理費とは
修繕、点検保守費、廃棄物処分費、校地維持費、
清掃費、警備費等
- ・維持管理費：面積 × 2,500 円 / m²
H27.3「大学経営に求められる施設戦略」による
国立大学全体の実績単価を採用



<光熱水費>

改修・建替に伴う省エネ整備により、
約 98,313 千円削減見込み。
規模縮小により、約 34,000 千円削減見込み。
併せて約 132,313 千円削減見込み。
(対 2021 年比△39%)

- ・光熱水費：電気料、ガス料、水道料、燃料費
- ・省エネ整備による効果：△30%
- ・2021 は鹿児島大学の 2020 実績値



<まとめ>

維持管理費、光熱水費併せて約 182,313 千円の削減見込み。(対 2021 年比△22%)

3-4. 桜ヶ丘キャンパス・フレームワークプラン

(1) 周辺地域との連携

■ アクセスゾーン

キャンパスの正面としてバス停やキャンパスの主要入口が集まっており、ほとんどの人・車動線がこのゾーンを介してアクセスするので、外部とキャンパスをつなぐ場として位置付ける。

□ 住宅団地ゾーン

周辺の用途地域は北西側の小学校等の地域を除き、低層住居専用地域に囲まれており、西～南側は低層の住宅街となっている。

桜ヶ丘キャンパスと同時期に新生住宅団地としてつくられており、唯一の高層建物があるキャンパスがまちのシンボリック存在となっている。

□ 平坦部市街地ゾーン

キャンパスから 70m 低い位置にあり、路線や国道 225 号線、産業道路が走っている平坦部市街地ゾーン。

地域医療の拠点としての役割も担う桜ヶ丘キャンパスは学外の来訪者も多い。平坦部市街地ゾーンから利便性が高く、分かりやすいアクセス条件が求められる。

■ 斜面緑地

北～東側にかけては高低差のある斜面緑地に囲まれているため、周囲と隔てられている。高台にあることから、東～南側にかけての眺望が良い。

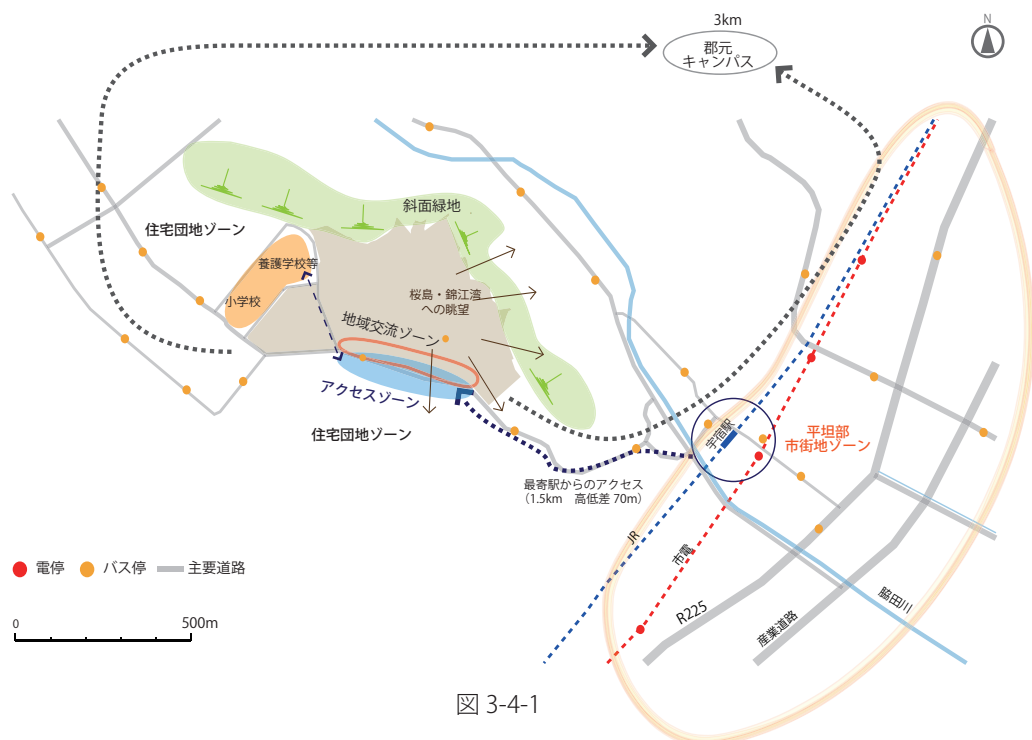


図 3-4-1

(2) 骨格

- ・ キャンパスの正面から南北に延びる南北軸と、それと直行する東西軸をキャンパスの主要動線としてキャンパス軸に位置づける。
- ・ 東西軸に沿って教育研究機能と病院機能の連携を強化する。
- ・ 車動線は周回道路を原則とし、キャンパス中央部の自動車の進入を制限する。また、病院用の車動線は患者さん等のアクセスに配慮して、病院前方からとする。

(3) オープンスペース

- ・ キャンパスの南北軸をキャンパスコモン（広場）として位置付ける。
- ・ 駐車場はキャンパス内の車の侵入を制限するため、周回道路沿いに集約して配置。駐車場ゾーンは積極的に緑化を図り、環境に配慮する。

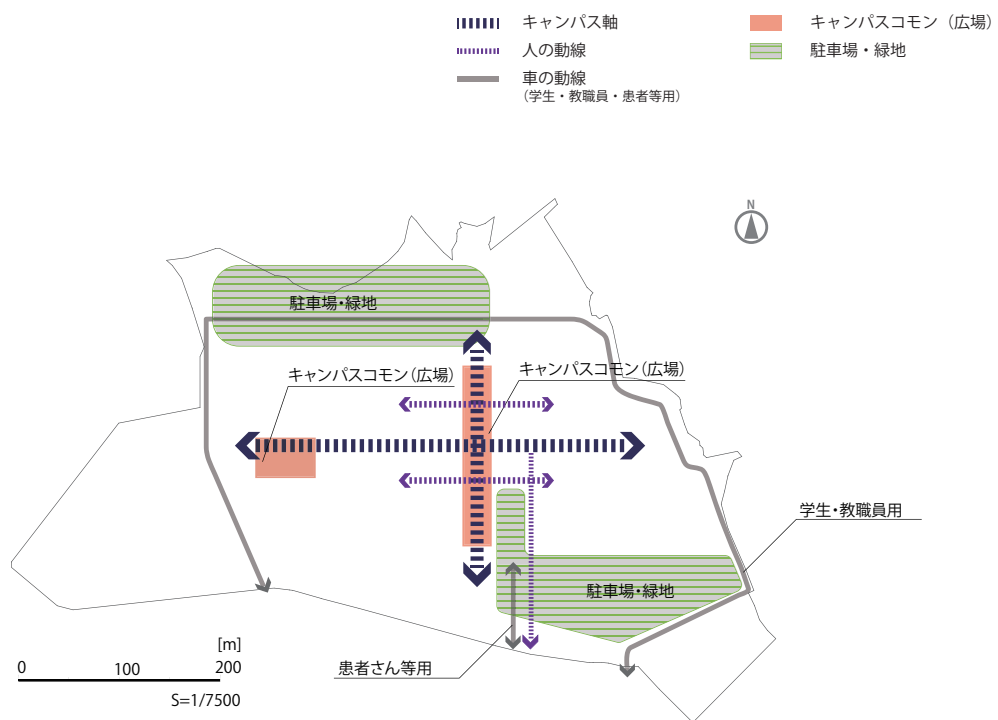


図 3-4-2

(4) ゾーニング

■教育研究ゾーン

- ・ 既設のゾーニングを継承しつつ、中高層化による機能集約・連携強化・建て詰まり解消を図る。

■病院ゾーン

- ・ 現在進行中の病院再開発計画を踏まえ、病院機能を東側に集約し、機能性向上を図る。

■共通・交流ゾーン

- ・ 教育研究ゾーンと病院ゾーンをつなぐ中央に配置。また、学生・教職員の福利厚生・学生支援機能として地域交流ゾーンと教育研究ゾーンの間に配置。

■運動・課外活動ゾーン

- ・ 現在の配置を継承しつつ、集約を図る。

■居住ゾーン

- ・ 居住性、利便性に配慮し、南側に配置。

■駐車場・緑地ゾーン

- ・ キャンパス内の車の侵入を制限するため、周回道路沿いに集約して配置。
- ・ 駐車場ゾーンは積極的に緑化を図り、環境に配慮する。

■地域交流ゾーン

- ・ キャンパスの正面となる南側中央部を地域交流ゾーンとして位置付ける。

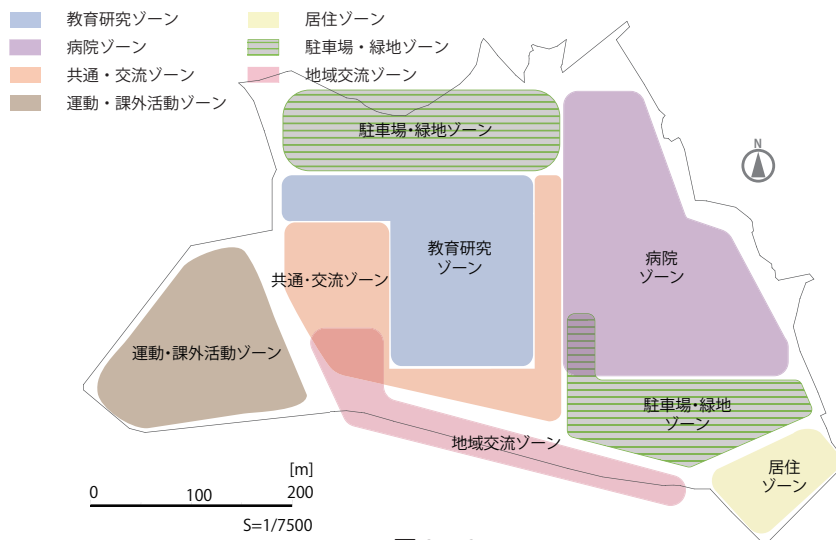


図 3-4-3

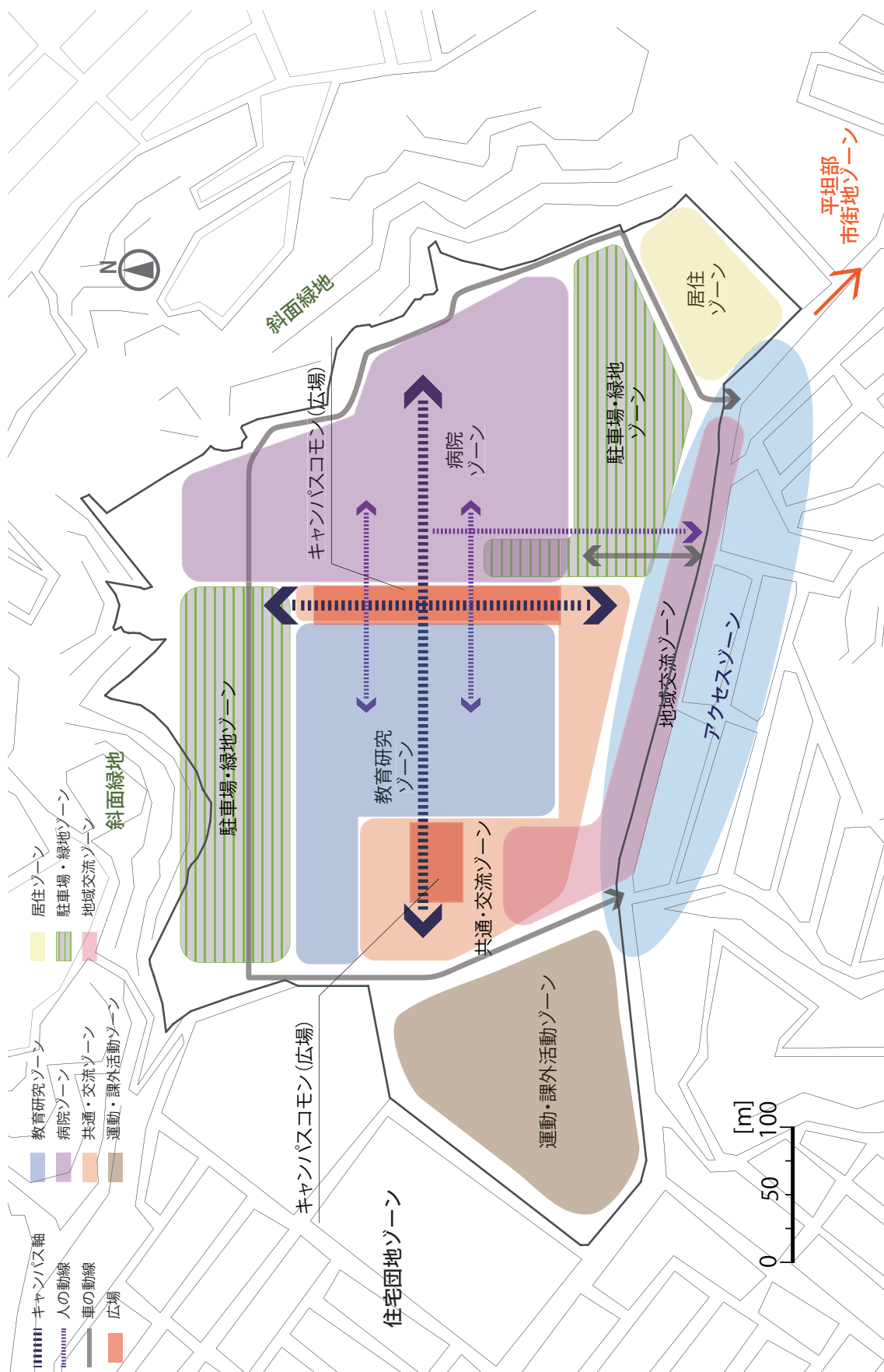


図 3-4-4

(5) 土地利用計画

(5)-1 施設規模

50年後（2071年）の施設規模は、対2021年比△10%の約61,000㎡（病院施設除く）として示す。

ただし、外部資金等による自立的な運営が可能な施設については、積極的に検討することとし、これらの増築は妨げない。

(5)-2 改修・建替えの考え方

原則、築後40年を改修時期、築後80年を建替時期の目安とする（病院施設除く）。

ただし、500㎡未満のもの、長寿命化が困難なもの等は、耐用年数を取壊・建替時期の目安とする。

また、歴史・伝統を感じるものは、保存・活用を図り、未来へ継承する。

病院施設については、医療の進歩等に応じて柔軟に対応する必要があることから、数十年単位の再開発計画等として、別途検討することとする。

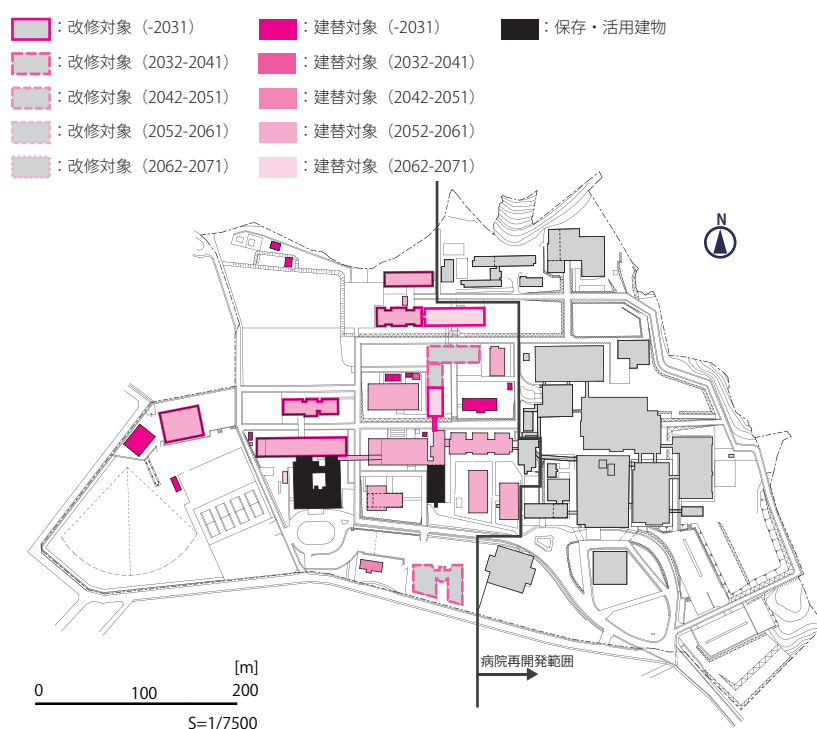


図 3-4-5

(5)-3 土地利用計画

■病院ゾーン

- ・再開発整備計画に基づき、東側に集約配置。
- ・医療の進歩等に応じて柔軟に対応するため、将来の建設用地を確保し、数十年単位の再開発計画等で検討。

■教育研究ゾーン

- ・病院ゾーンとつなぐキャンパス軸の設置。
- ・総合研究棟の中高層化・集約化（キャンパス軸沿い）による将来の建設用地の確保。
- ・実験施設エリアを設け、乱立による建て詰まりを防ぐ。
- ・病院と関連性の高い施設は病院ゾーンに近い位置に配置。

■共通・交流ゾーン

- ・教育研究ゾーンと病院ゾーンの間にキャンパスコモン（広場）を配置。
- ・キャンパス軸の西側に図書館等の共通・交流施設を集約し、キャンパスコモン（広場）を形成し、にぎわいのあるエリアへ。
- ・歯病跡地を教育研究エリアの顔としてリノベーション。

■地域交流ゾーン

- ・地域とともに利用可能な施設等を配置。

■運動・課外活動ゾーン

- ・既存の配置を継承しつつ、集約配置。

■駐車場・緑地ゾーン

- ・駐車場を、周回道路沿いの敷地北側に集約配置し、歩車分離を図る。
- ・駐輪場を、アクセスゾーンに面する敷地境界に、集約配置し、歩車分離を図る。

■居住ゾーン

- ・居住性、利便性に配慮し、南側に配置。

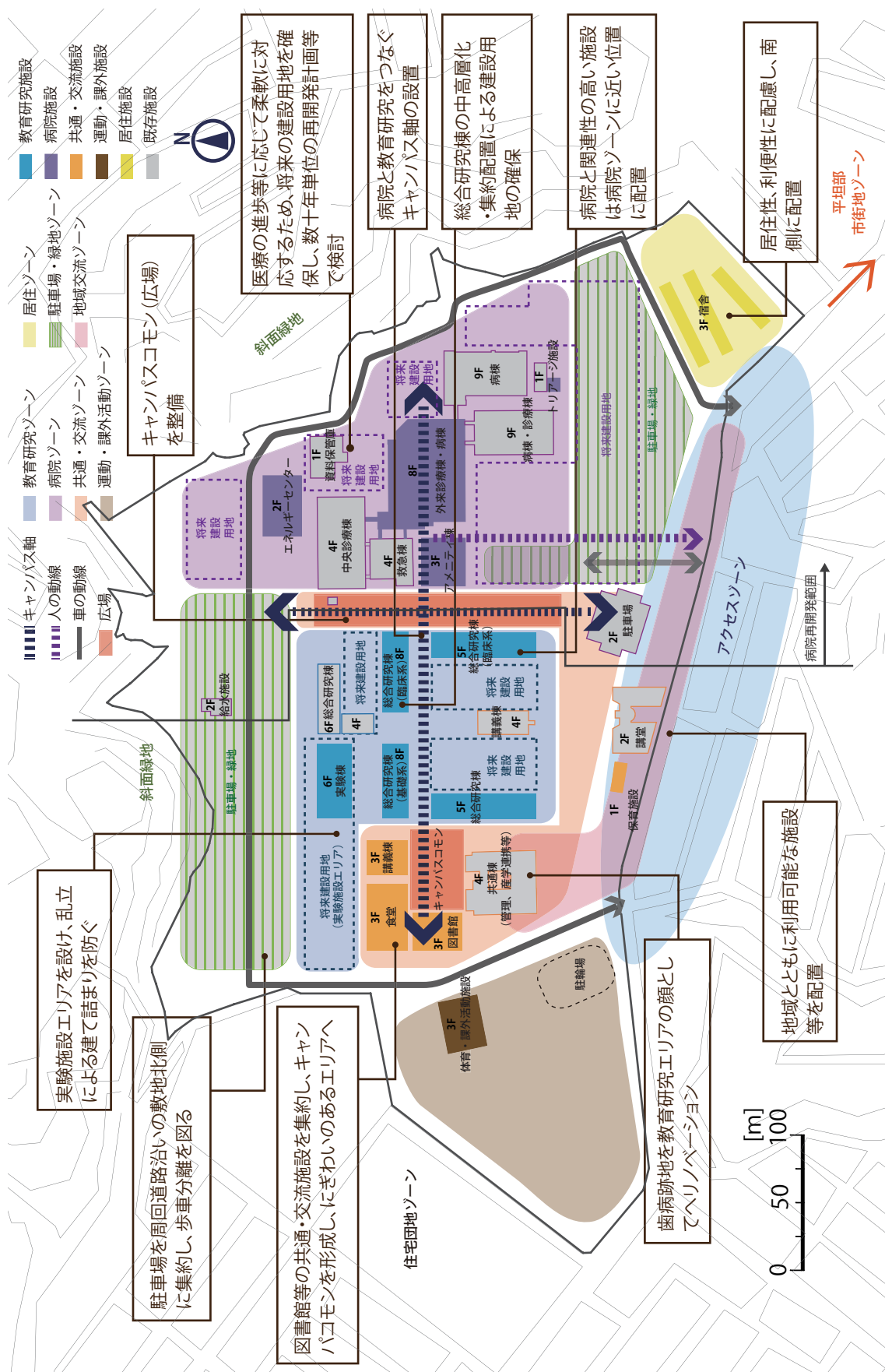


図 3-4-6

<配置図 (2071)>

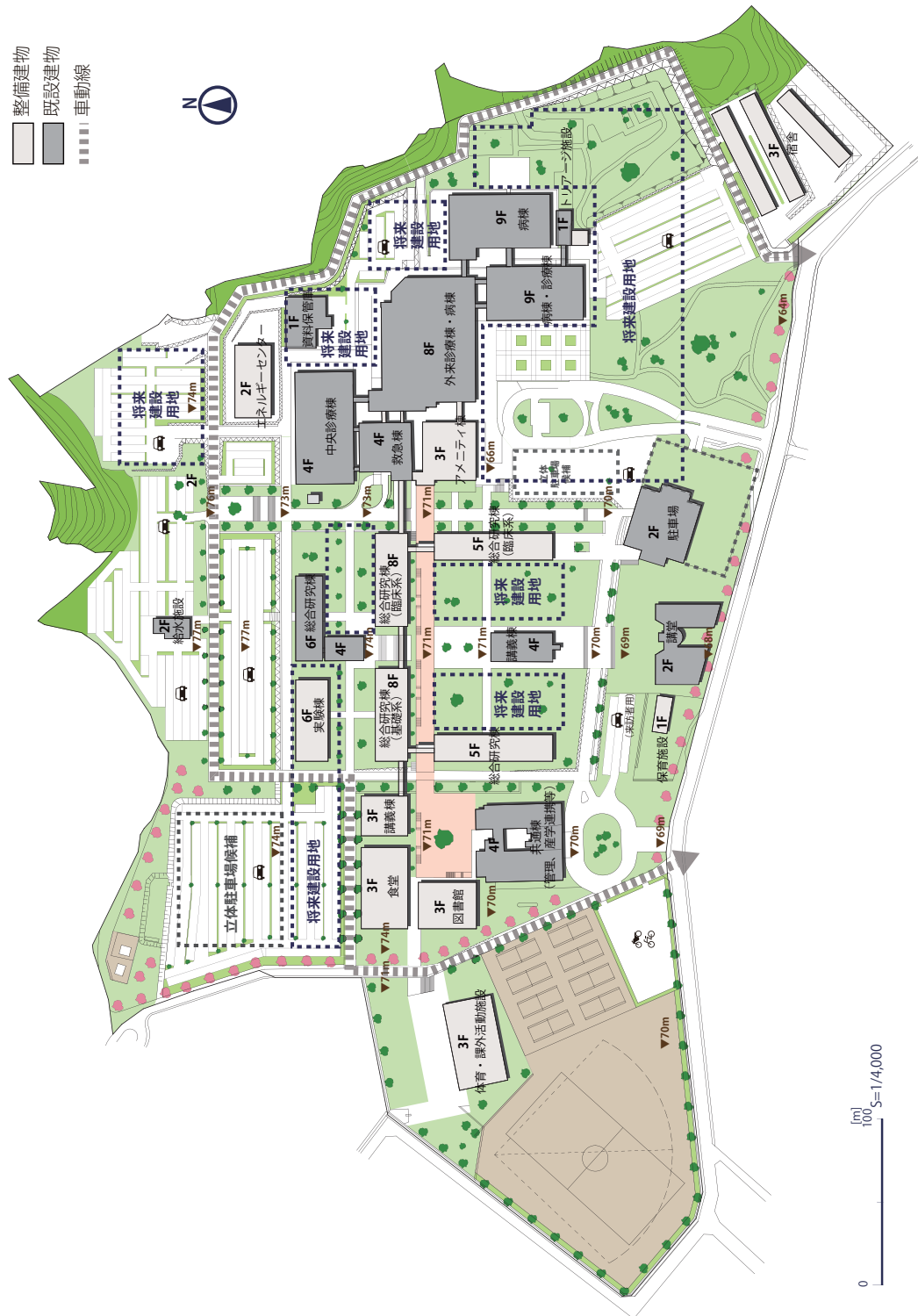


图 3-4-7

<配置図 (2021)>



図 3-4-8

(5)-4 改修・建替計画

50年後の将来像へ向けて、10年毎の改修・建替計画を示す。改修・建替の考え方にに基づき、目安として示すものであり、実施にあたっては、社会の要請や時代の変化等、各時期の状況に応じ、柔軟に対応することとする。

フェーズ1 (-2031) 68,100 m² → 76,000 m² (2021年比+11%)

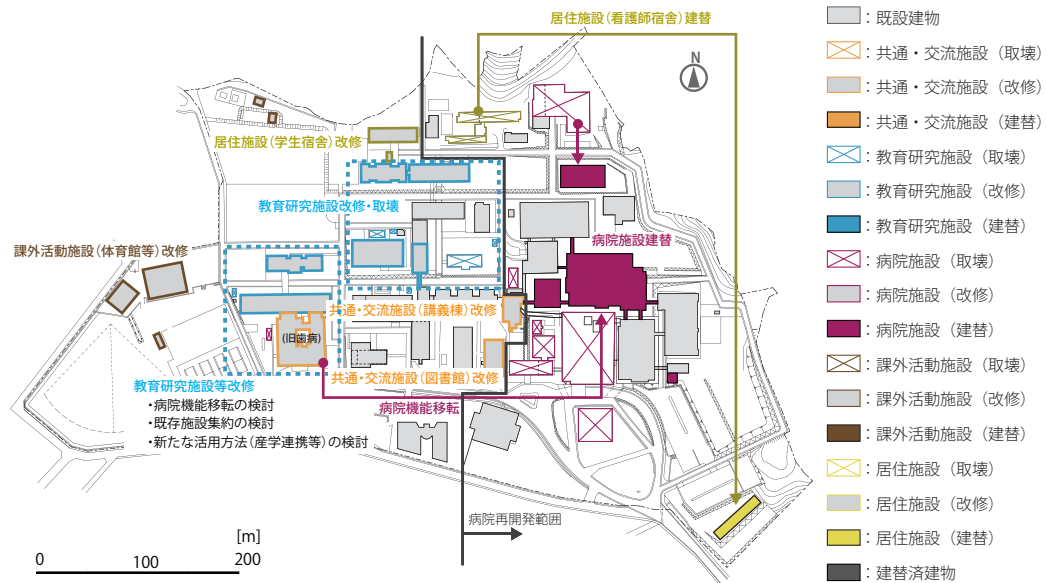


図 3-4-9

フェーズ2 (2032-2041) 76,000 m² → 76,000 m² (2021年比+11%)

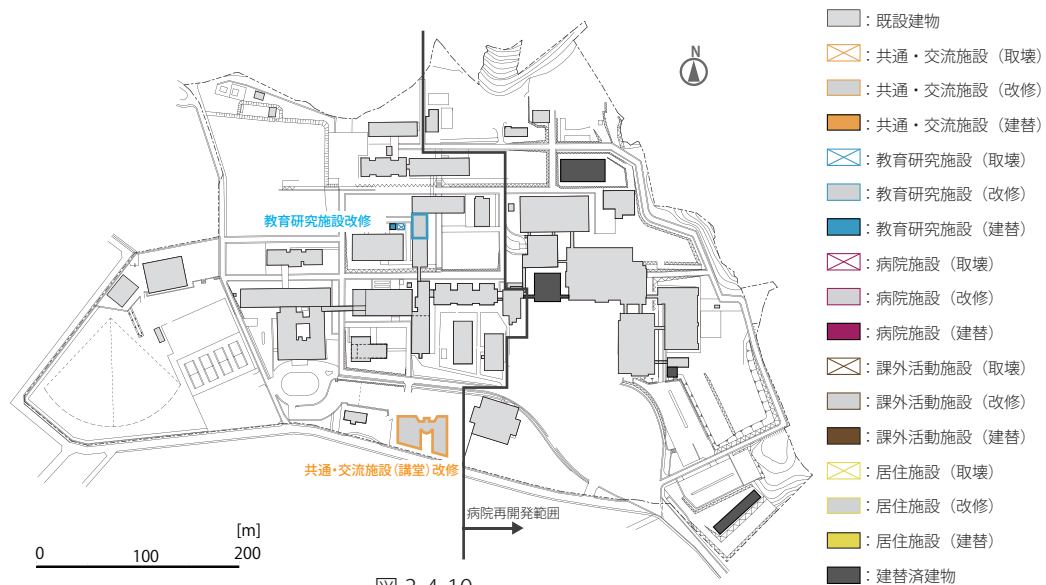


図 3-4-10

フェーズ3 (2042-2051) 76,000 m² → 76,000 m² (2021 年比 +11%)

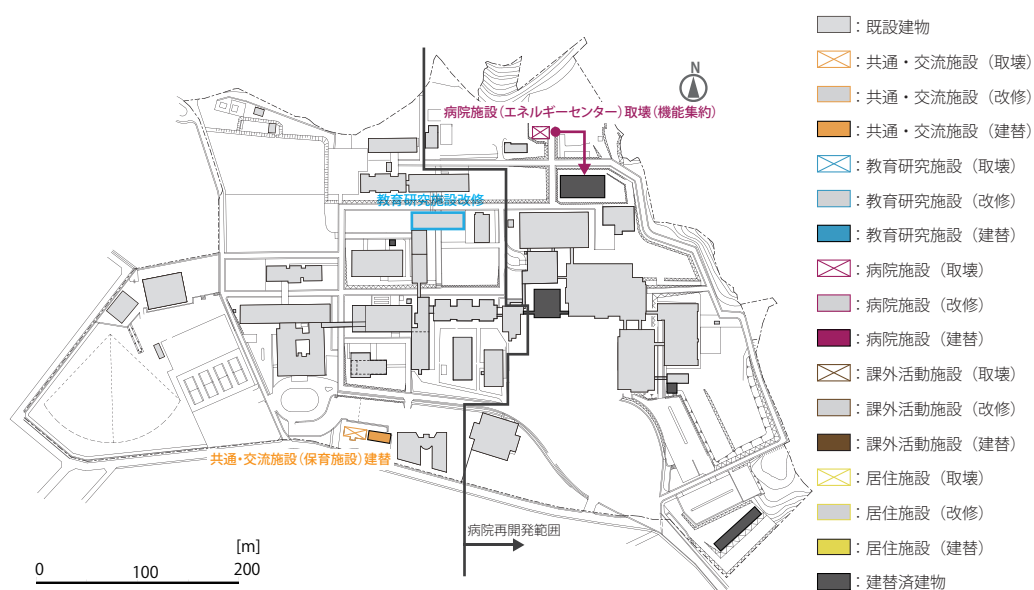


図 3-4-11

フェーズ4 (2052-2061) 76,000 m² → 68,200 m² (2021 年比 ±0%)

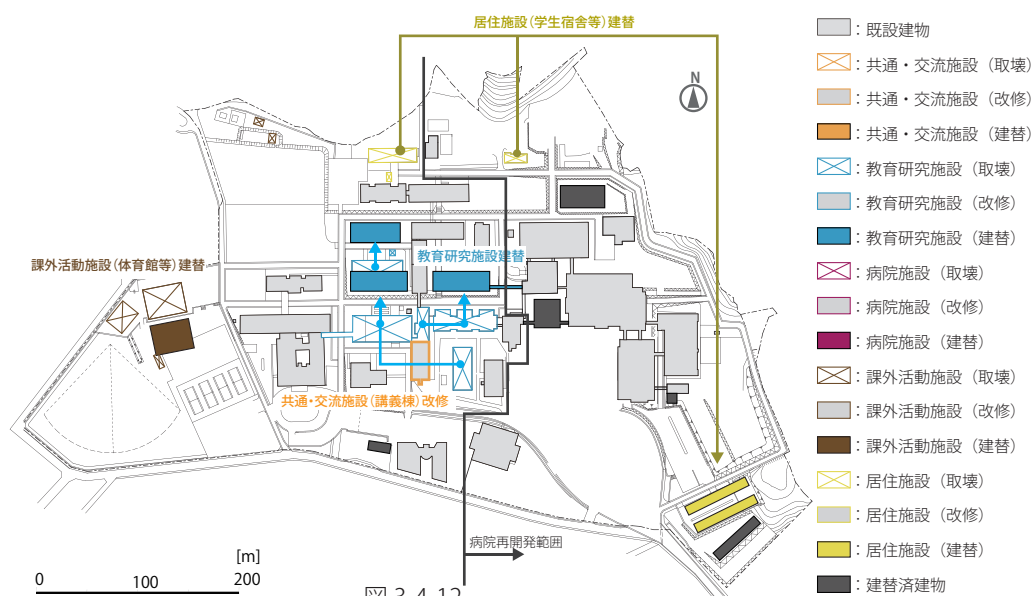


図 3-4-12

フェーズ5 (2062-2071) 68,200 m² → 61,000 m² (2021年比△10%)

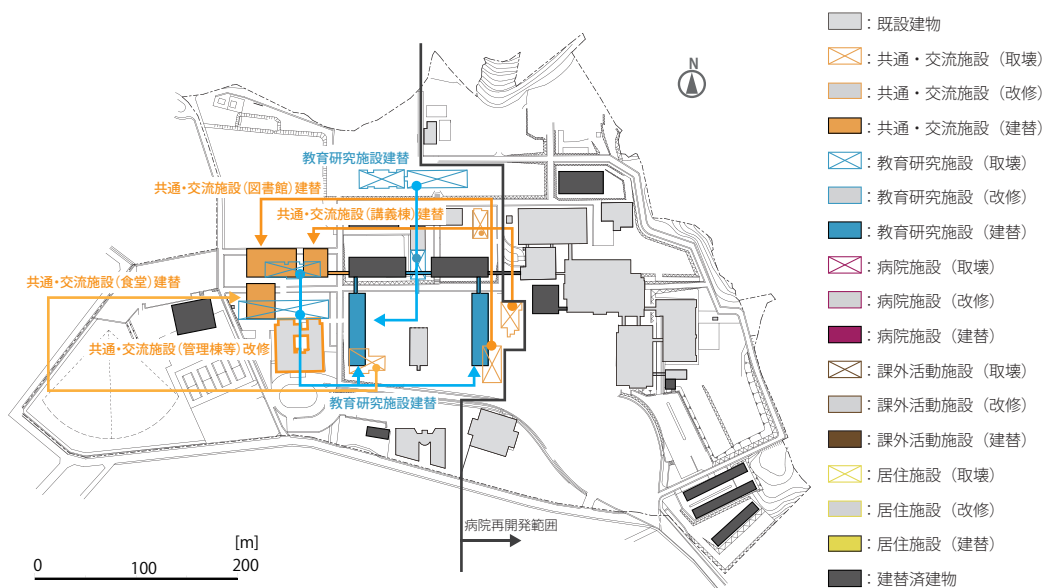


図 3-4-13

(6) パブリックスペース

(6)-1 通り

<基本的な考え方>

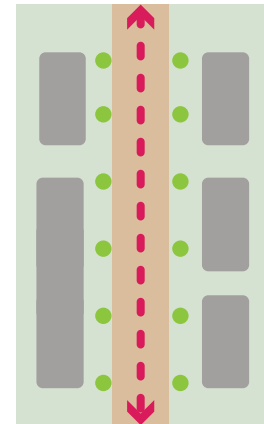
- ・ 各通りの性格に応じた統一感ある空間を形成するため、高さ壁面線の統一や樹木の列植等に配慮する。
- ・ 通り沿いには、たまり場となるような見通しの良い樹木やベンチを配置し、交流を促すしかけをする。
- ・ キャンパスの正面やキャンパス軸に配慮し、アクセス動線が分かりやすい施設計画とする。
- ・ 通りから建物内部の気配が感じとれるように、キャンパス軸に面する低層部は透明性の高い設えとする。
- ・ 楽しく歩ける安心安全なキャンパス環境形成のため、車動線の制限、駐車場・駐輪場の集約を図り、歩行者主体の通りを形成する。
- ・ 環境に配慮し、既存の敷地高さを活用した敷地造成の少ない計画とする。
- ・ ユニバーサルデザインに配慮し、高低差にはスロープ等を設置する。

基本的な考え方に基づき、桜ヶ丘キャンパスの3つの主要な通りについて、具体的なガイドラインを示す。

- (a) 南北軸 - キャンパスを縦断するキャンパスモール -
- (b) 東西軸 - 病院機能と教育研究機能を繋ぐメインストリート -
- (c) 周回道路 - 歩車分離を図る車動線 -

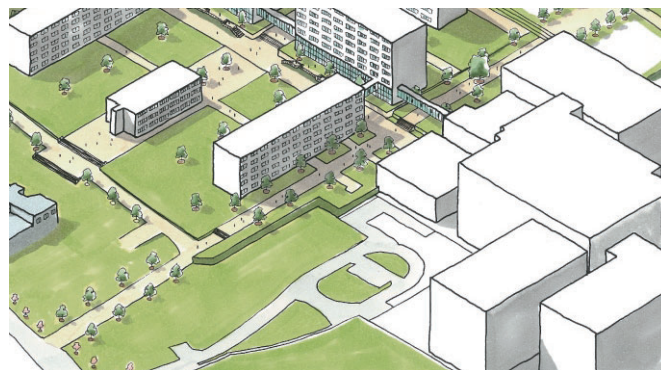
(a) 南北軸 - キャンパスを縦断するキャンパスモール

<基本的な考え方>



並木・壁面線の統一

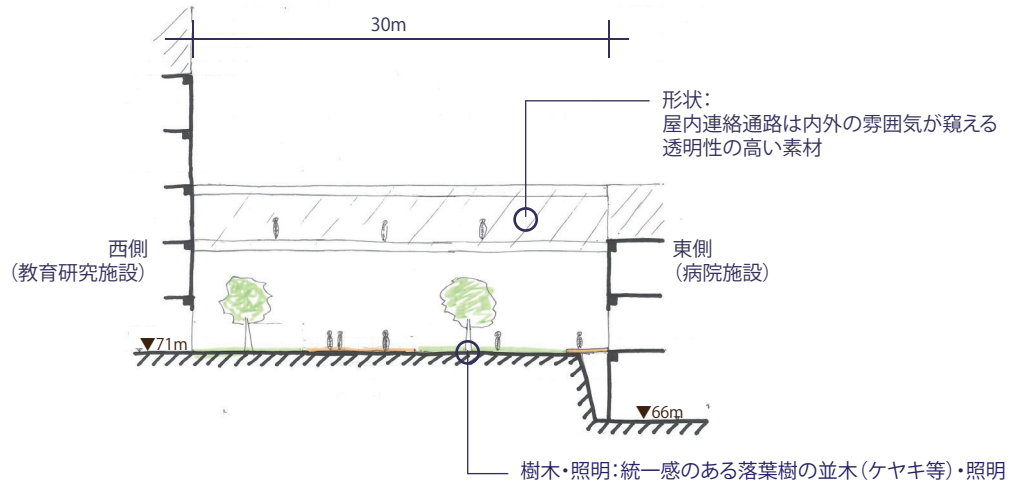
- ・ 病院ゾーンと教育研究ゾーンの間を南北に縦断するキャンパスモール（南北軸）を、キャンパスの「骨格」として位置付ける。
- ・ キャンパスモールとして通りを意識し、並木・壁面線の統一を図る。
- ・ 学生・教職員・病院スタッフの癒しの空間となるよう積極的に緑を配置する。
- ・ 次の将来計画となるが、既設立体駐車場で塞いでいる南北軸をキャンパスの入口まで延ばし、地域に開かれた軸を形成する。



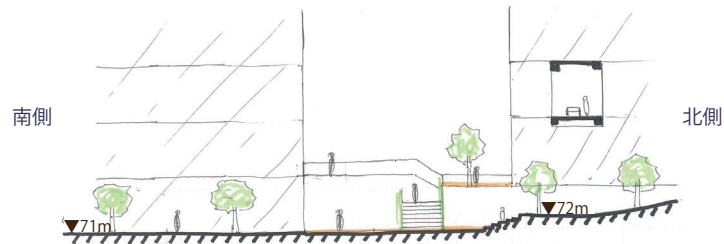
南北軸の延長

<基準>

A(東西)断面



B(南北)断面



広場：現在の距離を（間隔 30m）を継承し、癒しの空間となるキャンパスモールを形成。

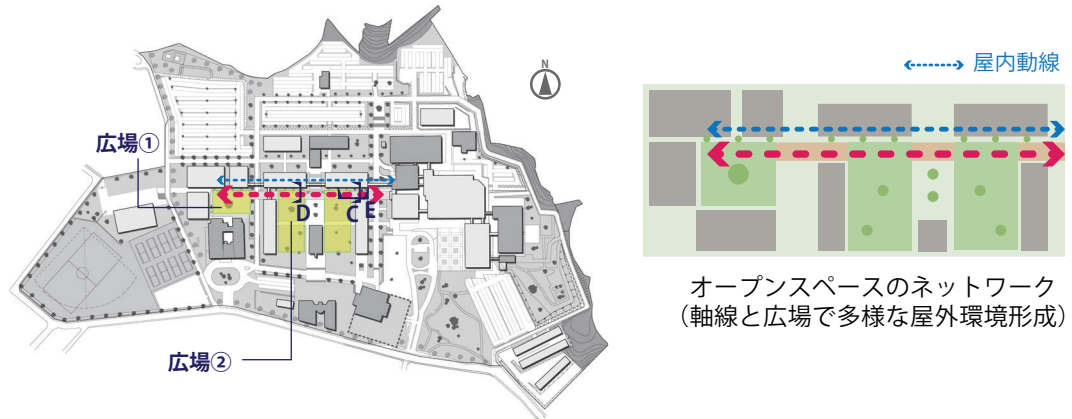
樹木・照明：南北に延びる統一感のある落葉樹の並木（ケヤキ等）・照明。

形状：病院と教育研究施設を繋ぐ屋内連絡通路は内外の雰囲気が見える透明性の高い設え。



(b) 東西軸 - 病院機能と教育研究機能を繋ぐメインストリート

<基本的な考え方>



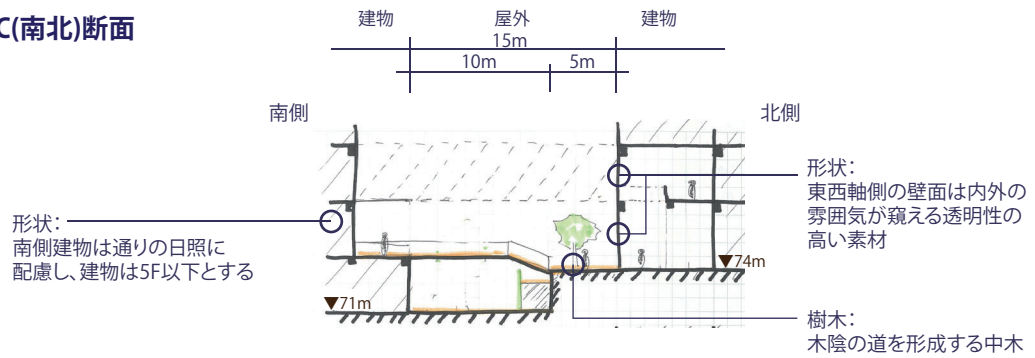
- ・ 教育研究ゾーンと病院ゾーンを繋ぐキャンパスのメインストリートをキャンパスの「骨格」として位置付ける。
- ・ 教育研究と病院連携の主動線となる東西軸には、キャンパス軸に沿って屋外と一体的な屋内連絡通路を設置する。
- ・ 屋内連絡通路は、学生・教職員・病院スタッフの癒しを提供できるよう緑豊かな屋外環境を見渡せるよう配慮する。
- ・ 日当たりの良い南側を中心に多様な広場を配置し、変化の富んだ通りとする。
- ・ 軸線上の受けとなる建物等は、アイストップとして配慮する。
- ・ 樹木・照明は意図的に不規則な配置とし、やわらかい印象をあたえる。



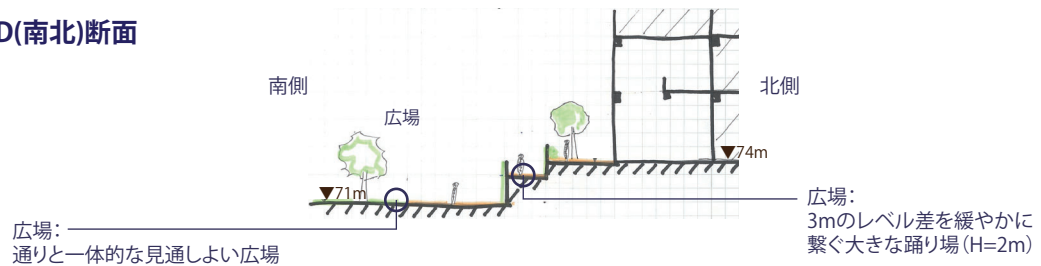
広場を抱え込んだ通り

<基準>

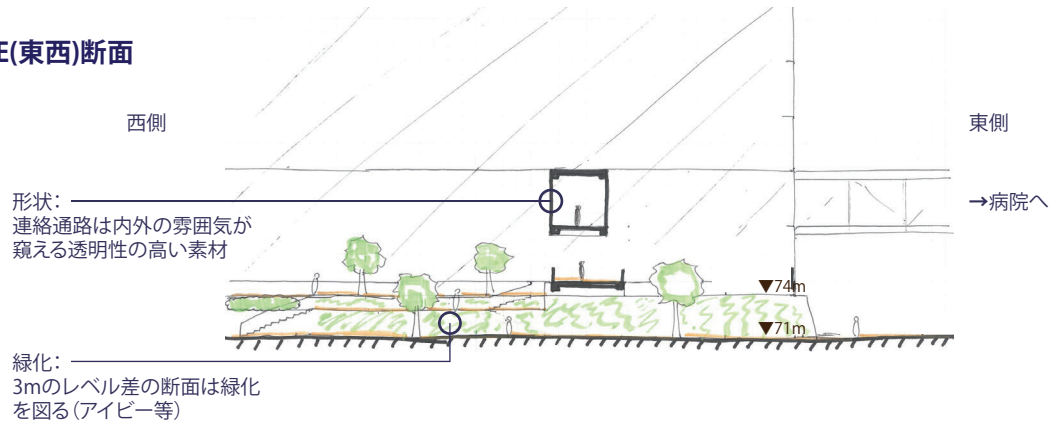
C(南北)断面



D(南北)断面

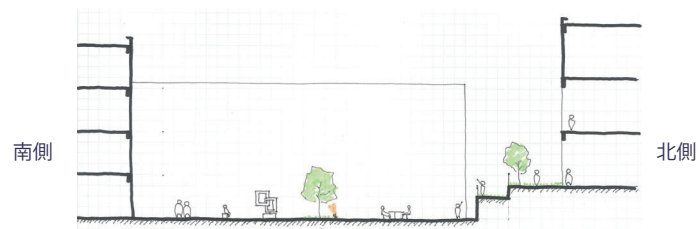


E(東西)断面



キャンパスコモン（広場①）

- ・ キャンパス軸の受けとなるエリアに図書館・食堂等を配置し、囲われた空間を、通りと一体的な賑わいのある広場とする。
- ・ 学生・教職員の賑わいの場となるようファニチャー等を積極的に配置する。また、防災時にも利用できるファニチャーの導入も検討する。



広場：通りと一体的に。

樹木：賑やかな印象を与えるため、シンボルツリーを中心に季節を感じる花木を配置する。

外灯：シンボルツリー等の樹木を照らす演出照明を設置。

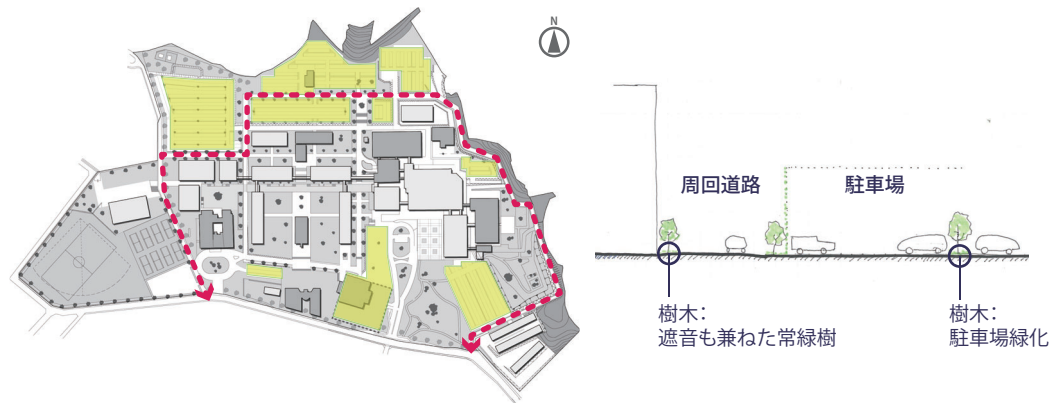


広場② - 将来建設用地も兼ねたオープンスペース -

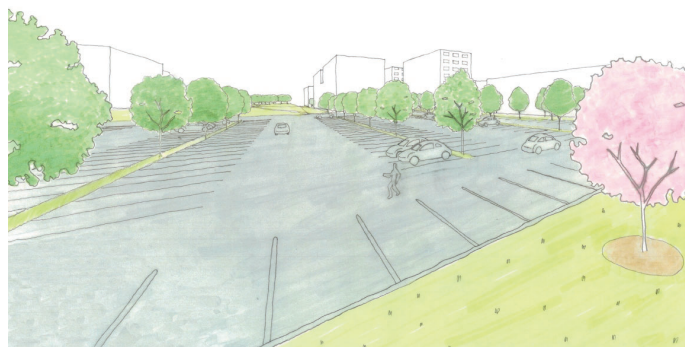
- ・ 見通しの良い広場としつつ、軸に面して持続的に建替が繰り返せる建設用地とする。

(c) 周回道路

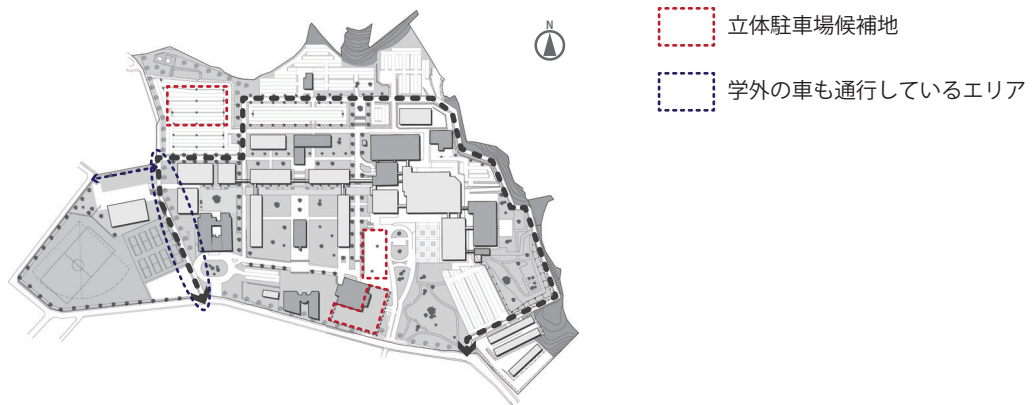
<基本的な考え方>



- ・ 周回道路に面して駐車場を配置し、キャンパス中央部への車動線の侵入を制限する。
- ・ 周回道路から中央側には遮音を兼ねた常緑樹を配置する。
- ・ バリアフリー及びサービス用の車動線・駐車場は各建物（群）毎に別途確保する。
- ・ 駐車場は積極的に緑化する。



<検討課題>



□ 立体駐車場増築について

既設立体駐車場で建築基準法上で定められている規模をほぼ満たしているため、増築する際は行政との協議が必要である。なお、協議にあたっては時間を要するため早めの相談が求められる。

桜ヶ丘キャンパスが指定されている建築基準法上の用途地域（第一種中高層住居専用地域）は、立体駐車場は 3,000 m²、2 階建てまでが建築可能である。そのため、増築する際は建築基準法 48 条第 4 項のただし書きによる行政の緩和承認が必要となる。

□ 学外の手も通行しているエリアについて

学外の手も通行しているテニスコート東側の部分は、キャンパスの一体的利用及び安全性向上のため、学内専用化について行政との協議も含めて検討していく。その手法の一つとして、周回道路の体育館裏側への迂回の可能性についても検討していく。

(6)-2 見通し（ビスタ）

<基本的な考え方>

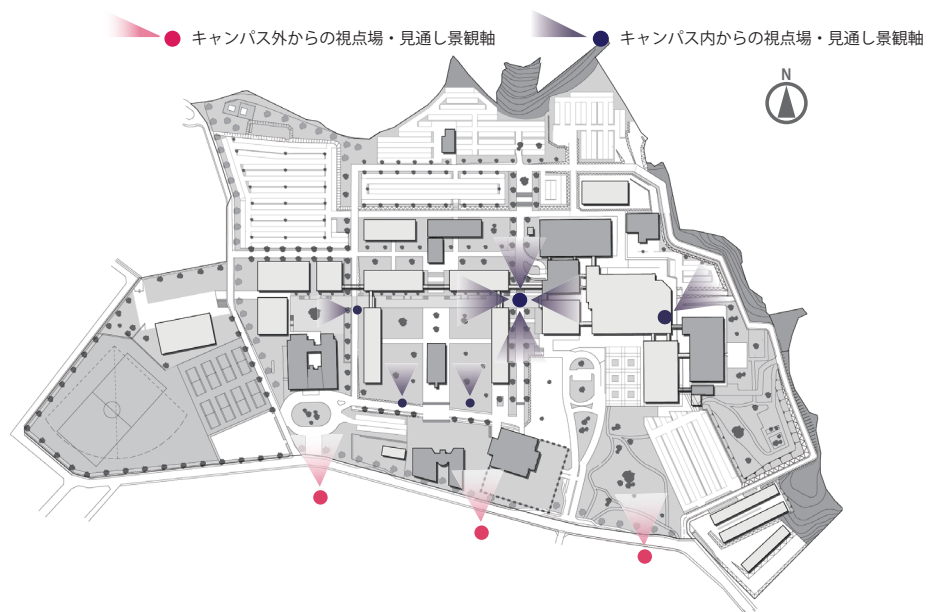
周辺地域との見通しや調和、桜ヶ丘キャンパスの特徴づける景観についてキャンパス内外からの視点場を定め、眺望に配慮した建物の配置・形状や敷地境界とする。

<キャンパス外>

- ・キャンパスの正面となる地域交流ゾーンのキャンパス外からの見通しに配慮
- ・特にキャンパスの顔となる入口部分は、サインを設置する等、しっかりとした設えとする。

<キャンパス内>

- ・キャンパス軸、正面にある施設・樹木はアイストップとして、シンボリックなものとする。
- ・高台の立地を活かし、桜島等の眺望に配慮する。

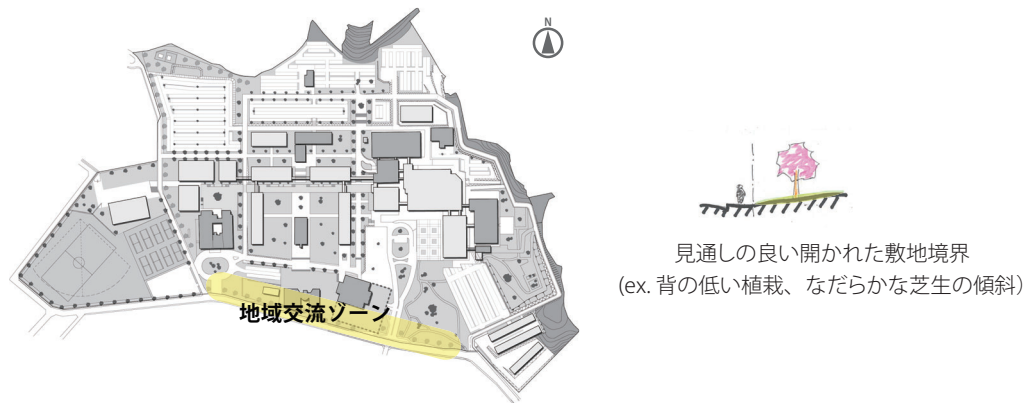


外からの見通し

(6)-3 敷地境界

＜基本的な考え方＞

キャンパスの正面・入口となる南側の地域交流ゾーンについて



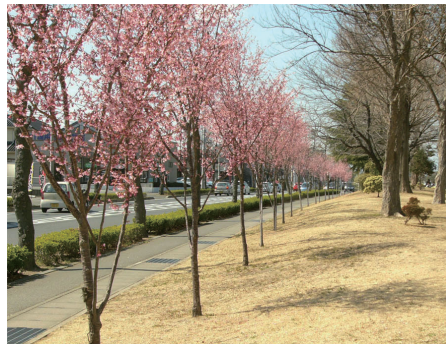
- ・ なだらかな芝生の傾斜等とし、見通しの良い開かれた空間とする。
- ・ 地域名にもなっている桜の木を積極的に配置することで、地域の景観にも貢献する。
- ・ 癒しの空間として、学内、病院利用者は基より、地域の方も利用できる散歩道を設けていく。
- ・ 周辺地域との調和や歩車分離等の安全性に配慮する。



(7) 緑・植栽計画

＜基本的な考え方＞

- ・ 建物等集約と同時に積極的に緑化を行い、建て詰まり・駐車場拡張等で減少している緑の再生を図る。
- ・ 歴史ある現在の樹木・樹種を尊重しつつ（ワシントンヤシ除く）、地域名にもなっている桜の木を積極的に配置していく。
- ・ 主要門周辺、キャンパス軸の並木、シンボルツリーは、細目に剪定し、管理レベルにメリハリをつける。
- ・ 芝生については、排水の確保、踏圧対策等を維持管理も含めてに十分に検討する。特に日影となりやすい建物北側、人通りの多い場所是对応が必要である。
- ・ 駐車場も積極的に緑化を図る。



敷地境界の桜や新たな並木道のイメージ

＜桜ヶ丘キャンパスに多い樹種＞

サクラ・イチョウ・カエデ・クロガネモチ・モミジバフウ・カイズカイブキ・ツバキ・ソテツ・ワシントンヤシ・クスノキ・レンギョウ

(8) 色・素材・形状

<基本的な考え方>

- ・ 歴史ある資源を継承しつつ、キャンパス全体の調和を図り、鹿児島大学らしさを形成していく。
- ・ 鹿児島特有の気候（集中豪雨・火山灰・強い日射）や海風に配慮したものとする。

<基準>

☐ 色

- ・ 色彩の統一によりキャンパスの調和を図る。
- ・ 施設外部のベースカラーは落ち着いた色合いとする。
- ・ 大きな外部空間の舗装材は、日照の照り返しに配慮した色彩とする。

☐ 素材

- ・ 低層部分（特にキャンパス軸沿い建物）は、内部の雰囲気が見えるような透明性の高いものとする。
- ・ 舗装材は透水性・保水性の高い素材を積極的に採用する。
- ・ エコマテリアル・地産材の導入推進
- ・ 記憶の継承として、既設建物の装飾を活かした計画・内外装材の再利用を積極的に行う。

☐ 形状

- ・ 降灰や日射に配慮し、庇等を積極的に採用する。



旧建物外壁(火山岩)の再利用
(記憶の継承:既設建物等の装飾を活かした計画)



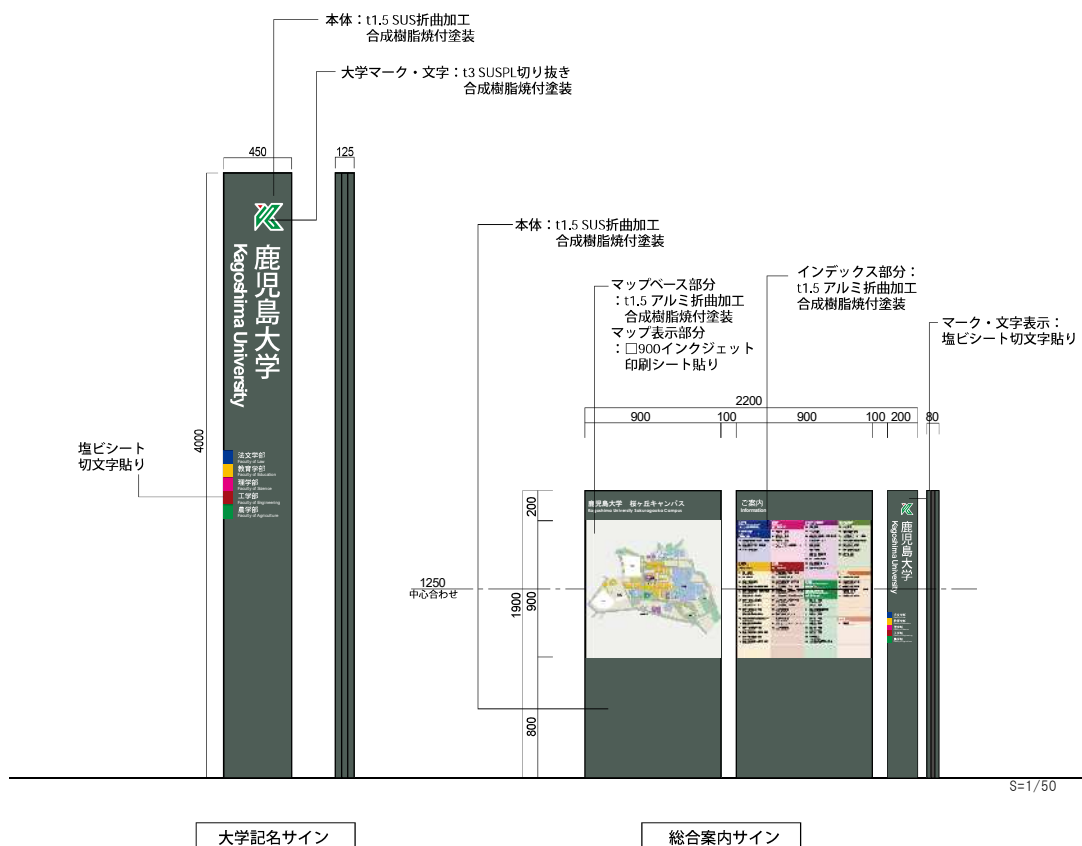
舗装材にシラスブロック採用
(地産材の導入)

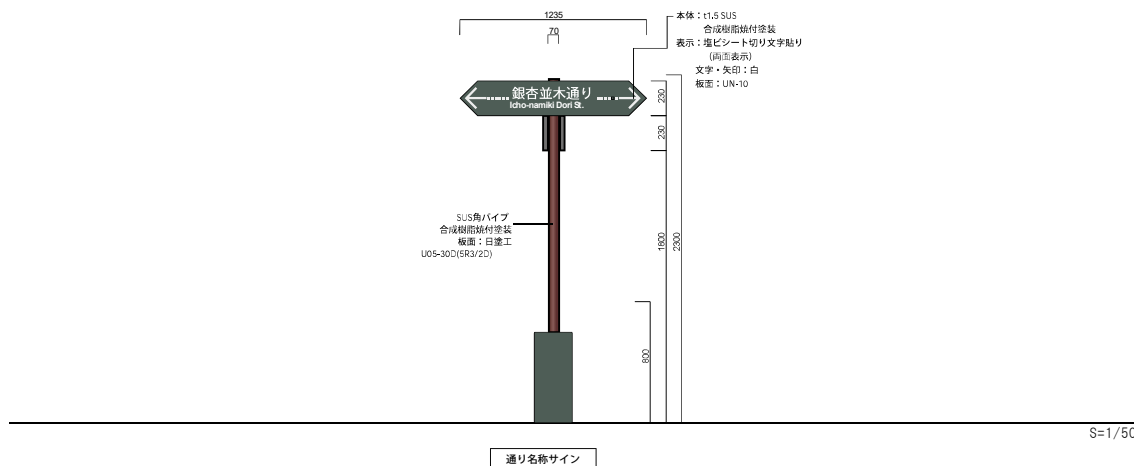
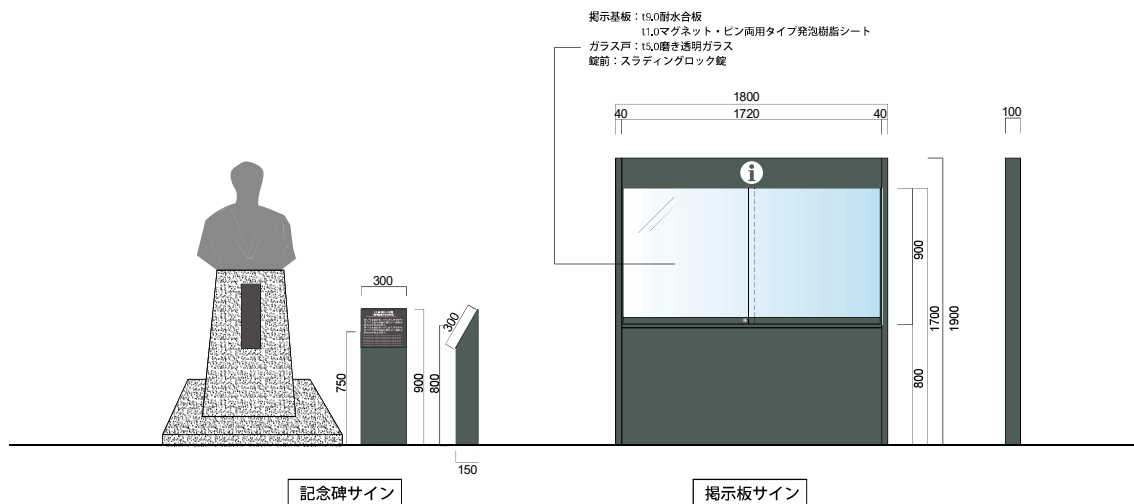
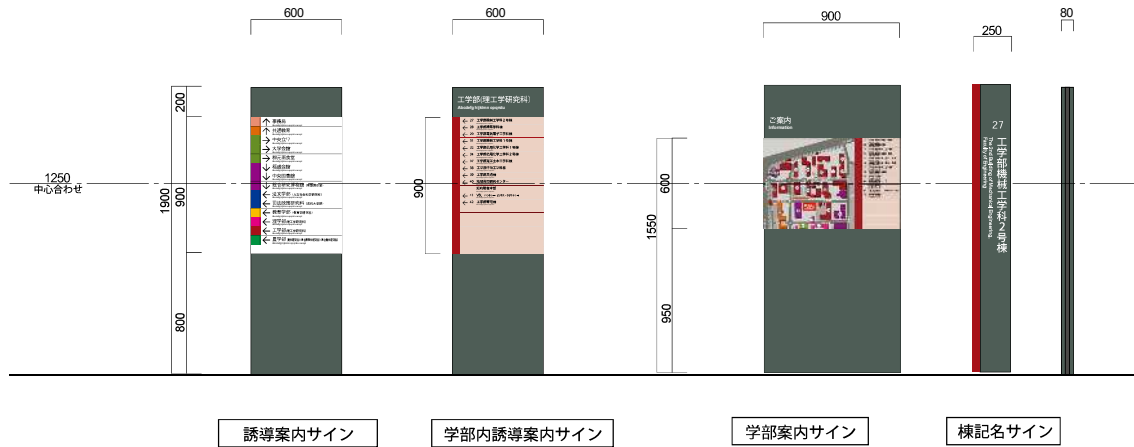
(9) サイン

<基本的な考え方>

- ・ キャンパス内のスムーズな移動をサポートする分かりやすいサインシステムとする。
- ・ 病院も含めたキャンパス全体の一体的なサイン計画とする。
- ・ グローバル化にも対応可能な和英併記を行う。
- ・ シンプルな構造により、簡便・ローコストなメンテナンスを実現する。
- ・ 景観形成・維持のため屋外サイン、のぼり等の広告及び学会・学際等の仮設サインに対する緩和等のルールを構築していく。
- ・ サインに留まらず、ゴミ箱等のファニチャーも統一を図り、キャンパスの調和を図っていく。

<基準>





(10) 屋外照明

<基本的な考え方>

☐ 機能照明

- ・ 主要通りは JIS 規格に基づき、水平面照度 3lx 以上（路面上）確保する。
- ・ 車出入口・車動線交差点は、十分な照度の確保・グレア（眩しさ）対策等、安全面に配慮する。（光源が見えないカットオフタイプ採用等）

☐ 省エネへの配慮

- ・ 省エネタイプを積極的に採用する。
- ・ 防犯上照度不足な場所は、人感センサー式照明の採用等、省エネを配慮しつつ、防犯性の向上を図る。

☐ 演出照明

- ・ キャンパス入口・軸線沿いの広場となる場所は“たまり”の場を演出する照明計画とする。（誘導灯、樹木等のライトアップ、季節で変わる照明等）

(11) ライフライン

既存の共同溝を生かし、電力・情報通信・給水・消火設備等の基幹ライフラインの整備を行い、教育研究の変化に柔軟に対応する計画とする。

共同溝については、各種配管の耐久性が向上されていること、共同溝の整備費用を鑑み、原則、拡張は行わず、トラフや埋設配管にて対応する計画とする。

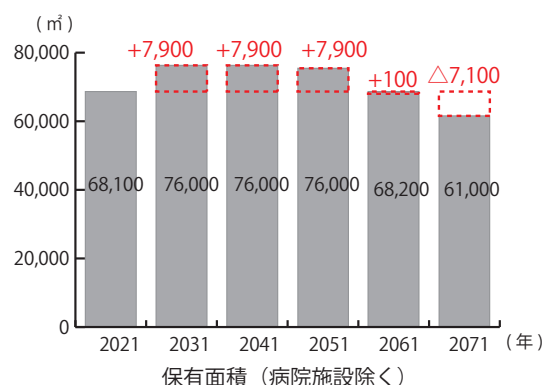
更新に際しては、省エネや環境負荷の低減、光熱水費や維持管理費の削減に一層貢献できる整備を推進していくとともに、防災機能強化への取組も併せて推進していく。

(12) 管理運営の好循環

施設の集約化による保有面積の削減や省エネ整備により、維持管理費・光熱水費の削減を図る。また、省エネ整備による光熱水費の削減額を維持管理に充当する仕組みを構築し、施設管理運営の好循環を目指す。

<保有面積>

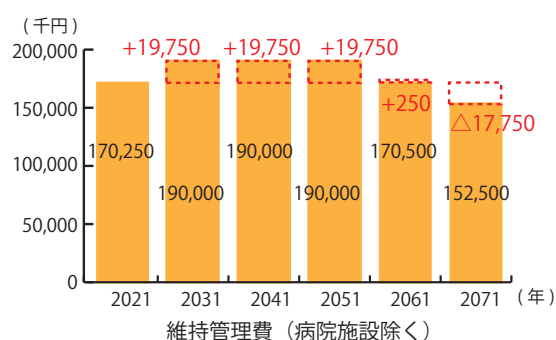
規模縮小により、61,000 ㎡となる。
(対 2021 年比△10%)



<維持管理費>

規模縮小により、約 17,750 千円
削減見込み (対 2021 年比△10%)

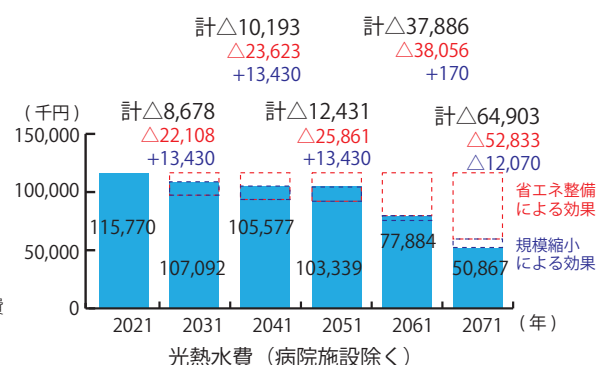
- ・維持管理費とは
修繕、点検保守費、廃棄物処分費、校地維持費、清掃費、警備費等
- ・維持管理費：面積 × 2,500 円 / ㎡
H27.3「大学経営に求められる施設戦略」による国立大学全体の実績単価を採用



<光熱水費>

改修・建替に伴う省エネ整備により、
約 52,833 千円削減見込み。
規模縮小により、約 12,070 千円削減
見込み。
併せて約 64,903 千円削減見込み。
(対 2021 年比△56%)

- ・光熱水費：電気料、ガス料、水道料、燃料費
- ・省エネ整備による効果：△30%
- ・2021 は鹿児島大学の 2020 実績値



<まとめ>

維持管理費、光熱水費併せて約 82,653 千円の削減見込み。(対 2021 年比△29%)

3-5. 下荒田キャンパス・フレームワークプラン

(1) 周辺地域との連携

■ 広域交流ゾーン

南～東側は公共の運動・文化施設や公園、河川・海岸沿いの緑地帯等、市民・県民のスポーツ・娯楽・レクリエーション等の場となっている。

周辺の公共施設や緑地とつながりのある空間とする。

□ 平坦部住宅市街地ゾーン

北～西側は小道の多い住宅街となっている。地域コミュニティ活性化の拠点として、利用度の高い西側通用門を開放的で地域の人が入りやすいアプローチ空間とする。

また、郡元キャンパスや電停へのアクセス動線にもなっている。



図 3-5-1

(2) 骨格

- ・ 従来の正門と利用度の高い通用門をつなぐ動線（東西軸）と、キャンパス中央の動線（南北軸）をキャンパス軸として位置付ける。

(3) オープンスペース

- ・ 現在の正門前の広場を継承しつつ、通用門までの連続的なキャンパスコモン（広場）を展開する。
- ・ 駐車場はキャンパス内の車の侵入を制限するため、敷地境界周辺に集約して配置。駐車場ゾーンは積極的に緑化を図り、環境に配慮する。

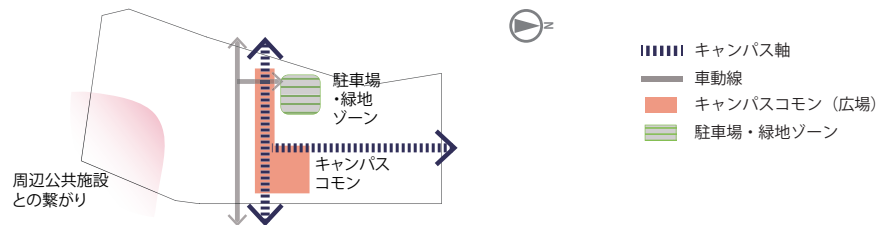


図 3-5-2

(4) ゾーニング

■ 教育研究ゾーン

- ・ 南側と北側からなる南北2つのゾーンで構成。
- ・ 新たな新領域用地確保のため、住居ゾーンは唐湊キャンパス等へ集約を検討。

■ 共通・交流ゾーン

- ・ キャンパスの中央に配置し、共同利用や交流機能を中央に集約。

■ 地域交流ゾーン

- ・ 新たなキャンパスの顔として、周辺公共施設との繋がりを意識した開かれたゾーン。

■ 駐車場・緑地ゾーン

- ・ キャンパス内の車の侵入を制限するため、敷地境界周辺に集約配置。
- ・ 駐車場ゾーンは積極的に緑化を図り、環境に配慮する。

■ 地域創成エリア

- ・ 民間の資金やノウハウを積極的に活用し、地域振興に貢献する。

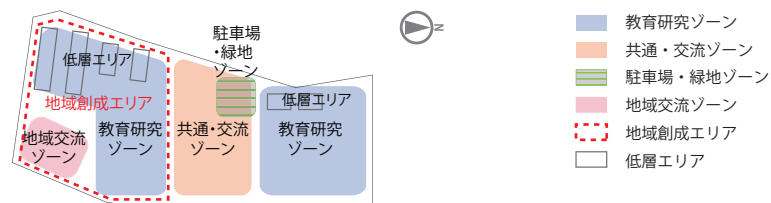


図 3-5-3

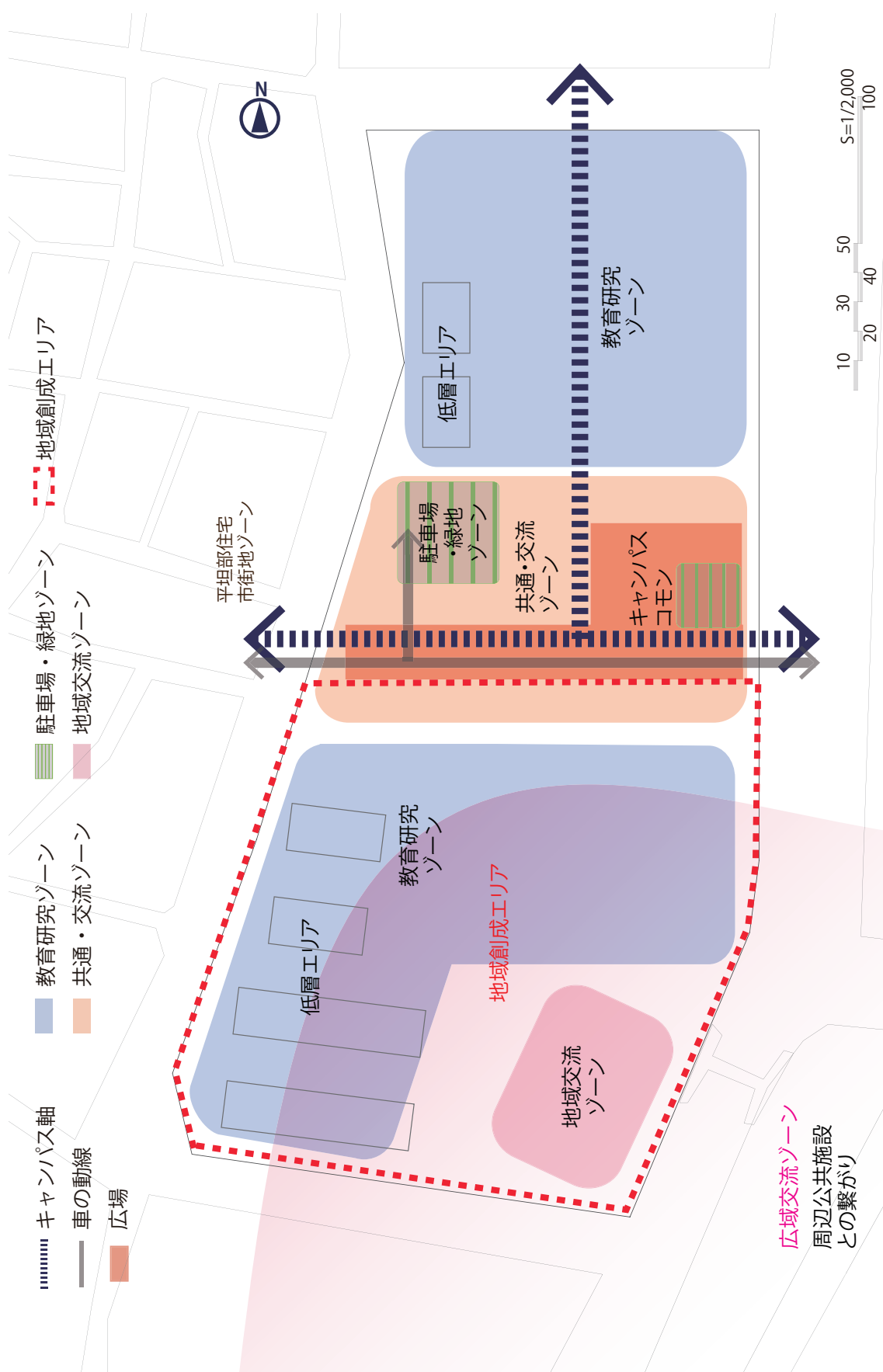


図 3-5-4

(5) 土地利用計画

(5)-1 施設規模

50 年後（2071 年）の施設規模は、対 2021 年比△10%の約 10,700 m²（宿泊施設除く）として示す。

ただし、外部資金等による自立的な運営が可能な施設については、積極的に検討することとし、これらの増築は妨げない。

(5)-2 改修・建替えの考え方

原則、築後 40 年を改修時期、築後 80 年を建替時期の目安とする。

ただし、500 m²未満のもの、長寿命化が困難なもの等は、耐用年数を取壊・建替時期の目安とする。

また、歴史・伝統を感じるものは、保存・活用を図り、未来へ継承する。

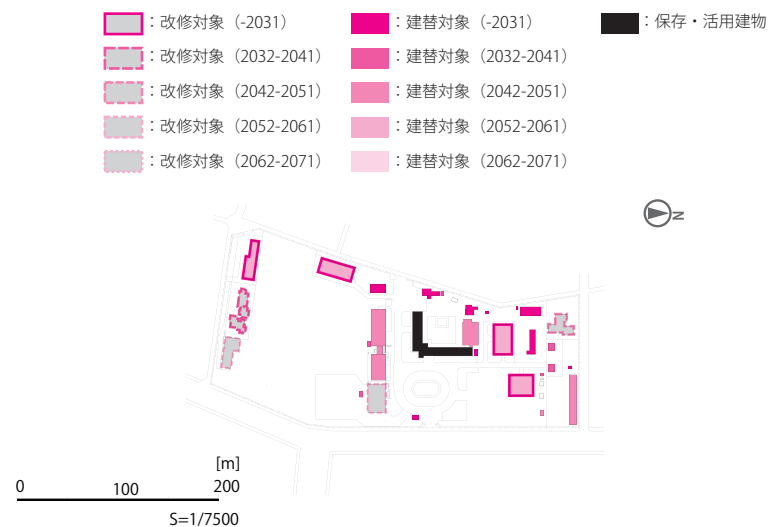


図 3-5-5

(5)-3 土地利用計画

■教育研究ゾーン

- ・ 総合研究棟の集約配置（キャンパス軸沿い）による建設用地の確保。
- ・ 実験施設エリアを設け、乱立による建て詰まりを防ぐ。

■共通・交流ゾーン

- ・ 教育研究ゾーンと地域創成エリアの間にキャンパスコモンとなる広場を配置。
- ・ 歴史継承のため、水産学部1号館をリノベーション。
- ・ 歴史資源を活用し、キャンパスコモンを形成。
- ・ キャンパス軸の東側（道路沿い）に福利施設を配置し、外部利用者にも配慮。

■地域交流ゾーン

- ・ 地域とともに利用可能な施設等を配置。

■駐車場・緑地ゾーン

- ・ 駐車場は敷地境界周辺に集約配置し、歩車分離を図る。

■地域創成エリア

- ・ 民間の資金やノウハウを積極的に活用し、地域振興に貢献する。
- ・ アクセスに配慮し、東西を横断する道路を整備。

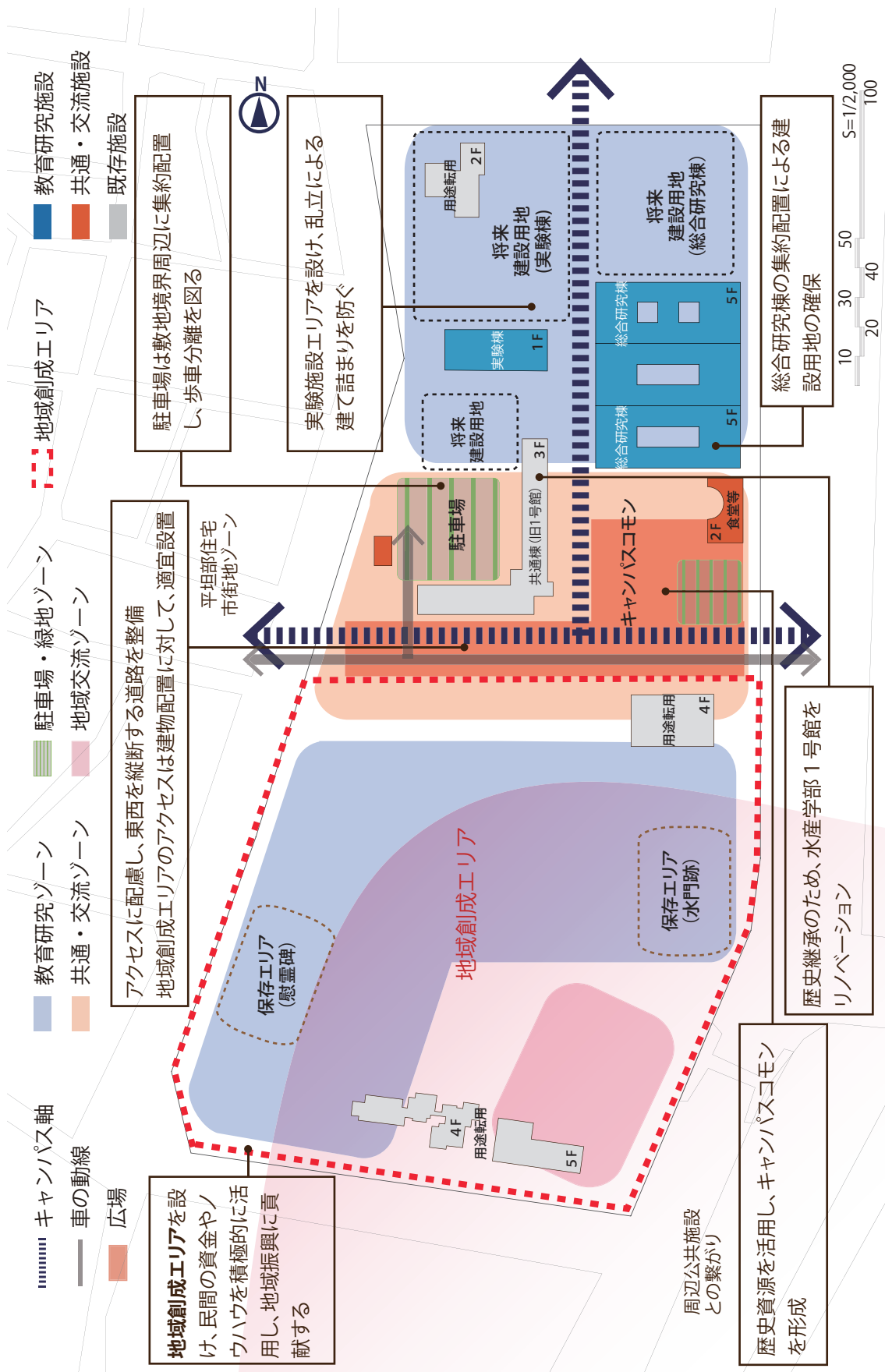


图 3-5-6

＜配置図（2071）＞



図 3-5-7

<配置図 (2021)>

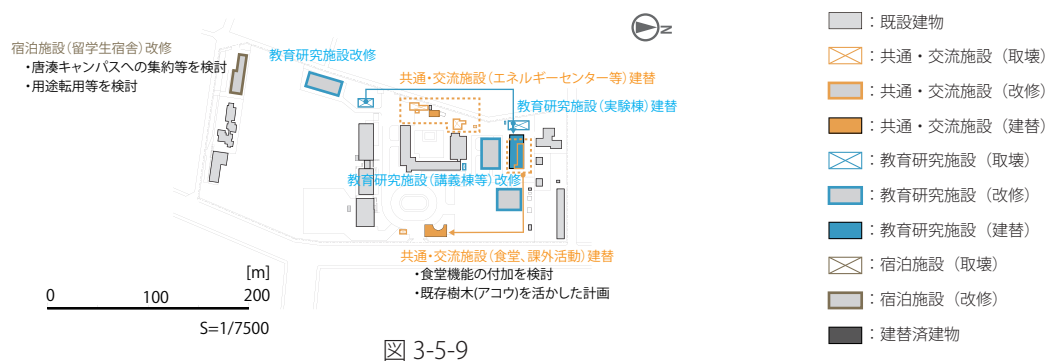


図 3-5-8

(5)-4 改修・建替計画

50年後の将来像へ向けて、10年毎の改修・建替計画を示す。改修・建替の考え方に基づき、目安として示すものであり、詳細については、社会からの要請やニーズの変化等、各時期の事情に応じ、柔軟に対応することとする。

フェーズ1（-2031） 11,900 m² → 11,800 m²（2021年比△1%）



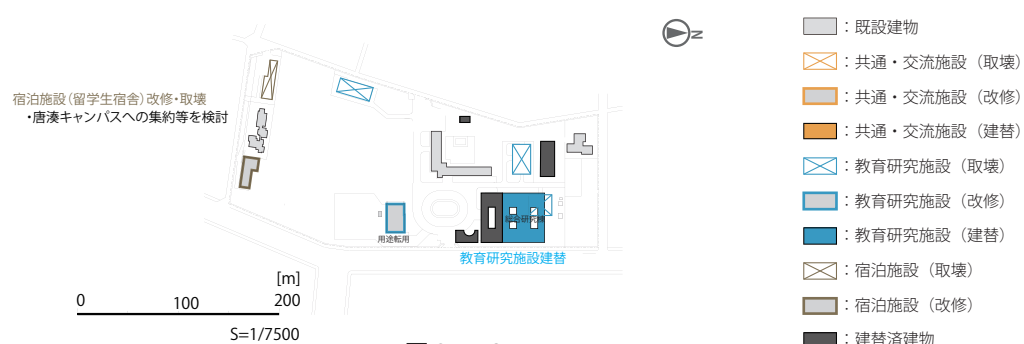
フェーズ2（2032-2041） 11,800 m² → 11,800 m²（2021年比△1%）



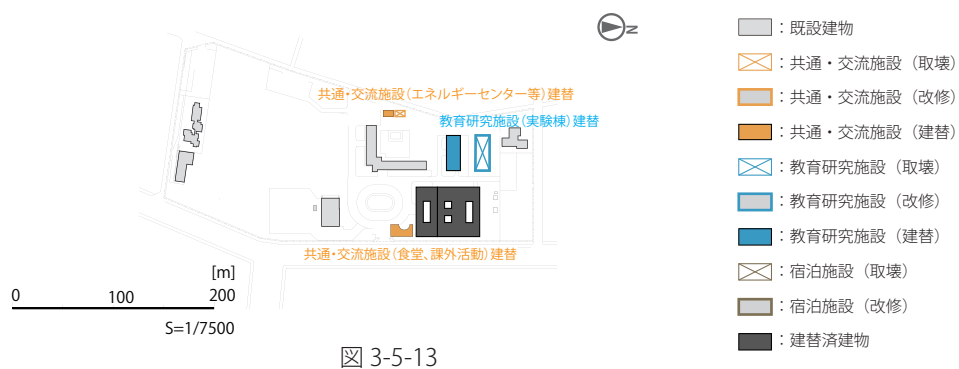
フェーズ3（2042-2051） 11,800 m² → 11,300 m²（2021年比△5%）



フェーズ4 (2052-2061) 11,300 m² → 10,700 m² (2021 年比△10%)



フェーズ5 (2062-2071) 10,700 m² → 10,700 m² (2021 年比△10%)



(6) パブリックスペース

(6)-1 通り

<基本的な考え方>

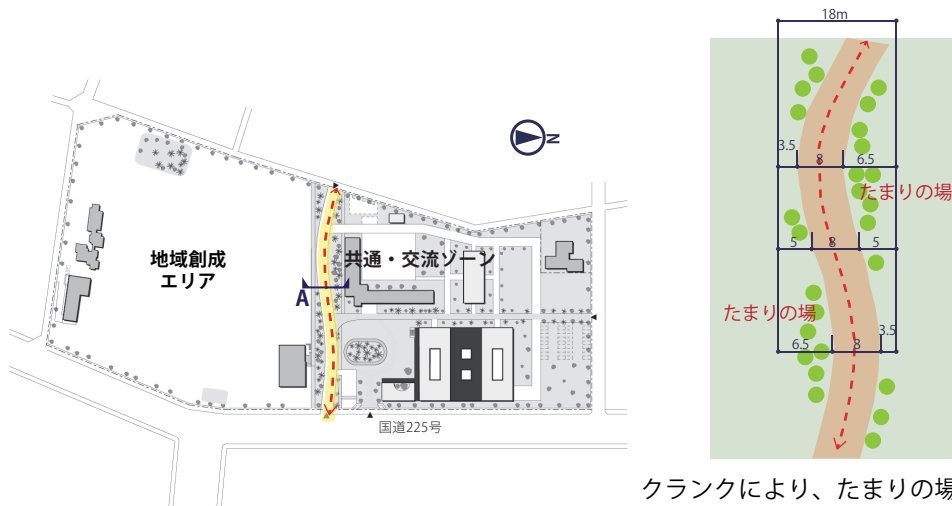
- ・ 各通りの性格に応じた統一感ある空間を形成するため、高さ壁面線の統一や樹木の列植等に配慮する。
- ・ 通り沿いには、たまりの場となるような見通しの良い樹木やベンチを配置し、交流を促すしかけをする。
- ・ キャンパスの正面やキャンパス軸に配慮し、アクセス動線が分かりやすい施設計画とする。
- ・ 通りから建物内部の気配が感じとれるように、キャンパス軸に面する低層部は透明性の高い設えとする。
- ・ 楽しく歩ける安心安全なキャンパス環境形成のため、車動線の制限、駐車場・駐輪場の集約を図り、歩行者主体の通りを形成する。
- ・ ユニバーサルデザインに配慮し、高低差にはスロープ等を設置する。

基本的な考え方に基づき、下荒田キャンパスの3つの主要な通りについて、具体的なガイドラインを示す。

- (a) 東西軸 - 市民に開かれたキャンパスコモン -
- (b) 南北軸 - くつろげるキャンパスストリート -
- (c) 外周道路 - 歩車分離を図る車動線 -

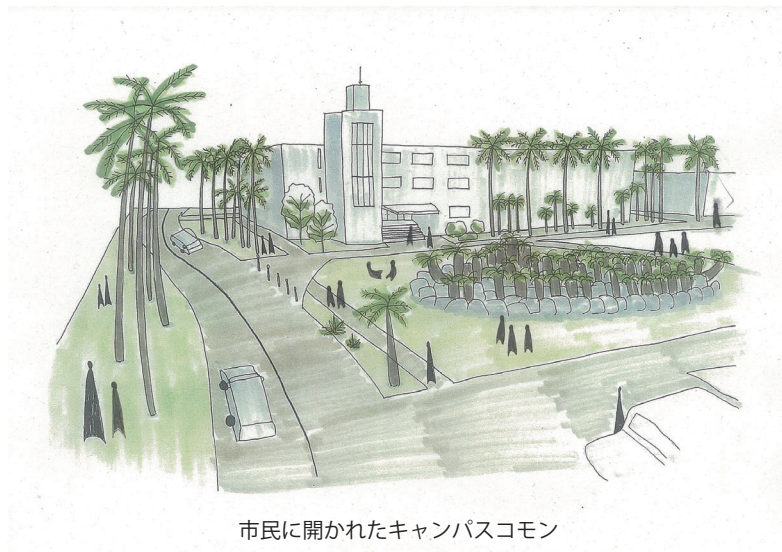
(a) 東西軸 - 市民に開かれたキャンパスコモン -

<基本的な考え方>



クランクにより、たまりの場を確保

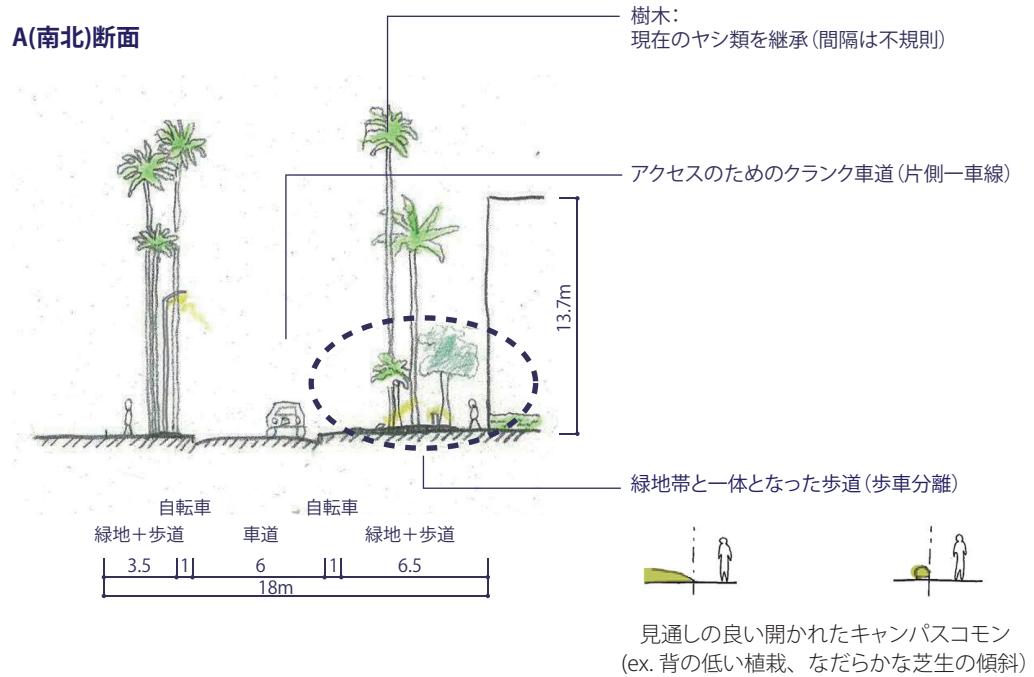
- ・ 地域創成エリアと共通・交流ゾーンの間を東西に縦断するキャンパスコモン（東西軸）を、キャンパスの「骨格」として位置付ける。
- ・ 地域創成エリアと共通・交流ゾーンへアクセスするための車道を確保（片側1車線）
- ・ 緑地帯と一体となった歩道を確保（歩車分離）。
- ・ 地域にも親しまれるように、クランクによってできるたまりの場に、樹木やファニチャーを積極的に配置する。
- ・ 樹木・照明は意図的に不規則な配置とし、やわらかい印象をあたえる。



市民に開かれたキャンパスコモン

<基準>

A(南北)断面



広場：現在の距離（間隔 18m）を継承し、市民に開かれたキャンパスコモンを形成。

樹木：現在のヤシ類を継承し、新たに設ける場合は、やわらかい印象を与えるため、意図的に不規則な配置。

照明：シンボルツリー等は樹木を照らす演出照明を設置。

形状：緑地帯（たまりの場）と一体化した歩道（3.5 ～ 6.5m）を配置。



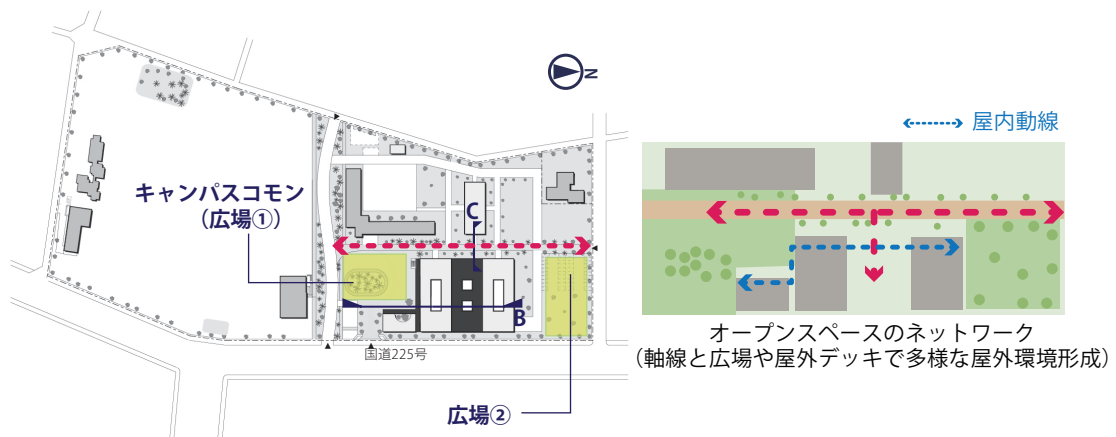
継承するヤシ類



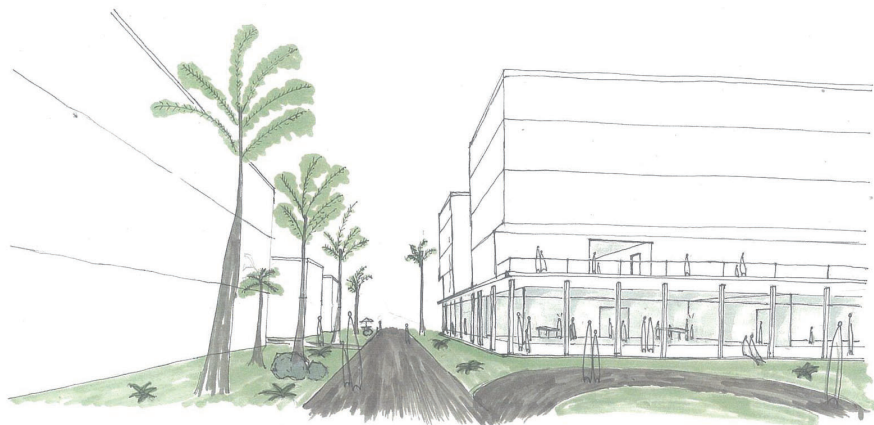
緑地帯による歩車分離のイメージ

(b) 南北軸 - くつろげるキャンパスストリート -

<基本的な考え方>



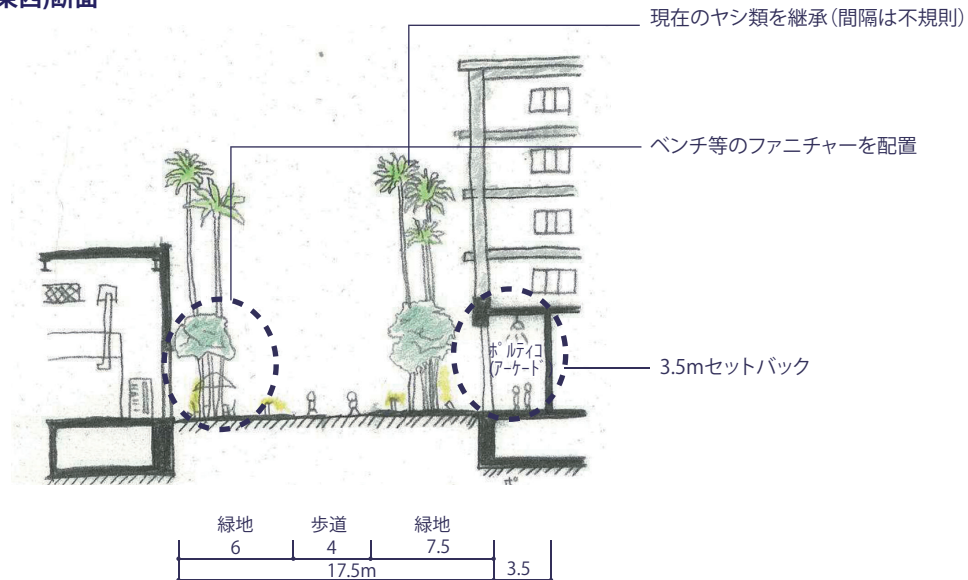
- ・ 共通・交流ゾーンと教育研究ゾーンを繋ぐキャンパスのメインストリートをキャンパスの「骨格」として位置付ける。
- ・ 緑地帯にベンチ等のファニチャーを積極的に配置し、キャンパスコモン（広場①）や屋外デッキと一体となった、くつろげるストリートとする。
- ・ 樹木・照明は意図的に不規則な配置とし、やわらかい印象をあたえる。



くつろげるキャンパスストリート

<基準>

C(東西)断面



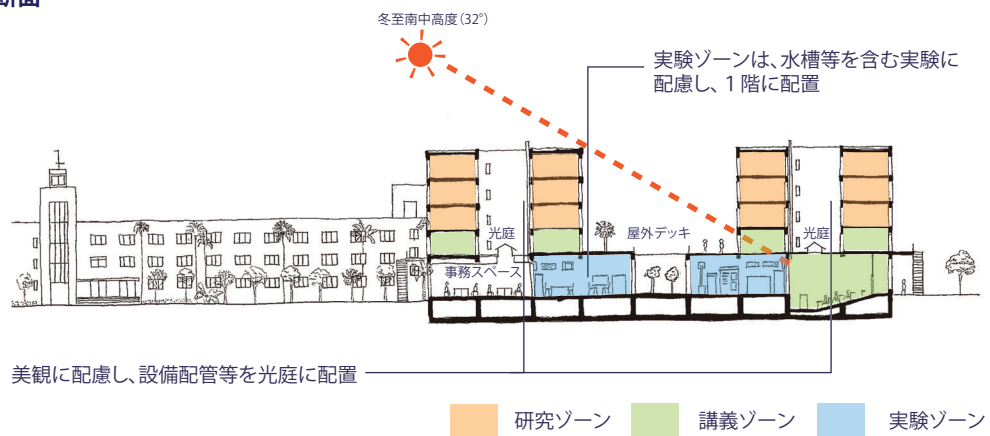
広場：くつろぎの場となるよう、通りと一体となった屋外デッキを設け、ファニチャー等を積極的に配置。

樹木：現在のヤシ類を継承し、新たに設ける場合は、やわらかい印象を与えるため、意図的に不規則な配置。

照明：シンボルツリー等は樹木を照らす演出照明を設置。

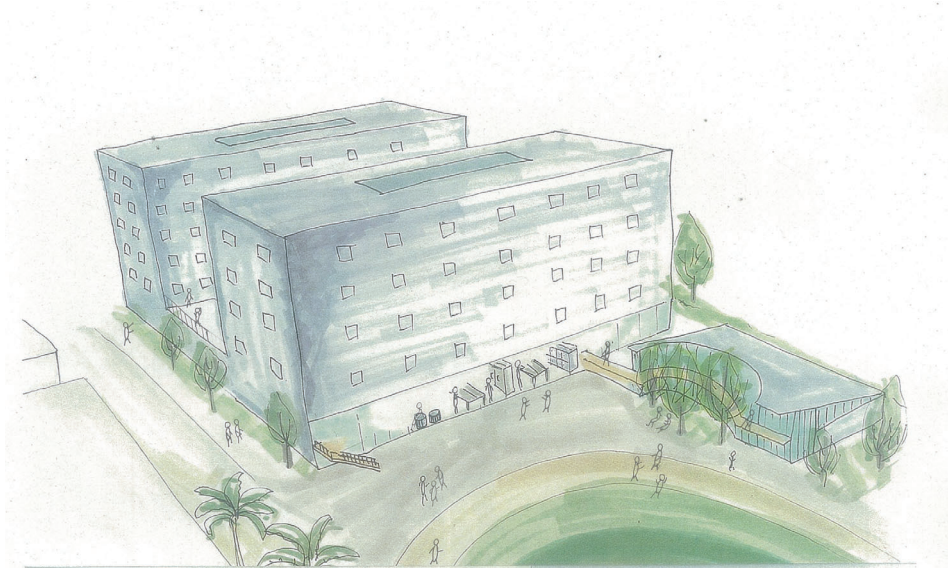
形状：1階壁面線を3.5mセットバックし、連続したアーケード空間（ポルティコ）を創出。低層部分は公共性の高い機能とし、内部の雰囲気が窺える設え。

B断面



キャンパスコモン（広場①）

- ・建物で囲われた空間を、通りと一体的な賑わいのある広場とする。
 - ・歴史資源（火山岩、ソテツ、記念碑）を継承し、歴史を感じられる広場とする。
 - ・地域の方も含めた、賑わいの場となるようファニチャー等を積極的に配置する。
- また、防災時にも利用できるファニチャーの導入も検討する。



建物と一体となった賑わいのある広場



歴史資源（火山岩・ソテツ）の継承



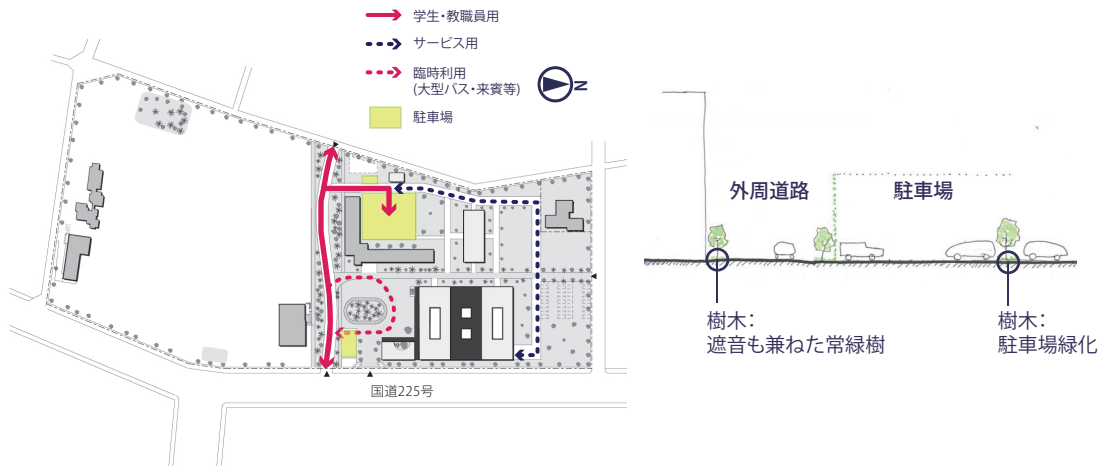
歴史資源（記念碑）の継承

広場② - 将来建設用地も兼ねたオープンスペース -

- ・見通しの良い広場としつつ、軸に面して持続的に建替が繰り返せる建設用地とする。

(c) 外周道路

<基本的な考え方>



- ・ 外周道路に面して駐車場を配置し、キャンパス中央部への車動線の侵入を制限する。
- ・ 外周道路から中央側には遮音を兼ねた常緑樹を配置する。
- ・ バリアフリー及びサービス用の車動線・駐車場は各建物（群）毎に別途確保する。
- ・ 臨時利用（大型バスや来賓者等）に配慮し、車動線をキャンパスコモンに確保する。
- ・ 地域の方の食堂利用に配慮し、国道側に外来駐車場を配置する。
- ・ 駐車場は積極的に緑化する（立体駐車場とする場合は壁面緑化を行うなど）。



立体駐車場の壁面緑化イメージ

(6)-2 見通し（ビスタ）

<基本的な考え方>

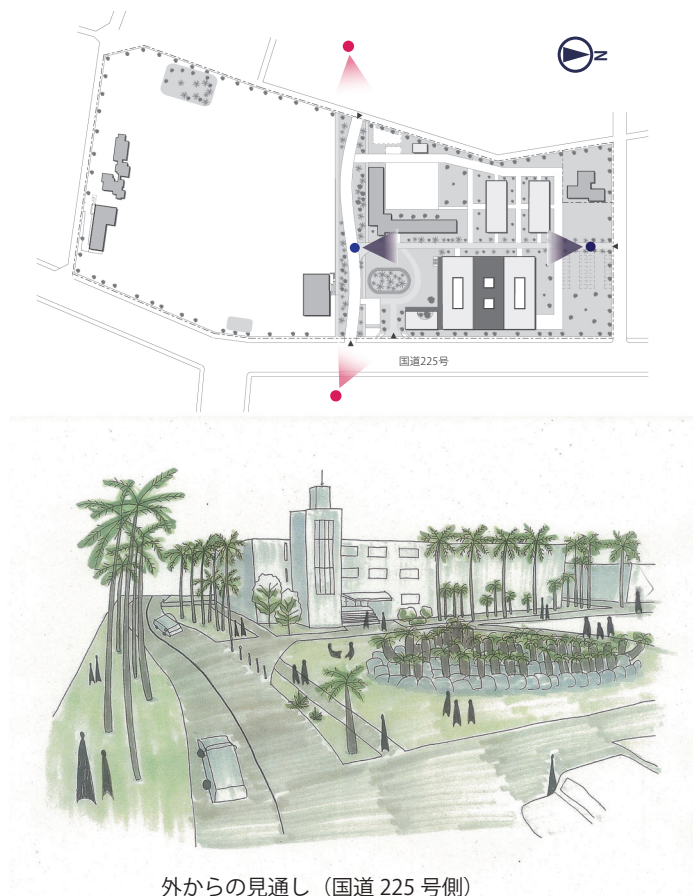
周辺地域との見通しや調和、下荒田キャンパスの特徴づける景観についてキャンパス内外からの視点場を定め、眺望に配慮した建物の配置・形状や敷地境界とする。

<キャンパス外>

- ・ 新たに整備する東西道路のキャンパス外からの見通しに配慮する。
- ・ 特にキャンパスの顔となる入口部分は、歴史を継承し、空間としてしっかりとした設えとする。

<キャンパス内>

- ・ キャンパス軸（南北）沿いの施設・樹木の景観に配慮する。



(6)-3 敷地境界

<基本的な考え方>



- ・ 主要な入り口周辺は、見通しの良い開かれた空間とする。
- ・ 周辺地域との調和や歩車分離等の安全性に配慮する。
- ・ 交通量の多い国道側は、現在の松林やレッドロビンを継承し、車両の騒音に配慮する。
- ・ 西側道路沿いには、現在のシャリンバイを継承する。

<開くゾーン>



見通しの良い開かれた主要入り口
(ex. 背の低い植栽、なだらかな芝生の傾斜)

<閉じるゾーン>



現在の敷地境界の継承(松林・レッドロビン)

(7) 緑・植栽計画

<基本的な考え方>

- ・ 歴史ある現在の樹木・樹種を尊重しつつ、要所で鹿児島に適した季節を感じる花木を配置していく。
- ・ キャンパス軸沿いの通りには、ワシントンヤシやソテツなど積極的に配置し、海を連想する南国らしさを演出する。
- ・ 主要門周辺、キャンパス軸の樹木、シンボルツリーは、細目に剪定し、管理レベルにメリハリをつける。
- ・ 芝生については、排水の確保、踏圧対策等を維持管理も含めてに十分に検討する。特に人通りの多い場所是对応が必要である。
- ・ 駐車場も積極的に緑化を図る。(立体駐車場とする場合は壁面緑化を行うなど)



南国らしさの演出



保存するアカウの木



保存エリア(慰霊碑)の樹木

<下荒田キャンパスに多い樹種>

ソテツ・ワシントンヤシ・マツ・アカウ・ケヤキ・クスノキ・マサキ・シャリンバイ・レッドロビン・サクラ・イチョウ

(8) 色・素材・形状

<基本的な考え方>

- ・ 歴史ある資源を継承しつつ、キャンパス全体の調和を図り、鹿児島大学らしさを形成していく。
- ・ 鹿児島特有の気候（集中豪雨・火山灰・強い日射）や海風に配慮したものとする。

<基準>

□ 色

- ・ 色彩の統一によりキャンパスの調和を図る。
- ・ 施設外部のベースカラーは落ち着いた色合いとする。
- ・ 大きな外部空間の舗装材は、日照の照り返しに配慮した色彩とする。

□ 素材

- ・ 低層部分（特に南北軸沿い建物）は、内部の雰囲気分かるような透明性の高いものとする。
- ・ 舗装材は透水性・保水性の高い素材を積極的に採用する。
- ・ エコマテリアル・地産材の導入推進
- ・ 記憶の継承として、既設建物の装飾を活かした計画・内外装材の再利用を積極的に行う。

□ 形状

- ・ 降灰や日射に配慮し、庇等を積極的に採用する。



旧建物外壁(火山岩)の再利用
(記憶の継承:既設建物等の装飾を活かした計画)



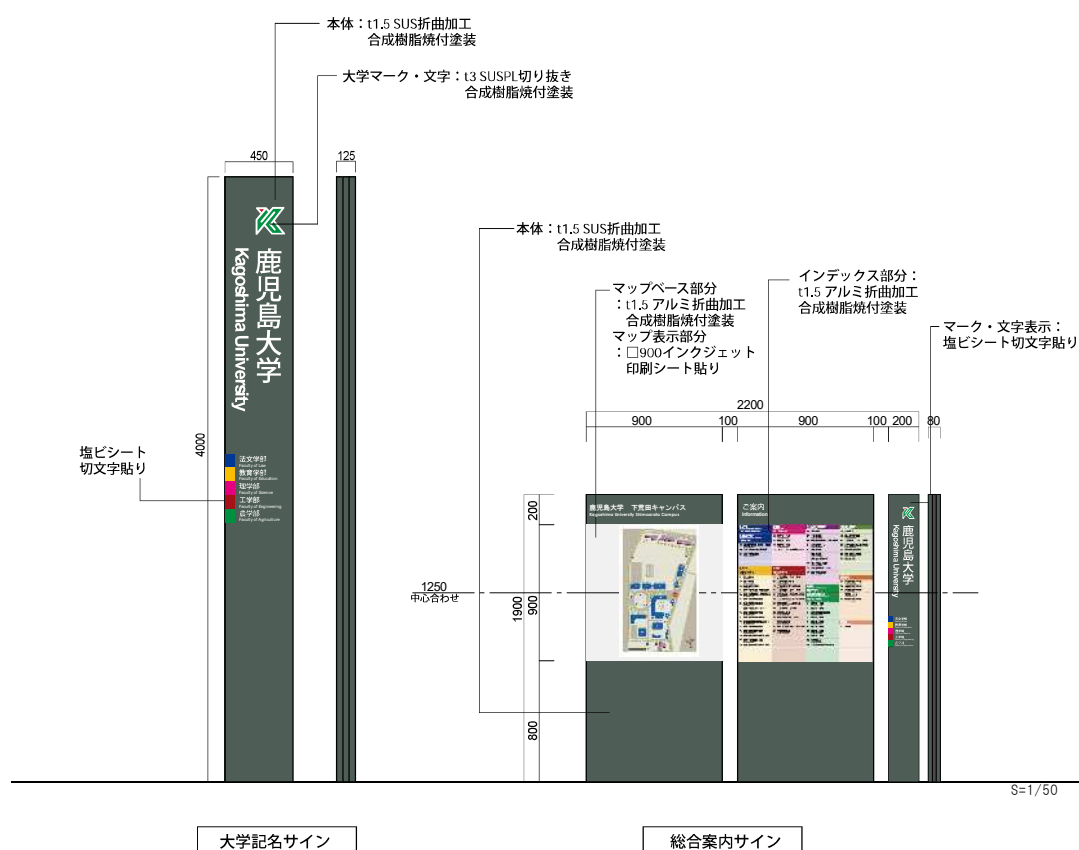
舗装材にシラスブロック採用
(地産材の導入)

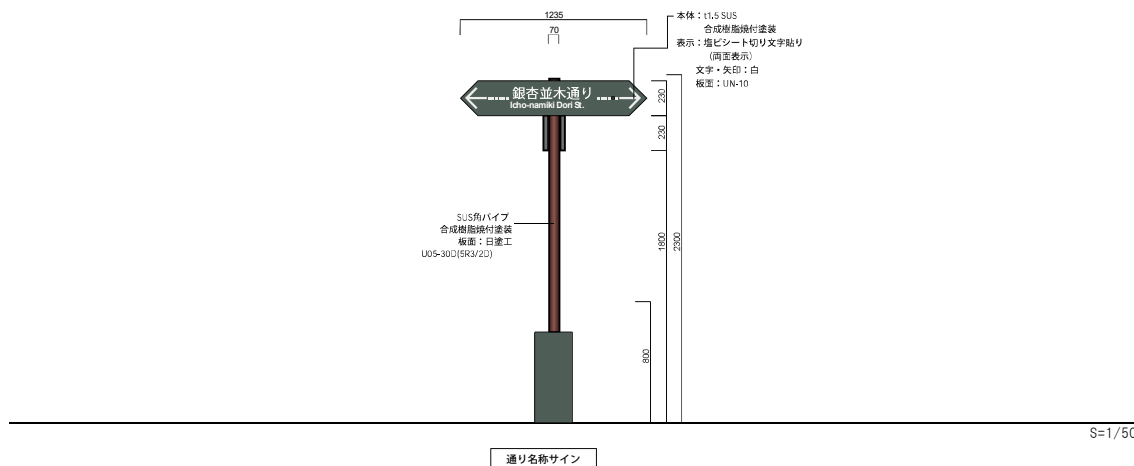
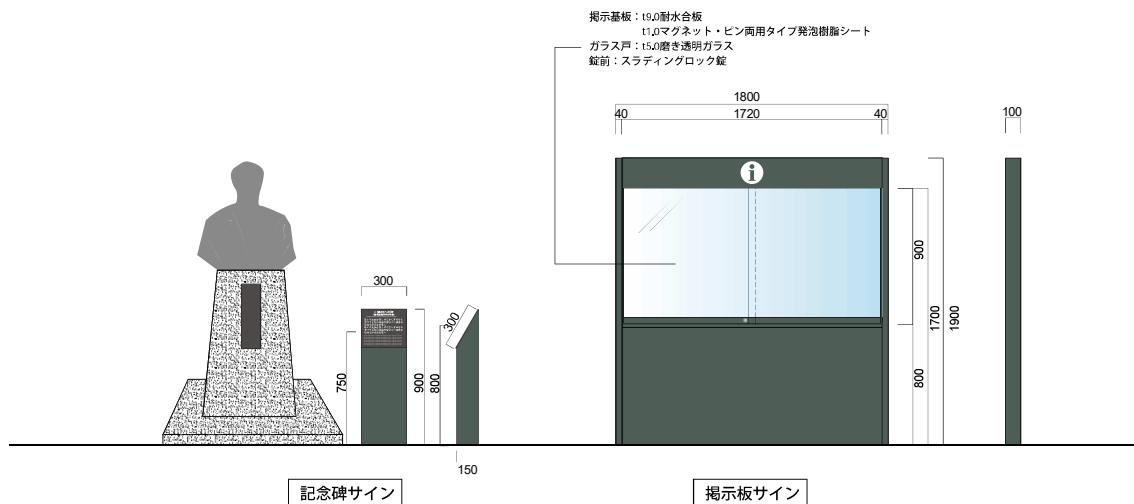
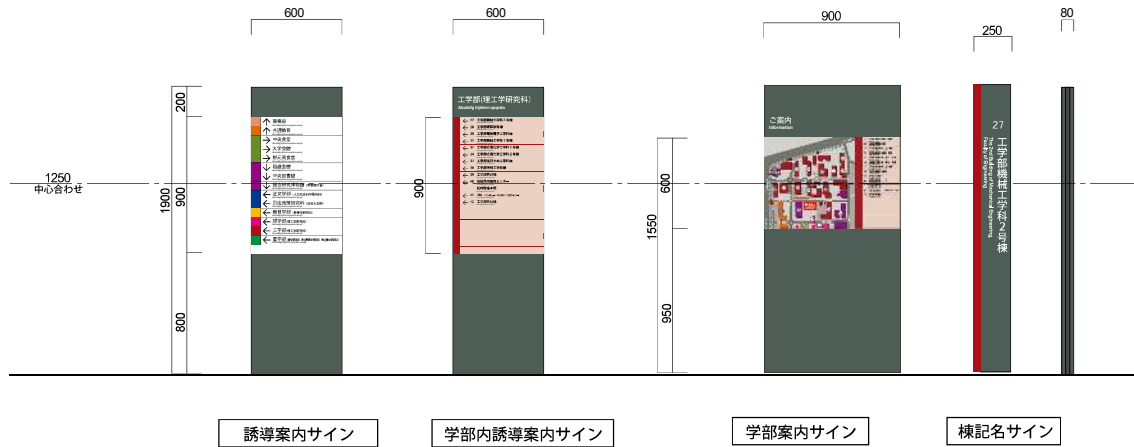
(9) サイン

<基本的な考え方>

- ・ キャンパス内のスムーズな移動をサポートする分かりやすいサインシステムとする。
- ・ グローバル化にも対応可能な和英併記を行う。
- ・ シンプルな構造により、簡便・ローコストなメンテナンスを実現する。
- ・ 景観形成・維持のため屋外サイン、のぼり等の広告及び学会・学際等の仮設サインに対する緩和等のルールを構築していく。
- ・ サインに留まらず、ゴミ箱等のファニチャーも統一を図り、キャンパスの調和を図っていく。

<基準>





S=1/50

(10) 屋外照明

<基本的な考え方>

☐ 機能照明

- ・ 主要通りは JIS 規格に基づき、水平面照度 3lx 以上（路面上）確保する。
- ・ 車出入口・車動線交差点は、十分な照度の確保・グレア（眩しさ）対策等、安全面に配慮する。（光源が見えないカットオフタイプ採用等）

☐ 省エネへの配慮

- ・ 省エネタイプを積極的に採用する。
- ・ 防犯上照度不足な場所は、人感センサー式照明の採用等、省エネを配慮しつつ、防犯性の向上を図る。

☐ 演出照明

- ・ キャンパス入口・軸線沿いの広場となる場所は“たまり”の場を演出する照明計画とする。（誘導灯、樹木等のライトアップ、季節で変わる照明等）

(11) ライフライン

既存の共同溝を生かし、電力・情報通信・給水・消火設備等の基幹ライフラインの整備を行い、教育研究の変化に柔軟に対応する計画とする。

共同溝については、各種配管の耐久性が向上されていること、共同溝の整備費用を鑑み、原則、拡張は行わず、トラフや埋設配管にて対応する計画とする。

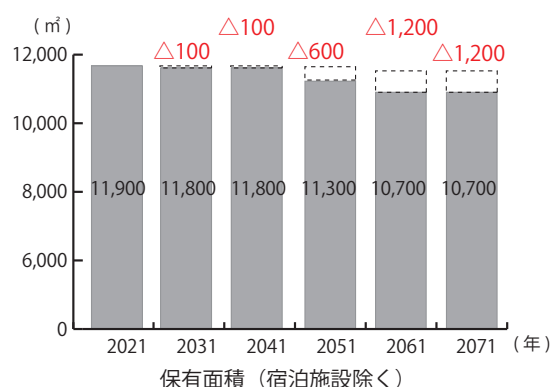
更新に際しては、省エネや環境負荷の低減、光熱水費や維持管理費の削減に一層貢献できる整備を推進していくとともに、防災機能強化への取組も併せて推進していく。

(12) 管理運営の好循環

施設の集約化による保有面積の削減や省エネ整備により、維持管理費・光熱水費の削減を図る。また、省エネ整備による光熱水費の削減額を維持管理に充当する仕組みを構築し、施設管理運営の好循環を目指す。

<保有面積>

規模縮小により、10,700 ㎡となる。
(対 2021 年比△10%)

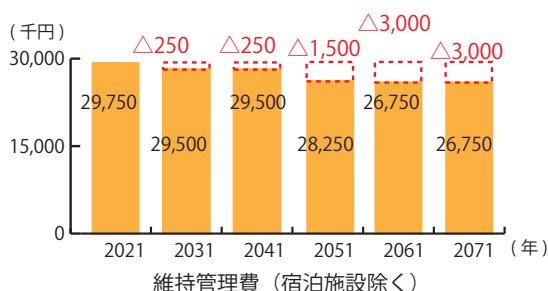


<維持管理費>

規模縮小により、約 3,000 千円削減見込み。
(対 2021 年比△10%)

・維持管理費とは
修繕、点検保守費、廃棄物処分費、校地維持費、
清掃費、警備費等

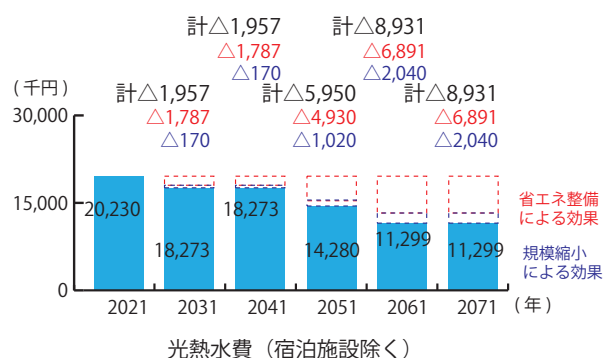
・維持管理費：面積 × 2,500 円 / ㎡
H27.3「大学経営に求められる施設戦略」による
国立大学全体の実績単価を採用



<光熱水費>

改修・建替に伴う省エネ整備により、
約 6,891 千円削減見込み。
規模縮小により、約 2,040 千円削減見込み。
併せて約 8,931 千円削減見込み。
(対 2021 年比△44%)

・光熱水費：電気料、ガス料、水道料、燃料費
・省エネ整備による効果：△30%
・2021 は鹿児島大学の 2020 実績値



<まとめ>

維持管理費、光熱水費併せて約 11,931 千円の削減見込み。(対 2021 年比△24%)

3-6. その他の団地について

鹿児島大学では、郡元、桜ヶ丘、下荒田の3キャンパス以外に25の団地を有している。ここではそれらの団地について、50年後も主要用途に変更が無いことを前提にした上でのフレームワークプランを示す。

(1) 教育研究施設等団地

下伊敷（附属特別支援学校）

地域の特別支援教育の拠点

敷地面積：16,776 m² 延床面積：3,538 m²

生徒数：約60名

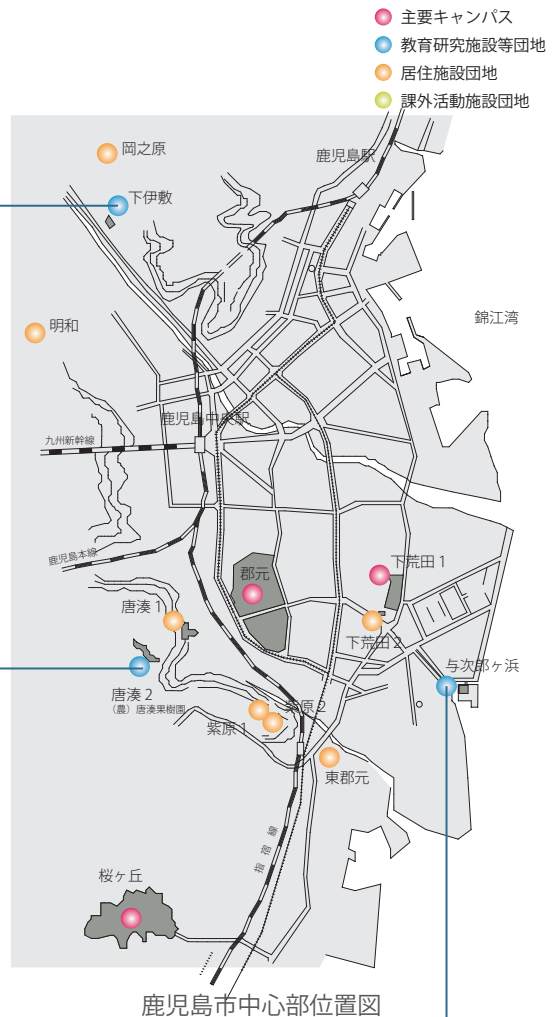
- ・附属学校全体の在り方を踏まえた再開発整備の検討
- ・特別支援教育における地域のセンター校としての再開発整備の検討
- ・ユニバーサルデザインの推進

唐湊2（（農）唐湊果樹園・林園、職員宿舎）

郡元キャンパスから2kmに位置する果樹園・林園等の教育実習と研究の場

敷地面積：88,265 m² 延床面積：2,775 m²

- ・改築については、教育研究施設等の大学全体のバランスを踏まえて整備
- ・職員宿舎の有効利用の検討



与次郎ヶ浜（（水）鴨池臨海地）

下荒田キャンパスから2kmの臨海地にある水産学の教育実習と研究の場

敷地面積：5,084 m² 延床面積：2,136 m²

- ・改築については、教育研究施設等の大学全体のバランスを踏まえて整備

大崎（（共同獣医）大隅産業動物診療研修センター）

産業動物診療研修施設

建物内借用

牧園 2（（工）実験施設）

実験施設

敷地面積：18 m² 延床面積：17 m²**東町**（（水）海洋資源環境教育研究センター）

地域連携に資する拠点

敷地面積：16,902 m² 延床面積：1,284 m²

- ・改築については、教育研究施設等の大学全体のバランスを踏まえて整備

入来（（農）入来牧場、（理）天体観測施設）

地域連携に資する拠点

敷地面積：1,478,471 m² 延床面積：5,410 m²

- ・改築については、教育研究施設等の大学全体のバランスを踏まえて整備

吉野 2（（教）寺山自然教育研究施設、地震火山観測所）

自然豊かな国立公園、風致地区にある教育研究施設

敷地面積：300,855 m² 延床面積：789 m²

- ・改築については、教育研究施設等の大学全体のバランスを踏まえて整備

伊集院（（工）実験施設）

実験施設

敷地面積：319 m² 延床面積：20 m²**桜島**（（農）桜島溶岩実験地）

溶岩台地における自然保存試験地

敷地面積：372,714 m² 延床面積：0 m²**東桜島**（火山観測所）

桜島内に設置の火山観測所

敷地面積：298 m² 延床面積：32 m²**谷山ふ頭**（（水）陸電施設）

谷山ふ頭に設置の陸電施設

敷地面積：777 m² 延床面積：0 m²**十町**（（農）指宿植物試験場）

温泉熱等を利用した植物試験場

敷地面積：30,725 m² 延床面積：2,285 m²

- ・改築については、教育研究施設等の大学全体のバランスを踏まえて整備
- ・効果的な温泉利用を踏まえたライフライン設備の検討

佐多（（農）佐多演習林）約 300 万 m² の敷地からなる演習林敷地面積：2,973,724 m²延床面積：0 m²**海潟**（（農）高隈演習林）約 3,000 万 m² の敷地からなる演習林敷地面積：30,598,232 m² 延床面積：1,530 m²

- ・改築については、教育研究施設等の大学全体のバランスを踏まえて整備

- 主要キャンパス
- 教育研究施設等団地
- 居住施設団地
- 課外活動施設団地

鹿児島県内位置図

(2) 居住施設等団地

唐湊 1 (学生寄宿舍)敷地面積：24,391 m² 延床面積：5,586 m²

- ・居住団地として、学生寄宿舍・国際交流会館の集約を検討

紫原 1 (外国人研究者宿泊施設)敷地面積：344 m² 延床面積：294 m²**東郡元・紫原 2・下荒田 2
明和・下福元・岡之原**

(職員宿舎)

- ・職員宿舎の有効利用の検討

**世田谷** (東京寄宿舍)敷地面積：457 m² 延床面積：401 m²

- ・東京地区における学生活動を支援する短期学生宿泊施設
- ・寄附建物として保存・有効活用を図る

(3) 課外活動施設団地

吉野 1

- ・利用実態に応じた整備の検討

04

キャンパスアクションプラン

4-1. アクションプラン策定の方針

キャンパスマスタープランの基本方針等及びフレームワークプランを見据えた上で具体的な短期行動計画（6年間）として、アクションプランを策定する。

社会の要請や環境の変化によりアクションプランに明示していない計画を行う必要が出て来た場合、フレームワークプラン等に十分配慮し計画を行う。

(1) 施設整備計画

整備の優先度については、中期目標・中期計画及び機能強化等、大学の戦略との関連性が高いものからとし、以下の事項に考慮し、計画を進める。

- ・ 築後 25 年が経過し、機能劣化している建物を改修検討建物とし、経年 40 年以上を改修優先建物とする。
- ・ 耐用年数を経過した、長寿命化が困難な建物または小規模建物（500 m²未満）については、施設総量の最適化を図る観点から、取壊、集約等について検討する。
- ・ 新たなニーズに対応する場合、既存施設の有効活用のみでは対応が困難で真に必要な物に限り、新增築を検討する。
- ・ 第 5 次国立大学法人等施設整備 5 か年計画の方向性
キャンパス全体をイノベーションコモンズ（共創拠点）へ
 - ・ 産学界との共創
 - ・ 共同利用できるオープンイノベーションラボの整備
 - ・ キャンパスを実証実験の場として活用
 - ・ 教育研究の機能強化
 - ・ 学習者中心に捉えた人材育成
 - ・ 研究の活性化
 - ・ 世界をリードする最先端研究の推進
 - ・ 先端・地域医療を支える病院機能充実
 - ・ 国際化のさらなる進展
 - ・ 地方公共団体との共創
 - ・ 災害時にも活用できるインフラの強靱化
 - ・ 地方創生の連携拠点整備
 - ・ 地域との施設の相互活用

- ・建替が必要な建物はフレームワークプランにより適切な配置を計画する。
- ・性能維持改修（外壁、屋上防水など施設の物理的な性能を維持するための改修）については、インフラ長寿命化計画で検討する。

(2) 屋外環境整備計画

施設整備に合わせ、建物と有機的に連携した外部パブリックスペースを整備する。

(3) 交通計画

人・車・自転車の利用実態を把握し、交通計画や駐輪場の適切な位置・規模の検討を行い、学内の交通委員会に諮った上で、計画的に歩車分離を進める。

(4) ライフライン整備計画

将来の変化に対応した柔軟な計画

- ・整備した共同溝に、電力・情報通信・給水・消火設備等の基幹ライフラインを整備し、キャンパスにおける将来変化に柔軟に対応出来る供給を行う。

安全・安心な計画

- ・学生・教職員をはじめ、地域住民の安全性確保を念頭に置いた災害に強い、安全で安心な環境の提供に繋がるライフライン整備を計画する。

環境負荷の低減

- ・温室効果ガスの削減、経費縮減につながる省エネ整備を徹底する。

(5) イノベーション commons の全体イメージ

- (1) ～ (4) の各種計画を進めるとともに、各施設を有機的に連携させ、キャンパス全体のイノベーション commons 化を推進する。

4-2. 郡元キャンパス・アクションプラン

(1) 施設整備計画

- ・ 築後 25 年が経過し、機能劣化している建物の改修（経年 40 年以上を優先）。
- ・ 耐用年数が経過した長寿命化が困難な建物または小規模建物（500 m²未満）については、取壊、集約等について検討を行う。

(2) 屋外環境整備計画

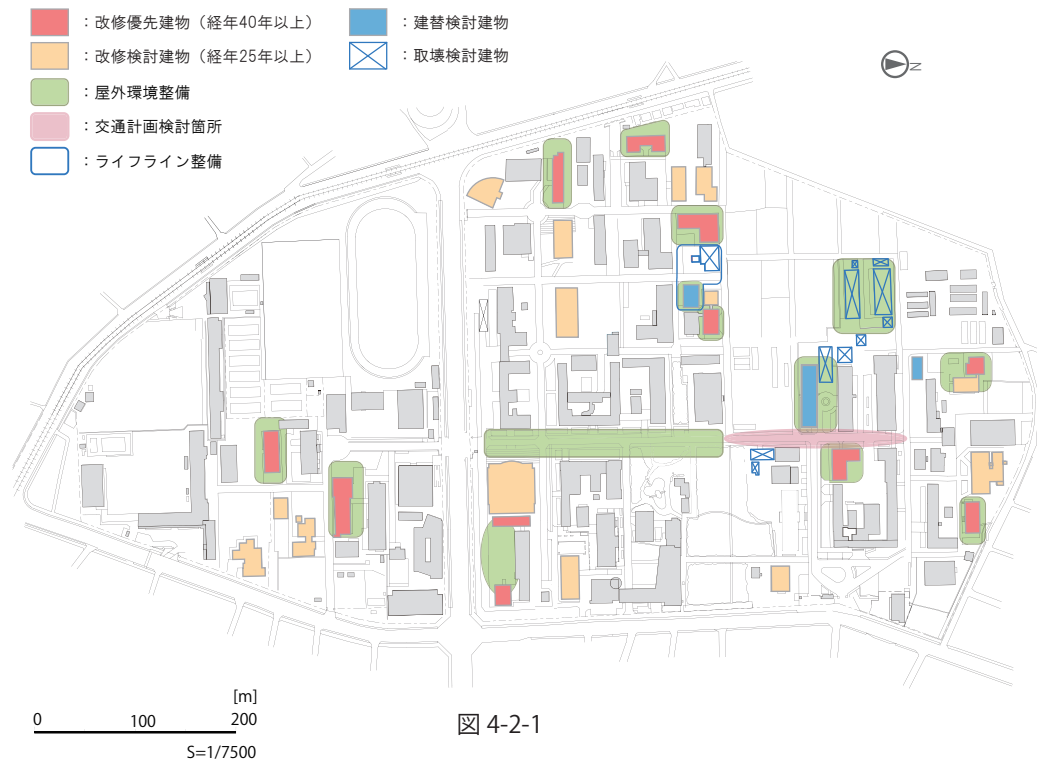
- ・ 施設整備に合わせ、建物と有機的に連携した外部パブリックスペースを整備。

(3) 交通計画

- ・ 歩車分離の計画的実施。
キャンパスコモンの歩者分離・・・北辰通り北側の歩者分離を進める。

(4) ライフライン整備計画

- ・ ライフラインの再生（受変電設備、給水設備など）。



アクションプランリスト

棟番号	棟名称	建築年	構造	階数		建物面積	経年(2027時点)		アクションプラン
				地上階	地下階		築後	改修後	
62	農学部研究附属棟	1966	R	1	0	436	61	21	取壊・建替検討
81	冷凍実験棟	1967	S	1	0	128	60	—	取壊・建替検討
444	ポンプ室	1970	R	1	0	72	57	—	取壊・建替検討
443	変電所	1971	R	4	0	919	56	—	取壊・建替検討
265	昆虫飼育棟	1972	B	1	0	70	55	—	取壊・建替検討
80	水理実験棟	1975	S	1	0	264	52	—	取壊・建替検討
84	低温貯蔵実験棟	1979	B	1	0	75	48	—	取壊・建替検討
267	堆肥舎	1982	R	1	0	91	45	—	取壊・建替検討
269	管理棟	1983	R	2	0	147	44	—	取壊・建替検討
266	研究実習棟	1981	R	2	0	881	46	—	取壊・建替検討
268	動物飼育棟	1983	S	1	0	650	44	—	取壊・建替検討
82	研究支援センター	1976	R	2	0	500	51	—	改修優先建物
83	共同利用棟	1978	R	4	0	1989	49	—	改修優先建物
137	機械工学第三実験棟	1978	R	1	0	500	49	—	改修優先建物
16	法文学部2号館	1980	R	5	0	1538	47	—	改修優先建物
17	法文学部3号館	1980	R	2	0	549	47	—	改修優先建物
140	化学生命工学棟	1983	R	4	0	2747	44	—	改修優先建物
194	第1講義棟	1983	R	3	0	1859	44	—	改修優先建物
85	共同獣医学部研究棟B	1984	R	3	0	1370	43	—	改修優先建物
141	地域コトづくりセンター	1984	R	2	0	1232	43	—	改修優先建物
429	学術情報基盤センター	1984	R	4	0	2347	43	—	改修優先建物
195	文系研究棟	1986	R	6	0	3049	41	—	改修優先建物
231	附属動物病院大動物診療センター	1966	R	2	0	1483	61	32	改修検討建物
221	連合農学研究科棟	1990	R	3	0	1285	37	—	改修検討建物
143	情報・生体工学棟	1992	R	5	0	2387	35	—	改修検討建物
196	音楽美術科棟	1993	R	4	0	2392	34	—	改修検討建物
144	南九州・南西諸島域共創機構棟1	1994	R	3	0	1290	33	—	改修検討建物
197	教育実践総合センター	1994	R	2	0	529	33	—	改修検討建物
356	中央図書館	1994	R	5	1	12704	33	—	改修検討建物
365	稲盛会館	1994	R	3	1	1482	33	—	改修検討建物
331	幼稚園園舎	1996	R	1	0	700	31	—	改修検討建物
94	研究支援センター	1999	R	4	1	1868	28	—	改修検討建物
128	工学部共通棟	1999	R	7	1	4614	28	—	改修検討建物
20	総合教育研究棟	2001	SR	7	1	5857	26	—	改修検討建物
130	理工系総合研究棟	2002	R	7	0	5553	25	—	改修検討建物

(5) イノベーションコモンズの全体イメージ

(1) ～ (4) の各種計画を進めるとともに、キャンパス軸を中心に各施設を有機的に連携させ、キャンパス全体のイノベーションコモンズ化を推進する。

キャンパスコモン (予定)



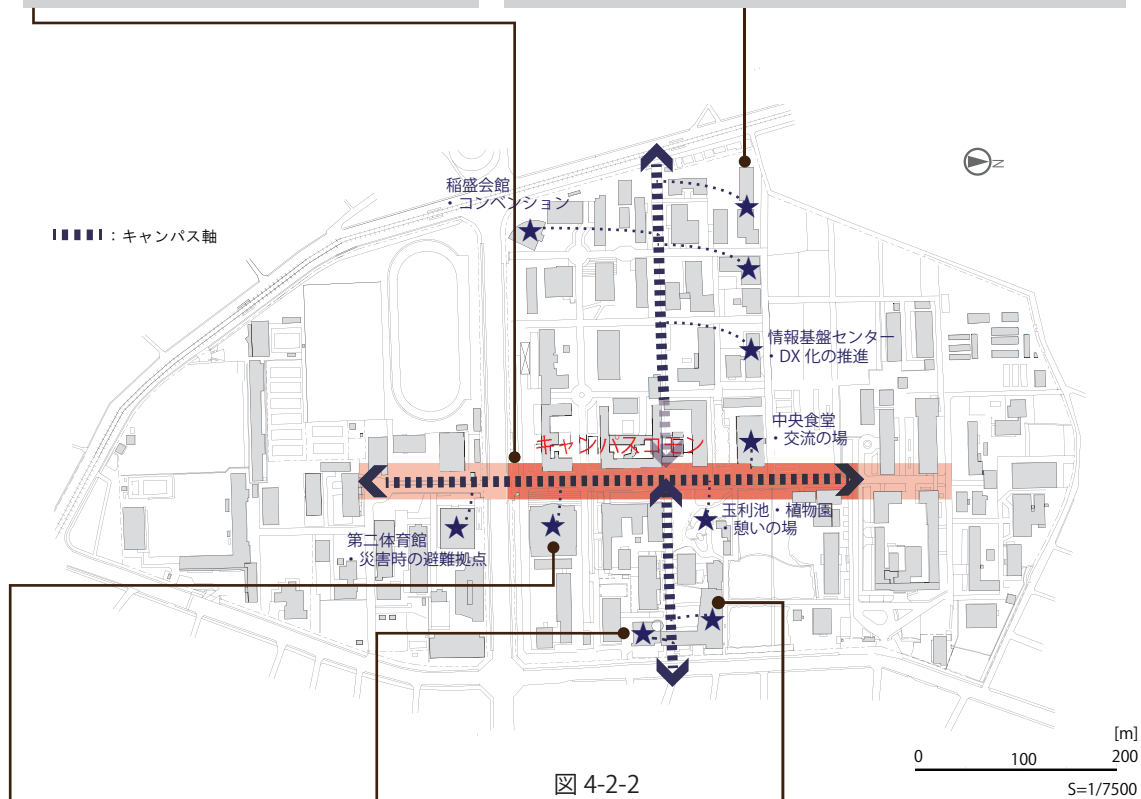
キャンパス全体を有機的に連携させるキャンパスコモン (広場)

産学交流プラザ



イノベーション創出を目指す産学官連携の拠点
イノベーション人材育成の場、大学や企業とのオープンラボ

地域コトづくりセンター



中央図書館



アクティブラーニングを促す空間

稲盛記念館



地域、産業界等との交流、おもてなしの場

学習交流プラザ



日常的な知的交流、人間力醸成の場

4-3. 桜ヶ丘キャンパス・アクションプラン

(1) 施設整備計画

- ・ 築後 25 年が経過し、機能劣化している建物の改修（経年 40 年以上を優先）。
- ・ 耐用年数を経過した、長寿命化が困難な建物または小規模建物（500 m²未満）については、取壊、集約等について検討を行う。

(2) 屋外環境整備計画

- ・ 施設整備に合わせ、建物と有機的に連携した外部パブリックスペースを整備。

(3) 交通計画

- ・ 病院へアクセスするためのロータリー、駐車場等の整備。

(4) ライフライン整備計画

- ・ 病院再整備に伴う基幹・環境整備（受変電設備、自家発電設備など）。

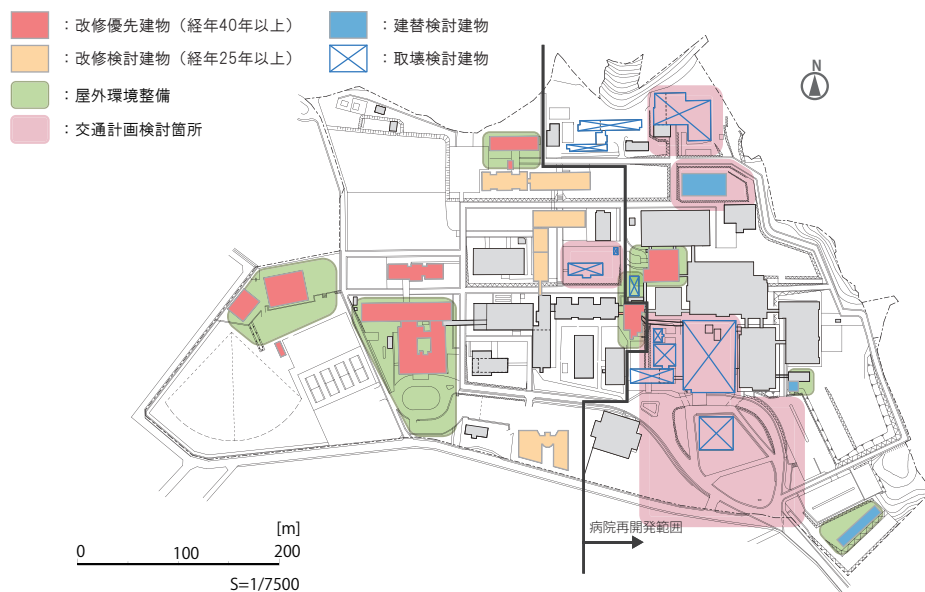


図 4-3-1

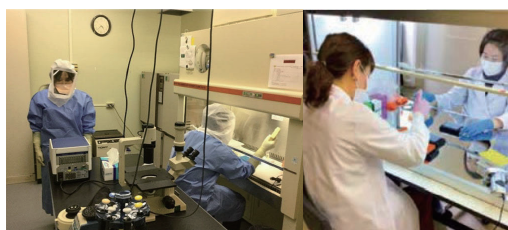
アクションプランリスト

棟番号	棟名称	建築年	構造	階数		建物面積	経年(2027時点)		アクションプラン
				地上階	地下階		築後	改修後	
3	中央機械棟	1973	SR	2	0	2429	54	－	取壊・建替検討
5	附属病院医科診療棟	1973	R	3	0	9500	54	－	取壊・建替検討
14	看護師宿舎	1974	R	2	0	586	53	－	取壊・建替検討
15	看護師宿舎	1974	R	6	0	3382	53	34	取壊・建替検討
16	附属病院管理棟	1974	R	4	0	2356	53	－	取壊・建替検討
18	実験施設	1974	R	2	0	824	53	－	取壊・建替検討
31	廃液処理施設	1978	B	1	0	19	49	－	取壊・建替検討
102	医療情報施設	1990	R	2	0	604	37	－	取壊・建替検討
111	地域医療支援センター	2011	S	1	0	111	16	－	取壊・建替検討
8	医学部臨床講義棟	1973	R	3	0	1121	54	－	改修優先建物
13	桜ヶ丘寄宿舎	1974	R	5	0	2693	53	－	改修優先建物
40	附属病院歯科診療棟・病棟	1979	R	5	0	8214	48	－	改修優先建物
41	医歯学総合研究科棟 1	1979	R	9	0	11349	48	－	改修優先建物
42	歯学部講義実習棟	1980	R	4	0	2915	47	－	改修優先建物
29	体育館	1981	R	1	0	1072	46	－	改修優先建物
32	救急集中治療棟	1987	R	4	0	2603	40	－	改修優先建物
12	保健学科西研究棟	1974	R	3	0	2122	53	26	改修検討建物
101	保健学科東研究棟	1986	R	5	0	4817	41	26	改修検討建物
33	医歯学総合研究科棟 4	1988	R	4	0	1474	39	－	改修検討建物
34	ヒトレトロウィルス学共同研究センター	1994	R	4	0	1290	33	－	改修検討建物
44	鶴陵会館	1996	R	2	1	1647	31	－	改修検討建物
104	共通教育棟	2002	SR	6	0	4223	25	－	改修検討建物

(5) イノベーション commons の全体イメージ

(1) ～ (4) の各種計画を進めるとともに、キャンパス軸を中心に各施設を有機的に連携させ、キャンパス全体のイノベーション commons 化を推進する。

ヒトレトロウイルス学共同研究センター

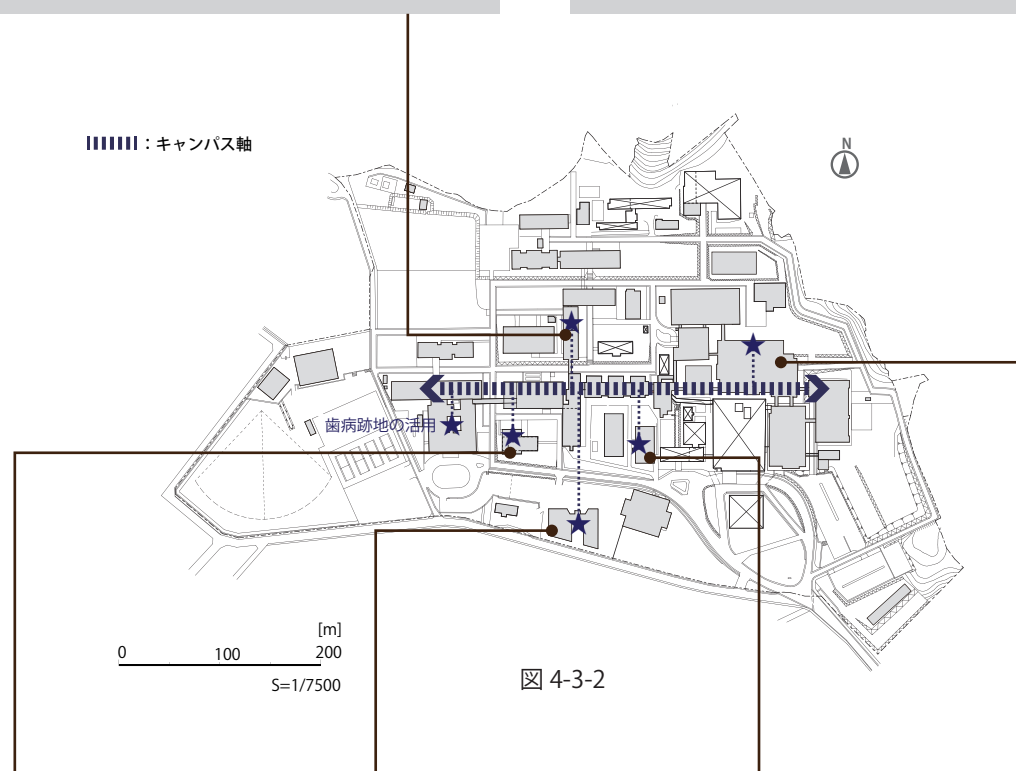


熊本大学と共同でウイルス学の研究・開発等を推進

大学病院



安心・安全・高度な医療の提供、地域中核的医療機関としての貢献



福利厚生施設（食堂等）



日常的な知的交流、人間力醸成の場

鶴陵会館



地域、産業界等との交流、情報発信の場

図書館



アクティブラーニングを促す空間

4-4. 下荒田キャンパス・アクションプラン

(1) 施設整備計画

- ・ 築後 25 年が経過し、機能劣化している建物の改修（経年 40 年以上を優先）。
- ・ 耐用年数を経過した、長寿命化が困難な建物または小規模建物（500 m²未満）については、取壊、集約等について検討を行う。

(2) 屋外環境整備計画

- ・ 施設整備に合わせ、建物と有機的に連携した外部パブリックスペースを整備。

(3) ライフライン整備計画

- ・ ライフラインの再生（受変電設備など）。

(4) 地域創成エリアの活用

- ・ 地域創成エリアでは、民間の資金やノウハウを活用した事業の検討を行う。



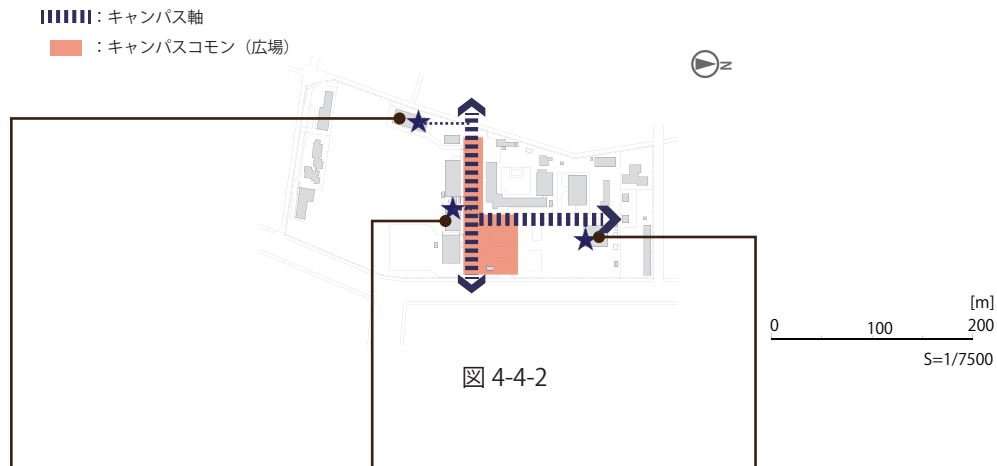
図 4-4-1

アクションプランリスト

棟番号	棟名称	建築年	構造	階数		建物面積	経年(2027時点)		アクションプラン
				地上階	地下階		築後	改修後	
81	変電室	1955	R	2	0	127	72	－	取壊・建替検討
82	実験・実習棟	1969	R	1	0	147	58	－	取壊・建替検討
72	サークル棟	1970	B	1	0	162	57	－	取壊・建替検討
83	ポンプ室	1971	B	1	0	16	56	－	取壊・建替検討
102	大型回流水槽実験棟	1986	S	1	0	197	41	－	取壊・建替検討
28	水産学部3号館	1976	R	2	0	800	51	－	改修優先建物
101	国際交流会館1号館	1979	R	4	0	1419	48	－	改修優先建物
64	水産学部6号館	1980	R	2	0	690	47	－	改修優先建物
29	水産学部4号館	1981	R	3	0	1303	46	－	改修優先建物
19	水産学部1号館	1953	R	3	0	4207	74	27	改修検討建物
103	国際交流会館2号館	1994	R	4	0	1260	33	－	改修検討建物

(5) イノベーション commons の全体イメージ

(1) ～ (4) の各種計画を進めるとともに、キャンパス軸を中心に各施設を有機的に連携させ、キャンパス全体のイノベーション commons 化を推進する。



イノベーションキッチン



図書館



実証ラボ



05

施設マネジメント

5-1. 実施体制

キャンパスマスタープラン実現のため、図 5-1-1 に示す施設マネジメントの運営組織を構築し、施設マネジメントを効率的で確実に実施するために、図 5-1-2 に示す施設マネジメントのPDCAサイクルを実行する。

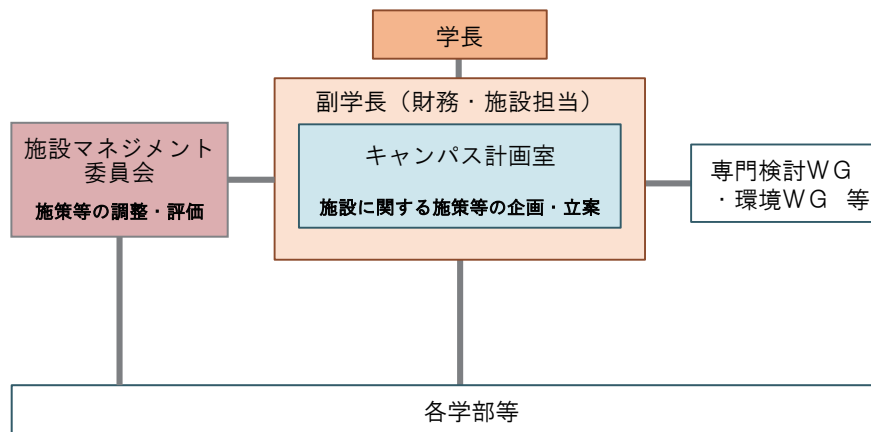


図 5-1-1 施設マネジメントの運営組織

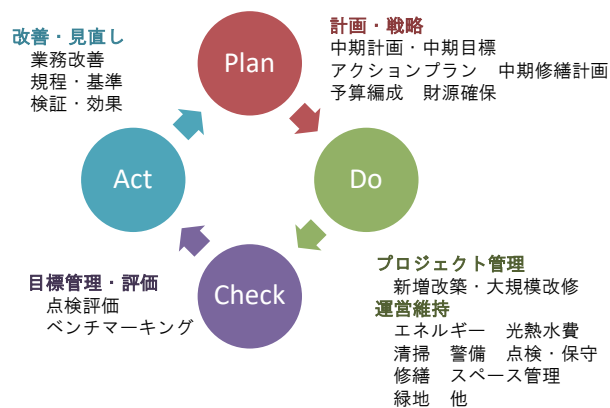


図 5-1-2 施設マネジメントのPDCA サイクル

5-2-2. スペースマネジメント

施設等の有効利用に関する規則に基づき、全学的に施設利用状況の一元管理を行い、施設保有量のバランスを見極めると共に、全学的視点に立った施設の有効活用の推進を図り、教育・研究等に必要となるスペースの再配分や適正化を推進する。

- (1) システムによる施設利用状況の一元管理
- (2) 現地調査による点検・評価
- (3) 弾力的・流動的なスペースの確保、再配分

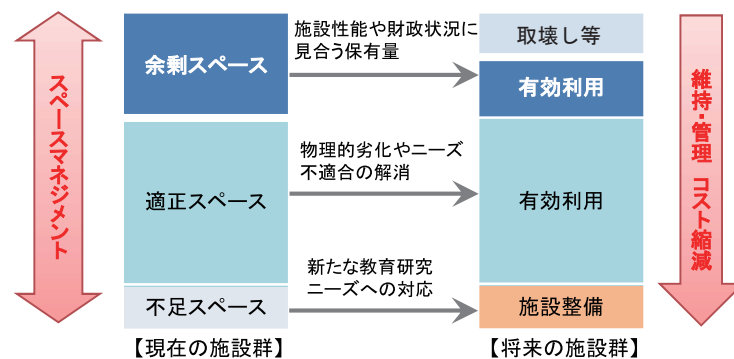


図 5-2-2 スペースマネジメントの戦略イメージ

5-2-3. コストマネジメント

クオリティマネジメント、スペースマネジメント及び環境マネジメントに要するコストを管理し、大学経営の視点から、費用対効果の向上、資産価値の維持を図る。

(1) 施設にかかるコストの平準化と適正な施設管理・運営に係る財源確保のシステムを構築

修繕履歴の一元管理とインフラ長寿命化計画の見直し等により施設にかかるコストの平準化を図るとともに、適切な施設管理・運営を可能とする安定的な財源確保も含めたシステムを構築する。

(2) 運営コストの効率化

保全業務の一元化など関連する複数の業務の一括委託などにより運営コストの効率化を図る。

(3) 施設整備費等の財源確保

国の予算情勢により施設整備費補助金は減少傾向にあるため、安定的な施設整備のため、PPPや寄付による整備、地方公共団体や企業等との連携による整備に加え、長期借入金制度を活用した整備など多様な財源を活用した施設整備の可能性も検討する。

5-2-4. 環境マネジメント

温室効果ガスの排出量の削減は、国の最優先課題となっており、地域に根ざし、社会の発展に貢献する知の拠点となることを目指している本学も、自らの課題として積極的に推し進める必要がある。環境先進キャンパスの実現を目指し策定した「鹿児島大学における地球温暖化対策に関する実施計画」などに基づき、継続的に省資源・省エネ及び地球温暖化対策の推進を図る。

(1) 地球温暖化に関する危機意識の啓発

学生・教職員に対する、地球温暖化対策・省資源に関する情報提供、危機意識の浸透及び自主的な行動の促進、地球温暖化対策などの環境教育

(2) 低炭素製品への買換

LED・エアコン・冷蔵庫・エコカーなどの省エネ製品の計画的な更新、高効率給湯器、節水型トイレ、建物の高断熱・高気密化

(3) 低炭素サービスの選択

公共交通の利用促進、低炭素物流サービスの購入、スマートメーターによる「見える化」

(4) 低炭素なライフスタイル転換

ライフスタイルチェック、クールビズ・ウォームビズ、エコドライブ・自転車利用、森里川海の保全・活用 等

(5) フロン類等の温室効果ガスの管理

冷蔵庫、空調機器等で使用されている冷媒ガスの適正管理の徹底、ノンフロン式の機器導入

5-2-5. 災害に強いキャンパス

災害に強いキャンパスづくりのため学内関係部署と協力の上、本学の学生、生徒、児童、園児、教職員及び患者等の生命・身体、施設等を災害から守り、教育・研究・診療機能の確保及び復旧を図るため、防災対策に関する必要な措置を講ずるとともに地域に対する社会的責任を果たす。

(1) 平時における災害への備え

- ・災害時に迅速に対応出来る災害マニュアルの構築
- ・防災訓練など防災活動の日常的な取り組み
- ・周辺地域と連携を考慮した防災、災害管理のための組織づくり

(2) 災害時における危機管理に対する対応

- ・災害発生時において、電気、ガス、水道、情報通信等のライフラインの確保及び復旧対応の体制の確立
- ・大学BCP、病院BCPに対応するための施設・設備整備
- ・災害時に備え地域の要望に応じた体制の確立

06

資料編

6-1. 鹿児島大学憲章

鹿児島大学憲章

鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にある。この地は、我が国の変革と近代化を推進する過程で、多くの困難に果敢に挑戦する人材を育成してきた。このような地理的特性と教育的伝統を踏まえ、鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざす。

■ 教 育 ■

鹿児島大学は、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、幅広い教養教育と高度な専門教育を行うとともに、地域の特性を活かした進取の気風を養う。

鹿児島大学は、真理を愛し、高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍しうる人材を育成する。

■ 研 究 ■

鹿児島大学は、個々の研究を重視するとともに、種々の学問分野における優れた研究者の連携により、21世紀を先導する研究者を育成する。

鹿児島大学は、地域の要請に応える研究を展開するとともに、普遍性を求める研究活動を推進し、世界水準の研究拠点をめざす。

■ 社会貢献 ■

鹿児島大学は、南九州を中心とする地域の産業の振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化の向上など、地域社会の発展と活性化に貢献する。

鹿児島大学は、アジアや太平洋諸国との連携を深め、研究者や学生の双方向交流および国際共同研究・教育を推進し、人類の福祉、世界平和の維持、地球環境の保全に貢献する。

■ 大学運営 ■

鹿児島大学は、学長のリーダーシップのもと、全構成員が運営に責任をもって参画することにより、教育研究環境の充実を図る。

鹿児島大学は、大学の自治を礎とし、常に自己点検・評価を行うとともに、外部からの意見を積極的に反映させ、透明性の高い公正な大学運営を行うことにより、社会への責任を果たす。

平成19年11月15日制定
(第58回鹿児島大学開学記念日)

6-2. 国立大学法人鹿児島大学の基本的な目標

第4期中期目標期間に向けた学長ビジョン

第4期中期目標（令和4～9年度）

鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にあるという地理的特性や我が国の近代化を支えた多くの人材を育ててきた教育的精神的伝統を踏まえた本学ならではの取り組みを推進することで、地域社会、我が国ならびに国際社会に貢献し、本学の全構成員、卒業生、地域が誇りとするような「進取の気風にあふれる総合大学」を目指しています。

第4期中期目標・中期計画期間においては、持続可能な社会の実現に向けて、引き続き南九州及び南西諸島の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化しつつ、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」とグローバルな視点を有する人材を育成し、「南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点」としての価値を高めるべく、以下の基本目標に取り組みます。

1. グローカル人材の養成に向けた教育改革

国際レベルの教育の質の担保を進め、多様な教育制度・入試制度を活用して一層の教育の国際化を図るとともに、グローバルな視点に基づき地域で活躍できる人材の育成に向け、地域との協働に基づく学びをさらに拡充し、地域特性を活かした体験型教育を推進します。また、総合大学としての強みを活かした文理横断的な学びを取り入れつつ社会の急激な変化も見据えた柔軟な教育体系を構築するとともに、学生への支援拡充等の教育改革に取り組み、「進取の精神」を備えた人材の輩出を目指します。

2. 大学の強みと特色を活かした学術研究の推進

食と安全、先進的感染制御、生物多様性、宇宙・天文、島嶼や環境等、大学の強みや地域特性を活かした研究分野の更なる発展に取り組みます。また、各種基金等を活用し、若手研究者や競争的資金の獲得が難しい基礎研究及び人文社会科学分野等への支援体制を充実するとともに、イノベーション創出を目指した先進的な分野融合型研究を推進します。

3. 地域課題に応える社会貢献、産学連携の推進

地域・産業界と連携し、地域課題に応じたりカレント教育プログラムの充実、火山対策をはじめとした地域の防災・減災に資する多様な活動、地域産業や自治体等が抱える課題の解決に取り組むとともに、研究成果の活用と社会実装を推進し、地域イノベーションの創出に取り組みます。また、島嶼や環境など、本学の特徴を活かした教育・研究・社会貢献を全学的に推進するための拠点を強化・充実させます。

4. 地域を支える質の高い医療の提供

先端的基础的研究から橋渡し研究の結果としての先進的医療を実践しつつ、離島へき地などの地域性を活かした実習・研修を行い、次世代の地域医療従事者育成に取り組みます。

5. 自己分析に基づく的確な組織整備と運営

学長のリーダーシップの下、大学のガバナンス改革を推進するとともに、IR体制や監査機能の充実を図り、自らをよく知り、評価結果を改革に活かすことで、効果的な組織整備や他機関との連携、効率的かつ健全な大学運営に取り組みます。

令和2年11月17日
大学運営会議決定

6-3. 入学者数の推移

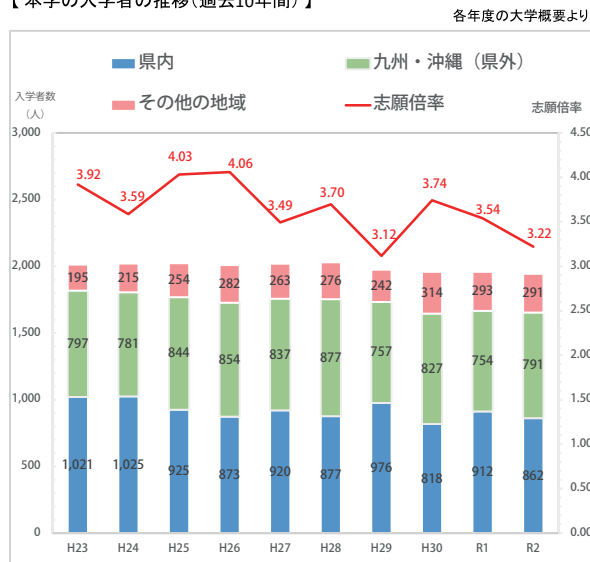
<現状・課題>

- ・全体入学者についてどの年度も定員割れしておらず、志願倍率について、九州の他大学と比べ同水準であるが、やや減少傾向にある。
- ・入学者の出身高校の構成が九州の他大学と比べ県内からの入学者数の割合が高い。
(R2 時点：他大学は 33% 程度に対して、本学は 44%)
- ・県内の 15-19 歳人口は減少傾向にあり 30 年後は約 2 万人減の予測

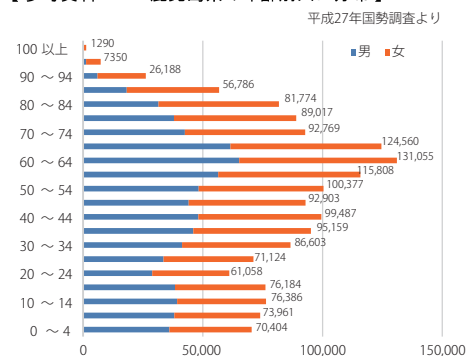
<検討の方向>

- ・県内人口が減るなかで優秀な学生を確保し続けるための入学定員の設定
- ・定員を維持する場合、県内の人口減少への対応（県外学生の確保、留学生定員の拡大）

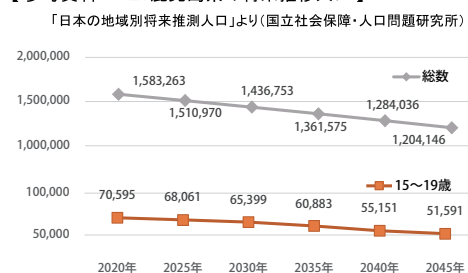
【本学の入学者の推移(過去10年間)】



【参考資料1-1:鹿児島県の年齢別人口分布】

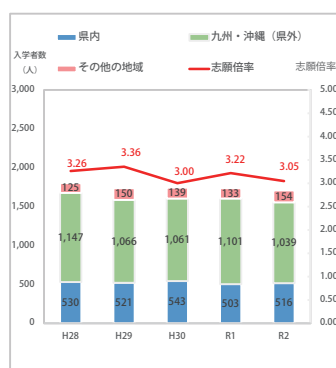


【参考資料1-2:鹿児島県の将来推移人口】

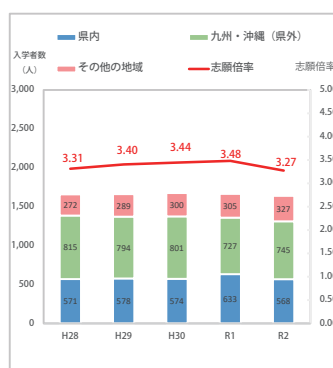


【参考資料2:他大学の入学者の推移】

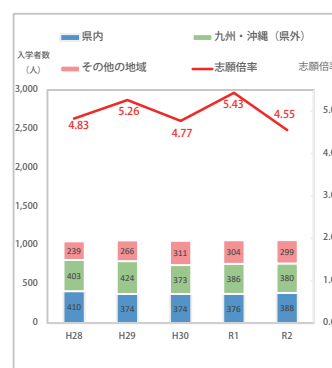
熊本大学



長崎大学



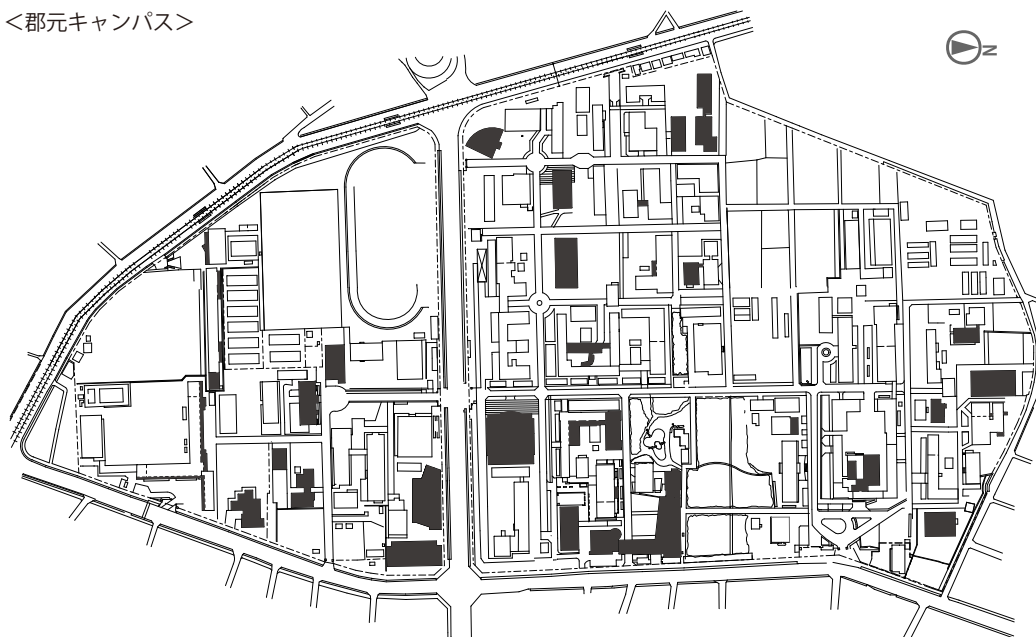
宮崎大学



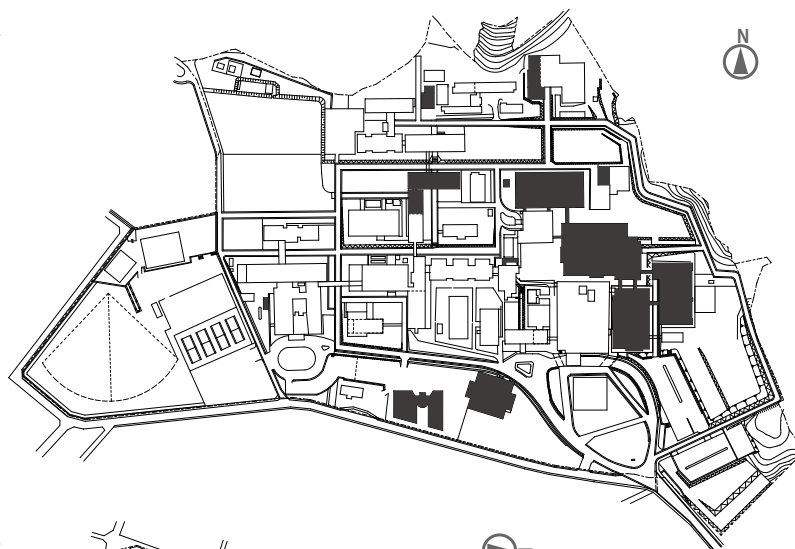
6-4. 50年後、経年80年未満の施設

50年後、経年80年未満のものに残る建物として機械的に整理。
 ただし、小規模建物（500㎡未満）は、50年後、耐用年数未満のものに残る建物とする。
 ゾーニング等検討基礎資料として、歴史的価値、建物構造種別等配慮せずに図示。

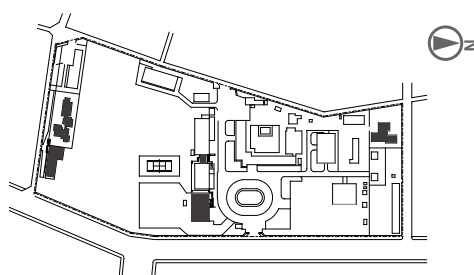
<郡元キャンパス>



<桜ヶ丘キャンパス>



<下荒田キャンパス>



0 100 200 [m]
 S=1/7500

6-5. 構成員等の意見

6-5-1. 部局等からの意見

大学憲章、中期目標及び大学改革プラン等を踏まえたキャンパスに関する部局からの意見について

項目	意見
キャンパスのあるべき姿・求めること	1. 全般
	南九州・南西諸島地域の知の中心拠点としての役割と機能 → 地域社会の中核を担い、地域が抱える課題の解決に挑戦する人材の育成
	2. 質の高い教育研究環境の確保
	効率的に教育・研究に取り組める環境であること。
	3. 学習支援環境の充実
	-
	4. 連携拠点の形成
	交流促進により新しいことが創発される郡元キャンパス
	学内の専門分野を越え、学内の人材と地域の様々な分野の人が交流することを促進したい。
	ギャラリースペースやイベントスペース、インフォメーションセンターを学内の研究者や学生が普段集まる場所に併設し、学内外に対し日常的に、ふとした瞬間目に留まる発信を増やす。（市内各種イベントの会場としても運用することで地域連携も促進）
	さらにコワーキングスペースとアカデミックcommonsを併設することで産官学連携や学生の起業支援を促す。
	地方国立大学の中でもトップクラスの交通アクセスの良さを活かした地域交流と社会貢献 → 地方自治体や産業界との連携、協働による教育研究活動の推進と活発化 → 知的空間を地域住民と共有し、交流することができるキャンパスづくり
	障害がある人となない人が、地域の中でお互いを尊重しながら生活する「共生社会」の実現に向けて、作業製品等を販売したり、高等部生徒が接客サービスの学習を行ったりすることができる「ふとくカフェ（仮称）」を正門付近に設置することで、大学の特別支援教育への取組の充実や地域に開かれた地域貢献の実現を目指したい。ただし、児童生徒の安全を十分に確保できるようにすることが必須である。
	キャンパスのセキュリティを維持しつつ、地域住民の訪問、往来を妨げないこと
	災害時には地域住民の避難場所となり得ること。
	地域に開かれたキャンパス環境を構築するために、建物の高層化を進めて、いくつかの建物を集約させて生まれたスペースを、学生や教職員が、市民・県民も共用できる緑地・公園スペースを拡大させるのが良いと思う。学生が密にならずにコミュニケーションがとれる、憩いの屋外スペースを拡大させる必要があると考える。
	例えば、中央食堂、保健管理センター、情報管理センター、社会連携センター、埋蔵センター等の機能を一施設に集約し、学会や研修会等に使用できる複数の多目的スペースを備えた施設を整備され、学内外で利用されるのが望ましい。
	学外者も利用できるコンビニエンスストアやファストフードのフードコートを中心図書館に併設して教育資源（資産）をより利用し易くし、さらに来訪者への小宿泊施設が整備されると良い
	5. 景観の形成（大学らしさ）
	-
	6. 地球環境への配慮
	緑地の維持：鹿児島市は、市街地に緑が少ないと言われており、大学は貴重な緑地を提供している。
	7. 健全な環境の配慮
	-
	8. 多様な利用者に対する配慮
	車いすでの建物間の移動のしやすい路面や、段差のない通路の設置。 ダイバーシティの推進及びSDGsの理念に基づき持続可能かつバリアフリーなキャンパス環境を整えるため、施設の新設時や改築時には障害者やバリアフリー環境専門家の意見等を踏まえ検討する必要があると考える。
	9. 安全性に対する配慮
	教育・研究・社会貢献・国際交流を問題なく行える安全で開かれたキャンパス。
	構成員および周辺住民に対して安全、安心を提供できること。 （有害物質の基準値を超過した排出を防止する設備、危険物を適切に管理する設備）
	また、学内環境のみならず大学付近の周辺環境の整備も重要で、特に大学周辺歩道の照明が不足していることについては、事故・事件の防止の施策としても必要と考える。

大学憲章、中期目標及び大学改革プラン等を踏まえたキャンパスに関する部局からの意見について

項目	意見
全学的視点から見たキャンパスの問題、部局等の将来構想を実現する上での施設・土地利用の課題	1. 全般
	九州・沖縄地区の国立大学と比較すると、中心市街地の一等地にあるキャンパスであると言え、居住環境や学習環境としては申し分ないと思われるが、立地的条件の良さが県外の人、特に受験生に対しての広報が十分にはなされていないように思われる。
	うまく活用されていない土地が所々あることに気付かされる。建物内の有効活用がパトロールされているように、建物外の土地スペースの活用についてもパトロールがされ、部局において使用・管理がうまく行われていないスペースは全学管理して、貸地化する等の制度があるのが望ましい。キャンパス内の土地利用を再考する必要がある。
	2. 質の高い教育研究環境の確保
	・研究室、実験室、講義室が一つの建物内に混在しているので、敷地外縁部に講義棟、その内側に研究室棟、さらに中心部へ実験棟を配置するなどの工夫が必要。
	3. 学習支援環境の充実
	-
	4. 連携拠点の形成
	複合的な交流創発の欠如：学外の人を訪れる可能性が高い博物館やインフォメーションセンターが分散しており、また、それらの場所は学生や学内の研究者が頻繁に訪れる場所ではない。さらに、学内の研究や教育の成果を発信する場がキャンパスに乏しい。
	災害支援からみた地域貢献 ・市内にこれだけの敷地建物を有しているわりに災害時の避難施設としての提供機能がない。
	地域交流のための、学外者に対する入構ゲートから建物までのルートのわかりづらさ（掲示の工夫か、通路上の表記等）。
	鹿児島市民を対象にしたイベントを実施する際に、来訪者用駐車場が必要（鹿児島市中心部以外は、公共交通機関が未発達。多くの市民は自家用車を利用している）。
	屋外でのコミュニケーションスペースや、動物と人が共有できるスペースが不足している。学生が外でくつろいだり、あるいは市民が愛犬をつれて散歩したり、学生が乗馬を引いて歩いたりできる広い緑地があるのが望ましい。周辺の公園施設（上荒田の杜公園）との連結を考え、市民と共有する「憩いの場」を考える。そのために、建物の高層化を進める。現有のいくつかの建物を集約させて生まれたスペースを市民・県民と共用する。例えば、農獣医共通棟に研究棟A・Bを統合した高層施設を整備して、現在の研究等A・Bの部分は、緑地化する。同じく、研究棟Cに研究棟Dを集約させて、現在の研究棟Cのスペースも緑地化する。緑地の1区画には、馬場（現在交通量の多い道路に面している）を移設して、現在の馬場を駐車スペースとして活用する。
	5. 景観の形成（大学らしさ）
	-
	6. 地球環境への配慮
	樹木の数と維持管理費用のバランスが必要

大学憲章、中期目標及び大学改革プラン等を踏まえたキャンパスに関する部局からの意見について

項目	意見
全学的視点から見たキャンパスの部局等の将来構想を実現する上での施設・土地利用の課題	7. 健全な環境の配慮
	附属特別支援学校が、立地的に郡元キャンパスから離れているため、認識されにくい状況である。学校の表示等をマスタープランで挙げられているように、郡元キャンパス等と同等の表示により、地域等へ鹿児島大学の附属学校としての位置づけを周知することが課題であるとする。
	キャンパスマスタープランの「低層エリア」とは建物の高さをどの程度に制限するのか明記されていない。「郡元キャンパス・フレームワーク」の図によると、図書館が低層エリアにかかっているが、図書館を建て替える計画になっているのか？」
	垣根や壁等の外部との敷地境界をなくして開放的な外観とする。キャンパス内の主要な通りの樹木は剪定され景観を良くしているが、植物園はキャンパス内の緑地整備の中心部分として整備・管理をより十分に行うのが良い。郡元キャンパスの北及び西側の垣根等の老朽化が目立っており、キャンパス敷地から外部派生する樹木は剪定が必要である。
	学内の交通量が多い。キャンパス中心部の駐車スペースが多いことによると考えられる。教職員学生の駐車場は、建物までの距離に配慮することなく、各地区に1～2箇所に限定し、歩行者保護、車両の走行速度制限を徹底する。
	キャンパス敷地のほぼ中央に生協の食堂が位置しているが、食事に適した周辺環境に配慮が必要である。
	動物病院へのアクセスが非常に悪いため、大学正門から動物病院までのルート、あるいは北側通用口の利用について再検討する。附属動物病院の周辺が住居密集地区であり、訪問者の病院へのアクセスを良好にするためにも、建物周辺をオープンにして、長期的には幹線道路に面したスペースへの移転が望ましい。
	8. 多様な利用者に対する配慮
	新幹線～市電を主要なアクセス手段とするなら、現在の正門の位置は不適切。
	Kagoshima Universityから始まる英語表記の銘板や、施設・部屋名の英文掲示等が少なく、海外からの訪問者と記念写真を撮る場所等が少ない。また海外からの訪問者が目的地にたどり着くのに困る。
	9. 安全性に対する配慮
	現在、実習地の名残で高木が多く存在するが、大規模災害の際には、倒木等による電線の切断や近隣家屋への損害、正門や裏門の通行不能の状況が想定される。植栽等の大規模な変更による環境整備が望まれる。
	大学には、大量の危険物（化学薬品）が存在し、その在庫管理は、薬品管理システムで行われているものの、消防法上管理が必要な薬品を保管するための危険物倉庫そのものの管理は部局単位になっています。危険物倉庫の老朽化などが懸念されますが、おそらく大学として一括した状況把握はできておらず、各部局においては、そのような施設の改修は予算的にも困難で、後回しになっていることも考えられます。全学的な視点から、危険物倉庫の状況を調査し、必要な対応を全学レベルで考える必要があるように思われます。
	キャンパス内道路で夜間の照明が不十分で、歩行等に危険が伴う場所が散見される。 南九州・南西諸島域共創機構棟の周辺においては東側の通路や北側駐輪場周辺が該当する。
	緑化の推進、木々の生態を考慮した管理に加え、増加する枯木・老木の植え替え、自然災害による倒木の可能性（危険性）があるものの除去、将来的な維持管理費用の抑制なども考慮した大学全体の緑化整備（更新）計画が必要ではないか。 特にワシントンヤシについては、郡元キャンパスデザインガイドライン等において、現在のワシントンヤシの継承と延長が基準として示されているが、現時点でデザインガイドライン策定時の高さ12mをはるかに超えているものもあり、枝葉の落下による危険性（人的被害）の増大、維持管理費用の増加等、年々リスクが大きくなっている。 また既に幹割れているものもあり、高さが20mを超えると自然枯死や台風等に耐えられず倒木する危険性も生じるため、低木や伸長の遅いヤシに植え替えるなど、大学全体での検討が必要と考える。

6-5-2. 学外からの意見

学外ヒアリング

商工会議所	
全体	ネーミングライツ制度は、学生に地元企業を知ってもらう（リクルート活動ができる）いい機会である。
	産業界等と交流ができる稲盛記念館はありがたい。外部も利用できる施設を増やし、交流を進めてほしい。
	歩車分離も重要だが、来賓や車いすでの利用等も考慮し、交流施設等には車寄せを設けてほしい。
	キャンパスが広く、わかりづらい面がある。銅像等の歴史的資源がランドマークとなるよう、碑文等も充実させるとよいのではないか。
	留学生の数からしても、国際交流において、鹿児島大学の担う役割は大きいので、国際交流をどんどん進めてほしい。
	都市部へ人材が流出している。地元企業との交流の場を増やすなど、学生に地元企業を知ってもらい、地元の産業振興に資する人材になってほしい。
周辺地域町内会	
郡元・下荒田	学食が一般人も利用できる事。
	学内がきれい。
	最近、高麗本通沿いのバイク置き場が整備された事。
	学生の自転車走行のマナーが悪い人がいる。スマホを見ながらや、夜の無灯火。
	実際、近隣で交通事故等が発生しているので注意喚起をお願いします。
	大学というよりも、学生さんは昔と比べておとなしく感じます。もう少し元気が欲しいですね。でも、優しい学生さんが増えたような気がします。
	騎射場の電停から法文学部に向かう通りを通学時、道路いっぱい横に並んで歩いたり、自転車が通行しているようです。少し改善して頂ければ有難いです。
	地元の焼酎業界と結びついて活動しているなど、愛飲家としてはうれしい限りです。また、水産業界との「共創」も進めてもらいたい。（焼酎の肴は魚に限ります。アミノ酸のバランスもいい。）
	町内会の立場でお話しますと、県外から来ている学生を町内会でサポートしていきたい。例えば大規模災害時において離れた親御さんが子供の安否を心配すると思う。その時に町内会に入っていれば、我々が安否を確認ができる。ぜひ、学生と町内会との接点を設ける仕掛けをしてほしい。
	町内会に興味がある学生の掘り起こしをお願いしたい。
桜ヶ丘	住まう近くに大学病院が立地することにより、団地の知名度UPにつながっている。
	病院関係者（医師）が複数居住されており、町内会等で医療についてのアドバイス等が頂けて助かっています。
	医学部関係者の住まいとして物件オーナー様への貢献は大きいと思っています。
	一般診療ができないこと
	勤務者が通勤退勤で近道狭小道路を利用され、離合で渋滞が発生する時がある。
	大学関係者（特に医学生）によるごみ出しルールが守られず大変困っている。
	敷地内を含めて全て禁煙の為、道路向かいのスーパー桜ヶ丘店喫煙ブースにての喫煙者が多く異常さを感じる。駐車場科の公民館周辺でもタバコの吸い殻、空き缶等が放置され処置が大変で迷惑でした。タイヨー桜ヶ丘店様の計らいで警告書が掲示されて現在は改善されている。病院関係者の住まい周辺でも同様な状況と聞いております。
	郡元キャンパスはいいとしても、桜ヶ丘キャンパスは交通アクセスが悪い。乗り換えなしで直行便を増やせないかと、遠方の人が言っています。
	周辺居住者において急を要する病に関しては、何らかの方法で診療ができないものか？
	団地に居住される方はそれぞれの町内会に入会され、ごみステーション等の清掃にも参加して頂き（一部免除有）、快適で住みやすい環境づくりに寄与して頂くことは、日本人であれば当たり前ではないでしょうか？当地に家を建て一生住む皆さんの気持ちも察していただきたいと思います。

6-5-3. 全学 Web アンケート

調査対象：学生・教職員
実施期間：R2.11.5～11.30

キャンパス環境に関するアンケート回答状況

部局等	回答者数												割合
	学部 1年生	学部 2年生	学部 3年生	学部 4年生	大学 院生	小計	教員	事務・ 技術 職員	病院職員	その他	小計	総計	
法文学部	30	24	18	15	38	125	31	20			51	176	8%
教育学部	30	34	32	47	15	158	45	25			70	228	10%
理学部					18	18	25	9			34	52	2%
工学部	84	65	64	61	97	371	48	30			78	449	21%
医学部	69	60	35	53	39	256	75	37	1	39	152	408	19%
歯学部	13	9	15	19	12	68	30	7		14	51	119	5%
農学部	51	37	31	25	0	144	32	20			52	196	9%
水産学部	6	8	2	9	3	28	25	15			40	68	3%
共同獣医学部	10	5	9	3	0	27	15	6		7	28	55	3%
附属学校						0	11	1		1	13	13	1%
大学病院						0	11	38	32	5	86	86	4%
事務局						0	1	171		6	178	178	8%
各センター 図書館等					2	2	63	77		2	142	144	7%
総計	293	242	206	232	224	1,197	412	456	33	74	975	2,172	100%

<参考> 前回（2014年）アンケート回答数 計1,584人

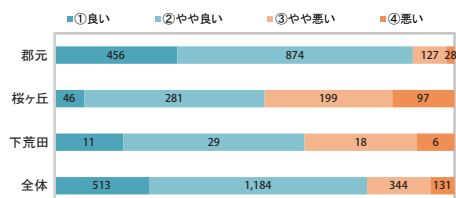
性別・国籍・キャンパス別回答状況

		回答 者数	割合
性別	男	1,178	54%
	女	989	46%
	その他	5	0%
国籍	日本	2,136	98%
	日本 以外	36	2%
キャンパス	郡元	1,485	68%
	桜ヶ丘	623	29%
	下荒田	64	3%

＜キャンパスの印象＞

～ 2020 年実施分～

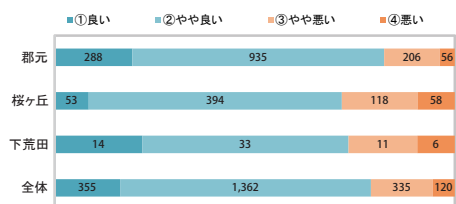
1. キャンパスの美しさについて



(やや悪い理由・悪い理由：回答数 410)

- ・建物が古い。
- ・清掃が悪い。汚い。
- ・緑地の維持管理が不十分。
- ・広場、道路の維持管理が不十分。
- ・建物に統一感がない。
- ・ゴミ箱、看板が景観を損ねている。
- ・緑地、広場が少ない。

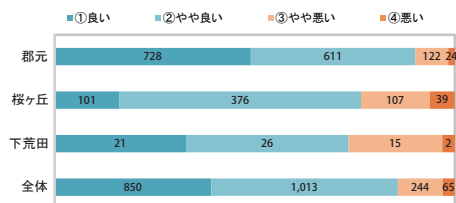
2. 歴史・伝統について



(やや悪い理由・悪い理由：回答数 360)

- ・歴史・伝統を感じない。
- ・どれが歴史があるのか分からない。
- ・古いだけ（維持管理が不十分）。
- ・シンボルがない。少ない。
- (博物館、植物園、玉利池、鶴陵会館、記念碑くらいしかない)

3. 緑・自然について

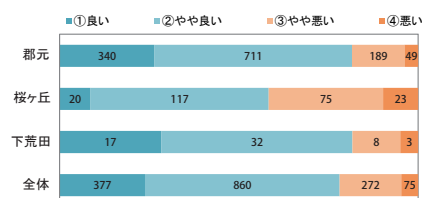


(やや悪い理由・悪い理由：回答数 269)

- ・緑が少ない。
- ・緑地の管理・剪定が不十分。
- ・銀杏の実が臭い、汚い。
- ・ワシントヤシが高く、落葉や倒木が心配。
- ・統一性を感じられない。
- ・芝生が少ない。

～ 2014 年実施分～

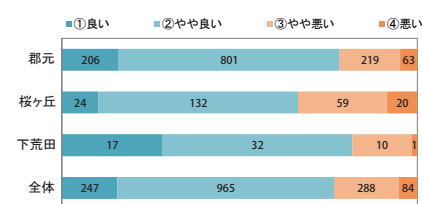
1. キャンパスの美しさについて



(やや悪い理由・悪い理由：回答数 304)

- ・建物が古い。
- ・清掃が悪い。汚い。
- ・トイレが汚い。
- ・マナーが悪い。
- ・火山灰による汚れ。
- ・建物に統一感がない。
- ・駐車・駐輪状況
- ・緑が少なくなってきた。

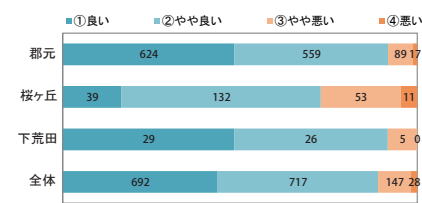
2. 歴史・伝統について



(やや悪い理由・悪い理由：回答数 282)

- ・歴史・伝統を感じない。
- ・古いだけ。
- ・新しい建物が多い。
- ・シンボルがない。
- ・稲盛会館・博物館・植物園くらいしかない。

3. 緑・自然について

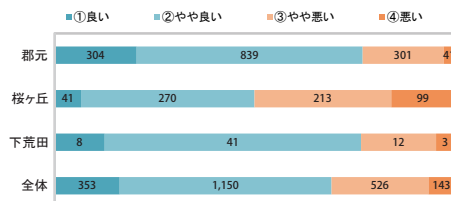


(やや悪い理由・悪い理由：回答数 146)

- ・緑が少ない。
- ・銀杏の臭いがきつい。
- ・緑地の管理・剪定が不十分。
- ・芝生が少ない。
- ・アスファルトが多い。
- ・緑が減少してきている。

～ 2020 年実施分～

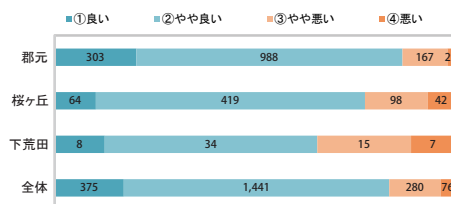
4. 分かりやすさについて



(やや悪い理由・悪い理由：回答数 556)

- ・分かりにくい。
- ・案内表示が不十分、統一されてない。
- ・案内板が少ない。
- ・外部の人によく道を聞かれる。
- ・建物名称が分かりにくい。
- ・建物に統一感がない。
- ・英語標記が不十分。
- ・ランドマークとなるものが少ない。

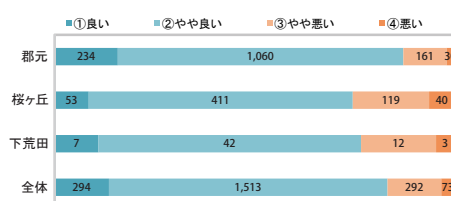
5. 地域交流・情報発信の場について



(やや悪い理由・悪い理由：回答数 246)

- ・大きめの講堂・集会施設がない。
- ・利用しづらい。
- ・案内板が少ない。
- ・地域交流に活用されてない。
- ・建物に統一感がない。
- ・どの建物かわからない。知らない。
- ・情報発信が不十分。

6. 国際化対応について

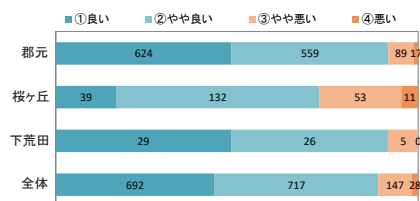


(やや悪い理由・悪い理由：回答数 252)

- ・英語標記がほとんどない。
- ・英語以外（中国語、韓国語など）の標記もしてほしい。
- ・国際化をほとんど感じない。
- ・和訳、英訳が不適切。

～ 2014 年実施分～

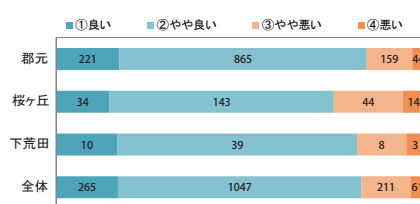
4. 分かりやすさについて



(やや悪い理由・悪い理由：334)

- ・案内表示が不十分・統一されていない。
- ・分かりにくい。
- ・外部の人によく道を聞かれる。
- ・建物名称が分かりにくい。統一性がない。
- ・英語標記が不十分。

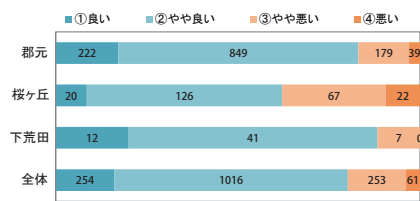
5. 地域交流・情報発信の場について



(やや悪い理由・悪い理由：172)

- ・大きめの講堂・集会施設がない。
- ・地域交流に活用されていない。
- ・利用しづらい。
- ・建物が分からない。

6. 国際化対応について

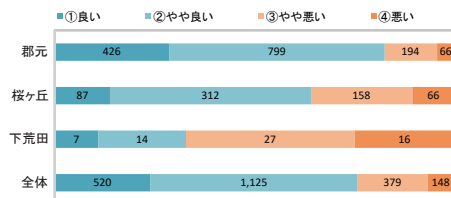


(やや悪い理由・悪い理由：回答数 194)

- ・英語標記がほとんどない。
- ・国際化を感じない。
- ・不十分。

～ 2020 年実施分～

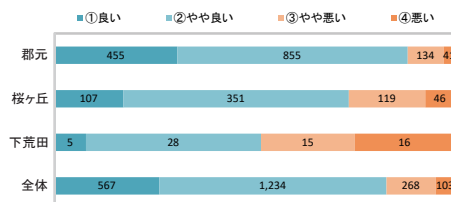
7. 福利厚生施設（食堂・売店）について



(やや悪い理由・悪い理由：回答数 453)

- ・メニュー、商品が少ない。値段が高い。
- ・狭い。席数が少ない。
- ・営業時間が短い。
- ・外部の人によく道を聞かれる。
- ・多様なテナント（外食産業、コンビニ等）が入ってほしい。
- ・施設が古い。汚い。
- ・立地が悪い（遠い）。

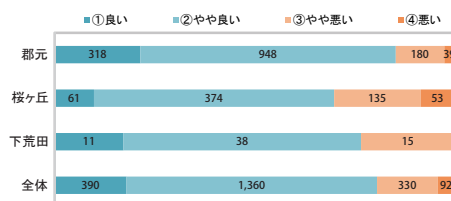
8. バリアフリーについて



(やや悪い理由・悪い理由：回答数 294)

- ・エレベーターがない。狭い。
- ・和式が多い。多目的トイレが少ない。
- ・段差が多い。
- ・自動ドアが少ない。ドアが使いづらい。
- ・道が狭い。廊下が狭い。

9. 防犯対策について

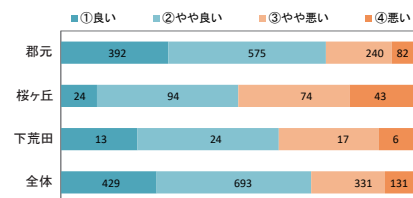


(やや悪い理由・悪い理由：回答数 319)

- ・外灯が少ない。
- ・キャンパス内、棟内に誰でも入れる。
- ・盗難・盗撮が多い。
- ・防犯カメラが少ない。

～ 2014 年実施分～

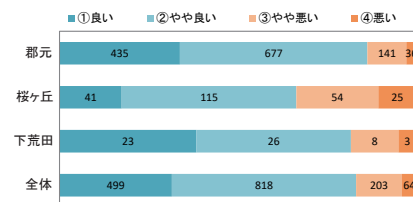
7. 福利厚生施設（食堂・売店等）について



(やや悪い理由・悪い理由：回答数 380)

- ・狭い。座席数が少ない。
- ・開店が遅い。営業時間が短い。
- ・メニュー・商品が少ない。
- ・昼食時に混雑する。

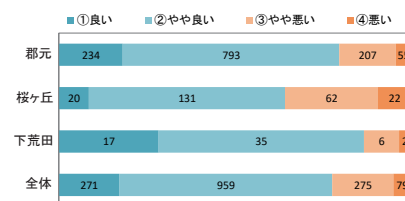
8. バリアフリーについて



(やや悪い理由・悪い理由：回答数 193)

- ・エレベーターがない。
- ・多目的トイレがない。
- ・スロープが無いところが多い。

9. 防犯対策について

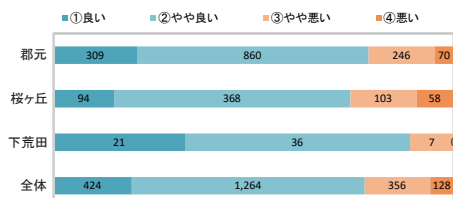


(やや悪い理由・悪い理由：回答数 231)

- ・外灯が少ない。暗い。
- ・盗難が多い。
- ・防犯カメラがない。
- ・誰でも入れる。

～ 2020 年実施分～

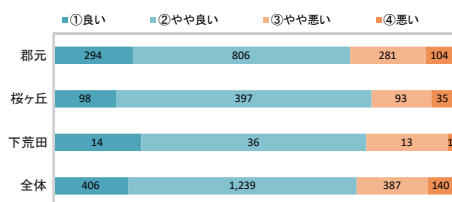
10. キャンパス内の交通ルールについて



(やや悪い理由・悪い理由：回答数 377)

- ・自動車・自転車のスピードが出ていて怖い。
- ・自転車の利用者のマナーが悪い。
- ・車・自転車・歩行者が混在し、危険。
- ・歩道と車道の区別が分からない。
- ・迷惑駐車・駐輪が多い。
- ・自動車の進入禁止エリアを増やして欲しい。
- ・(郡元) 中央図書館前が混雑し、危険を感じる。

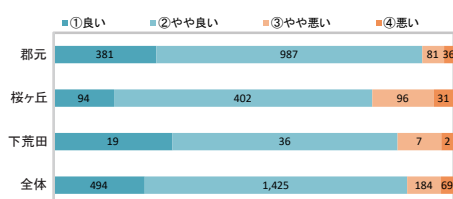
11. 駐車場・駐輪場（自転車）について



(やや悪い理由・悪い理由：回答数 422)

- ・駐輪マナーが悪い。
- ・駐輪場が少ない。
- ・駐輪場に屋根をつけてほしい。
- ・放置自転車が多い。
- ・どこにあるのか分からない。

11. 駐車場・駐輪場（バイク）について

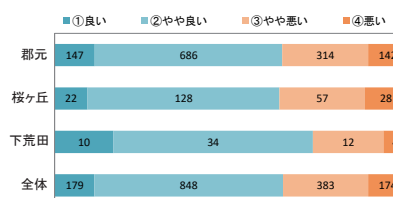


(やや悪い理由・悪い理由：回答数 178)

- ・駐輪場に屋根をつけてほしい。
- ・駐輪マナーが悪い。
- ・駐輪場が少ない。
- ・バイクと自転車をもっとはっきり分けてほしい。
- ・どこにあるのか分からない。

～ 2014 年実施分～

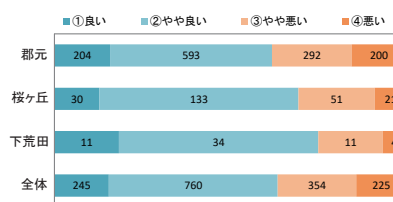
10. キャンパス内の交通ルールについて



(やや悪い理由・悪い理由：回答数 381)

- ・自動車がスピードを出してこわい。
- ・自動車の進入禁止エリアを増やしてほしい。
- ・自転車のマナーが悪い。
- ・交通量が多く、危険。
- ・休み時間の混雑がひどい。
- ・キャンパス内に自動車が多い。
- ・図書館前の入口が混雑する。
- ・歩道と車道の区別が分からない。

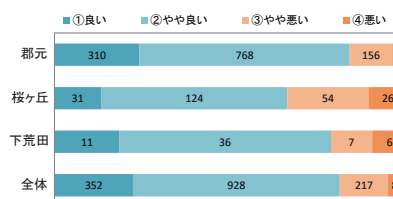
11. 駐車場・駐輪場（自転車）について



(やや悪い理由・悪い理由：回答数 526)

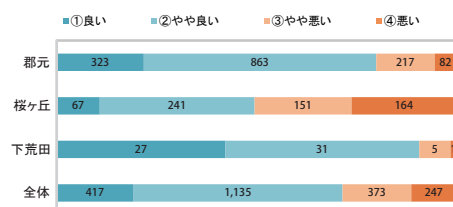
- ・駐輪場が少ない。
- ・講義棟の近くに駐輪場が少ない。
- ・自転車の駐輪マナーが悪い。
- ・放置自転車が多い。
- ・路上駐車が多い。

11. 駐車場・駐輪場（バイク）について



～ 2020 年実施分～

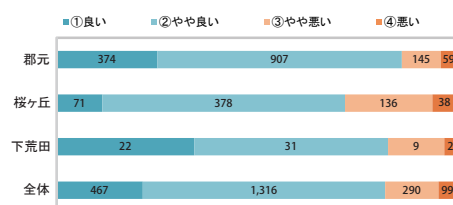
1 1. 駐車場・駐車場（自動車）について



(やや悪い理由・悪い理由：回答数 530)

- ・駐車場が少ない。狭い。
- ・駐車場が凸凹で水たまりができる。区画線が消えている。
- ・迷惑駐車が多い。
- ・外周部にまとめて配置してほしい。

1 2. キャンパス敷地外の環境について

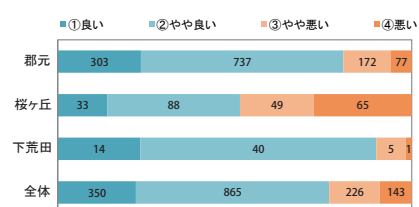


(やや悪い理由・悪い理由：回答数 303)

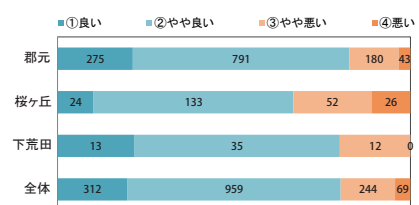
- ・外灯が少ない。暗い。
- ・たばこのポイ捨てがひどい。
- ・段差が多く、歩道が凸凹している。
- ・正門付近の作りが悪く、危険を感じる。

～ 2014 年実施分～

1 1. 駐車場・駐車場（自動車）について



1 2. キャンパス敷地外の環境について

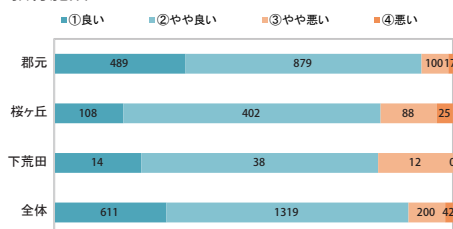


(やや悪い理由・悪い理由：回答数 213)

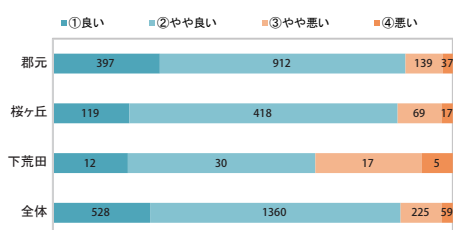
- ・外灯が少なく、暗い。
- ・段差が多く、歩道も凹凸が多い。
- ・道が狭い。
- ・大学病院の入口の信号が分かりづらい。

～ 2020 年実施分～

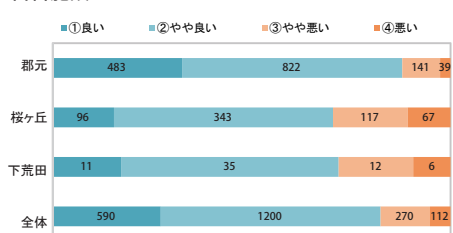
教育施設



研究施設



自習施設

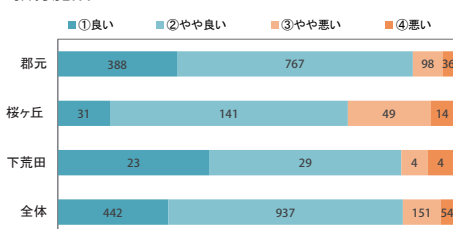


(やや悪い理由・悪い理由：回答数 291)

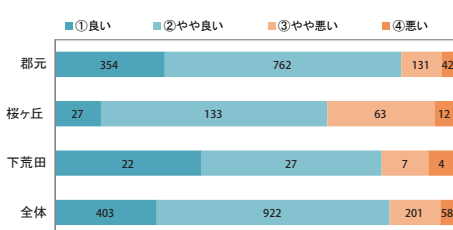
- ・自習スペースが少ない。
- ・利用できる時間が短い（24 時間使えない）。
- ・コロナで使用制限がかかっていて使えない。
- ・無線 LAN がつながらない。遅い。

～ 2014 年実施分～

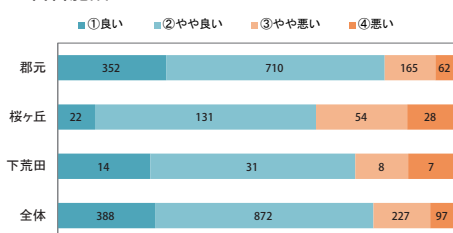
教育施設



研究施設



自習施設

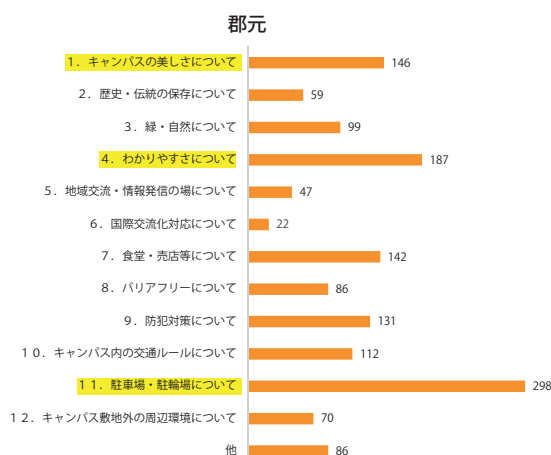


(やや悪い理由・悪い理由：301)

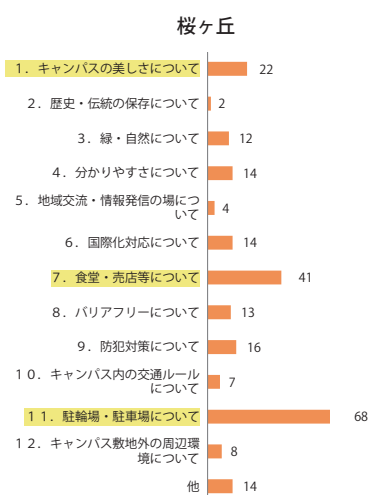
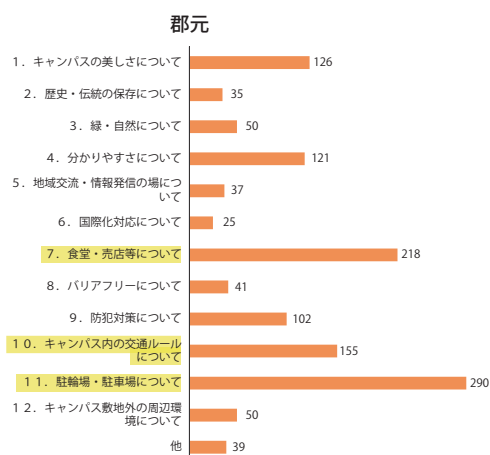
- ・自習スペースが少ない。
- ・狭い・汚い。
- ・24 時間使える勉強場所がない。
- ・図書館が閉まるのが早い。

<改善してほしい項目>

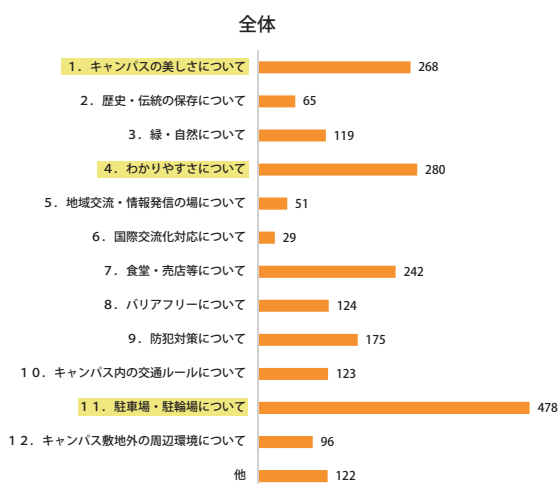
～ 2020 年実施分～



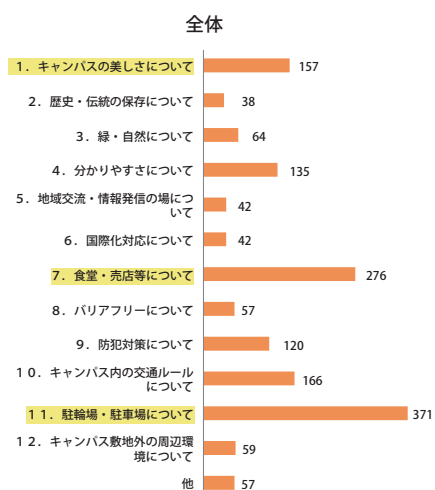
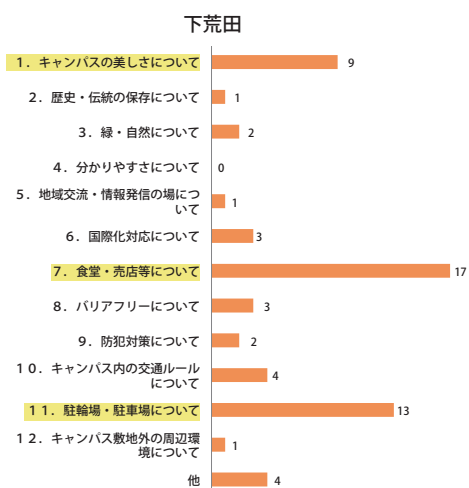
～ 2014 年実施分～



～ 2020 年実施分～



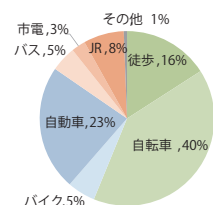
～ 2014 年実施分～



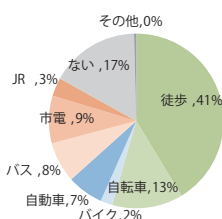
＜キャンパス毎の状況＞
～郡元キャンパス～

～ 2020 年実施分～

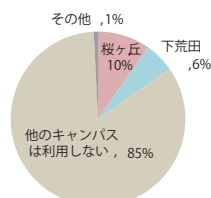
主な通学・通勤手段について



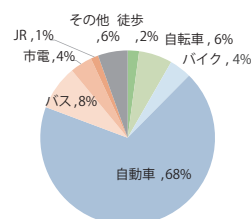
2 番目に多い通学・通勤手段について



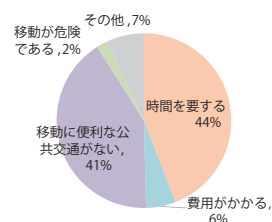
キャンパス間の移動先



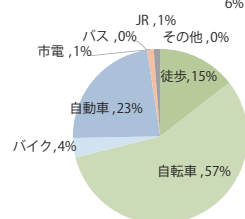
キャンパス間の移動手段
(→桜ヶ丘)



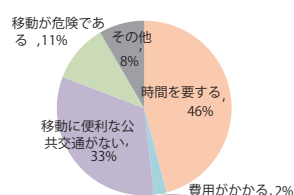
キャンパス間の移動の問題点
(→桜ヶ丘)



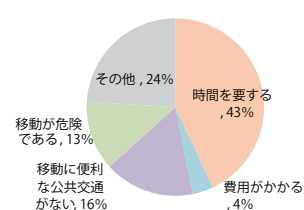
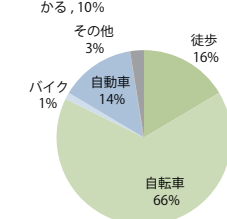
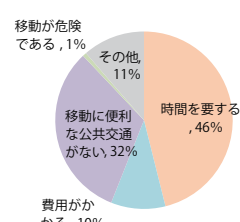
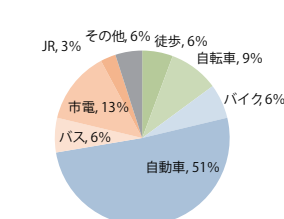
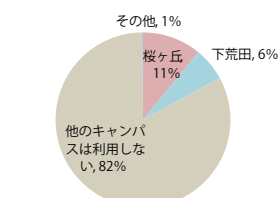
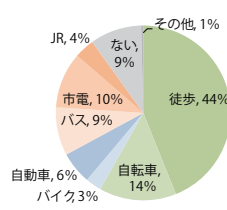
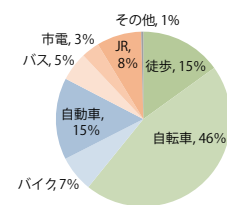
キャンパス間の移動手段
(→下荒田)



キャンパス間の移動の問題点
(→下荒田)

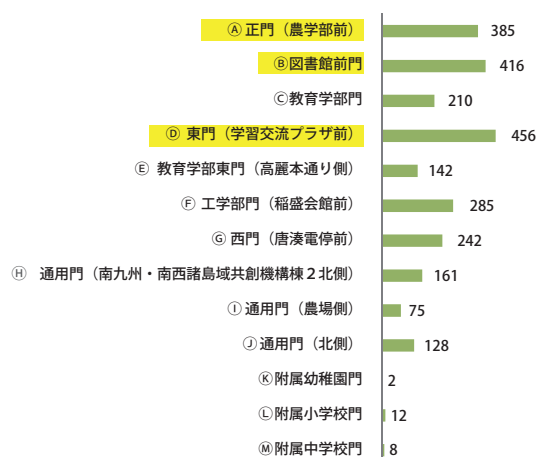


～ 2014 年実施分～

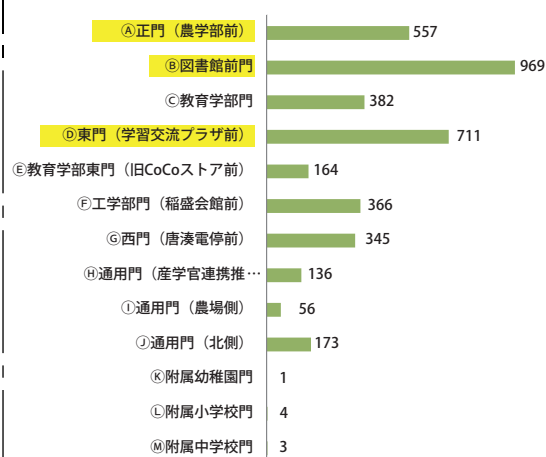


徒歩・自転車の時によく利用している門

～ 2020 年実施分～

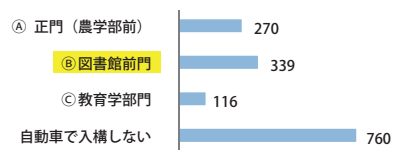


～ 2014 年実施分～

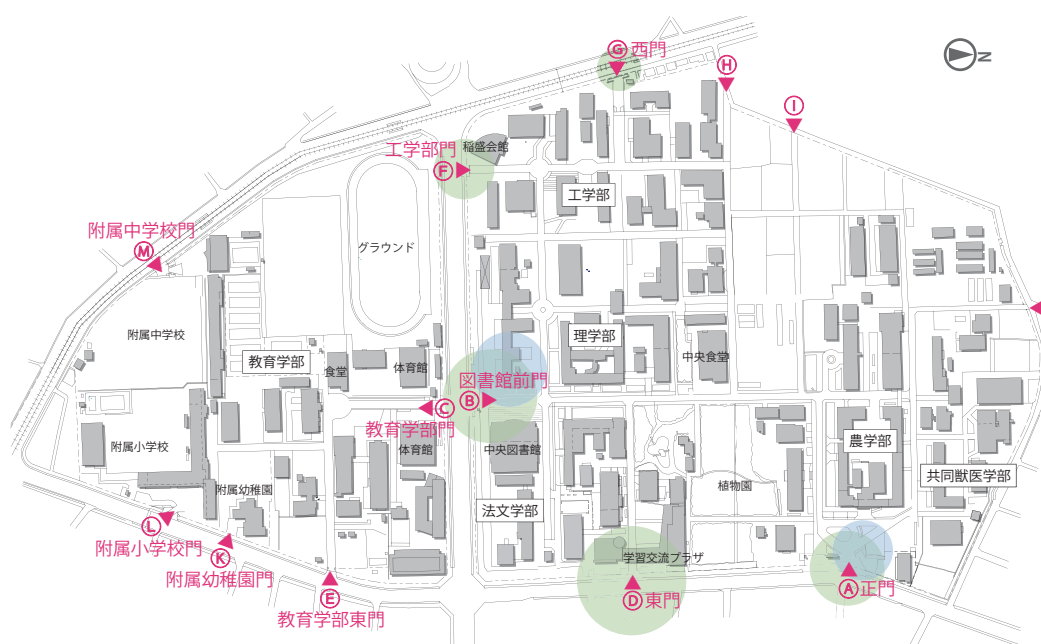
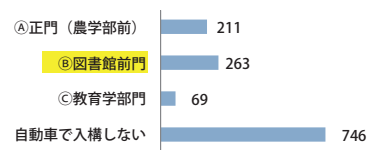


自動車運転時によく利用する入構ゲート

～ 2020 年実施分～



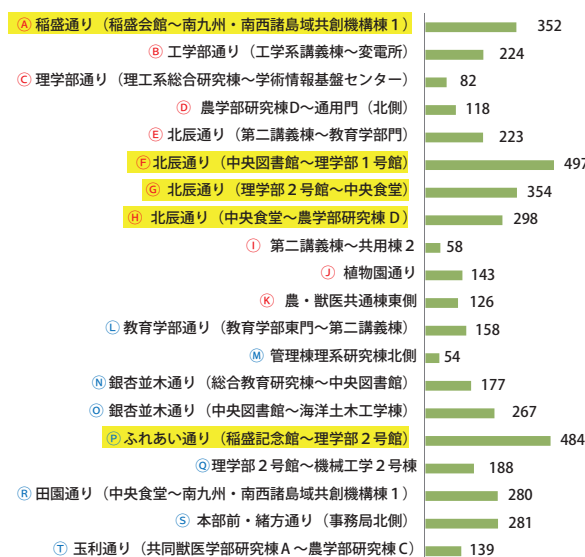
～ 2014 年実施分～



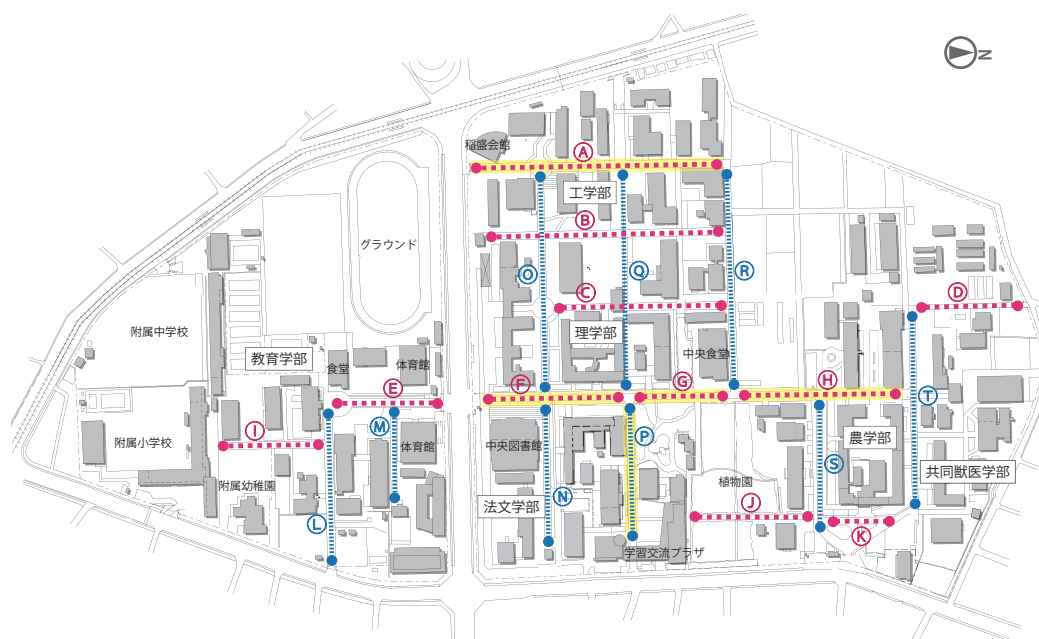
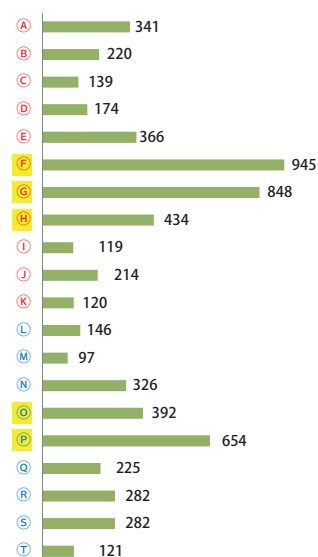
配置図 ～ 2020 年実施分～

徒歩・自転車でキャンパス内のよく利用する通り

～ 2020 年実施分～



～ 2014 年実施分～

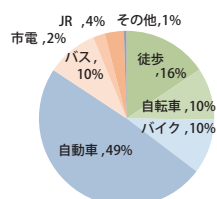


配置図 ～ 2020 年実施分～

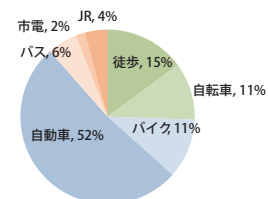
～桜ヶ丘キャンパス～

主な通学・通勤手段について

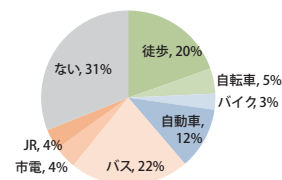
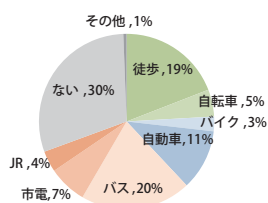
～ 2020 年実施分～



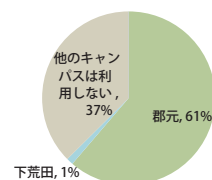
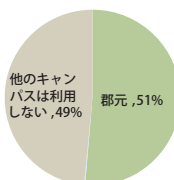
～ 2014 年実施分～



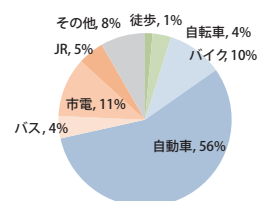
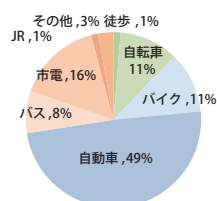
2 番目に多い通学・通勤手段について



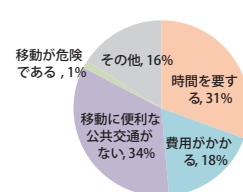
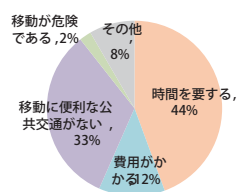
キャンパス間の移動先



キャンパス間の移動手段 (→郡元)

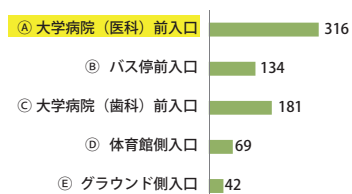


キャンパス間の移動の問題点 (→郡元)

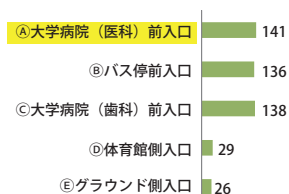


徒歩・自転車の時によく利用している出入口

～ 2020 年実施分～

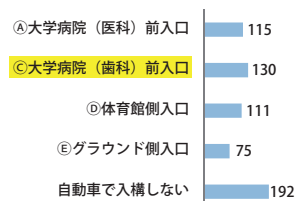


～ 2014 年実施分～

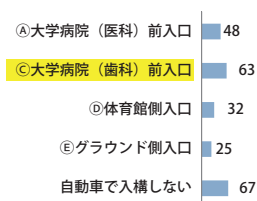


自動車運転時によく利用する出入口

～ 2020 年実施分～



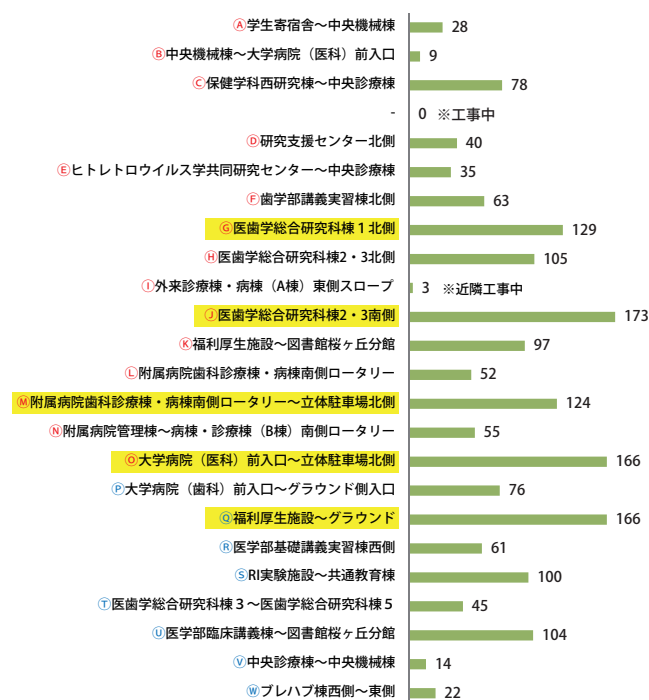
～ 2014 年実施分～



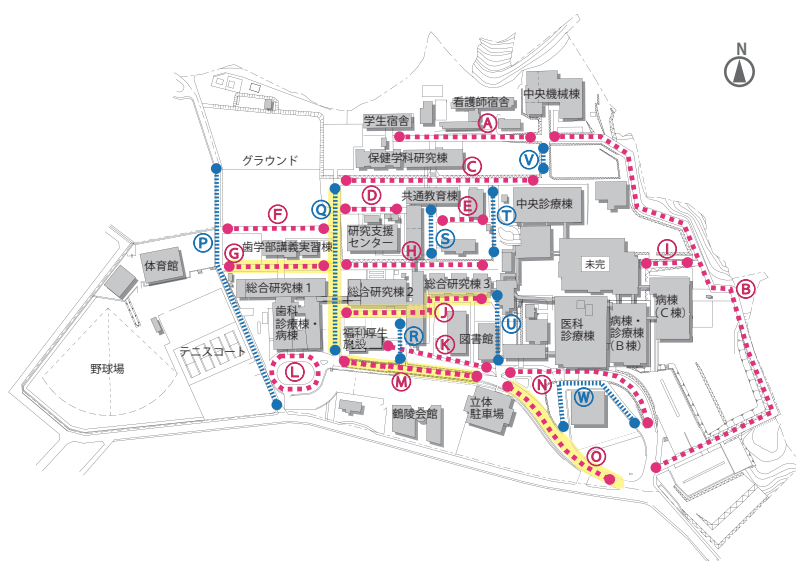
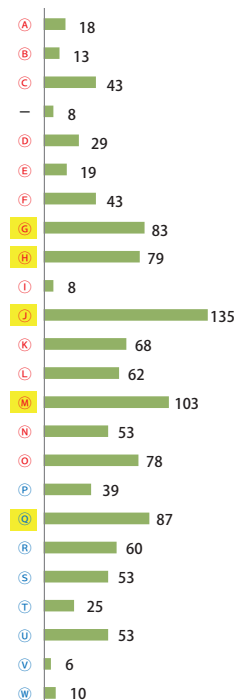
配置図 ～ 2020 年実施分～

徒歩・自転車でキャンパス内のよく利用する通り

～ 2020 年実施分～



～ 2014 年実施分～

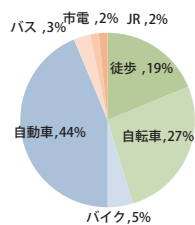


配置図 ～ 2020 年実施分～

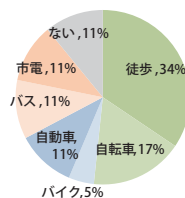
～下荒田キャンパス～

～ 2020 年実施分～

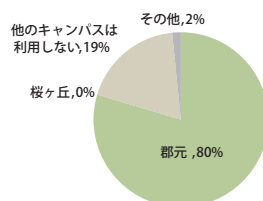
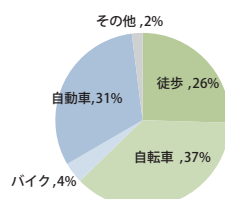
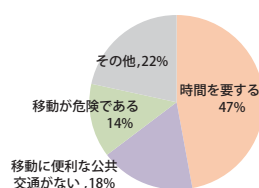
主な通学・通勤手段について



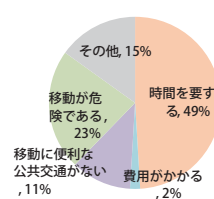
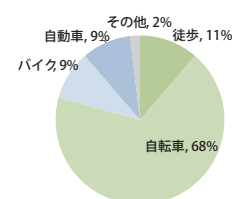
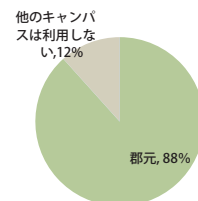
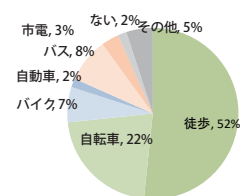
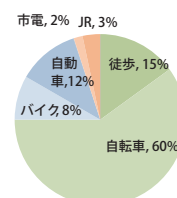
2 番目に多い通学・通勤手段について



キャンパス間の移動先

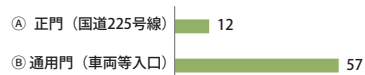
キャンパス間の移動手段
(→郡元)キャンパス間の移動の問題点
(→郡元)

～ 2014 年実施分～



徒歩・自転車の時によく利用している門

～ 2020 年実施分～

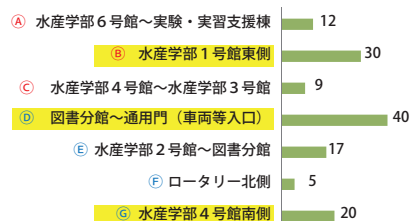


～ 2014 年実施分～

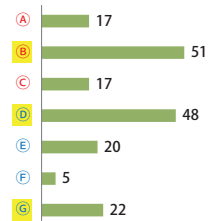


徒歩・自転車でキャンパス内のよく利用する通り

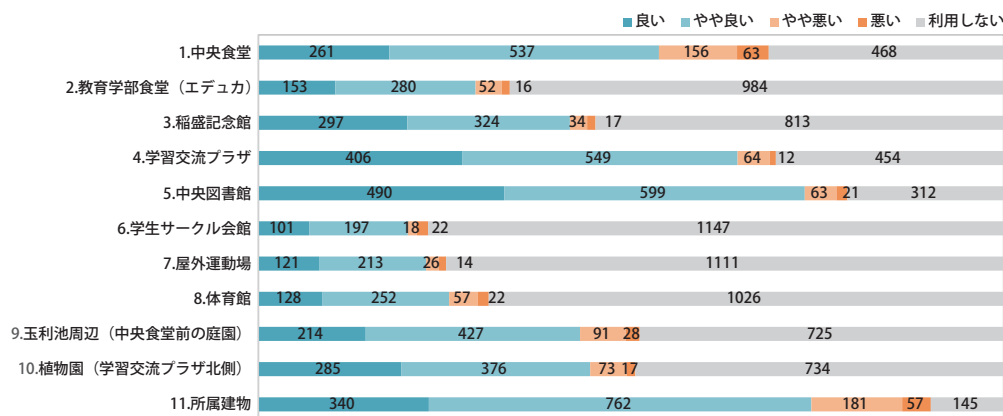
～ 2020 年実施分～



～ 2014 年実施分～



満足度～2020 年実施分～



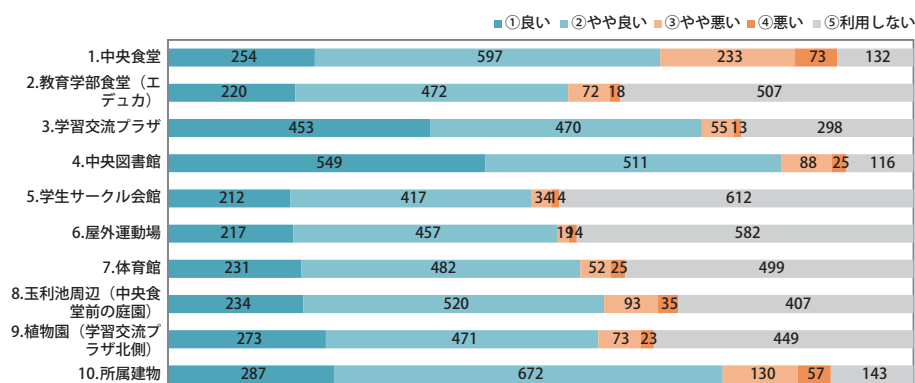
(やや悪い理由・悪い理由)

- 中央食堂（回答数:184）
老朽化。汚い。清潔感に欠ける。座席数・収容人数が少ない。狭い。殺風景。
コロナに関する意見:座席スペースが窮屈。メニューが減少。水・お茶がなくなった。密となっている。
- 教育学部食堂(エデュカ)（回答数:59）
座席・収容人数が少ない。狭い。営業時間が短い。メニューが少ない。空調が古い。トイレが古い。汚い。
- 稲盛記念館（回答数:39）
レストランは値段が高い。トイレの個室が狭い。自習スペースの椅子が使いにくい。雨の日は階段が滑りやすい。
コロナに関する意見:換気できない。レストランは休業し外部からの出入りを制限するべき。
- 学習交流プラザ（回答数:60）
座席数・収容人数が少ない。営業時間が短い。W i - F i 環境が悪い。トイレが汚い。マナーが悪い学生がいる。
コロナに関する意見:グループ利用の制限があるのに大人数で騒いでいる。
- 中央図書館（回答数:69）
蔵書不足。開館時間が短い。閉館日が多い。狭い。暗い。W i - F i 環境が悪い。利用者のマナーが悪い。
コロナに関する意見:感染対策の影響で窮屈に感じる。空気がこもっている。
- 学生サークル会館（回答数:30）
老朽化。トイレ・更衣室がない。使い方が汚い。不衛生。エレベーターがない。マナーが悪い学生がいる。
- 屋外運動場（回答数:33）
荒れている。トイレ・水道・更衣室が少ない。水はけが悪い。テニスコートの状態が悪い。夜間照明の老朽化。喫煙する学生がいる。
コロナに関する意見:自粛期間経過後、トラックの雑草が増えて怪我の恐れがある。
- 体育館（回答数:64）
コロナに関する意見:対策を何もしていない。換気が悪い。トレーニングジムが閉鎖して困っている。
- 玉利池周辺（中央食堂前の庭園）（回答数:98）
暗くて怖い。樹木の剪定が必要。汚い。玉利池の緑藻対策不足。テーブル・椅子が少なく、古い。たばこの吸い殻が落ちている。
- 植物園（学習交流プラザ北側）（回答数:69）
手入れされておらず雑木林のよう。薄暗い。植物が繁り過ぎ。虫が多い。汚い。ベンチがあれば良い。
- 所属建物（回答数:210）
老朽化。トイレが少ない。バリアフリー未対応。W i - F i 環境が悪い。空調設備の老朽化。I C T 化の遅れ。狭い。廊下が暗い。
コロナに関する意見:部屋数が少なく、分散勤務ができない。網戸がなく常時換気ができない。

キャンパスに関する意見～ 2020 年実施分～（自由記述 回答数 269）

- ・駐車場不足への対応（立体駐車場など）。自動車の入構台数を減らしてほしい。乗り入れ条件の見直し。
- ・キャンパス内での自動車・バイクルール確認・見直しをしてほしい。歩行者・自転車のルール確認・見直しも必要。
- ・自然と人間の共生を感じられるように、木々を大切にほしい。樹齢を重ねた大木も多いが、手入れされておらず残念。
- ・植栽の手入れは定期的に行ってほしい。ワシントンヤシは景観の為に良いが、葉の落下が危険。
- ・大学のシンボルとなるような施設の整備をしてほしい。建物に統一感を持たせて景観にも配慮してほしい。
- ・食堂・売店の充実をお願いしたい。コーヒーチェーン店やコンビニチェーン店などの誘致してほしい。
- ・自習スペースをもっと過ぎやすく整えてほしい。遅い時間まで自習できるスペースがほしい。
- ・大学のシンボルとなるような施設の整備をしてほしい。建物に統一感を持たせて景観にも配慮してほしい。
- ・キャンパス内・周辺が暗く危険なので、外灯の設置と防犯カメラ等のセキュリティ対策も行ってほしい。
- ・クラウドファンディングの活用で足湯等を作り、地域との交流の場を整備してほしい。
- ・構内全面禁煙となったため、大学入口周辺や近隣のコンビニ等での喫煙者が増えた。

満足度～2014 年実施分～



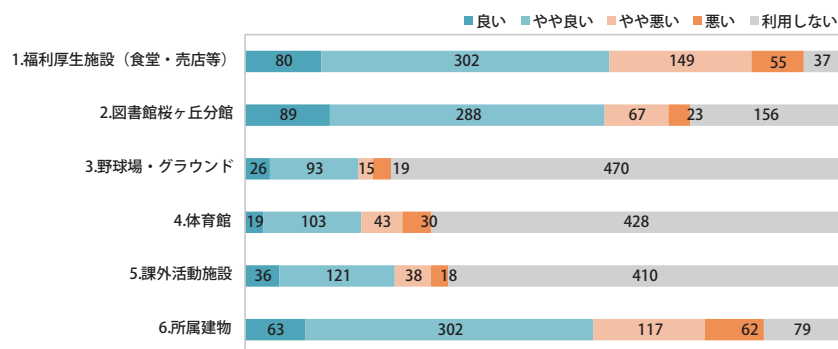
（やや悪い理由・悪い理由）

- 中央食堂（回答数：96）
座席数 収容人数が少ない。トイレが古い・汚い。混雑・人が多い。狭い。老朽化。メニューが少ない。清潔感が無い
- 教育学部食堂（エデュカ）（回答数：31）
座席数・収容人数が少ない。トイレが汚い。混雑・人が多い。営業時間が短い。狭い。
- 学習交流プラザ（回答数：25）
メニューが少ない・不味い。いったことない・知らない。利用時間が短い。書籍部の在庫貧弱。マナーが悪い。
- 中央図書館（回答数：58）
蔵書不足。空調・暑い。利用時間が短い。うるさい。照明が暗い。
- 学生サークル会館（回答数：13）
汚い。うるさい。
- 屋外運動場（回答数：7）
水はけが悪い。日陰になる施設がほしい。テニスコートの状況が悪い。自動車部周辺がひどい、きたない、指導が不十分。
- 体育館（回答数：26）
劣化・老朽化・古い。汚い・くさい・掃除が行き届いてない。狭い。第1体育館にトイレがない
- 玉利池周辺（中央食堂前の庭園）（回答数：43）
喫煙所がいない。池の水が汚い。汚い・くさい。暗い・日当たりが悪い。テーブル設置・椅子、ベンチの増・変更。
- 植物園（学習交流プラザ北側）（回答数：28）
暗い。遊歩道の整備。放置されている。街灯の設置。
- 所属建物（回答数：74）
老朽化。トイレが汚い。暗い。スペース不足。

キャンパスに関する意見～2014 年実施分～（自由記述 回答数 299）

- ・駐輪場の計画的な整備。自転車のマナー改善。
- ・食堂に対する不満。外部飲食店の誘致。
- ・喫煙所の在り方について（全面禁煙の是非。喫煙所の整備・マナーなど）
- ・セキュリティ強化。キャンパス内・周辺が暗いので外灯を設置してほしい。
- ・駐車場不足の対応（立駐など）。車が多すぎる。車の受け入れ条件がゆるい。
- ・外部の人には分かりにくい
- ・降灰対策を講じてほしい。
- ・シンボルとなる建物・伝統を感じる建物がない。建物に統一感がない。特徴がない。
- ・緑地が多くてよい。緑地管理が不十分。緑地が減少してきている。
- ・自習スペースが少ない。24 時間自習が可能な施設がほしい。
- ・学生の意見も取り入れてほしい。学生と住民に愛されるキャンパス改革。

満足度 ～2020 年実施分～



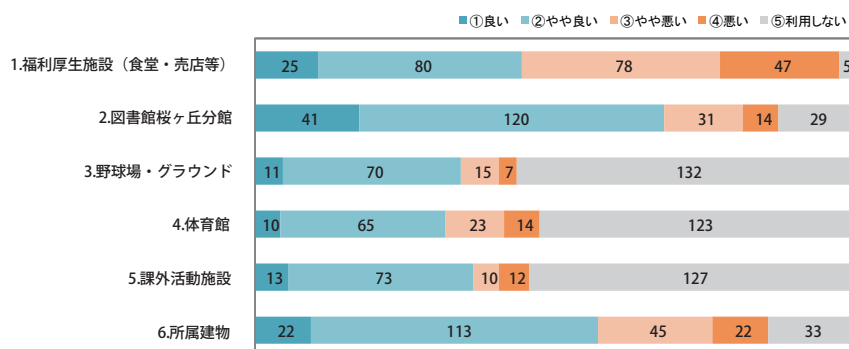
(やや悪い理由・悪い理由)

- 1.福利厚生施設（食堂・売店等）（回答数：151）
座席数・収容人数が少ない。営業時間が短い。土日の営業がない。メニューが少ない。狭い。
- 2.図書館桜ヶ丘分館（回答数：68）
蔵書不足。老朽化。開館時間が短い。狭い。学習スペースが少ない。W i - F i 環境が悪い。1階にしかトイレがない。
コロナに関する意見：換気が悪い。
- 3.野球場・グラウンド（回答数：25）
老朽化。駐車場拡張により狭くなった。整備されていない。危険。照明器具がない。水はけが悪い。日陰（ベンチ）がない。
- 4.体育館（回答数：63）
老朽化。トイレ・シャワー室が汚い。更衣室が狭い。トイレ・シャワー室の排水がつまる。窓が閉まりにくい。
コロナに関する意見：換気が悪い。
- 5.課外活動施設（回答数：39）
老朽化。部屋が足りていない。シャワー室がない。テニスコートの状態が悪い。夜間照明がない。郡元より劣る。
- 6.所属建物（回答数：123）
老朽化。トイレが汚い。バリアフリー未対応。女子トイレが少ない。防犯カメラがない。火山灰侵入により実験に支障がでる。
コロナに関する意見：換気が悪い。

キャンパスに関する意見～ 2020 年実施分～（自由記述 回答数 128）

- ・駐車場不足への対応。立体化を図り緑地を増やしてほしい。平面駐車場の増加で木々等の緑が減少している。
- ・緑化・公園化を進め、入院患者や地域住民が利用できる憩いの場を整備してほしい。
- ・キャンパス全体、建物内部がわかりにくいので案内図を充実してほしい。
- ・盗難が多いのにセキュリティ対策がされていない（防犯カメラの整備など）。
- ・舗装や樹木の寿命がきている。計画的なキャンパス整備を進めてほしい。
- ・郡元地区と比較して整備状況に差がある。再開後の景観や緑地に配慮したキャンパスを期待している。

満足度 ～2014 年実施分～



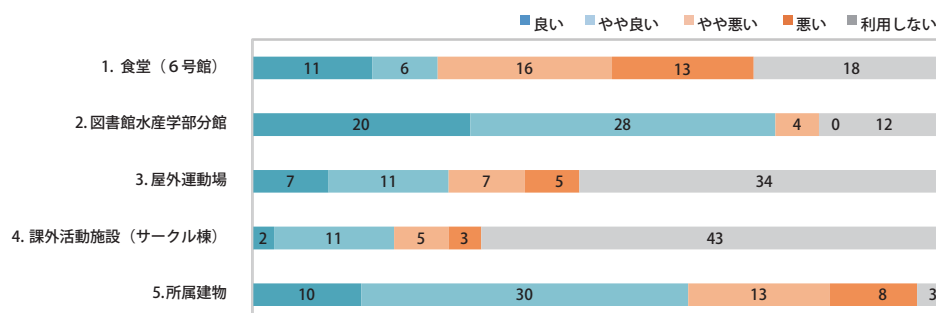
（やや悪い理由・悪い理由）

- 福利厚生施設（食堂・売店等）（回答数：90）
狭い。コンビニが無い。メニューが少ない・おいしくない。営業時間が短い。混む。郡元と比べて差がある。不衛生。
- 図書館桜ヶ丘分館（回答数：34）
狭い・席数が少ない。暗い。閉館時間が早い・24時間あけてほしい。レイアウトが使いづらい。自習スペースが少ない
- 野球場・グラウンド（回答数：15）
整備されていない。半が駐車場・駐車場化し元に復帰していない。水はけが悪い。駐輪スペースがない。グラウンド整備が悪い。
- 体育館（回答数：30）
狭い。汚い。古い。掃除がされてない。
- 課外活動施設（回答数：14）
部室が汚い。足りていない。古い。郡元キャンパスに比べて劣る。
- 所属建物（回答数：40）
狭い。汚い。老朽化。暗い。エレベーターが古い。トイレが少ない。改修を求む。換気。

キャンパスに関する意見～ 2014 年実施分～（自由記述 回答数 79）

- ・路上駐車が多い。駐車場の整備をしてほしい。
- ・郡元キャンパスに比べて整備が遅れている。
- ・公共交通機関の乗り入れ等を増加してほしい。
- ・緑地が少なくなっている。緑に囲まれた憩いの場が必要。
- ・アメニティ施設をもっと充実させてほしい
- ・英語標記が少ない。

満足度～2020 年実施分～



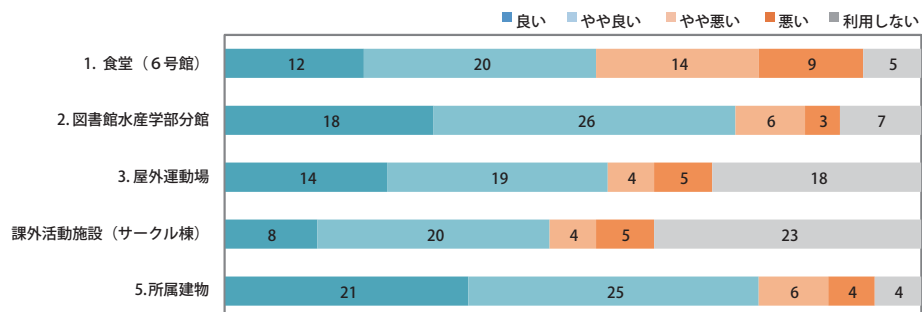
(やや悪い理由・悪い理由)

1. 食堂（6号館）(回答数:27)
 老朽化。狭い。トイレが少ない、汚い。営業時間が短い。狭い。衛生面に不安。
 コロナに関する意見: 食べ物への飛沫防止対策がされていない。
2. 図書館水産学部分館 (回答数:4)
 開館時間が短い。狭い。
3. 屋外運動場 (回答数:10)
 あまり整備されていない。マナーが悪い。近くの車両などへの物損事故がたまに起こる。網干場が有効活用されていない。
4. 課外活動施設（サークル棟）(回答数:8)
 老朽化。汚い。利用マナーが悪い。雨漏りしている。自由に使いすぎ。使用できるサークルが限られている。
5. 所属建物 (回答数:17)
 老朽化。空調設備の老朽化。サッシからの火山灰侵入により実験に支障がでる。狭い。洋式トイレが少ない。虫が多い。

キャンパスに関する意見～2020 年実施分～（自由記述 回答数 18）

- ・他のキャンパスと比較して整備状況に差がある。下荒田は放置されていると感じる。
- ・売店や食堂などの福利厚生施設の充実をしてほしい。休憩スペースの整備をしてほしい。
- ・キャンパス全体が草が伸び放題で、荒れたイメージがある。草刈りなど環境整備を実施してほしい。

満足度 ～2014 年実施分～



(やや悪い理由・悪い理由)

1. 食堂（6号館）（回答数：21）
狭い。古い。営業時間が短い。トイレが古い。メニューが少ない。
2. 図書館水産学部分館（回答数：9）
書物が古い。もう少し席を増やして欲しい。
3. 屋外運動場（回答数：7）
テニスコートが整備されていない。工事の建物ばかりで使える雰囲気がない。
4. 課外活動施設（サークル棟（回答数：7））
老朽化が激しい。汚い。
5. 所属建物（回答数：8）
建物が老朽化している。面積が不足している。エレベーターがない。トイレが少ない上に和式トイレのままの場所がある。

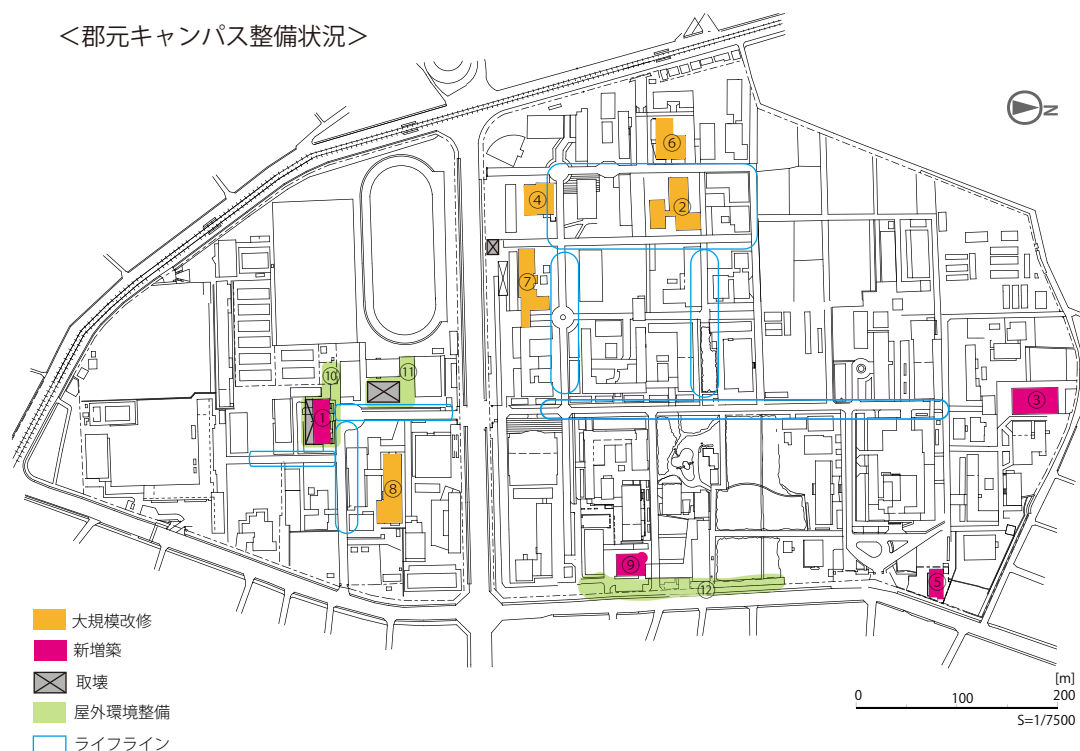
キャンパスに関する意見～ 2014 年実施分～（自由記述 回答数 10）

- ・人用の出入口が狭く、車が優先されているように感じる。
- ・英語標記を増やしてほしい。

6-6. キャンパスマスタープラン 2015 の点検・評価

アクションプランに基づく施設整備状況、課題の整理

<郡元キャンパス整備状況>



① 第二講義棟



② 建築学科1号棟・2号棟



③ 小動物診療センター



④ 海洋土木工学棟



⑤ さつん保育園



⑥ 機械工学2号棟



⑦ 共通教育棟4号館



⑧ 管理棟・理系研究棟



⑨ 稲盛記念館

郡元キャンパスにおける今後の課題

- ・老朽施設の改善（経年 40 年以上）
- ・インフラ設備の計画的な老朽改善（経年 30 年以上）
- ・改修等の機会を捉えた減築等による保有面積の抑制
- ・将来建設用地（オープンスペース）の確保
- ・交通環境の改善（入構車両の抑制、駐車場等の改善）
- ・地域交流に向けた屋外環境整備（北辰通りの公園化等）

(1) 施設整備

(1)－1. 計画

- ・耐震性能が十分でない建物の改修
- ・経年 25 年が経過し、機能劣化している建物の改修
- ・整備の優先度は、大学の戦略との関連性によりするものとする

(1)－2. 主な整備状況

- | | |
|--|-----------------------|
| ① 第二講義棟 (2015) | ⑤ さつつん保育園 (2018) |
| ② 建築学科 1 号棟・2 号棟改修 (2016, 2017) | ⑥ 機械工学 2 号棟改修 (2019) |
| ③ 附属動物病院大動物診療センター改修、
小動物診療センター (2017) | ⑦ 共通教育棟 4 号館改修 (2020) |
| ④ 海洋土木工学棟改修 (2018) | ⑧ 管理棟・理系研究棟改修 (2020) |
| | ⑨ 稲盛記念館 (2020) |



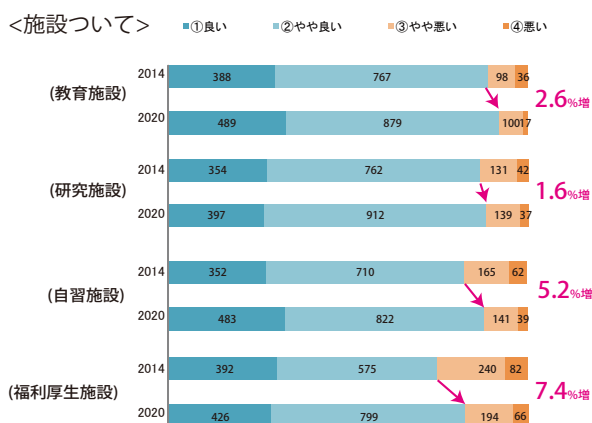
アクティブラーニング等に対応した多様な学習スペース・交流スペース



交流・連携を促すオープンな学生研究室・教員室

多様な実験に対応したプロジェクト実験室

(1)－3. 改修後の成果 (WEB アンケートより)



(2) 屋外環境整備

(2)－1. 計画

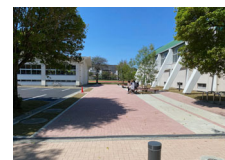
- ・施設群とのつながりをもたせ、交流・憩いの場となる環境整備

(2)－2. 主な整備状況

- ⑩ 第二講義棟周辺整備（2015）
- ⑪ 教育学部第一体育館周辺整備（2020）



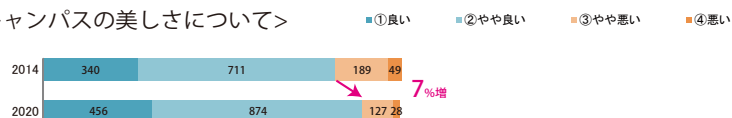
⑩. 第二講義棟周辺整備



⑪. 第一体育館周辺整備

(2)－3. 改修後の成果（WEB アンケートより）

<キャンパスの美しさについて>



(3) 交通整備

(3)－1. 計画

- ・歩車分離の計画的実施
 - ①動線が集中している図書館前の車入構ゲート位置を見直し、歩車分離を図る。
 - ②北辰通り・ふれあい通りの歩行者専用空間の拡張し、キャンパス軸の歩車分離を進める。
 - ③産学官連携推進センター前の通用門の動線を見直し、駐輪場等の安全性を高める。

(3)－2. 主な整備状況

- ・基本方針の策定、規則の見直し（2016）
- ・レンタルサイクルポートの設置（2017）
- ・駐輪場の位置見直し実証実験（2018）
- ・ゲート移設に伴う支障建物の取壊（2020）
- ・ゲート移設工事（2021） [(3)－1.①]
- ・歩行者専用空間の屋外環境整備（2022 以降予定） [(3)－1.②]



⑫ 東門駐輪場整備



レンタルサイクルポートの設置



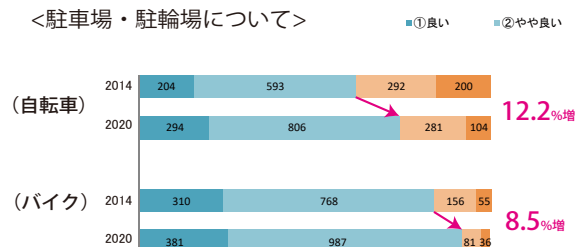
道路標識整備



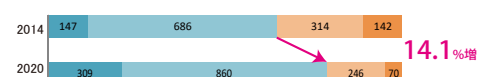
図書館前ゲート移設

(3)－3. 改修後の成果（WEB アンケートより）

<駐車場・駐輪場について>



<キャンパス内の交通ルールについて>



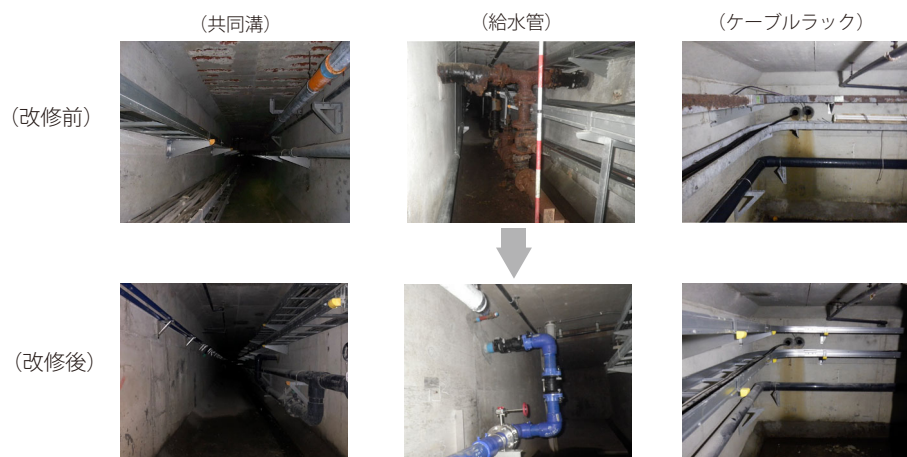
(4) ライフライン整備計画

(4)－1. 計画

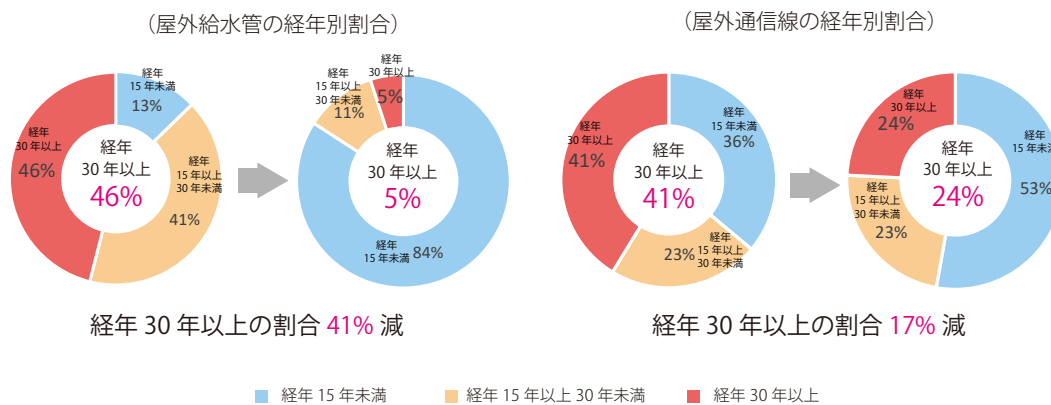
- ・ライフラインの再生（共同溝、ケーブルラック、給水設備など）

(4)－2. 主な整備状況

- ・ライフラインの再生（共同溝、ケーブルラック、給水設備など）（2020-21）



(4)－3. 改修後の成果

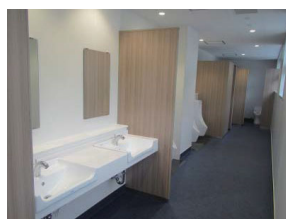


(5) その他

- ・アクティブラーニングの強化、アメニティの改善、エコ事業の計画的実施



アクティブラーニングの強化
（アクティブラーニング室の整備）

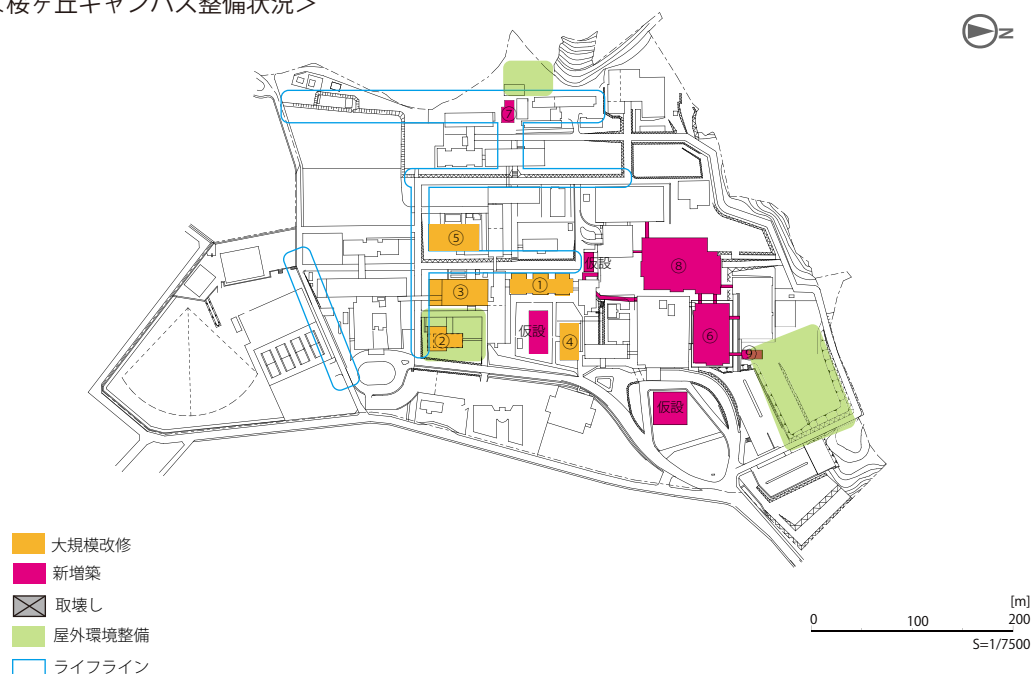


アメニティの改善（トイレ改修）



エコ事業（LED外灯設置）

<桜ヶ丘キャンパス整備状況>



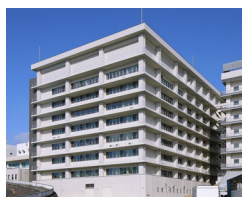
① 医歯学総合研究科棟 3



② 福利厚生施設



③ 医歯学総合研究科棟 2



⑥ 病棟・診療棟 (B 棟)



⑦ ポンプ室

④ 図書館桜ヶ丘分館 (未完)

⑤ 動物実験施設 (未完)

⑧ 病棟・診療棟 (A 棟) (未完)

⑨ トリアージ施設 (未完)

桜ヶ丘キャンパスの今後の課題

- ・老朽施設の改善 (経年 40 年以上)
- ・インフラ設備の計画的な老朽改善 (経年 30 年以上)
- ・病院再開発の推進、歯病跡地の活用方法の検討
- ・改修等の機会を捉えた減築等による保有面積の抑制
- ・将来建設用地 (オープンスペース) の確保
- ・交通環境の改善 (入構車両の抑制、駐車場等の改善)
- ・交流・憩いの場となる屋外環境の改善 (緑地等)
- ・わかりやすさの改善 (サイン等)

< 桜ヶ丘キャンパス >

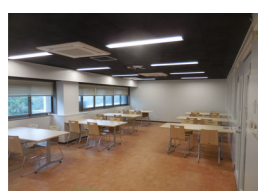
(1) 施設整備

(1)－1. 計画

- ・耐震性能が十分でない建物の改修実施
- ・経年 25 年が経過し、機能劣化している建物の改修
- ・整備の優先度については、大学の戦略との関連性があるものとする

(1)－2. 主な整備状況

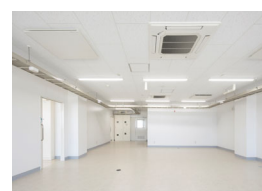
- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| ① 医歯学総合研究科棟 3 改修 (2015-2016) | ⑥ 病棟・診療棟 (B 棟) (2017) |
| ② 福利厚生施設改修 (2017) | ⑦ ポンプ室 (2021) |
| ③ 医歯学総合研究科棟 2 改修 (2018-2020) | ⑧ 外来診療棟・病棟 (A 棟) (未完) (2024) |
| ④ 図書館桜ヶ丘分館改修 (未完) (2022) | ⑨ トリアージ施設 (未完) (2021) |
| ⑤ 動物実験施設改修 (未完) (2021-2022) | |



アクティブラーニング等に対応したグループ学習室



多様な研究に対応した教員室・プロジェクト実験室



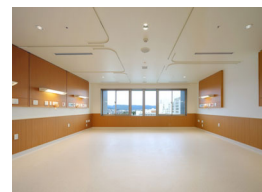
患者本位の質の高い医療の提供するスタッフステーション・病床



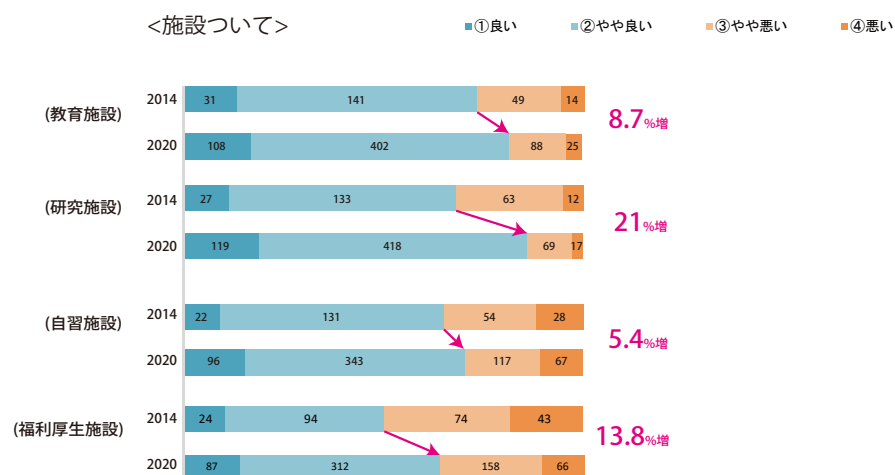
交流・連携を促す交流スペース



患者本位の質の高い医療の提供するスタッフステーション・病床



(1)－3. 改修後の成果 (WEB アンケートより)



(2) 屋外環境整備

(2)－1. 計画

- ・施設群とのつながりをもたせ、交流・憩いの場となる環境整備
- ・統一された屋外サイン整備の推進



サイン設置

(2)－2. 主な整備状況

- ・福利厚生施設周辺整備（2017）
- ・屋外サイン整備



ベンチ設置



デッキテラス

(2)－3. 改修後の成果（WEB アンケートより）



(3) 交通整備

(3)－1. 計画

- ・歩車分離の計画的実施

(3)－2. 主な整備状況

- ・駐車場整備

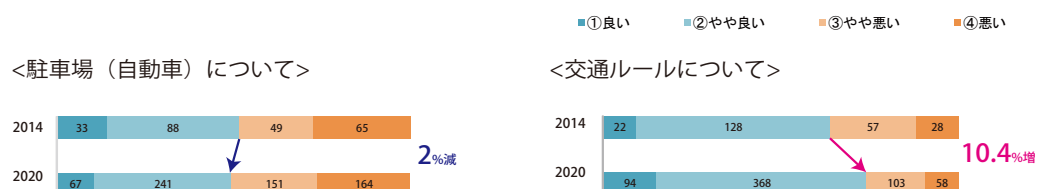


ポンプ室周辺



C棟南側

(3)－3. 改修後の成果（WEB アンケートより）



(4) ライフライン整備計画

(4) -1. 計画

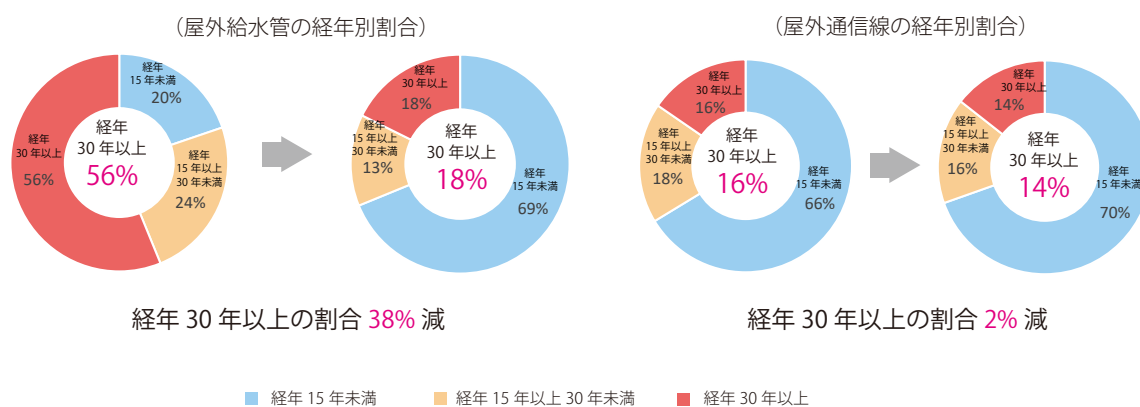
- ・ライフラインの再生（共同溝、ケーブルラック、給水設備など）

(4) -2. 主な整備状況

- ・ライフラインの再生（共同溝、ケーブルラック、給水設備など）（2020-21）



(4) -3. 改修後の成果



(5) その他

- ・アクティブラーニング室の強化、アメニティ改善、エコ事業の計画的実施



アクティブラーニング室 (多目的ルーム)

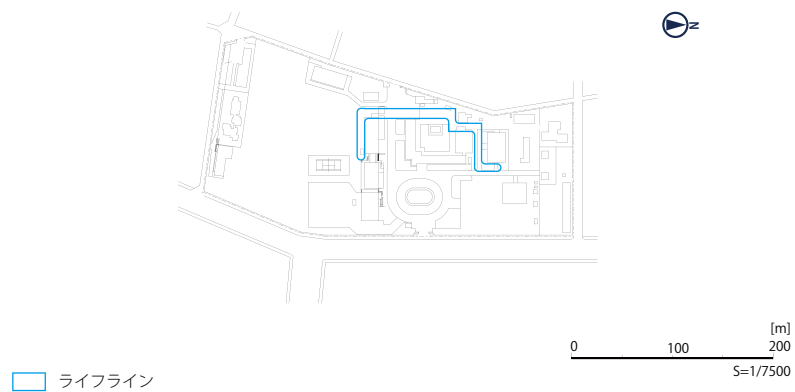


アメニティの改善 (トイレ改修)



エコ事業 (LED 外灯設置)

<下荒田キャンパス整備状況>



下荒田キャンパスの今後の課題

- ・老朽施設の改善（経年 40 年以上）
- ・インフラ設備の計画的な老朽改善（経年 30 年以上）
- ・満足度の最も低い福利厚生施設の改善
- ・他キャンパスとの満足度の格差改善

(1) 施設整備

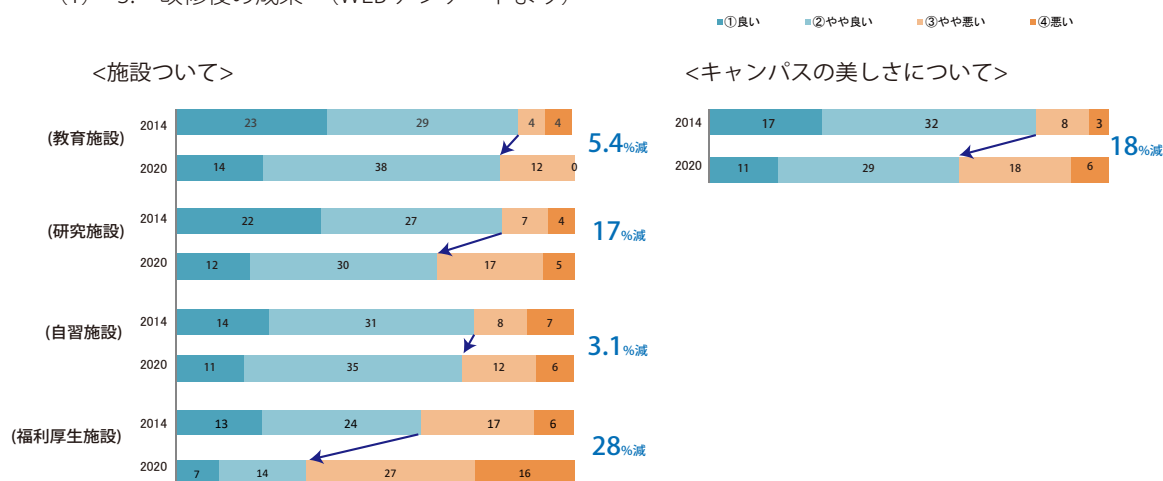
(1)－1. 計画

- ・耐震性能が十分でない建物の改修実施
- ・経年 25 年が経過し、機能劣化している建物の改修
- ・整備の優先度については、大学の戦略との関連性があるものとする

(1)－2. 主な整備状況

① 国際交流会館 1 号館シャワー室等改修工事（部分改修）（2019）

(1)－3. 改修後の成果（WEB アンケートより）



(2) 屋外環境整備

(2)－1. 計画

- ・施設群とのつながりをもたせ、交流・憩いの場となる環境整備

(2)－2. 主な整備状況

- ・該当なし

(3) 交通整備

(3)－1. 計画

- ・歩車分離の計画的実施

(3)－2. 主な整備状況

- ・レンタルサイクルポートの設置（2017）



レンタルサイクルポートの設置

(4) ライフライン整備

(4)－1. 計画

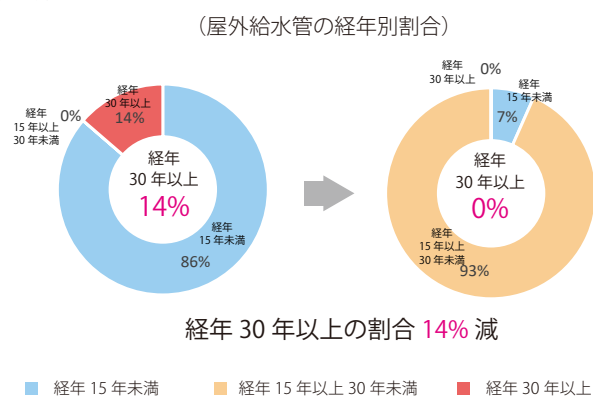
- ・なし

(4)－2. 主な整備状況

- ・ライフライン再生（共同溝、ケーブルラック、給水設備など）（2020-21）



(4)－3. 改修後の成果



(5) その他

- ・エコ事業の計画的実施



エコ事業（LED 照明設置）

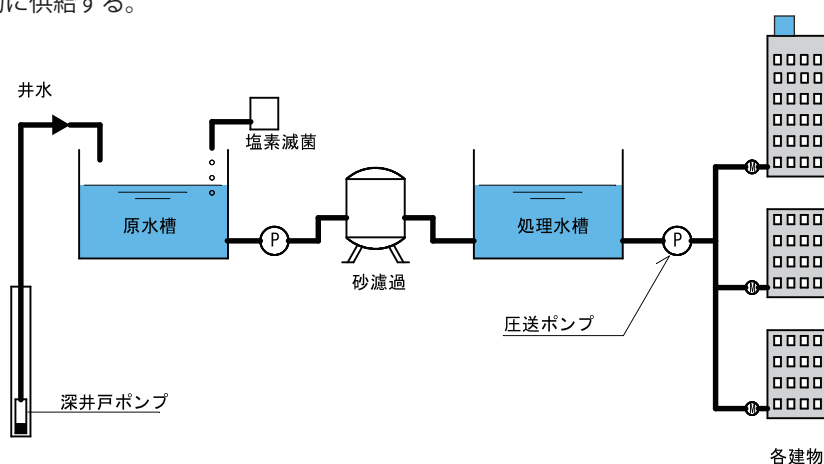
6-7. 基幹設備

(1) 郡元キャンパス

<基本的な考え方>

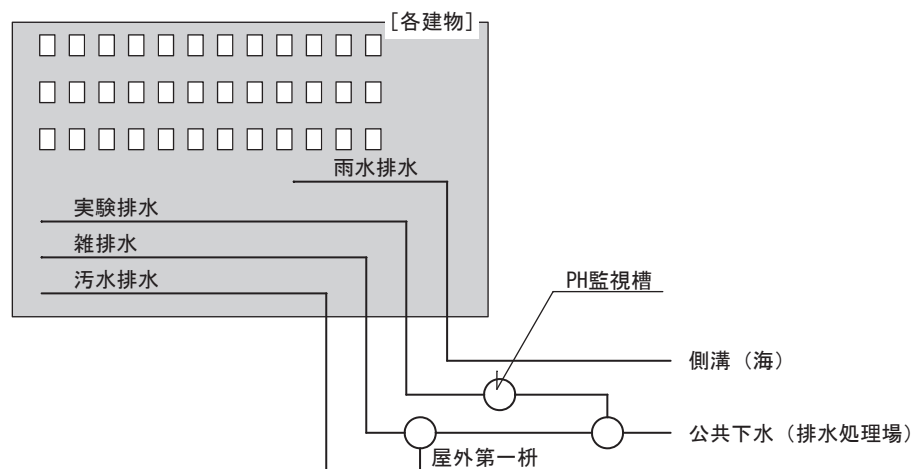
(1)-1 給水設備

給水設備は、地下水をくみ上げ塩素滅菌したのち砂濾過処理を行い圧送ポンプにて各建物に供給する。



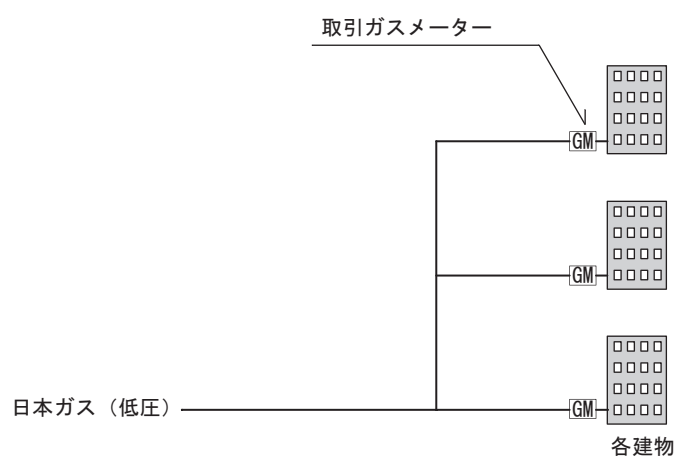
(1)-2 排水設備

排水設備は、建物内は雨水・実験・雑・污水4系統として屋外で雑・污水と合流させ、また実験排水は、PH監視槽を通し公共下水道に放流する。



(1)-3 ガス設備

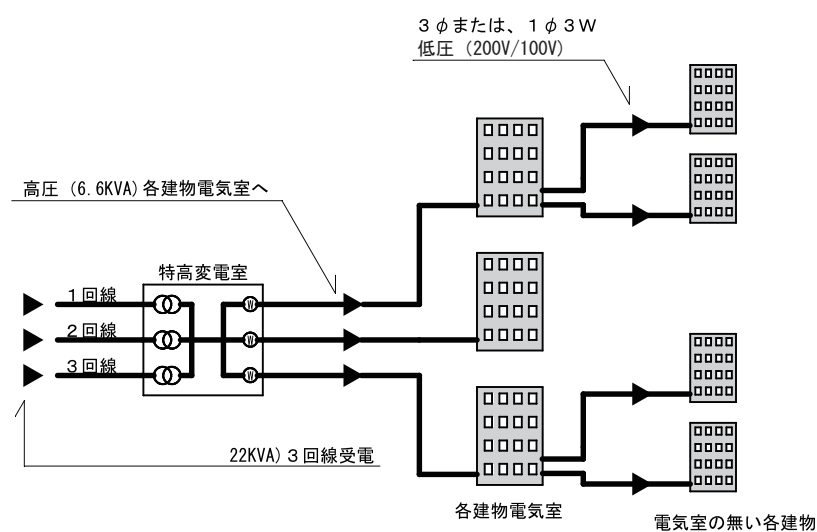
ガス設備は、日本ガスより低圧で学内に引き込み各建物に取引メーターを設け供給する



(1)-4 電気設備

電気設備は、電力会社より特別高圧（22kVA）で学内に引き込み、特高変電室で高圧（6.6kV）に変圧して、各建物電気室に供給する。

また、電気室のない建物へは電気室のある建物より低圧（200V/100V）にて電気室のない建物へ供給する。



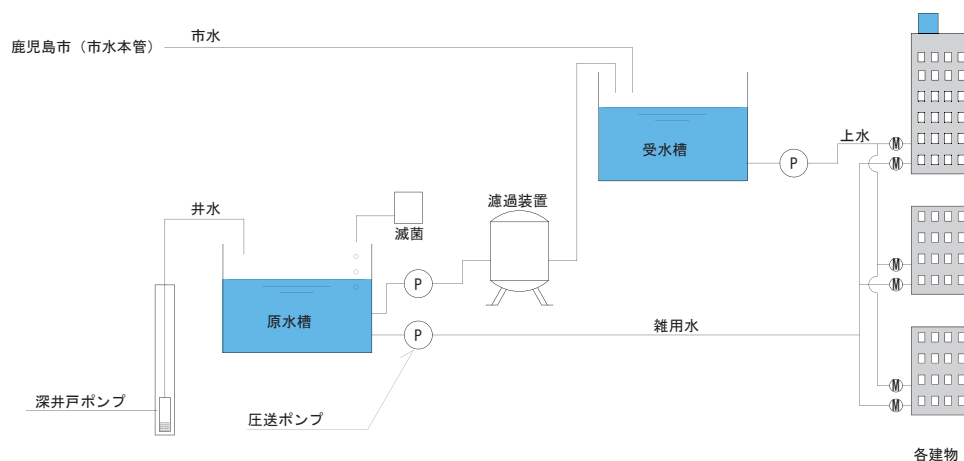
(2) 桜ヶ丘キャンパス

<基本的な考え方>

(2)-1 給水設備

上水給水設備は、防災機能強化及び経済性の観点から、市水と、地下水をくみ上げ塩素滅菌及び濾過処理した給水を混合し、圧送ポンプにて各建物へ供給し、飲料水などに使用する。また、災害時においては井水のみによる供給を可能とする。(受水槽に病院3日分の給水量を確保)

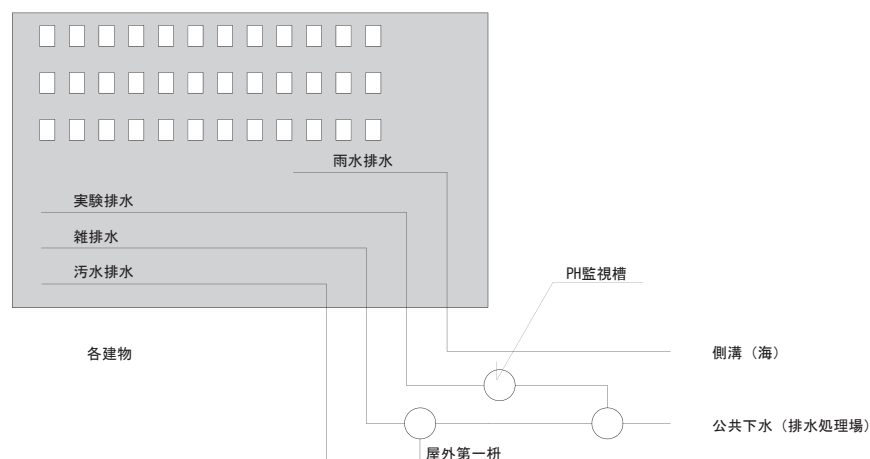
雑用水給水設備は、地下水をくみ上げ塩素滅菌したのち圧送ポンプにて各建物へ供給しトイレの洗浄水等に使用する。(原水槽に病院3日分の給水量を確保)



(2)-2 排水設備

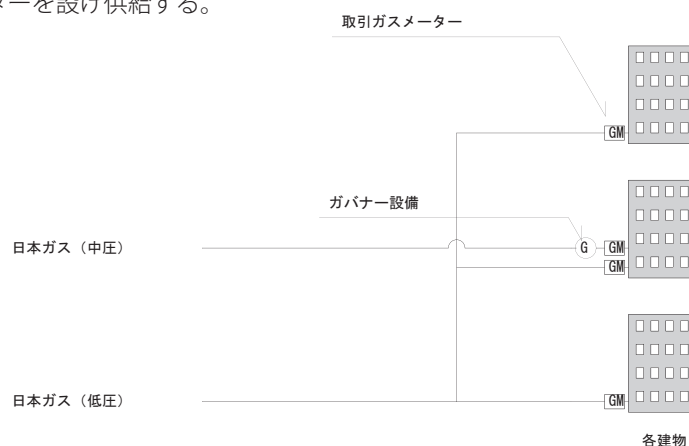
排水設備は、建物内は雨水・実験・雑・污水4系統として屋外で雑・污水と合流させ、また実験排水は、PH監視槽を通し公共下水道に放流する。

病院においては、防災機能強化の観点から、非常用排水貯留槽を設けることとする。



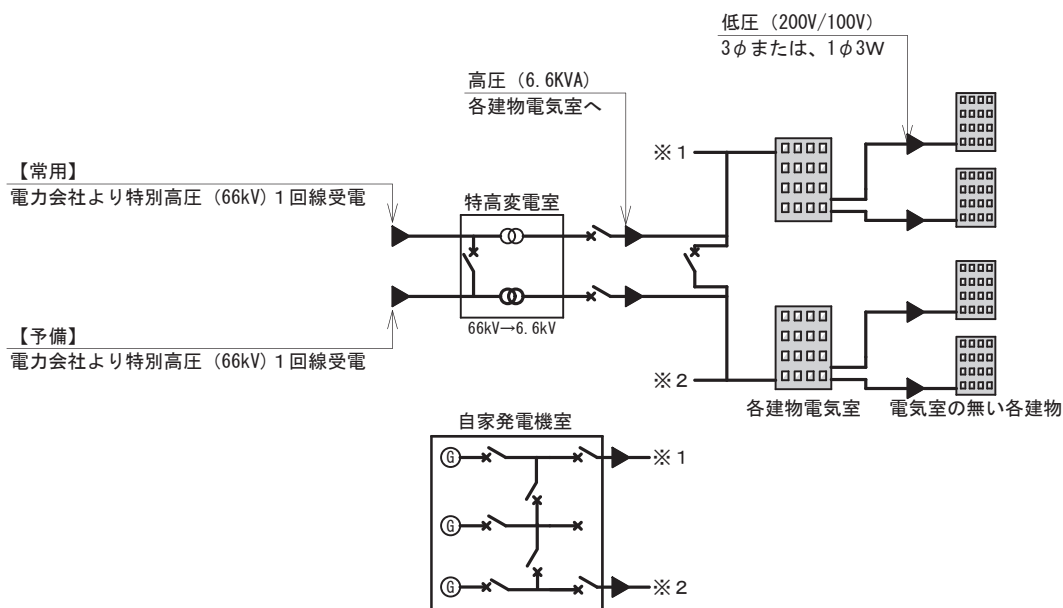
(2)-3 ガス設備

ガス設備は、日本ガスより低圧で学内に引き込み各建物に取引メーターを設け供給する。
消費量の多い熱源機器等へは、日本ガスより中圧で学内に引き込みガバナー及び取引メーターを設け供給する。



(2)-4 電気設備

電気設備は、電力会社より特別高圧（66kV）で学内に引き込み、特高変電室で高圧（6.6kV）に変圧して、各建物電気室に供給する。電気室のない建物へは各建物電気室より低圧（200V/100V）にて電気室のない建物へ供給する。さらに予備の受電を特別高圧（66kV）で引き込むとともに、非常用自家発電設備を更新し、1,000 kW×2基 +2,000 kW×1基の合計4,000 kWとし、電力の安定供給と、防災機能強化を行う。

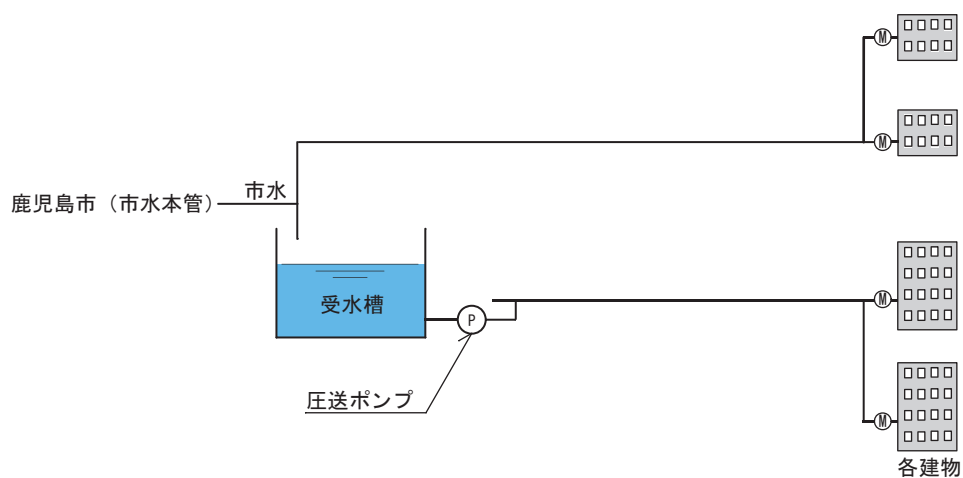


(3) 下荒田キャンパス

<基本的な考え方>

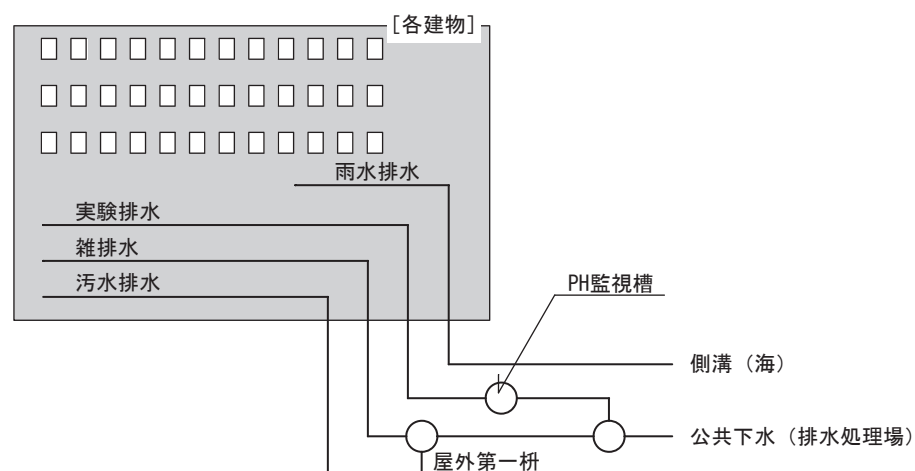
(3)-1 給水設備

給水設備は、鹿児島市の市水を引き込み、2階建て以下の建物は直圧で、3階建て以上の建物へは受水槽から、圧送ポンプにて各建物へ供給する。



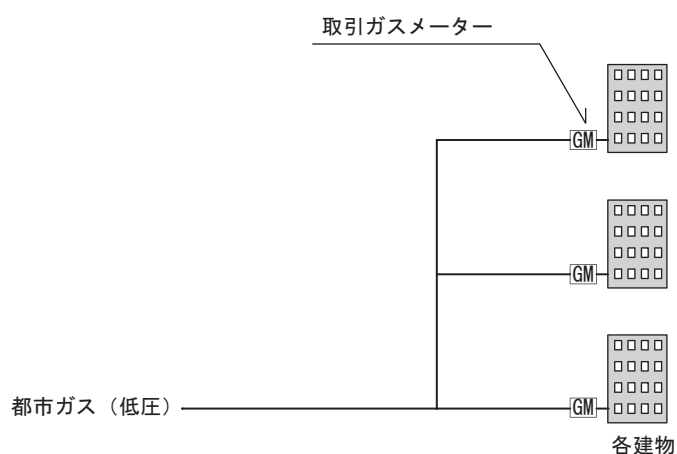
(3)-2 排水設備

排水設備は、建物内は雨水・実験・雑・汚水4系統として屋外で雑・汚水と合流させ、また実験排水は、PH監視槽を通し公共下水道に放流する。



(3)-3 ガス設備

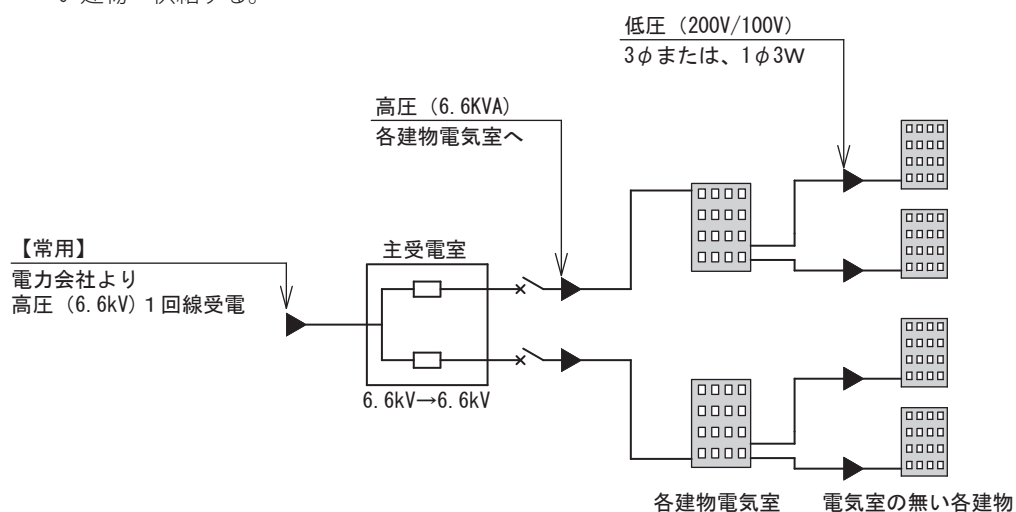
ガス設備は、都市ガスより低圧で学内に引き込み各建物に取引メーターを設け供給する。



(3)-4 電気設備

電気設備は、電力会社より高圧（6.6kV）で学内に引き込み、主受電室で分岐して、各建物電気室に供給する。

また、電気室のない建物へは電気室のある建物より低圧（200V/100V）にて電気室のない建物へ供給する。



6-8. キャンパスマスタープラン策定に関する委員会・ ワーキンググループ等委員

6-8-1. 施設マネジメント委員会委員

	学部等	令和2年度		令和3年度	
		職名	氏名	職名	氏名
委員長		理事 (財務・施設担当)	山木 宏明	副学長 (財務・施設担当)	田頭 吉一
委員	法学部	教授	藤内 哲也	教授	藤内 哲也
	臨床心理学研究科	教授	久保 陽子	教授	宇都宮 敦浩
	教育学部	准教授	錦織 寿	准教授	新名 隆志
	理工学研究科（理学系）	教授	藤井 伸平	教授	新留 康郎
	理工学研究科（工学系）	教授	鯉坂 徹	教授	鯉坂 徹
	医歯学総合研究科	教授	柴田 昌宏	教授	柴田 昌宏
	医学部	教授	窪田 正大	教授	窪田 正大
	歯学部	准教授	西 恭宏	准教授	西 恭宏
	医学部・歯学部附属病院	教授	大石 充	教授	大石 充
	農学部	教授	北原 兼文	教授	北原 兼文
	共同獣医学部	教授	三角 一浩	教授	三角 一浩
	連合農学研究科	教授	三好 和睦	教授	三好 和睦
	水産学部	教授	上西 由翁	教授	上西 由翁
	共通教育センター	准教授	富山 清升	准教授	富山 清升
	研究推進部	部長	玉井 英司	部長	玉井 英司
	財務部	部長	田島 修	部長	饗場 厚
	学生部	部長	内山 修一	部長	内山 修一
	施設部	部長	長野 繁美	部長	長野 繁美
	理工学研究科（工学系）	教授	木方 十根	教授	木方 十根

6-8-2. キャンパス計画室室員

	職名	令和2年度 氏 名	令和3年度 氏 名
室長	理事 (財務・施設担当) ※	山木 宏明	田頭 吉一
室員	施設部長	長野 繁美	長野 繁美
	施設部企画課長	大久保 一也	大久保 一也
	施設部建築課長	松葉瀬 昭仁	松葉瀬 昭仁
	施設部設備課長	竹下 雄二	粕井 輝寿
	理工学研究科（工学系）教授	木方 十根	木方 十根
	理工学研究科（工学系）教授	二宮 秀與	二宮 秀與

※令和3年度は副学長（財務・施設担当）

6-8-3. キャンパスマスタープラン検討ワーキンググループ委員

	職名	令和2年度 氏名	令和3年度 氏名	備考
WG長	理工学研究科（工学系）教授	木方 十根	木方 十根	施設マネジメント委員 キャンパス計画室員 建築・都市計画専門
委員	農学部教授	寺岡 行雄	寺岡 行雄	環境WG長 森林計画学専門
	理工学研究科（工学系）准教授	小山 雄資	小山 雄資	キャンパス計画室員 都市計画・住宅政策専門
	施設部長	長野 繁美	長野 繁美	施設マネジメント委員 キャンパス計画室員
	施設部企画課長	大久保 一也	大久保 一也	キャンパス計画室員
	施設部建築課長	松葉瀬 昭仁	松葉瀬 昭仁	キャンパス計画室員
	施設部設備課長	竹下 雄二	粕井 輝寿	キャンパス計画室員

6-9. キャンパスマスタープラン 2022 検討経緯

令和元年度（2019年度）

- 2月27日 キャンパス計画室会議（キャンパスマスタープラン検討WG設置審議）
- 3月16日 施設マネジメント委員会（キャンパスマスタープラン検討WG設置審議・承認）

令和2年度（2020年度）

- 7月21日 第1回キャンパスマスタープラン検討WG
- 11月5日 キャンパスに関するアンケート（学生・教職員対象）（～11月30日）
- 1月22日 第2回キャンパスマスタープラン検討WG
- 2月3日 キャンパスに関する各学部等の意見聴取（～3月1日）
- 2月4日 キャンパスに関するアンケート（商工会議所、6町内会対象）（～4月6日）
- 2月24日 第3回キャンパスマスタープラン検討WG
- 3月1日 キャンパス計画室会議（中間報告）
- 3月5日 施設マネジメント委員会（中間報告）

令和3年度（2021年度）

- 7月27日 第4回キャンパスマスタープラン検討WG
- 9月9日 第5回キャンパスマスタープラン検討WG
- 10月6日 学長・理事連絡会（中間報告）
- 1月25日 第6回キャンパスマスタープラン検討WG
- 2月4日 執行部懇談会（中間報告その2）
- 2月24日 キャンパス計画室会議（審議）
- 3月1日 施設マネジメント委員会（審議）
- 3月9日 学長・理事連絡会（審議）
- 3月15日 大学運営会議（審議）
- 3月16日 経営協議会（審議）
- 3月17日 役員会（審議）
- 3月17日 公表（ホームページ等）

あとがき

国立大学を取り巻く社会経済情勢の変化の中、国立大学に対する期待と要請が拡大・多様化しており、本来の役割である「教育研究の機能強化」と「地域・社会・世界への貢献」のほか、社会の様々な人々との連携により、創造活動を展開する「共創」の拠点となることが期待されています。

キャンパスづくりは、国策、中期目標・中期計画、大学改革に沿った教育・研究目標及び社会の期待へ対応すると同時に、常に質的向上を図り、大学の強み・特色を今まで以上に発揮するための場となるよう、学内外の協力を得て、戦略的に計画を推進する必要があります。

「キャンパスマスタープラン 2022」は、「キャンパスマスタープラン 2015」及び「キャンパスマスタープラン 2015」に基づきキャンパス毎に策定した「地区計画・デザインガイドライン」を整理・統廃合する形で見直しを行いました。

50 年後の長期的な視点にたち、キャンパスの現状と課題の把握、多様なステークホルダーのニーズ分析等を行い、キャンパスの目指すべき姿やキャンパスの整備や活用の方方向性を明確にするとともに、策定プロセスにおいても学内外の多くの関係者がプランを共有出来るよう策定を進めました。

このマスタープランを実現していくためには、全学的体制での戦略的な施設整備や施設マネジメントの推進はもちろんのこと、地域・産業界等との連携、国費に依らない多様な財源の活用、持続可能な開発目標（SDGs）への貢献等が重要となっており、今後も検討を続けていきたいと考えております。

「キャンパスマスタープラン 2022」の策定にあたり、町内会、商工会議所、各学部等から貴重なご意見を頂いたこと、また、学生・教職員の皆様からもアンケートにて多くのご意見等を頂いたことに感謝いたします。頂いたご意見全てを具体的に明示するまでに至っていない部分もございますが、今後キャンパスマスタープランを実施するにあたって、引き続き皆様のご協力を得ながら反映していきたいと思っております。

施設マネジメント委員会委員長（財務・施設担当副学長）

田頭 吉一



鹿児島大学
Kagoshima University

□ 編集・発行

国立大学法人鹿児島大学

〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号

tel 099-285-7111(代表)

発行日 2022年7月

